平成 29 年度

研究集録

付 研究論文集

「木が宇宙にとび出した」
三郷市立吹上小学校３年
高橋　駿太さん

「びんの気持ち」
さいたま市立馬宮中学校１年
葩島　理沙さん

埼 玉 県 連 合 教 育 研 究 会

あ　い　さ　つ

埼玉県連合教育研究会
会長　鏑　木　　隆

日ごろ埼玉県連合教育研究会の活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、平成29年度埼玉連合教育研究会の『研究集録付研究論文集』が、教科等研究団体及び地域教育研究団体並びに研究論文入選者等の執筆者の方々のご協力により、発刊する運びとなりましたことを心より感謝申し上げます。

本研究会は、昭和39年（1964年）発足以来、教科等研究団体及び埼玉大学教育学部附属小・中学校を含めて21団体、地域教育研究団体55団体、会員数30,506名を擁する教育研究団体として、埼玉県の小・中学校等の教育振興に大きく寄与してまいりました。

これもひとえに、各教育研究団体が、本研究会の活動方針と重点・努力点を真摯に受け止め、これまでの研究成果を蓄積され、新たな教育課題に向け、弛まぬ研究活動を推進されてきた成果によるものと深く敬意を表します。

この『研究集録』には、教科等研究団体及び地域教育研究団体等の研究活動の概要を集録しております。

教科等研究団体の概要につきましては、19の研究団体が平成29年度の研究主題に基づき推進してまいりました研究活動の概要を集録しており、学習指導要領の改訂を見据えた研究成果も含め、今後の研究推進や教育実践に大いに役立つものと思います。

また、地域教育研究団体につきましては、55団体の内の15団体の運営組織や各部会等の活動内容等を掲載しております。各地域教育研究団体におかれましては、是非、研究集録の内容を参考にし、これまでの研究の成果と課題を把握いただき、今後の研究活動の推進や実践活動に役立てるとともに、教科等・地域教育研究団体相互の情報交換等を含め参考にしていただきたいと思います。

また、『研究論文集』には、本年度応募されたました20編の中から、審査を経て入賞されました研究論文４編を掲載いたしました。応募されました研究論文は、教科指導、外国語活動、教育相談、健康教育、学校経営等、多岐にわたっており、いずれも日々の着実な実践に裏付けられた創意工夫された力作であり、課題解決に向けての継続的な取組内容の数々でありました。

今後も会員の皆様の奮ってのご応募を期待いたします。

会員の皆様には、本誌『研究集録付研究論文集』を熟読いただくことにより、次年度の教育課題を明確にするとともに、その解決に向けて日々の研究活動をより一層充実したものにしていただけるものと期待をしております。

結びに、本研究会のために常に温かいご指導、ご支援を賜りました県市町村教育委員会をはじめとする関係各位、研究団体並びに委員の皆様方に衷心より御礼申し上げ、刊行のあいさつといたします。

目　　次

あ い さ つ…… 埼玉県連合教育研究会会長　鏑木　隆

研 究 集 録

Ⅰ　教科等研究団体の研究

1　国語教育…… 埼玉県国語教育研究会…… 4
2　書写教育…… 埼玉県書写教育研究会…… 8
3　社会科教育…… 埼玉県社会科教育研究会…… 12
4　算数・数学教育…… 埼玉県算数数学教育研究会…… 16
5　理科教育…… 埼玉県理科教育研究会…… 20
6　音楽教育…… 埼玉県音楽教育連盟…… 24
7　図画工作・美術教育…… 埼玉県美術教育連盟…… 28
8　保健体育教育…… 埼玉県保健体育研究会…… 32
9　英語教育…… 埼玉県英語教育研究会…… 36
10　道徳教育…… 埼玉県道徳教育研究会…… 40
11　特別活動…… 埼玉県特別活動研究会…… 44
12　進路指導・キャリア教育…… 埼玉県進路指導・キャリア教育研究会…… 48
13　視聴覚教育…… 埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会…… 52
14　教育心理・教育相談…… 埼玉県教育心理・教育相談研究会…… 56
15　特別支援教育…… 埼玉県特別支援教育研究会…… 60
16　学校図書館教育…… 埼玉県学校図書館協議会…… 64
17　中学校技術・家庭科教育…… 埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会…… 68
18　小学校家庭科教育…… 埼玉県小学校家庭科教育研究会…… 72
19　生活科・総合的な学習の時間教育…… 埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会…… 76
20　本校の研究の取り組みについて…… 埼玉大学教育学部附属小学校…… 80
21　埼玉大学教育学部附属中学校…… 埼玉大学教育学部附属中学校…… 84

Ⅱ　関東地区教育研究発表大会　埼玉大会の報告

1　第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会　埼玉大会…… 90
2　第９回関東地区特別活動研究協議大会　埼玉大会…… 91
3　第43回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会　埼玉大会…… 92

Ⅲ　地域教育研究団体の研究

1　戸田市教育研究会…… 94
2　和光市教育研究会…… 96
3　上尾市教育研究会…… 98
4　川越市教育研究会…… 100
5　坂戸市教育研究会…… 102
6　三芳町教育研究会…… 104
7　小川班教育研究会…… 106
8　菅谷班教育研究会…… 108
9　秩父教育研究会…… 110
10　児玉郡本庄市教育研究会…… 112
11　深谷市教育研究会…… 114
12　行田市教育研究会…… 116
13　久喜市教育研究会…… 118
14　幸手市教育研究会…… 120
15　杉戸町教育研究会…… 122

研究論文集

Ⅰ　平成29年度研究論文応募者等一覧 …… 126

＜　入　　選　＞

1　児童の学習成果を保障する体育授業モデルの一般化と指導法の共有化についての一考察
～学校間連携による体育授業の充実と新学習指導要領実施に向けてのカリキュラム作成を目指して～【体育】… 128
坂戸市立入西小学校　教諭　萩原　雄麿

2　不安傾向が強い生徒への保健室支援の在り方
～「認知再構成法」と「コラム表」を活用しての健康相談活動の実践～【教育心理・教育相談】…… 134
三郷市立瑞穂中学校　養護教諭　細谷　光子

＜　佳　　作　＞

1　自尊感情を高める小学校４年生の学級集団づくり
～学級内の対人関係づくりと話合い活動の実践を通して～【学級経営・特別活動】…… 140
さいたま市立大宮小学校　教諭　深井　正道

2　児玉中授業スタイルによる授業づくり
～主体的・対話的で深い学びを目指して～【学習指導】…… 146
本庄市立児玉小学校　校長　島田　啓司

Ⅱ　平成30年度研究論文募集要領 …… 153

記念講演会

「学校集団を育てる教師のリーダーシップ」　上越教育大学教職大学院　教授　赤坂　真二　氏 …… 156

◎　**平成29年度埼玉県連合教育研究会役員等名簿** …… 162

あ と が き…… 編集委員長　長島　庸夫 …… 167

○　**表　紙　絵**　「平成29年度　身体障害者福祉のための第59回埼玉県児童生徒美術展覧会」
埼玉県連合教育研究会会長賞受賞
・「木が宇宙にとび出した」　三郷市立吹上小学校　第３学年　高橋　駿太　さん
・「びんの気持」　さいたま市立馬宮中学校　第１学年　蔦島　理沙　さん

○　**表紙の題字**　埼玉県連合教育研究会　上亟　啓介　前会長

平成 29 年度

研究集録

Ⅰ　教科等研究団体の研究

1　埼玉県国語教育研究会 …… 4
2　埼玉県書写教育研究会 …… 8
3　埼玉県社会科教育研究会 …… 12
4　埼玉県算数数学教育研究会 …… 16
5　埼玉県理科教育研究会 …… 20
6　埼玉県音楽教育連盟 …… 24
7　埼玉県美術教育連盟 …… 28
8　埼玉県保健体育研究会 …… 32
9　埼玉県英語教育研究会 …… 36
10　埼玉県道徳教育研究会 …… 40
11　埼玉県特別活動研究会 …… 44
12　埼玉県進路指導・キャリア教育研究会 …… 48
13　埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会 …… 52
14　埼玉県教育心理・教育相談研究会 …… 56
15　埼玉県特別支援教育研究会 …… 60
16　埼玉県学校図書館協議会 …… 64
17　埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会 …… 68
18　埼玉県小学校家庭科教育研究会 …… 72
19　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会 …… 76
20　埼玉大学教育学部附属小学校 …… 80
21　埼玉大学教育学部附属中学校 …… 84

1　国　語　教　育

埼玉県国語教育研究会

Ⅰ　研究主題と事業

1　研究主題

生活に生きて働く国語の能力の育成をめざす授業の創造

2　事業

・国語教育夏季研修大会
・国語教育研究発表大会
・常任理事・理事研修会
・研究委嘱校研究発表大会
・地区別国語科授業研究会
・中学校国語学力向上対策事業（学力調査）
・「平成29年度国語教育研究集録」の発刊

Ⅱ　活動状況

1　新旧合同理事研修会　　6月2日㈮

(1)　平成28年度会務報告
(2)　平成28年度決算報告
(3)　平成28年度監査報告
(4)　新役員および常任理事の選出
(5)　平成29年度研究主題案および研究方針案についての審議
(6)　平成29年度事業内容案および事業計画案についての審議
(7)　平成29年度予算案についての審議

2　国語教育夏季研修大会提案者・司会者打ち合わせ会　　7月4日㈫

3　国語教育夏季研修大会　　8月10日㈭

(1)　分科会　小学校5　小・中連携1
　　中学校2分科会
(2)　講　演　埼玉大学教育学部
　　言語文化講座　国語分野
　　教授　本橋　幸康　先生
　　演　題　「国語学力調査を活用した授業づくり」
(3)　参加者数　約250名

4　常任理事・理事研修会　　10月10日㈫

(1)　講　演　前北本市立東中学校長
　　中村　敏男　先生
　　演　題　楽しい「ことば教室」
　　－ことばエピソード集から－
(2)　参加者数　約60名

5　地区別国語科授業研究会

(1)　羽生市立羽生南小学校　　11月29日㈬
(2)　川越市立新宿小学校　　11月7日㈫
(3)　上尾市立上尾小学校　　10月26日㈭
(4)　上里町立上里北中学校　　9月27日㈬

6　研究委嘱校研究発表会

・さいたま市立植竹小学校　　11月24日㈮

7　国語教育研究発表大会発表者・司会者・指導者打ち合わせ会　　12月5日㈫

8　国語教育研究発表大会　　2月13日㈫

(1)　会　場　ウェスタ川越（川越市）
(2)　分科会　小学校3　中学校1分科会
(3)　講　演　埼玉県教育局市町村支援部
　　義務教育指導課
　　課長　大根田　頼尚　先生
　　演　題　「学力向上と新学習指導要領
　　～国語科に期待されること～」
　　埼玉県教育局市町村支援部
　　義務教育指導課
　　指導主事　小野塚　祐一　先生
　　演　題　「新学習指導要領への対応
　　～移行期に向けて～」

Ⅲ　研究内容

1　国語教育夏季研修大会

(1)　提案者・提案主題名

○小低1　飯塚　誠　　深谷市立川本北小学校
・自分の考えをもち、豊かに表現できる児童をめざして
　～文学教材を中心に読むことを通した読解力の育成～

○小低1　千葉　理恵　　さいたま市立常盤小学校
・書く楽しさを味わい、自分の言葉で表現し、互いにみがきあう子の育成
　～話し合い活動を取り入れた「書くこと」の指導の工夫～

○小低1　溝口　友美　　幸手市立上高野小学校
・自ら学びともに高め合おうとする児童の育成
　～豊かな心を育てる道徳教育の充実をとおして、よりよく生きようとする児童を育てる～

○小低2　佐々木　彩子　　東松山市立青鳥小学校
・共に学び合い、考えを深める青鳥っ子の育成
　～国語科の「読むこと」を中心に～

○小低2　木内　真帆　　戸田市立新曽小学校
・思いや考えを豊かに伝え合う子供の育成
　～考える力・表現する力を育む言語活動の研究～

○小低２　田代　千絵　　本庄市立児玉小学校
・考え、話し合い、学び合う学習の研究
　～「順序よく説明文を書こう『はたらくじどう車』」の実践を通して～
○小中１　泉　　正人　　さいたま市立中尾小学校
・自ら学び考え、豊かに表現する児童の育成
　～『ごんぎつね』の実践を通して～
○小中１　根本　里美　　羽生市立羽生南小学校
・学び合い、伝え合いながら考えを深め、積極的にコミュニケーションを図る児童の育成
　～読書活動での取組を通して～
○小中１　浦野　一栄
　　内藤　万莉　　川越市立仙波小学校
・仲間との交流を深め　進んで表現する仙波っ子の育成
　～言語活動を通して表現力を高める指導の工夫（書く活動を中心として）～
○小中２　江原加奈子　　上尾市立原市南小学校
・よりよいものを見出し、発信する表現力・判断力を高める指導方法の工夫
　～自分の思いや考えを試し確かめ、自分の言葉で表現できる児童～
○小中２　荒船　翔子　　深谷市立花園小学校
・自ら学び、確かな学力を育む授業の創造
　～主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を通して～
○小中２　潟口　雅子　　さいたま市立本太小学校
・主体的に読み、伝え合い、学び合う子の育成を目指して
　～「変身カードでしょうかいしよう」『モチモチの木』の実践を通して～
○小高　莇　　慎也　　宮代町立須賀小学校
・自分の考えを深め、伝え合う児童の育成
　～「椋鳩十作品を、『魅力カード』で推薦しよう」の実践を通して～
○小高　　東海　林麻里　　狭山市立南小学校
・確かな国語力をつける指導の工夫
　～主体的・対話的で深い学びを通して要旨をとらえる～
○小高　　瀬山　千香　　上尾市立上平北小学校
・学び合いを通して、生き生きと学習する児童の育成
○小中連　鯨井　佳恵　　熊谷市立江南南小学校
・伝える相手に応じて、自分の考えを的確に伝える力を育てるために
　～さまざまな書く活動を通して～
○小中連　佐藤真奈美　　さいたま市立文蔵小学校
・「確かな学力を身に付け、進んで自分の考えを表現できる児童の育成」
　～思考力・判断力・表現力を高める指導と評価の工夫～
○小中連　櫻井　亜莉沙　　越谷市立中央中学校
・小中一貫教育を意識した中学１年生の授業実践
　～意図的・段階的に中学校での学びに順応させ、学ぶ力を育てるために～
○中１　　小林　佳史　　皆野町立皆野中学校
・基礎学力の定着とキャリア教育の視点を取り入れた授業作りを目指して
　～これまでの授業実践を経て、改善点を踏まえた提案～
○中１　　関口　拓臣　　さいたま市立城南中学校
・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
　～基礎・基本の確実な定着をめざして、主体的な学びの場～
○中１　　落合　陽介　　加須市立大利根中学校
・生活の結びつきを大切にする古典学習
○中２　　間下　智司　　鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校
・主体的な読み手の育成を目指した指導
　～「本へのとびら－読みたい本をさがそう－」～
○中２　　中川　愛友伽　　北本市立北本中学校
・「言葉の力」を使って連句をつむごう
　～読みを深めるための言語活動の実践～

⑵　国語教育夏季研修大会講演要旨
○講　師　埼玉大学教育学部
　　言語文化講座　国語分野
　　教授　　本橋　幸康　先生
○演　題　「国語学力調査を活用した授業づくり」
　全国学力・学習状況調査は110万人×10年分のデータの蓄積があり、誤答分析から子供たちの躓きなど実態把握から、普段の授業をより充実させるヒントを得ることができるだろう。国立教育政策研究所が示す資料、報告書（①解説資料②報告書③授業アイディア例）、全国の教育委員会や学校が公表している授業アイディア例等、具体的な授業づくりの提案を含んだ資料を多く参照したい。
　小学校の「読むこと」の課題は「資料と資料を関係付けること」、中学校の課題は「文章の表現や特徴に注意して読むこと」である。質問紙調査では、「国語は大切だ。」という質問に対して８割、「授業内容はよく分かりますか」も８割、「将来役に立つと思いますか。」という質問も８割、「国語の授業は好きですか。」は６割に下がる。授業でどう工夫するのかが大切である。

【学力調査を活用した国語科授業づくり】

①言語活動の観点を学ぶ。

漠然と活動させるのでなく、指導事項をしっかり指導することが大切である。児童質問紙で白紙回答だった児童は、「問題が難しかった」と答えたのが８割。その児童たちにさらに聞くと、「何を取り上げて書いたらよいか分からなかった」と４割の児童が答えている。問いの意味、発問の意味を捉えられていないことが分かる。授業であれば、言い換えて問い直すことができるが、ペーパーテストでは、問いの意味が分からず白紙解答になる児童の姿が見られた。授業において、なんとなく読む、読めたという状況をつくらず、言語活動の観点（指導事項）を意識させて読むなど、児童に漠然と活動をさせない工夫も必要であろう。例えば、物語を読むときの観点として、文章の種類や形態、登場人物、表現・叙述などを示すことが大切である。観点を示すタイミングについては、最初から示すのでなく、子供たちの意見や発言を出させた上で、それを観点と結びつけて、読み方（知識）を習得させるような展開が効果的であろう。

一方で観点を示し、分析的な読みに偏ると、物語の世界に浸ったり登場人物から離れてしまったりする危惧もある。

②複数のモデルから学び方を学ぶ。

複数のモデルを比べながら、子供自身が観点を発見する。友達の文章のよいところや工夫を見つけたり分析したりする。

③学び方（観点）に注目する（意識付け・効果を実感できること）。

教科書に大事だと書かれているからやる、のではなく、観点に注目することで効果を実感できるようにする。

④言語活動を振り返るメモ・ワークシート・ノートの充実（自分の意見の形成過程の振り返り）。

「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくりとしては、自分の学習過程を振り返ることのできる資料を残しておくことが、学びの深化の実感へとつながるだろう。ノートやワークシートには、「～しながら（目的・手段）～した。（言語活動）」「～するために、～した」等という書き方で、目的に応じて言語活動に取り組んでいることを意識させる話形を使わせたり、自分がどのように意見を形成したりしたのか、その過程の振り返りができるようにしたい。

全国学力・学習状況調査では、言語活動の工夫やよさを説明するような問いや、言語活動の途中の過程が問われている。また、特別活動、委員会活動、生活の場の状況設定がされている。国語の場で学んだことが実生活の場で使えるか、実生活に立脚した学力が問われている。

【学習指導の観点（全国学力・学習状況調査の調査問題の分析から）】

①国語の授業で学んだことを実生活の場で使える知識として活用させる。

②言語活動の過程を問う。

平成28年度問題②③の選択肢を見ると、「～しながら～している。」や「～のように～がよい。」「～ので～がよい。」のように目的に応じて、どんな言語活動がよいのかを問うている。

③目的に応じて複数の資料を関連付けて読む。

選択肢を見ると、誤答でも意味ある選択肢になっている。例「どのようにインタビューメモを工夫していますか？」と工夫を問う問題になっている。自分自身の言語活動を振り返る際に活用できる。

④目的に応じた言語活動の仕方・工夫を説明させる。

「なぜ自分は今この言語活動をしているのか、何のために言語活動をしているのか。」という目的・意図を問うている。中学校では、文章の特徴・工夫に注意して読む。

⑤言語活動の目的や意図の説明をさせる。

⑥目的に応じて複数の条件に沿って言語活動に取り組む。

「店長の言葉を使って」という条件設定がある。字数制限がある。字数によって、具体例を入れたり、段落構成を考えたりするようになる。これを繰り返すと、「これだったら何文字くらいで書けるな。」「何分くらいで書けるな。」という言語活動感覚が養える。

漢字の誤答分析をすると、昭和30年代の子供たちより今の子供たちの方が定着している。しかし、正答率の低い漢字を見ると、抽象的な漢字、書き言葉、学習に関連する言葉に特徴がある。今年の漢字の問題は、実際のお知らせの中に問題がある。実生活を意識させている。

高校入試も言語活動の過程を問うような問題になってきているので、中学校での授業づくりの工夫が求められている。大学入試共通テストも複数の情報を関連付けて読んだり、実用的な文章を読んだり、言語活動の過程を問うような実生活に即した問題が入ってきている。

【所沢市立若松小学校の授業改善の取組】

①　話し合いを活発にさせる課題の選定（子供たち自

身に問いの意味を考えさせる。

②話し合いの目的をはっきりさせること。

③目的に合わせたグルーピングの工夫。

④ペアやグループなどの活動を入れて、他の子と関わらせる。

⑤交流の仕方の工夫。

次期学習指導要領のポイントの一つとして、「言葉による見方・考え方」に注目すると同時に、語彙の育成が重視されている。また、全ての領域で学習目的の理解（見通し）と自分の学習に関する考察（振り返り）が明記されている。内容理解が深まったというだけでなく、一人一人がどのように学習に取り組んだか、その学習過程を意識できることが、より充実した学習への取り組みへとつながっていく。

「共有」は、互いの思いを感じ取り、一人一人の感じ方の違いやよさに気付くことや、よさを認め合うこともいう。そのために自分の考えをもつとともに、他者と対話しながら自分の考えをより相対的に見て深めていくことが大切である。

2　中学校国語学力調査（第59回）

⑴　ねらい

中学生一人一人の国語学力の実態や問題点を把握し、学習指導の工夫・改善に役立てる。

⑵　調査の分野・領域・資料文

①文学的文章の読解・鑑賞

１年『まっしょうめん！』　（あさだりん）

２年『アレグロラガッツァ』　（あさのあつこ）

３年『リーチ先生』　（原田　マハ）

◎文章中の登場人物の心情や展開を、表現に即して読み取る力を確かめる問題を出題した。

②説明的文章の読解

１年『爆発的進化論　1％の奇跡がヒトを作った』（更科　功）

２年『上手な脳の使い方』　（岩田　誠）

３年『シリーズ心理学と仕事　発達心理学』（太田信夫　監修　二宮克美・渡辺弥生　編集　楠本千里・富田昌平　著）

◎文章内容や構成、要旨等を、正しく読み取る力を確かめる問題を出題した。

③放送による問題（独話または話合いを聞く）

１年　三年生を送る会の準備についての説明

２年　「安全な登下校」というテーマでの話合い

３年　言葉の使われ方についての意見発表

・話の概要を聞き取る問題

（話題の中心・意見の根拠　等）

・話の組み立て方の特徴や工夫をつかむ問題

④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関する問題

１年　文節の数を問う問題

２年　文中の主語を問う問題

３年　助動詞（ない）を問う問題

⑤漢字の読み書き

	読み取り	書き取り
１年	貿易・臨む・正直・今朝	衛星・結束・資源・捨てる・応える・快い
２年	法治・土砂辺り・八百屋	難しい・激励・成績・検討・務める・快い
３年	質素・田舎・僅差・体裁・推す	迎え・妨げる・真剣・水滴・快い

⑥作文

・事例や根拠をあげて自分の考えを構成に注意して書く。

生徒にとって身近な話題や場面を設定し、資料から読み取ったこと等を踏まえて、自分の意見を述べる力について、その実態把握を目指した。

⑶　参加校状況

①参加校　16校（原稿作成時）

②地域別参加校数

南　部…６校　　西　部…２校

北　部…２校　　東　部…４校

さいたま…１校　　国県私立…１校

③参加生徒数　3,935名

④学年別参加生徒数

１年　…　1,281名

２年　…　1,498名

３年　…　1,156名

⑷　改善点

○国の教育施策との関連

学習指導要領の指導事項との関わりを明確にし、「知識」を問う問題と「知識を活用」する問題を作成した。また、課題となっている「意欲」の側面から出題の工夫を検討した。考察結果については報告書に掲載した。

⑸　結果の報告

埼玉大学、県教育委員会の指導・助言を得て集計処理し、問題ごとの正答率、誤答分析、指導のための方策等を含めて、国語教育研究大会冬季研究大会において報告を行う。また、報告書（Ａ４判）を実施し中学校宛に送付する。

２　書　写　教　育

埼玉県書写教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「児童生徒が生き生きと学ぶ書写授業の創造」
～　確かな書写力の育成を目指して　～

２　主題設定の理由及び方針

平成29年３月に小学校及び中学校の学習指導要領が文部科学省より告示された。国語科書写においても「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」から「知識及び技能（我が国の言語文化に関する事項）」に位置付けられた。小学校では、第１学年及び第２学年の（イ）に「点画の書き方」（ウ）に「点画相互の接し方」の語句が入り、その指導については、「適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること」と示され、水書用筆の使用が実際の授業においても検討され始めた。また、中学校では、文字文化の多様性や表現の豊かさを工夫して書くことなど、高等学校の国語科、芸術科（書道）へのつながりや文字文化への深い理解が求められた。

このような学習指導要領の告示を受けて、本研究会は、書写教育の視点から生きて働く知識・技能の基礎となる「児童生徒が主体的に学ぶ書写授業の創造」を目指した取り組みを進めている。

今年度は寄居町中央公民館を会場に、昨年度に引き続き夏季実技研修会を行った。午前中は、書写授業の基本的な指導の仕方や授業展開など、午後は書きぞめの指導方法や課題の書き方について、講師を招いて研修を実施した。

さらに、授業研究会では所沢市立所沢中学校を会場として中学校１年生の書きぞめを題材にした授業を公開し、その後研究協議として、参加した先生同士の意見交換や講師の先生からの指導等を通して、指導力の向上、児童生徒の書写力の育成を目指した。

以上の事業を通して、児童生徒一人一人が主体的に学ぶ書写授業の創造に努め、書くことを通して確かな書写力の育成を目指している。

Ⅱ　活動状況

１　役員会の概要

⑴　４月26日㈬　理事会　　県民活動総合センター
　○県硬筆展覧会開催要項・審査規程審議

⑵　５月17日㈬　総会・研究協議会・講演会
　浦和コミュニティセンター
　○総会（書写書道教育連盟・書写教育研究会）
　○研究協議会・講演会

⑶　６月９日㈮　常任理事会　越谷市立桜井南小学校
　○県硬筆展覧会本部・開催地区協議会
　○本部事務分担及び計画
　○県書きぞめ展覧会語句選定・開催要項案審議

⑷　６月20日㈫　理事会　　越谷市立桜井南小学校
　○県硬筆展覧会作品審査会
　○県書きぞめ展覧会開催要項案審議
　○会報（埼書教連）発行

⑸　10月３日㈫　理事会　　埼玉県県民活動センター
　○県書きぞめ展覧会開催要項・審査規程審議

⑹　11月10日㈮　常任理事会
　さいたま市浦和大里小学校
　○県書きぞめ展覧会本部・開催地区協議会
　○県硬筆展覧会語句選定・開催要項案作成

⑺　１月24日㈬　理事会
　さいたま市立浦和大里小学校
　○県書きぞめ展覧会作品審査会
　○会報（埼書教連）発行

２　研究発表会の概要

⑴　小中高等学校書写書道教育研究協議会
　○期　　日　　平成29年５月17日㈬
　○会　　場　　浦和コミュニティセンター
　○参加人数　　104名
　○研究発表者・発表テーマ
　　①「基礎・基本を大切にした書写指導」
　　神川町立丹荘小学校教諭　福岡　有里子　先生
　　②「文字への意識・関心を高める書写指導」
　　本庄市立本庄東中学校教諭　橋本　麻佑　先生
　○講　演
　・演　題　「新教育課程のこれから」
　　－小・中学校を中心に－
　・講　師　東京学芸大学名誉教授
　　長野　秀章　先生

３　研修会の概要

⑴　実技研修会
　○期　日　平成29年８月４日㈮
　○会　場　寄居町立中央公民館
　○参加人数　52名
　○研修内容及び講師

「毛筆の基本・書きぞめ指導法」
・前埼書教連会長　荻田　哲男　先生
・元埼書教連副会長　稲見　修央　先生

⑵　埼玉県書写教育研究会委嘱授業研究会
［所沢地区］
○期　　日　平成29年11月28日㈫
○会　　場　所沢市立所沢中学校
○参加人数　74名
○単元名・授業者
書きぞめ「桜草の里」
所沢市立所沢中学校教諭　神塚　麻衣　先生
荒幡　信雄　先生

⑶　各地区書写実技研修会・授業研究会

4　展覧会の概要

⑴　第56回記念　硬筆展覧会
○会　　期　平成29年６月24日㈯･25日㈰
○会　　場　越谷市立桜井南小学校
○出品点数

・推薦賞	小学校	283点
	中学校	129点
・特選賞	小学校	856点
	中学校	385点
・優良賞	小学校	1,709点
	中学校	772点
	合　計	4,134点

○課　　題　11頁参照

⑵　第70回　書きぞめ展覧会
○会　　期　平成30年１月27日㈯・28日㈰
○会　　場　さいたま市立浦和大里小学校
○出品点数

・推薦賞	小学校	132点
	中学校	83点
・特選賞	小学校	528点
	中学校	333点
・優良賞	小学校	663点
	中学校	416点
	合　計	2,155点

○課　　題　11頁参照

⑶　平成29年度　教職員書道展覧会
○会　　期　平成30年１月27日㈯･28日㈰
○会　　場　さいたま市立浦和大里小学校
○出品点数　26点

5　研究刊行物

⑴　「研究集録」第55号の発行

※平成29年度硬筆展覧会参考手本揮毫者

小一　加須市立大越小学校　大澤美和子　先生
小二　加須市立大越小学校　大澤美和子　先生
小三　さいたま市立泰平小学校　齊藤　祐子　先生
小四　嵐山町立志賀小学校　福田　英正　先生
小五　所沢市立泉小学校　三上　陽照　先生
小六　所沢市立泉小学校　三上　陽照　先生
中一　松伏町立松伏中学校　関根　祐介　先生
中二　松伏町立松伏中学校　関根　祐介　先生
中三　県立伊奈学園総合高校　鷹啄　知美　先生

※平成30年書きぞめ展覧会参考手本揮毫者

小三　さいたま市立泰平小学校　齊藤　祐子　先生
小四　鴻巣市立赤見台第二小学校　奈良恵理子　先生
小五　さいたま市立大宮東小学校　佐藤さと子　先生
小六　鴻巣市立赤見台第二小学校　奈良恵理子　先生
中一　滑川町立福田中学校　大畑里栄子　先生
中二　松伏町立松伏中学校　関根　祐介　先生
中三　松伏町立松伏中学校　関根　祐介　先生

Ⅲ　研究内容

所沢支部研究発表

1　発表者

所沢市立所沢中学校　神塚　麻衣　先生
荒幡　信雄　先生

2　研究テーマ

「自ら学ぶ意欲と書写力を高める指導法の研究」

現行の学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることの必要性が述べられている。

今年度は、「自ら学ぶ意欲と書写力を高める指導法の研究」を継続して取り組み、支部全体で意識の向上と技術の向上を目指して、所沢市の書写指導を充実させていくことを考え研究テーマとして設定した。

3　発表内容

◎県書写教育研究会委嘱「授業研究会」より

⑴　はじめに

誰もが書写を指導でき、子どもたちが「手で書く文字は素晴らしい。」と興味を持てることを目標に所沢支部では取り組んでいる。今回は、これまで取り組んできた実践に加え、次期学習指導要領改訂に向け、重要事項となっている「主体的・対話的で深い学び」について具体的な次の取り組みも入れて実践した。

①ＤＶＤの活用　②かご字の活用　③「永字八法」
④ＴＴを導入　⑤相互評価（ペア交流）
⑥基準を明確にするための資料提示

⑵　単元名・教材名　書きぞめ「桜草の里」
⑶　実施学年学級　所沢中学校　１年６組
⑷　児童の実態と本単元の意図

本学級の生徒は向上心が高く、硬筆の授業は集中

している。しかし、書写に苦手意識を持っている生徒や、ある程度丁寧に書けるが自分の文字の癖を修正できない生徒など個々に課題がある。また、毛筆書写になると苦手意識の出てくる生徒もいるので、文字を美しく丁寧に書く書き方や書く喜びを体得させることによって、日頃からの文字に対する生徒の意識をもっと高めていきたいと常に考えている。さらに、全ての授業における自己批正の場等を活用して文字の整え方や書き方などを自ら発見することによって、文字に対する学びの姿勢を高めていきたいと考えている。

指導については、毎時間の学習のめあてをより明確にし、それを達成するための学習の基準を明確にするために資料の提示の工夫、ＤＶＤ視聴等を取り入れ、定着を図っていきたい。また、課題にあった練習用紙を準備し自己批正、相互批正の場を取り入れることで、話し合い学び合う活動を通して共に学び合う姿勢を大切にしていきたい。さらに、書きぞめ練習に取り組むことで文字を正しく美しく書こうとする意識を高めていきたい。本単元では、Ｔ・Ｔを導入し学習基準の定着とともに、練習がより一層効果的に進むよう個に応じた指導支援をしていく。書きぞめの学習を機会に、生徒の文字意識がより一層と高まり、日々の書写活動にもその成果が発揮できるようにしたいと考えている。

⑸　単元の目標

○穂先の動きと点画のつながりを理解して書くことができる。

⑹　単元の指導計画

第１時　文字の大きさや字形に気をつけて試書し、課題を見つける。

第２時　「桜」を字形に気をつけて正しく書く。

第３時　「草」「里」を行の中心や文字の大きさに気をつけて字配りよく書く。

第４時　行の中心や文字の大きさ、余白に気をつけて字配りよく書く。

第５時　既習事項を生かし、清書する。

⑺　本時の学習指導（３／５時）

①　目標

○字形に気をつけて正しく書くことができる。

②　展開

㈠　本時の学習課題を知る。

㈡　「永」を空書きする。

㈢　前時に書いた作品の添削を見ながら、「桜」の字形の整え方を把握する。

①「女」の正しい書き方・書き順

②「木（木へん）」・「ツ」・「女」の構成

③「桜」の文字の中心

㈣　課題意識をもって練習する。

㈤　画仙紙にまとめ書きをする。

㈥　自己課題について振り返りカードに記入する

⑻　「授業研究会」を終えて

①　成果と課題

○成果

・ＤＶＤを活用することで、字形や筆順、リズムが分かりやすい。

・かご字では、「桜」の「女」の部分の細かい点まで注意して書くことができた。

・ＴＴでの指導は有効である。分担して指導できることで、細かい点まで気をつけて個別の支援ができた。

・資料の提示により、姿勢や字形に気をつける意識を持つことができた。

・ペア交流では、〝お互いに見合う〟ことをした。ＤＶＤを活用することで作品を書く時の姿勢を確認できたり、作品を見る基準を設けられたりして、上手くできた。

○課題

・学年が上がるにつれ、生徒相互でアドバイスを言い合うのが難しくなってくる気がする。

・書きぞめの授業では学校の構造上、広い場所の確保とＴＴという指導体制が取れない時が多い。その際に、取り組み方の工夫が必要である。

②　指導講評（抜粋）

指導者　所沢市立向陽中学校

岩渕　賢一　先生

○めあてを設定する際に、「①筆の使い方、②筆のスピード、③筆圧」など具体的な言葉にすると注意する点も分かりやすい。

○今後、「主体的・対話的で深い学び」の取り組みとして、相互評価（ペア交流）を取り入れていくのであれば、運筆を見る視点をあげた方がよい。

○具体的に正しく書く視点を明確に絞っていけば、相互評価（ペア交流）で視点も定まったのではないか。

○ただ上手ければよいのではなく、「この字ってどう書いてあるのだろうか」と字を見る力をつけてほしい。毎回白紙に書かせるのでは力はつかない。安心して思い切って書けるように、ステップを考えた指導を全校規模で取り組んでほしい。

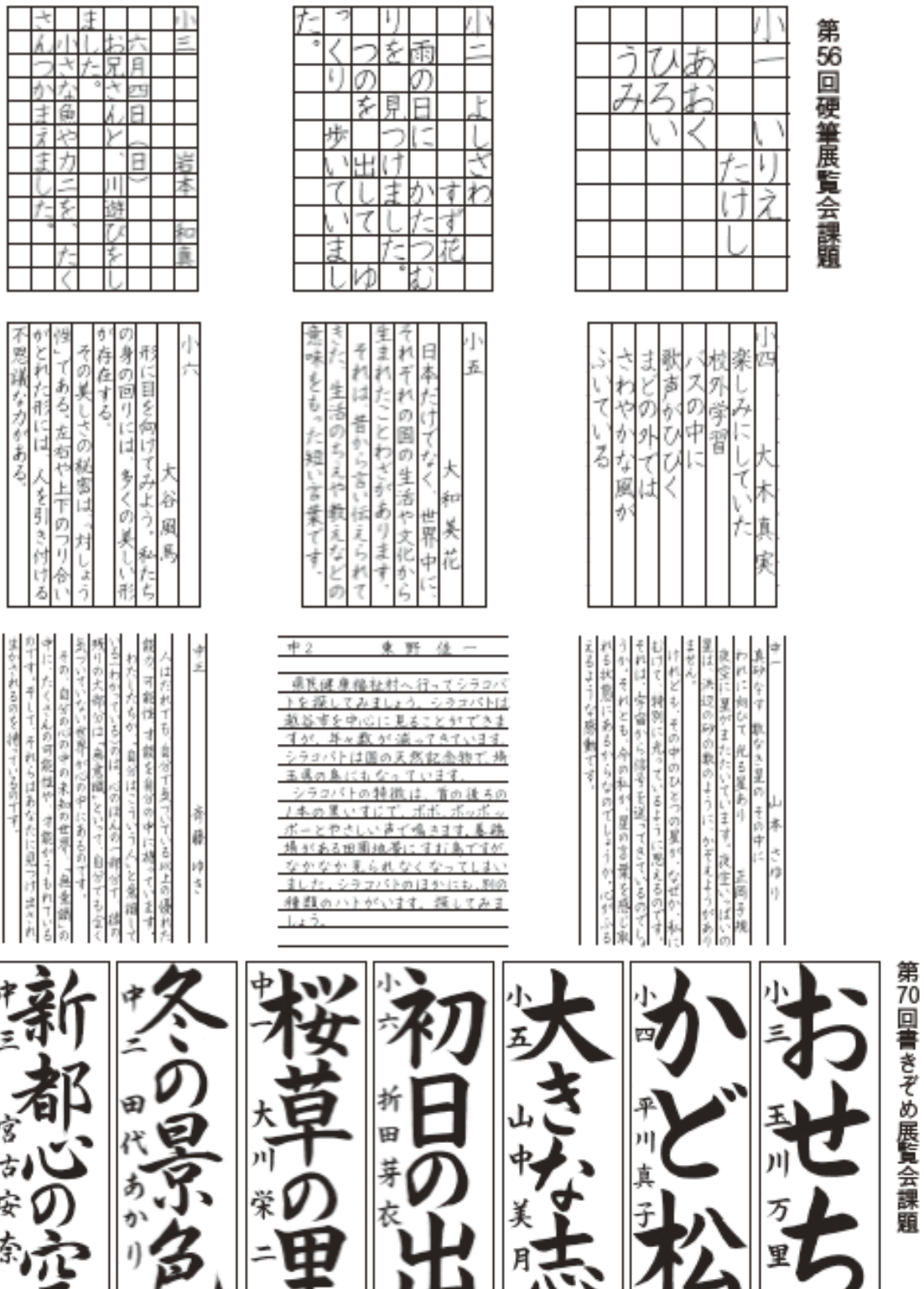
○環境の整備（広い場所）、時間の設定、授業の雰囲気、練習量の確保が大切であるが、今後も

集中して取り組める工夫、有意義な指導をお願いしたい。

Ⅳ　今後の課題

今後は、実技研修会や授業研究会等で、学習指導要領の改訂に伴う指導の工夫として、水書用筆を用いた指導等の普及、授業の工夫改善を図っていく。また、教員の実践的な指導力を高め、児童生徒の書写技能の向上を目指した創造的な授業を実践することで、確かな書写力の育成を図っていく。

平成29年度　硬筆・書きぞめ展覧会参考手本



３　社　会　科　教　育

埼玉県社会科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

小学校「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」

中学校「追究する力を育てる社会科学習
～主体的・協働的に学ぶ学習の充実～」

社会科教育の今日的課題は、当面する社会的事象を自分のこととして受け止め、習得した知識・技能を活用して問題の解決にあたり、社会における自分の在り方を確かにしていく資質・能力をいかに身に付けるかである。また、単に社会的事象に関する事項を数多く覚えることではなく、社会的事象のもつ社会的な意味を追究することによって社会認識を深め、自らの生活について考えることである。

本県の社会科教育は、戦後まもなく全国に先駆けて発表された川口プランに始まり、その精力的な実践研究は今日に受け継がれ、数多くの成果を挙げてきた。本研究会は、これまでの研究成果を生かして、研究・実践を行っている。

小学校では、「平成12年度全国小学校社会科研究協議会」を研究主題「人・夢・・・21世紀」と掲げ、開催した。「平成17年度関東地区小学校社会科研究協議会」を研究主題「ゆたかな社会をつくりだす、生きてはたらく力を育てる社会科学習」と掲げ、開催した。これらの研究の成果を踏まえ、平成30年10月25日㈭～26日㈮に川口市を会場に「第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会埼玉大会」を開催する。本年度は、プレ埼玉大会として、会場校３校（本町小学校・戸塚北小学校・鳩ヶ谷小学校）で授業研究会を開催した。

中学校では、「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」を、平成13年度には研究主題「生徒がつくり自ら学ぶ社会科学習の在り方」と掲げ、平成21年度には研究主題「学ぶ楽しさを味わい、わかる喜びを体感できる社会科学習」と掲げ、開催してきた。これらの研究の成果を踏まえ、平成29年11月17日㈮に川越市のウェスタ川越を全体会場に「第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会」を開催し、会場校３校（城南中学校・川越第一中学校・富士見中学校）で授業公開し、多くの参会者を得た。

Ⅱ　活動状況

１　理事研修会

⑴　第１回理事研修会

○期　日　平成29年６月13日㈫
○会　場　別所沼会館ヘリテイジ浦和
○講　師　文部科学省初等中等教育局調査官
藤野　　敦　氏
○演　題　「新学習指導要領に向けた社会科の学習（歴史的分野を中心に）」

⑵　第２回理事研修会

○期　日　平成30年２月７日㈬
○会　場　川口市立幸栄公民館
○内　容　平成29年度事業のまとめと平成30年度事業計画について

２　現地研修会

○期　日　平成30年２月７日㈬
○会　場　川口市立文化財センター
○内　容　川口市立文化財センターの見学等

３　第50回小中学校地域学習研修会

県内の公立小・中学校教員を対象に、自分たちの住む市町村や県を社会科の授業の中で指導するのに必要な基礎的内容について研修し、教員の資質の向上を図ることを目的としている。実際の資料や施設を活用して研修を進める点に大きな意義がある。

○期　日　平成29年８月４日㈮
○会　場　埼玉大学教育学部附属中学校
○研修内容及び講師
①講義「新学習指導要領の方向性」
県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　辻　英一　氏
②講話「さきたま史跡の博物館を活用した教材づくり」
体験「勾玉づくり～埼玉県旗の由来～」
県立さきたま史跡の博物館担当課長　佐々島忠重
③ワークショップ「税と社会保障のバランス図『天の川』における日本の位置を考えよう」
財務省関東財務局職員

本年度は埼玉大学教育学部附属中学校を会場に開催した。義務教育指導課の辻先生には次期　学習指導要領の背景、改訂のポイントに基づき、実際の単元事例、埼玉県の方向性等について御講義いただいた。講話・体験として、佐々島先生からは、地域教材としての埼玉古墳群とさきたま史跡の博物館について御講義いただいた。また、午後からは勾玉づくりの体験を行い、教材としての視点を示して　いただいた。ワークショップとして、日本の財政を考えるという課題に対

し、税負担と福祉のバランスを考えるグループワークを行い、財務局職員からのアドバイスを受けた。

4　第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会兼第46回埼玉県社会科教育研究会研究発表大会

○期　日　平成29年11月17日㈮

○会　場

〈全体会〉ウェスタ川越

〈地理的分野〉川越市立城南中学校

〈歴史的分野〉川越市立川越第一中学校

〈公民的分野〉　川越市立富士見中学校

○講演者・指導者

文部科学省初等中等教育局調査官　藤野　　敦　氏

平成国際大学特任教授　平澤　　香　氏

女子栄養大学教授　松尾　鉄城　氏

埼玉大学教授　大澤　利彦　氏

埼玉県教育委員会市町村支援部義務教育指導課

指導主事　清水　利浩　氏

さいたま市教育委員会学校教育部高校教育課

主任指導主事　大原　照光　氏

羽生市立羽生北小学校教頭　高野　　達　氏

5　第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会プレ埼玉大会兼南部ブロック授業研究会

○期日・会場

平成29年10月25日㈬　川口市立本町小学校

平成29年11月１日㈬　川口市立鳩ヶ谷小学校

平成29年11月10日㈮　川口市立戸塚北小学校

○指導者

国士舘大学教授　北　　俊夫　氏

國學院大學教授　安野　　功　氏

埼玉大学教授　桐谷　正信　氏

6　ブロック別授業研究会

＜小学校＞

⑴　東部ブロック

○期　日　平成29年12月８日㈮

○会　場　久喜市立栢間小学校

○授業者と小単元名

小澤　晃司　5年「情報化した社会と私たちの生活」

○研究の概要

児童の「なぜ」や「どのように」という知的好奇心をかりたてる教材づくりに、以下の重点に取り組んだ。一点目は、児童にとって身近なセブンイレブンの教材化である。ＰＯＳシステムやオムニ７を調べることで、最新の情報システムを活用した流通への理解を深めることができた。二点目は、ゲストティーチャーの活用である。学区の店舗から店長さんをお招きし、聞き取り調査を実施した。情報を発注する際に、販売情報を活用することで、欲しい商品が必ずあるようにしている工夫に気付くことができた。

⑵　西部ブロック

○期　日　平成30年１月31日㈬

○会　場　富士見市立水谷小学校

○授業者と単元名

金子　純一　5年「情報化した社会と私たちの生活」

○研究の概要

新学習指導要領の改訂を見据えて、「大量の情報や情報技術の活用」を単元に取り入れた。「つかむ」では、身近な情報機器から自分たちの生活に人工知能やビッグデータの技術が多く使われていることを知ることで、児童の追究意欲が高まった。「調べる」では、人工知能の有用性だけではなく、産業の在り方を大きく変えてしまうという課題を捉えることで多角的に価値を見いだす話し合いができた。また、インターネットサイト運営に携わる方から、情報を受け取る側のメディアリテラシーの大切さも学んだ。「まとめる」では、情報活用宣言として、一人一人がどう情報と関わっていくべきか、自分の考えをもつことができた。

⑶　北部ブロック

○期　日　平成29年12月５日㈫

○会　場　深谷市立幡羅小学校

○授業者と単元名

村知　直人　３年「市の様子の移り変わり」

○研究の概要

手立て①として、地域の「人」の教材化を行った。「つかむ」では地域のお年寄りから、「調べる」では市役所の市民税課の方、本校の教頭先生から、「つかむⅡ」では市役所の企画課の方から聞き取り調査することで、事象への理解を深めることができた。次に、手立て②として、話合い活動の工夫を行った。本時の目標によって、小集団や全体での話合いの場面を設けることで、考えを深めることができた。さらに、手立て③として、つかむⅡ･調べるⅡ･まとめるⅡの学習過程を取り入れた。これからの深谷市の農業をどのようにするとよいのかを様々な人の立場に立って、市役所の人に伝えることができた。

⑷　さいたま市ブロック

○期　日　平成29年10月17日㈫

○会　場　さいたま市立上落合小学校

○授業者と単元名

白石　知也　６年「新しい時代の幕開け」

○研究の概要

資料から読み取った情報を基に、資料を関連させて考え、時代の様子や歴史的事象の意味についての

理解を図った。「つかむ」では文明開化などの歴史的事象から時代の変化への疑問を持たせた。外国による日本周辺国の植民地化や不平等条約を取り上げ、問題意識を持たせた。「調べる」では明治維新を中心として行った人々の働きや願い、政策の意図を諸改革の背景にある世界の情勢と関連させて考えさせ、理解を深めた。「まとめる・生かす」では明治維新前後の出来事や人々の働きを時系列でつないだ人物の相関図作りを通して歴史的事項の関連を再度考えさせ、そのつながりにより新しい国づくりが行われたことをまとめた。

⑸ 指導者

久喜市教育委員会指導主事　神田美佐子　氏
八潮市立八條北小学校長　佐々木　清　氏
埼玉県教育局西部教育事務所指導主事
鈴木　茂　氏
富士見市教育委員会指導主事　烏山　裕貴　氏
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事
篠田かなえ　氏
深谷市教育委員会指導主事　栗原　秀人　氏
さいたま市立教育研究所主任指導主事
山口　美保　氏
さいたま市立大谷場小学校長　三上　良正　氏
埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

＜中学校＞

⑴ 東部ブロック

○期　日　平成29年10月10日㈫
○会　場　加須市立騎西中学校
○授業者と単元名
菅谷　優子　３年「地方自治と私たち」
○研究の概要
本授業では、生徒自らが住む加須市において、「20年後も私たちが暮らしていたい加須市にするために、どんな街づくりをしていけばいいだろう」という単元を貫く課題を設定した。４～５人程度の班を編成し、班で地方自治について学びを進めていきながら、市民アンケートを分析整理したものについて、具体策を分担して練り上げる学習を行った。各班ごとに具体策を考えていきながらも、将来の都市像を想像してキャッチフレーズを考える学習も行っていき、自分の考えをさらに深める活動も行った。最後に、各班の具体策と20年後の加須市の都市計画であるＭｙマスタープランを市の政策調整課に提出するために学級全体で振り返る活動を行い、住民達が自分の住む土地について考えることの重要性を捉えることができようにした。

⑵ 西部ブロック

○期　日　平成29年10月３日㈫
○会　場　入間市立上藤沢中学校
○授業者と単元名
小掠　亮太　1年「世界の諸地域～北アメリカ州～」
○研究の概要
「北アメリカ州は、なぜ世界をリードする地域になったのだろう」を単元を貫く課題として設定し、北アメリカ州の地域的特色を追究した。特に、個人での検討・４人班での検討・個人でのまとめ、という流れの繰り返しで、個人の課題への追究能力を高めていった。本時では複数の主題図を読み取ることを通して、アメリカの農業の特色を明らかにさせた。具体的には、知識構成型ジグソー法を用いて、３つの資料を関連付け、アメリカの農業の特色を提示資料にまとめる活動を行った。学習活動をもとに個人で本時の学習課題のまとめを行うという展開であった。

⑶ 南部ブロック

○期　日　平成29年６月16日㈮
○会　場　川口市立鳩ヶ谷中学校
○授業者と単元名
鈴村　聡　1年「世界の諸地域～北アメリカ州～」
○研究の概要
「北アメリカ州は、どのようにして世界をリードする地域になったのだろう」を単元を貫く課題として設定し、北アメリカ州の地域的特色を追究した。特に、主体的・協働的な学習の工夫として、知識構成型ジグソー法を取り入れ、分担して調べさせる活動を行った。互いに調べたことを教え合う活動を通して、資料から読み取ったことを適切に表現する力を身に付けさせることをねらいとした。本時では複数の主題図を読み取ることを通して、アメリカ、カナダの農業は、他国と比べてどのような特色があるのか、明らかにさせた。昨年度の関ブロプレ大会での課題「１時間にエキスパート活動、ジグソー活動、クロストーク活動を行うのは時間的に難しい」を受け、本実践では、２時間扱いとし、前時のエキスパート活動を経て、ジグソー活動から入るという改善を行った。

⑷ 北部ブロック

○期　日　平成29年10月17日㈫
○会　場　深谷市立深谷中学校
○授業者と単元名
大竹　一史　３年「地方自治と私たち」
○研究の概要
単元を貫く課題として「20年後も私たちが暮らしていたい深谷市にするために、どんな街づくりをし

ていけばいいだろう」を設定した。毎時間のワークシートも、生徒が習得した知識・技能や見方・考え方が単元の目標につながるよう、学びの蓄積が見られる工夫をした。本時では、単元のまとめにあたり、Ｍｙまちづくり計画の具体例を、班に分かれて検討し、提案した。そして、個人で単元の内容の振り返りを行うという展開であった。

⑸　さいたま市ブロック

○期　日　平成29年10月12日㈭

○会　場　さいたま市立大久保中学校

○授業者と単元名

広川　和樹　１年「中世の日本～鎌倉幕府の支配の広がり～」

○研究の概要

単元を貫く課題として「武士はどのように支配を広げていったのだろうか」を設定した。本時においては、本大会授業者をゲストティーチャーとして招き、「追究する力」を育てる「学びの段階」においての指導の手立てとした。また、埼玉県の地域教材である河越氏が承久の乱においてどのような対応をとるべきかグループで協議して追究する活動を通して鎌倉幕府の政治の特色について迫っていた。授業の最後には、本時の学びを自分の言葉で表現する活動も設定され、努力を要する生徒への手立てや満足できる生徒をより高める手立てについて協議が行われた。

⑹　指導者

越谷市立蒲生第二小学校長	中台　正弘　氏
入間市教育センター指導主事	熊谷　雅人　氏
ふじみ野市立大井西中学校長	山﨑　祐一　氏
平成国際大学特任教授主事	平澤　　香　氏
県教育局北部教育事務所指導主事	篠田かなえ　氏
さいたま市教育委員会指導主事	田原　佑介　氏
さいたま市立桜山中学校長	井山　直之　氏

埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

７　小学校社会科学習指導法研修会

本研修会は、３年間を１サイクルとして実践を積み重ね、委員一人一人の実践した事例を検討し、実践事例集を作成する。今年度は３年目であり、『小学校社会科実践事例集第12集』を２月７日㈬に刊行した。

８　中学校基礎学力調査

生徒の基礎学力調査の実態を調査し、社会科指導の改善・推進の資料にすることを目的として実施し、48回目を迎えた。

⑴　基礎学力問作委員会

○期　日　平成29年７月７日㈮・26日㈬
８月７日㈪

⑵　基礎学力分析委員会

○期　日　平成29年10月24日㈫・12月１日㈮

○内　容

基礎学力調査事業において、思考力・判断力・表現力をはぐくむ社会科の学習評価問題作成に取り組んできた。現行の学習指導要領に基づき、新たに地理６問、歴史５問、公民４問の計15問にわけ、３年間で作成をした。問作委員の間で一定の定義や共通理解を図った後、問作委員の所属する学校の３年生で実施をし、任意に抽出した生徒の応答傾向を分析・考察する２年目の活動を行った。地理的分野から２問作成、歴史的分野からは１問作成、公民的分野からは２問作成した。最終年度として冊子にまとめ、２月に刊行した。

９　研究刊行物

○会誌39号

主な内容を、講演会記録、関ブロ埼玉大会要旨、全小社研プレ埼玉大会要旨、基礎学力問題、教室の声、一年間のあゆみ（活動報告）として編集した。会誌は県内教育関係機関に送付し、同時に本研究会の理事を通じて、県内の全公立小・中学校に配布した。

10　その他（役員一覧）

会　長	山口　　勝（深谷市立藤沢中学校長）
副会長	豊田　正一（吉川市立中央中学校長）
	森川　哲治（ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校長）
	清水　健治（川口市立鳩ヶ谷小学校長）
	斉藤　　実（深谷市立桜ヶ丘小学校長）
	笹原　秀之（さいたま市立南浦和小学校長）
幹　事	矢島　弘一（埼玉大学教育学部附属小学校）
	岩田　信之（埼玉大学教育学部附属小学校）
	二瓶　　剛（埼玉大学教育学部附属中学校）
	齊藤耕太郎（埼玉大学教育学部附属中学校）
	内藤　圭介（埼玉大学教育学部附属中学校）

Ⅲ　今後の課題

過去の研究大会の成果と課題を活かし、第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉大会では、400名を超える多くの参会者に、研究成果を発表することができた。また、全小社研埼玉大会への取組を通して、研究の裾野が若手教員を中心に広がってきていることが収穫である。加えて、諸研修、ブロック別授業研究会、研究発表大会等をこれからも継続して実施し、研究に取り組んでいきたい。今後も、施設見学やワークショップ形式を取り入れた地域学習研修会など工夫改善を加えながら計画的・組織的に進めていくことで、これからの社会科教育を担う先生方の研修の充実に貢献できるようにしていきたい。

4　算数・数学教育

埼玉県算数数学教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

学ぶ楽しさを味わう算数数学の学習をめざして、学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材研究を深め、指導内容の系統を明らかにし、算数（数学）的活動を重視した学習指導が展開できるようにする。そのとき、児童生徒の学習意欲を喚起し、数理的な処理のよさや数学的な見方や考え方のよさに気づき、活用できるよう学習過程や指導の工夫に努め、指導と評価の一体化を図る。

Ⅱ　活動状況

1　小学校（主なもの）

(1)　総務部活動状況

①　埼玉県算数数学教育研究会役員研修会

○平成29年６月２日㈮　埼玉大附属中

・平成28年度事業報告、同決算報告

・平成29年度役員について

・平成29年度事業計画、同予算案　審議

・研究発表

「数学的な思考力・表現力を育てる学習指導―反省的思考を表現して繋ぐことに焦点をあてて―」

平成28年度　埼玉県長期研修教員

毛呂山町立毛呂山小学校　　堀口　知彦　氏

②　第99回全国算数・数学教育研究（和歌山）大会

・８月７日㈪・８日㈫

③　第72回関東甲信静数学教育研究　群馬大会

・８月22日㈫

④　日本数学教育学会総会（春期研究大会）

・平成29年６月11日㈰

会場　横浜国立大学

⑤　研究集録の発行

平成29年度の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。今年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各小学校に１部ずつ配付した。

⑥　算数教育研究発表会

・平成30年１月31日㈬

会　場　さいたま市民会館うらわ

・講　演

「次期学習指導要領の趣旨を踏まえた算数授業の具現化」

「学ぶ力を育む学習指導法の研究」

発表者　川口市立南鳩ヶ谷小学校

上村　裕二　氏

司会者　川口市立柳崎小学校　本橋　拓也　氏

「児童の問題解決能力を高める算数指導」

発表者　ふじみ野市立西小学校

堂東　明生　氏

司会者　所沢市立中央小学校　石川　真成　氏

「意欲を高め、一人一人に確かな学力を身に付けさせる学習指導」

発表者　神川町立青柳小学校　山﨑　　瞬　氏

司会者　神川町立渡瀬小学校

高柳由貴代　氏

「数学的な表現力を高める算数指導の研究」

発表者　熊谷市立熊谷西小学校

金井　大典　氏

司会者　熊谷市立星宮小学校

田島　達也　氏

「基礎・基本を身に付け、考える力を育む児童の育成　～わかる・できる・かかわり合う授業の実践～」

発表者　行田市立北小学校　　金子　満枝　氏

司会者　行田市立荒木小学校　梅澤　　剛　氏

・委嘱校研究発表

「楽しさを実感し、自ら学び、考え、学習に取り組もうとする児童の育成

～基礎・基本を身に付け、主体的に取り組める算数科の授業・活動を通して～」

発表者　上尾市立原市小学校　髙橋　恭之　氏

田村　　梓　氏

(2)　研修部活動状況

①小学校算数教育研究協議会

テキスト第50集を中心に県下10地区で研究協議をした。各地区の会場校等は次の通りである。

北足立南部	10月31日㈫	戸田市立戸田第二小学校
北足立北部	12月１日㈮	鴻巣市立松原小学校
さいたま市	11月28日㈫	さいたま市立蓮沼小学校
入　　間	12月１日㈮	富士見市立南畑小学校
比　　企	11月10日㈮	東松山市立野本小学校
秩　　父	11月30日㈭	長瀞町立長瀞第二小学校
児　　玉	11月16日㈭	上里町立上里東小学校
大　　里	12月５日㈫	寄居町立男衾小学校
北　埼　玉	11月10日㈮	羽生市立手小林小学校

埼　　葛　11月１日㈬　幸手市立さくら小学校

②算数教育夏季研修会

・平成29年８月10日㈭

会　場　さいたま市民会館うらわ

○講　演　「算数科授業における授業改善」

県教育局市町村支援部義務教育指導課

志村　憲一　氏

「算数科における数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動の充実」

横浜国立大学　　池田　敏和　氏

○研究発表

「主体的に学び、算数の楽しさを味わえる算数指導　～見通し・学び合い・振り返りの充実を通して～」

平成28年度　埼玉県長期研修教員

三郷市立幸房小学校　　池嶋　裕貴　氏

「算数を創造する学習指導」

平成28年度　埼玉県長期研修教員

さいたま市立上小小学校　秋山　泰孝　氏

「数学的な思考力・表現力を育てる学習指導

―反省的思考を表現して繋ぐことに焦点をあてて―

平成28年度　埼玉県長期研修教員

毛呂山町立毛呂山小学校　堀口　知彦　氏

⑶　編集部活動状況

○算数教育研究協議会用テキスト第50集作成

「教科・教材の本質の追求」をテーマに掲げ編集を行った。第１章では、教科の本質と教材の本質についてまとめ、次のように示した。

１　はじめに

２　⑴　教科の本質

⑵　教材の本質

３　「教科・教材の本質」を追求した授業づくりの視点と具体例について

４　おわりに

第２章では、各学年２編ずつ指導例を載せた。第３章では、第１集から第49集までのテキストに掲載された約900編の全ての指導案の中から選び抜かれた各学年１編ずつの指導案を「推奨したい指導案」として、歴代編集部長の解説も加えてまとめた。

また、埼玉大学教授や本会顧問の先生方等に「教科・教材の本質」をテーマに御執筆いただき、第４章としてまとめた。資料編では、「指導困難な題材とその指導」を載せた。調査研究部の教員意識調査の結果から得られた題材について、過去に発刊されたテキストを参考に、手立てを示した。

⑷　調査研究部活動状況

○　教員の意識調査

授業改善に向けた取組の一環として、教員の意識調査を行った。調査項目については以下のとおりである。

１　職名、教職経験について

２　題材について

・指導が難しいと感じる題材とその理由（記述）

・選んだ題材の難しいと感じる理由

２　中学校（主なもの）

⑴　理事研修会

平成29年６月２日㈮

・平成28年度事業報告、会計報告、監査報告

・平成29年度役員、事業計画、予算案審議

・算数数学教育研究協議会について

・研修報告

平成28年度長期研修教員

寄居町立寄居中学校　　堀江　広樹　氏

⑵　研究委嘱校

平成28・29年度　さいたま市立泰平中学校

主題『自ら考え、思いやりを持ち実践力のある生徒の育成

～「考え、学び合い、話し合う学習」（主体的・対話的で深い学び）を通して～』

⑶　数学教育研究協議会用テキスト第48集作成

「主体的に問題解決する力を育む数学学習指導

－関数　資料の活用／全国学力・学習状況調査を基にした授業アイディア例－」

という主題を設定し、理論と実践の結び付きを図るように編集したものである。

【理論編】

○これからの数学教育への見通し

－「主体的・対話的で深い学び」とは－

埼玉大学教育学部教授　　二宮　裕之　氏

【実践編】

「理論編」で述べた考え方をもとに、各学年の＜関数・資料の活用＞領域の授業実践例を載せている。各学年で６編の実践例をまとめ、主体的に問題解決する力を育むための数学的活動の具体を示し、その活動によってどんな力を育成するのかを明示した。また、学習指導において適切に振り返る場面を位置づけ、学習活動と自己評価の一体化が図られていることを示した。

「題材について」は、主体的に問題解決する力を育む具体的な活動を学年と領域の内容に即して明確に示した。

「本時の計画」は、「学習活動」「指導上の留意点」「評価と具体的な手立て」の３項目で、本時のねらいに示した観点について具体的に評価する場面をしぼり、生徒の反応を評価し、どのようなフィードバックが目的達成に効果的かを明らかにした。

【特集編】

「全国学力・学習状況調査を基にした授業アイディア例」では、調査概要や調査問題作成の基本理念等を再度確認し、調査問題や調査の結果を踏まえた授業づくりについてまとめた。第２学年の学習内容に当たる調査問題を取り上げ、６事例の授業アイディア例を作成した。授業ですぐに活用できるように、場面設定を工夫し、授業に即した展開にした。

⑷　数学教育研究協議会

⑶のような内容で作成された数学教育研究協議会用テキスト第48集をもとにして、県内10地区で、実践授業を通して研究協議会を実施した。

○　南部地区

・10月25日㈬　川口市立青木中学校

授業者　青木中　穂谷野陽一　氏

〃　柘上　彩香　氏

・10月18日㈬　上尾市立西中学校

授業者　上尾西中　名雲　勇太　氏

〃　菅野　将太　氏

〃　白田　飛鳥　氏

○　さいたま市

・12月５日㈫　さいたま市立土屋中学校

授業者　土屋中　妹尾　敏郎　氏

〃　佐藤　啓幸　氏

○　西部地区

・12月１日㈮　富士見市立東中学校

授業者　富士見東中　豊田　謙一　氏

〃　天谷　雄大　氏

・11月17日㈮　東松山市立東中学校

授業者　東松山東中　山田　則晃　氏

○　北部地区

・10月31日㈫　皆野町立皆野中学校

授業者　皆野中　千島　将紀　氏

・10月25日㈬　本庄市立本庄西中学校

授業者　本庄西中　長谷川　学　氏

・12月６日㈬　深谷市立深谷中学校

授業者　深谷中　井上　凌亮　氏

〃　佐藤　寿恵　氏

○　東部地区

・11月24日㈮　加須市立北川辺中学校

授業者　北川辺中　藤原　大希　氏

・２月９日㈮　春日部市立春日部中学校

授業者　春日部中　永島　裕也　氏

〃　飯田　啓子　氏

〃　関口いずみ　氏

⑸　数学教育研究発表大会

○　平成30年２月14日㈬

○　浦和コミュニティセンター

３ヶ年任期による数学教育研究推進委員会の１年次の発表である。７つの分科会に分かれ研究主題、研究仮説、実践例、今後の課題などを発表した。

○　講演会

「次期学習指導要領で目指すもの」

文部科学省初等中等教育局視学官

長尾　篤志　氏

○　分科会

・領　域　図　形

主　題　筋道立てて考え、説明する力を養う図形指導

・領　域　関　数

主　題　深い学びを実現させる関数指導

・領　域　問　題　解　決

主　題　生徒が主体的に問題解決する授業
－知識構成型ジグソー法を取り入れた授業展開を通して－

・領　域　データの活用

主　題　データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断する力を育成する指導

・領　域　数学的な考え方

主　題　数学的な考え方を他者に伝える生徒の育成

・領　域　活　用・表　現

主　題　数学を活用する力の育成を目指して
－事象を数理的に考察し表現する活動を通して－

・領　域　学 習 指 導 法

主　題　生徒の深い学びを実現させる指導法の工夫
－ストラテジーと学びの場作りによって－

⑹　数学教育会誌の発行

平成28年度における会員の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。今年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各中学校に１部ずつ配付した。

３　研究委嘱校

●委嘱校　さいたま市立泰平中学校

●主　題　『自ら考え、思いやりを持ち実践力のある生徒の育成』
～「考え、学び合い、話し合う学習（主体的・対話的で深い学び）を通して～

●発表会　平成29年９月22日㈮

・課題学習「花だんに花を植えよう」（第３学年）
松山　佳奈　氏

・式の計算　～文字式の利用～　（第２学年）
坂本　岳志　氏

・資料の活用　～資料の活用～　（第１学年）
藤田　　純　氏

〔研究の概要〕

⑴　主題設定の理由

さいたま市は、平成20年３月に「さいたま市学校教育ビジョン」を策定した。各学校においてはその基本理念を踏まえ、創意工夫を生かした教育課程を編成・実施し、生徒の「生きる力」の育成に向けた教育活動の実践が求められている。そのような中、学校教育目標の「豊かな心を持ち実践力のある生徒の育成」を踏まえ、研究主題を設定した。

具体的には「全国学力・学習状況調査の課題の見られた問題の概要と結果に沿った学習」「新学習指導要領で重点に挙げられている「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた学習」の２点を重点目標とした。上記２つをポイントに、全国学力・学習状況調査を振り返り、授業アイディア例を通して、全国でも課題のある学習に力を入れた。また、数学的活動を取り入れた授業を通して、どのような場面で活用していくのか、生徒間で考え、学び合い、話し合う学習活動を取り入れていく。

⑵　研究の仮説

問題解決学習において、学習場面の設定や振り返りを重視することにより自ら問い総合的、発展的に考える生徒の育成につながると考えられる。

⑶　研究の実際

①課題設定の工夫

平成28年度全国学力・学習状況調査の数学Ａ・Ｂの結果において、埼玉県は全国平均に達していない部分が見られた。そこで特に正答率の低かった「Ｂ5　情報の適切な選択と判断（第１学年　Ｄ　資料の活用）」「Ｂ6　問題解決の方法と式変形の過程の振り返り（第２学年　Ａ　数と式）」に着目し、この結果を踏まえた「授業アイディア例　中学校」をモデルにした授業の改善も含めて展開を図ることとした。

平成29年２月のアンケートを見ると、1において81％の生徒が「数学の学習が楽しい」と回答した。19％の生徒が楽しくないと感じている。さらに、2においても92％の生徒が「数学の学習は大切である」と考えている。８％の生徒が学習の大切さを感じていない。3においては、24％の生徒が数学の内容を日常生活に活用できないでいることがわかる。また、活用していると答えた生徒も買い物や合計を求めるなど簡単な計算で求められる場面を例に挙げていた。昨今、「数学嫌い」が増加している中で、数学をどの場面でいかに活用していくかを思考させる課題設定を工夫した。

②考え、学び合い、話し合う学習の展開

学習指導要領で重要視されている「数学的活動」とは「生徒が目的をもって主体的に取り組む数学にかかわりのある様々な営み」を多く取り入れ、課題解決の場面で活用することにより、それぞれのよさを実感し、自ら考え、思考力・実践力を伸ばすことができる、と考えた。

⑷　成果と課題

①成果

・教師側の題材研究に力を入れることができた。生徒が生き生きと解決しようとする問題を設定するためにも、今後も研究していきたい。

・話し合い活動を通して、筋道を立てて互いに問題解決をしようとする考えを深めることができた。さらに話し合うよさも体感することができた。

・数学が苦手な生徒も、小集団では生き生きと学ぶことができ、数学のよさや活用を見出すことができた。

②課題

・主体的な学びを促すためにも課題の工夫が必要であり、子どもたちが互いに意見を発表し合える場の設定が求められる。

・課題研究を今後も継続して行っていくが、どの単元ともなると、やはり他の業務との兼ね合いが大変難しい。

・生徒には、数学的技能が身に付いてきている。しかし、見方・考え方を問う問題になるとあきらめてしまう生徒も多々いるのが現状である。生徒に聞くと、「気付かない」「発想がない」と投げてしまうので、我々教師側は、さらに数学的活動の充実を図り、自らの問いを持つ学びの場面を増やしていきたい。

５　理　科　教　育

埼玉県理科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「理科における資質・能力の育成」

２　設定の理由及び方針

平成29年３月、新しい学習指導要領が告示され、同６月には小学校及び中学校学習指導要領解説理科編が示された。これにより、次期学習指導要領の目指すべき方向が明確になった。本研究会も新しい学習指導要領の方針を踏まえ、それらを具現化すべく、研究、授業の充実に邁進していく必要がある。

今回の改訂では、大きな改変があった。特に、次の２点について研究を進めていく必要がある。一つ目は、「資質・能力」が「個別の知識や技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に整理されたことである。これは、指導だけでなく評価も大きく変わると言える。また、その育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善が求められている。もう一つは、これまで最終的な目標であった「科学的な見方や考え方」についての捉えが変わったことである。今回より「理科の見方・考え方」は資質・能力を育成するために働かせるものとして位置付いている。これについても、授業でどのように働かせていくのかその指導法については研究が必要であろう。

このように、これまでと異なる新たな考え方が出てきたり、これまでの言葉が再定義され、より具体的に示されたりと、今回は大きな改訂となった。

そこで、本研究会では、これまで大切にしてきた「自然事象への主体的な関わり」「観察・実験を通した問題解決」を基盤とし、さらに、新しい学習指導要領の方向性を踏まえ、その意向を具現化すべく、研究主題「理科における資質・能力の育成」を設定した。本研究会が具体的な授業の在り方、児童の姿を明らかにし、全県に発信していくことが理科教育の発展につながると考える。

上記の方針を基に、以下の５事項について調査・研究を行った。

○思考力・判断力・表現力の育成する指導の工夫
○理科の見方・考え方を働かせる指導の工夫
○主体的・対話的で深い学びを実現させる授業改善
○理科における資質・能力の評価の方法
○ＩＣＴ機器の効果的な活用法の開発

Ⅱ　活動状況（委員会・研究会等）

１　事務局打ち合わせ会

期日：平成29年４月４日㈫
会場：附属小学校
○年間事業計画・予算案の作成、及び総会準備

２　第１回常任理事研修会・総会

期日：平成29年６月16日㈮
会場：埼玉会館
○平成28年度事業・決算報告
○平成29年度事業・予算案審議、役員の承認
○退任役員への感謝状贈呈
○講演会　演題「これからの理科教育と評価
～教育評価とは何か～」
埼玉大学教育学部自然科学講座　　中島　雅子　氏

３　理科教育研究発表会（教員の部）開催

期日：平成29年８月23日㈬
会場：春日部市教育センター

４　第２回常任理事研修会

期日：平成29年８月30日㈬
会場：埼玉会館
○科学教育振興展覧会（中央展）の計画
○理科教育研究発表会（教員の部）の反省
○理科教育研究発表会（児童生徒の部）の計画

５　科学教育振興展覧会（中央展）開催

期日：平成29年10月27日㈮・28日㈯・30日㈪
会場：熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」

６　理科教育研究発表会（児童生徒の部）開催

期日：平成30年２月９日㈮
会場：志木市いろは遊学館

７　第３回常任理事研修会

期日：平成30年２月28日㈬
会場：埼玉会館
○科学教育振興展覧会（中央展）の反省
○理科教育研究発表会（児童生徒の部）の反省
○平成30年度の活動計画について

Ⅲ　研究内容

１　小学校理科指導法研究委員会

今年度は、新しい小学校学習指導要領を踏まえて「理科における資質・能力を育成する指導の工夫～思考力、判断力、表現力等～」をテーマに研究を進めてきた。特に、思考力、判断力、表現力等の中でも問題解決の力の育成に重点を置き、学年ごとに問題解決の力を育成するための手立てを、指導と評価の両面から追究し、実践を行った。本年度は原稿の検討だけでなく、研究授業と協議を行い、研究の方向性について協議、共有する場を設けた。委員の先生方にご執筆いただいた実践事例は、今後、埼理研のホームページにて紹介していく。

＜構成委員＞
顧　　問　下妻　淳志　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
委 員 長　落合　啓志　伊奈町立伊奈中学校長
副委員長　石田　耕一　さいたま市立大宮東小学校長
＜委　　員＞

川口	石山　和之	蕨	鈴木　圭
草加	福田　宗範	朝霞	兼竹久美子
鴻巣	山田　知紀	上尾	髙橋みず希
さいたま	新海　智哉	さいたま	田中　麗
入間	新井田裕介	入間	森田　翔
比企	鹿山　泰	秩父	笠原　祐希
児玉	田島　弘達	大里	木村　洋介
大里	萩尾　卓之	北埼	田沼　渉
埼葛	佐藤　真晴	埼葛	前田　祥治

幹事　杉山直樹　塩盛秀雄　肥田幸則（埼大附小）

２　中学校指導法研究委員会

今年度は、各教科書に掲載されている観察・実験のうち、新指導要領における題材の移行等を鑑みつつ、扱いの難易度が高い教材やその観察・実験方法の工夫点を探る研究を行った。物理・化学・生物・地学の４分野における研究および実践から得られた成果をまとめ、研究会のホームページに掲載していく。

＜構成委員＞
顧　　問　下妻　淳志　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
佐久間貴宏　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課指導主事
委 員 長　落合　啓志　伊奈町立伊奈中学校長
副委員長　久米　正美　ときがわ町立玉川中学校長
＜委　　員＞

川口	中田　智博	蕨	土橋　賢典
蕨	廣瀬　梨沙	朝霞	八田　敦史
草加	小俣　裕子	上尾	石川　雅之
朝霞	横堀　智	さいたま	高澤　玲子
鴻巣	石井　暁生	比企	半田　北斗
上尾	市川　貴裕	児玉	茂木　智史
さいたま	塚原　益夫	北埼	蓮見　典昭
さいたま	大嶋　陽介	埼葛	小林　求
埼葛	吉田　巧		

幹事　島田直也　山本孔紀　伊藤悠昭（埼大附中）

３　小学校理科ICT活用研究委員会

今年度は、新小学校学習指導要領を踏まえて「理科における資質・能力を育成する指導の工夫～思考力、判断力、表現力～」をテーマに研究を進めてきた。特に、思考力、判断力、表現力の中でも問題解決の力の育成に重点を置き、学年毎に問題解決の力を育成するための手立てを、ＩＣＴ機器を効果的に取り入れながら指導と評価の両面から追究し、実践を行った。今後、埼理研のホームページにて実践事例を紹介していく。

＜構成委員＞
顧　　問　下妻　淳志　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
委 員 長　落合　啓志　伊奈町立伊奈中学校長
副委員長　石田　耕一　さいたま市立大宮東小学校長
＜委　　員＞

川口	奈良岡慎平	蕨	土橋　賢典
草加	湯本　陽介	朝霞	八田　敦史
鴻巣	海東　孝	上尾	石川　雅之
さいたま	高野　智大	さいたま	高澤　玲子
入間	山口　令	比企	半田　北斗
秩父	黒沢　恵理	児玉	茂木　智史
大里	武井　一郎	北埼	蓮見　典昭
埼葛	山下　研	埼葛	小林　求

幹事　杉山直樹　塩盛秀雄　肥田幸則（埼大附小）

４　中学校理科基礎学力調査研究委員会

中学校３年生を対象に、生徒のつまずきを把握し、学習指導に役立てることを目的として実施した。本年度は、２年生までに学習した内容から基礎的・基本的な内容について出題し、「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の４観点をねらいとして、16名の委員の先生方が物理・化学・生物・地学の各分野に分かれて問題作成にあたった。調査問題は10月より県内25校で実施、3,220名の申し込みがあった。11月に各校から返送された結果を基に草加支

部の先生方を中心に報告書を作成、１月にホームページに速報を掲載した。

＜委員構成＞

顧　　問　下妻　淳志　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事

　　中村　　誠　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事

委 員 長　落合　啓志　伊奈町立伊奈中学校長

副委員長　久米　正美　ときがわ町立玉川中学校長

担当支部長　三浦　伸治　草加市立高砂小学校長

＜委　　員＞

草加　横山　友美　　川口　井上　麻理

蕨　　谷口志緒里　　朝霞　大野　慎悟

鴻巣　西倉　雅樹　　上尾　坂田　昴也

さいたま　加茂　誠大　　さいたま　野口　祥太

入間　庄子　佑貴　　比企　田端　玲子

秩父　長谷河健志　　児玉　長谷川那々子

大里　本庄　秀行　　北埼　小林　佑亮

埼葛　綱取　健太　　埼葛　徳久進之介

幹事　島田直也　山本孔紀　伊藤悠昭（埼大附中）

Ⅳ　研究委嘱校

１　春日部市立八木崎小学校（校長　福原　秀晴）

⑴　期　　日　平成29年10月27日㈮

⑵　研究主題

『思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業方法の工夫　～主体的・対話的な深い学びを通して～』

⑶　単元・授業者

第６学年２組　「月の形と太陽」

榎本　充孝　教諭

⑷　指　導　者

埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当主席指導主事　今木　敏浩

埼玉県教育局東部教育事務所

教育支援担当指導主事　福田　和己

春日部市教育委員会学校教育部

指導課指導担当主幹　三浦　　力

春日部市教育委員会学校教育部

指導課指導主事　秋山　法之

２　さいたま市立大谷口小学校（校長　八木澤　龍馬）

⑴　期　　日　平成29年11月20日㈪

平成30年１月22日㈪

２月２日㈮

２月26日㈪

⑵　研究主題

『気づき、考え、みがき合う　けやきっ子

～感動から科学的探究心を育む授業の創造～』

⑶　単元・授業者

第５学年１組　「ものの溶け方」

岩崎雄二郎　教諭

第１学年４組　「ふゆをたのしもう」

吉村　　崇　教諭

第３学年３組　「物の重さを比べよう」

田中　康広　教諭

第６学年３組　「電気と私たちのくらし」

小川　卓也　教諭

⑷　指　導　者

さいたま市学校教育部指導一課主任指導主事

中村　　誠

さいたま市学校教育部指導一課主任指導主事

茂木　千春

Ⅴ　理科教育研究発表会

１　教員の部

⑴　期　日　平成29年８月23日㈬

⑵　会　場　春日部市教育センター

⑶　指導者　埼玉大学　岡本　和明

埼玉大学　中島　雅子

県教育局義務教育指導課　下妻　淳志

さいたま市教育委員会　中村　　誠

県教育局東部教育事務所　福田　和己

春日部市教育委員会　秋山　法之

埼玉県理科教育研究会

落合　啓志　安部　正幸　荻原　章

⑷　担　当　埼葛支部（支部長　田中　健寿）

⑸　発表テーマ・発表者一覧

ア　小学校教員の部

①主体的な問題解決をうながすための学習活動の工夫

さいたま市立大谷口小学校　岩崎　雄二郎

②実験の基礎基本を意識した授業づくりの工夫

５年生　物の溶け方の学習を通して

さいたま市立芝原小学校　横須賀　篤

③授業効果を高める指導法について

～物のとけ方における考察の指導―科学的思考力・表現力を育てるために―～

毛呂山町立毛呂山小学校　嶋田　幸恵

④科学的な思考力・表現力の育成を図る理科授業の工夫

～内省を促すことが論理的思考力の育成に及ぼす効果～

横瀬町立横瀬小学校　林　　和彦

⑤主体的に学ぼうとする資質を育てる学習指導

～対話を重視した指導～

深谷市立榛沢小学校　平柗　美誠

⑥先行概念に沿った実験結果を相互に説明することが科学概念の形成に及ぼす効果

羽生市立羽生南小学校　斉藤　貴司

⑦科学的な思考力・判断力・表現力を高める理科指導の工夫　～「対話」の充実を通して～

幸手市立上高野小学校　佐久間　聡子

⑧一枚ポートフォリオ評価（OPPA）論を活用した指導と評価の一体化
春日部市立八木崎小学校　榎本　充孝

イ　中学校教員の部

①視覚モデルを観察・実験に取り入れた指導法の比較
上尾市立西中学校　市川　貴裕

②「思考力・表現力を高める指導法の研究」
所沢市立所沢中学校　小松　洋一
鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校　浅見　和穂

③科学的思考を育成するための指導の工夫
～話し合いを通しての思考・関心の深まり～
川島町立川島中学校　三橋　匠翔

④科学的な思考力・表現力を育む授業の実践と検証
本庄市立本庄西中学校　新井　悠平

⑤「個に応じて学力を伸ばす学習指導の追究」
～学び合い学習を活用した理科学習～
熊谷市立富士見中学校　小島　寛

⑥確かな学力をはぐくむ指導方法の工夫改善
～「主体的・対話的で深い学び」を追究する学習過程の工夫～
加須市立昭和中学校　的場　恵

⑦対話的に問題発見・設定する力を高める指導方法の研究
八潮市立八潮中学校　谷津　勇太

２　児童生徒の部

⑴　期　日　平成30年２月９日㈮
⑵　会　場　志木市　いろは遊学館
⑶　指導者　埼玉大学教員　他

Ⅵ　科学教育振興展覧会

１　地区展

⑴　期　間：９月29日㈮～10月23日㈪
　　会　場：県下10会場各３～４日間
⑵　出品数　1,754点（小・中）
⑶　優秀な作品（小・中・高　110点）中央展へ

２　中央展

⑴　期　間：10月27日㈮・28日㈯・30日㈪
　　会　場：熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」
⑵　出品数　小・40点　中・40点　高・30点
⑶　審査員
埼玉大学教育学部
教授　金子　康子　近藤　一史　冨岡　寛顕
准教授　中島　雅子　日比野　拓　大朝由美子
埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課　指導主事　前田　雄太
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課　指導主事　下妻　淳志
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課　指導主事　佐久間貴宏
埼玉県教育局北部教育事務所　指導主事　小泉　貴寛
熊谷市教育委員会学校教育課　指導主事　大澤　正樹
埼玉県理科教育研究会　副会長　石田　耕一
埼玉県理科教育研究会　副会長　久米　正美
埼玉県高等学校理化研究会　会長　関　俊秀
埼玉県高等学校生物研究会　会長　磯貝　明宏
⑷　受賞作品
◎埼玉県知事賞
アサガオのつるは力もち！？　Part２
深谷市立明戸小学校　根岸　彩音
Snow Crystal　続パート４
鴻巣市立鴻巣北中学校　武井　夕佳
Mg-Ca合金を用いた空気電池の開発
埼玉県立坂戸高等学校　濵野　柊歩　他２名
◎埼玉県議会議長賞
ダンゴムシパワーの研究
さいたま市立つばさ小学校
加藤　莉那　萩谷　向日葵
タンポポ花茎成長の研究Ⅲ
～オーキシンと光の影響について～
さいたま市立常盤中学校
岩下明日香　岩下和日香
ウニ類の異種交配
～関東大震災で消失したデータを復元する～
県立越谷北高等学校　黒石　あかり
◎埼玉県教育長賞
ブーメランのひみつをさぐる！！
久喜市立久喜小学校　平原　愛美
タマミジンコの生殖の研究　PART Ⅳ
ふじみ野市立大井東中学校　科学部
石原　海斗　他８名
水生食虫植物ムジナモの消化の仕組み
県立川越女子高等学校　笠原　真珠

Ⅶ　今後の課題

課題としては、次の３点が挙げられる。

理科教育研究発表会（教員の部）の発表件数は、徐々に増えているが、全ての支部から発表者が上がっているわけではなく、十分とは言えない。また、長期研修生の実践発表の場となってしまっており、現場からの研究が少なくなっている傾向にある。県内理科教員の採用枠も広がり、若い教員も増えている中で、より多くの教員が積極的に実践研究を行い、発表する環境を整えていきたい。

次期学習指導要領に向けて、情報収集と具体的な指導法の研究が急務と言える。本研究会から新たな理科教育を発信できるよう、各種委員会で研究を深めたり、総会で教科調査官の先生の講演会を開催したりするなど、研究と発信の場をより確保していく必要がある。

さらに、理科教育研究会の事業についても見直していく。各事業について軽重をつけながら、運営面での見直しを行い、よりよいものにしていく必要がある。

6 音 楽 教 育

埼玉県音楽教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「伝わる音楽」

～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

2　研究主題について

⑴　「伝わる音楽」について

これまでの音楽科の授業の中で、表現領域において児童生徒が思いや意図をもって音楽表現を工夫する際に、その根拠が大切にされなかったり、思いや意図と音楽表現が適切に結び付いていなかったりする学習活動が見られた。また、鑑賞領域においては、「感じ取りましょう」「味わいましょう」と知覚・感受する視点が児童生徒まかせになってしまう授業や、知覚・感受をする活動が重視されずに、教師から児童生徒に一方的に知識として教え込むような授業が行われることもあった。

つまり、音楽の様々な特性から音楽美を感得し合う「音楽の共有」が十分になされないままに、授業が展開されることが課題となっていた。

そこで、本研究では、協働的な学びを重視し、表現領域及び鑑賞領域で、児童生徒同士、教師と児童生徒が音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合うことを「伝わる」とし、「伝わる音楽」があふれて展開される授業の創造を目指すこととした。

表現領域において児童生徒が「伝わる音楽」を目指すとき、音や音楽に対するイメージを膨らませ自分なりの意図をもち、試行錯誤して表現することが大切であり、音楽表現と結び付け、そこに音楽に対する新しい価値を創造しようとする。その際、自分なりのイメージや表現意図を表すために、感性を敏感に働かせ、技能を高めながらよりよい音楽表現を求めていく。その過程は、思考・判断・表現を伴い、児童生徒の感性を豊かにしていく。

鑑賞領域においては、楽曲から音楽のよさや美しさなどについて、音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由を挙げながら言葉で表したり、その音楽が自分にとってどのような価値があるのかを明らかにしたりする活動をするとき、児童生徒は、音楽と言語を結び付けるために感性を働かせる。

こうした音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合う「伝わる」活動が、児童生徒の感性を豊かにすると考え、本主題を設定した。

⑵　「音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して」について

音楽を共有し、音楽を多角的に捉えたり、自分の感じたことを改めて捉え直したりする中で、児童生徒の音楽的感受性は豊かになる。音楽的感受性を高めたとき、児童生徒は、明確な思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽のよさや魅力をより味わって聴いたりすることにつながる。音楽活動から感得した音楽の価値を明らかにしたり、再認識したりすることを通して、本研究で目指す児童生徒の姿とは、次のとおりである。

・思いや意図をもって音楽表現を工夫し、新しい価値を創造することができる児童生徒

・音楽のよさや魅力を味わい、自分にとっての価値を見いだすことができる児童生徒

音楽的感受性、すなわち音楽に対する感性を豊かにすることは、美しいものや崇高なものに感動する心を育む上で欠かすことができないものである。また、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考えたり、共感したり価値観の違いを認め合ったりすることのできる温かい心などを育むことにつながる。

以上の理由から、本研究の副主題とすることにした。

3　研究の方針

本連盟の研究推進にあたっては、役員研修会音楽会、実技研修会、研究紀要（会報）のそれぞれの場において実施されるようにした。昨年に引き続き、組織及び活動内容の見直しについて、実践を行った上で、成果と課題を探った。それについては以下のとおりである。

⑴　役員研修会

役員研修会は、本連盟における研究内容や方法についての共通理解が図られる、研究推進において重要な研修会である。事業内容厳選にかかわる指導の下、年間３回（６月中旬、夏季休業中、２月中旬）役員研修会を開催している。

第１回役員研修会では全体会にて、昨年度の事業報告があった。また、本年度の活動内容について計画立案、報告があり、音教連の役員が一丸となって

活動する方向を提示することができた。

第２回役員研修会では、各地区からの活動報告がなされた。また、各地区、中央大会に関する音楽会についての報告を行った。また、埼玉県教育委員会義務教育指導課　指導主事　齋藤　直美　先生を招いて講演会を開催した。その他、各部会の活動や研究委嘱に関する指導案検討や役割分担等が活発に行われた。

第３回の役員研修会では、今年度の活動の総括として各地区活動報告と来年度に向けて準備を行った。また、さいたま市教育委員会学校教育部指導１課　主席指導主事兼中学校教育係長　森角　由希子先生を招いて講演会を開催した。

⑵　音楽会

音楽会の実施状況は次のとおりである。

○地区音楽会を県内10地区で開催した。

○中央大会を県南・県北の２会場にて開催した。

⑶　実技研修会

現在本連盟で実施している実技研修会は、次のとおりである。

○県内10地区ごとに行われる研修会
　（実施計画、運営は各地区に一任）

○小学校管楽器指導に関する研修会

○合唱指導に関する研修会

これらの研修会は、児童生徒一人一人が豊かな音楽経験を積むことができ、そのことを通して「音楽性」「豊かな感性」を確実に育てていくために、音楽教育に携わる教師の資質向上を目的として実施されるものである。

このことの共通理解を図りながら、実施内容や方法について研究を進めていくようにした。

Ⅱ　活動状況

１　役員研修会

⑴　平成29年６月６日㈫

会場：さいたま市　プラザウエスト

・平成28年度事業・決算及び監査報告

・平成29年度役員について

・平成29年度事業案・予算案審議　等

⑵　平成29年７月25日㈫

会場：埼玉大学教育学部附属中学校

・夏季地区研修会計画

・小・中学校音楽教育実技研修会計画

・地区音楽会の計画

・研究委嘱校研究発表大会について

・教育講演会

講師　埼玉県教育委員会義務教育指導課
指導主事　齋藤　直美　先生

演題　「音楽科教育の充実を目指して」

⑶　平成30年１月30日㈫

会場：さいたま市　プラザウエスト

・夏季地区研修会　地区音楽会報告

・教育講演会

講師　さいたま市教育委員会学校教育部
指導１課主席指導主事兼中学校教育係長
森角　由希子　先生

演題　「これからの音楽科が目指すもの」
～移行期を踏まえて～

２　音楽会

⑴　地区大会：日程及び会場

地　区	期　日	会　　場
さいたま市	11月10日㈮ 11月８日㈬	㈜さいたま市民会館おおみや ㈜さいたま市文化センター
南部・南	11月７日㈫	戸田市文化会館
南部・北	11月７日㈫	鴻巣市文化センター
西部・南	11月16日㈭	狭山市市民会館
西部・北	11月17日㈮	東松山市民文化センター
秩　　父	11月９日㈭	秩父宮記念市民会館
北部・西	11月８日㈬	本庄市民文化会館
北部・東	11月８日㈬	江南総合文化会館
東部・北	11月８日㈬	パストラルかぞ
東部・南	11月17日㈮	春日部市民文化会館

＜実施委員長＞

さいたま市：　藤澤　太郎（さいたま・上落合小）
南部・南　：　藤川　英子（川口・戸塚東小）
南部・北　：　新井　麻起（上尾・鴨川小）
西部・南　：　奥泉　　徹（入間・藤沢南小）
西部・北　：　中村　　孝（嵐山・七郷小）
秩　　父　：　島嵜　孝夫（秩父・高篠小）
北部・西　：　戸井田　豊（神川・青柳小）
北部・東　：　小島　一代（熊谷・奈良小）
東部・北　：　小林　澄江（行田・須加小）
東部・南　：　横崎　剛志（越谷・大袋小）

＜指導助言者＞

さいたま市：㈜監物　幸彦（さいたま・日進中）
　　㈜加藤　りさ（さいたま・土屋中）
南部・南　：　藤澤　太郎（さいたま・上落合小）
南部・北　：　尾澤　栄一（狭山・入間野中）
西部・南　：　白井　裕一（深谷・常盤小）
西部・北　：　藤川　英子（川口・戸塚東小）
秩　　父　：　秋馬　信之（日高・高萩北中）

北部・西　：　関口　景子（川口・本町小）
北部・東　：　真武　公司（鶴ヶ島・鶴ヶ島中）
東部・北　：　鈴木日出彦（川口・十二月田中）
東部・南　：　吉野　徳子（鴻巣・鴻巣北小）

地区音楽会については、各地区により事情は異なるが、学校数の多いさいたま市、南部・南地区、西部・南地区、東部・南地区については、参加校のローテーションや実施方法についての配慮が必要である。

⑵　中央大会：日程及び会場

○県南大会　12月６日㈬
会　場　春日部市民文化会館
実施委員長　横崎　剛志（越谷・大袋小）
指導助言者　鈴木　静哉（埼玉大学教育学部）
望月　文恵（さいたま市教育研究所）

○県北大会　11月22日㈬
会　場　深谷市民文化会館
実施委員長　白井　裕一（深谷・常盤小）
指導助言者　小野　和彦（埼玉大学教育学部）
齊藤　直美（埼玉県教育委員会）

３　夏季地区研修会日程、内容、会場

＜さいたま市＞

○期　日　８月18日㈮
○会　場　さいたま市立教育研究所
○講　師　清水　宏美　先生
（玉川大学芸術学部芸術教育学科　教授）
・９年間で育てる音楽科授業づくり
～小･中一環教育の視点を踏まえて～

＜南部・南（旧北足立南部地区）＞

【戸田市】
○期　日　８月17日㈭
○会　場　戸田市立芦原小学校
○講　師　栗原　圭子　先生（ヤマハ講師）
・授業で活かせるリコーダーの実技研修

【川口市】
○期　日　８月18日㈮
○会　場　川口市総合文化センター　リリア
〈午前〉○講　師　望月　由美子　先生
（さいたま市立七里中学校　教諭）
・音楽づくりのワークショップ
〈午後〉○講　師　織田　陽子　氏　他
（ちんどんバンド☆ざくろ）
・レクチャーコンサート

【草加市】
○期　日　８月22日㈫
○会　場　草加市立高砂小学校
○講　師　小暮　孝明　先生
（戸田市立戸田東中学校　校長）
・主体的に学べる鑑賞教育について

【蕨市】
○期　日　８月２日㈬
○会　場　蕨市立第一中学校
○講　師　北添　郁郎　先生
（蕨市立第一中学校　教諭）
・合唱指導法の実技研修

【朝霞市・和光市・志木市】
○期　日　８月１日㈫
○会　場　和光市民文化センターサンアゼリア
○講　師　藤原　啓　先生
（和光市立新倉小学校　校長）
・発声の基本及び歌唱表現の工夫について

＜南部・北（旧北足立北部地区）＞

○期　日　８月４日㈮
○会　場　北本市立中丸小学校
○講　師　戸澤　悦子　先生
（熊谷市立妻沼小学校　教諭）
・小・中学校における合唱指導について
○期　日　８月17日㈭
○会　場　上尾市立鴨川小学校
○講　師　清水　乃理子　先生
（行田市立北河原小学校　校長）
・音楽づくり・創作の実践研修

＜西部・南（旧入間地区）＞

○期　日　７月25日㈫
○会　場　坂戸市勝呂公民館
○講　師　中島　寿　先生
（前　筑波大学附属小学校　教諭）
・これからの音楽の授業の学びと質とは
○講　師　塚田　真夫　先生
（合唱指導者　指揮法講師）
・指揮法の実際
～授業実践に生かせる指導法の在り方～

＜西部・北（旧比企地区）＞

○期　日　８月３日㈭
○会　場　滑川町立月の輪小学校
〈午前〉○講　師　井町　美絵　先生
（おおた芸術学校　講師）
・打楽器の基本的奏法
〈午後〉○講　師　星野　直樹　先生
（滑川町立滑川中学校　教諭）
・鍵盤ハーモニカ演奏の基本について

＜秩父地区＞

○期　日　10月19日㈭
○会　場　横瀬町立横瀬小学校

○講　師　眞鍋　ない子　先生
（東京都町田市立鶴川第二小学校　主任教諭）
・子供が輝く歌の授業～題材を見直そう～

＜北部・西（旧児玉地区）＞

※今年度は実施しない。

＜北部・東（旧大里地区）＞

○期　日　８月７日㈪
○会　場　熊谷市妻沼中央公民館
○講　師　戸澤　悦子　先生
（熊谷市立妻沼小学校　教諭）
・思いや意図をもって表現できる児童生徒を育てる音楽教材研究のポイント

＜東部・北（旧北埼玉地区）＞

○期　日　７月28日㈮
○会　場　パストラルかぞ
○講　師　加藤　幸平　先生
（音楽教育推進協議会　常任理事）
・主体的・対話的な活動を通して効果的学びを展開するために

＜東部・南（埼葛地区）＞

○期　日　７月28日㈮
○会　場　松伏町中央公民館　エローラ
〈午前〉
○講　師　加藤　幸平　先生
（音楽教育推進協議会　常任理事）
・音楽教育・器楽指導
〈午後〉
○講　師　田久保　裕一　先生
（東京指揮者研究会　代表）
・合唱指導・指揮法

Ⅲ　研究

＜第59回関東音楽教育研究会栃木大会＞

平成29年11月10日㈮
大会主題「実感！音楽の楽しさ　分かち合う思い」
○第１分科会　小学校３年＜歌唱＞
「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」
授業者　宇都宮市立簗瀬小学校
日下田　絢　教諭
○第２分科会　小学校５年＜音楽づくり＞
「日本と世界の音楽に親しもう」
授業者　宇都宮市立簗瀬小学校
鈴木　彩子　教諭
○第３分科会　小学校２年＜音楽づくり＞
「いろいろな音を楽しもう」
授業者　宇都宮市立城東小学校
佐山　史子　教諭
○第４分科会　小学校４年＜器楽＞
「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」
授業者　宇都宮市立城東小学校
矢野　憲子　教諭
○第５分科会　中学校１年＜創作＞
「民謡の特徴を感じ取り音楽をつくる楽しさを味わおう」
授業者　宇都宮市立旭中学校
伊佐野　咲桜美　教諭
○第６分科会　中学校２年＜歌唱＞
「曲にふさわしい表現を工夫する楽しさを味わおう」
授業者　宇都宮市立星が丘中学校
田﨑　道子　教諭

【研究演奏】
○宇都宮市立石井小学校・石井小学校こと部
○宇都宮市立宮の原中学校・陽西中学校
○宇都宮市立昭和小学校
○宇都宮市立横川中学校・星が丘中学校
・雀宮中学校
○宇都宮和太鼓四面会
青龍組和太鼓キッズゆりかご

【指導者】
文部科学省　教科調査官　津田　正之　先生
教科調査官　臼井　学　先生

Ⅳ　今後の課題

今後も研究主題「伝わる音楽」の基、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導計画を作成し、実践を行っていくことが必要である。

音楽活動における児童生徒の姿に、より一層の表現する喜びや音楽と関わる楽しさが現れるような授業を県内全体に広げていくことが、本連盟における次年度以降の課題である。

7　図画工作・美術教育

埼玉県美術教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

埼玉県美術教育連盟は創立69年を迎えた。この長きにわたる歴史は埼玉の図工・美術教育の歩みでもある。また、造形教育研究大会も第59回を迎えた。大会を通じて研究の成果が県内各学校の図工・美術教育の進展に大きな役割を果たしてきた。

本年度の造形大会は、西部ブロックを中心に開催され、夏季休業中に１日半で実施した。一昨年度から夏季休業中の開催により参加者の拡大を図り、創造体験研修会の各コースを県内５地区で担当することにより若手教員の育成と題材の発展を図ることをねらいとしたが、大きな成果をあげることができた。

今後も、先輩諸氏が長年にわたって築き上げてきた実践と研究が基盤となって本県の造形教育が発展してきたことを確認し合い、時代の流れを正確に見据えて改善を実施していくとともに、図画工作・美術がもつ可能性を広げていきたい。

１　研究主題

「きらめく感性　つくりだす喜び
　～子どもが輝く　生き生き授業～」（４年次）

⑴「きらめく感性　つくりだす喜び」
（めざす子どもの姿）

子どもが主体となり、意欲的に、自らの世界を豊かにひらき、新たな自分をつくりだしていくような姿を「きらめく感性」「つくりだす喜び」という言葉で表現した。

「感性」は、表現及び鑑賞の活動において、子どもの感覚や感じ方などを一層重視することを明確にするために示している。様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものである。

子どもが、自らの感覚や感じ方、表現の思いなど、自分の感性を十分に働かせ、つくりだす喜びを味わう姿がめざす子どもの姿である。

⑵　「子どもが輝く　生き生き授業」
（めざす授業の姿）

私たちは、子どもが輝く姿（感性を十分に働かせつくりだす喜びに溢れるような子どもの姿）が実現するような授業のあり方を深く研究し、創造していかなくてはならない。そこでめざすべき授業の姿を「子どもが輝く　生き生き授業」とした。

２　活動方針

⑴　研究テーマは、時代の要請を受けて設定する。

⑵　造形教育の広がりと発展を期すため、授業実践研究会と創造体験研修会を造形教育研究大会において年１回（１日半）夏季休業中に開催する。開催地は、県内５ブロックに分けて輪番にする。

⑶　時代や社会の変化を見据えてその要請に応える研究を推進する。

⑷　造形教育研究大会の諸準備に当たり、理事会等の期日や時間を活用し、必要に応じて大会スタッフや提案者等が連絡、相談し合う場を設ける。

Ⅱ　活動状況

会則に基づき、次の事業を行った。

５月10日㈬　役員研修会（常任理事会）
　　会場：埼玉大学教育学部附属中学校
６月14日㈭　総会
　　会場：市民会館うらわ
６月17日㈯　関東甲信越静地区造形教育連合
　　都県代表者会議　参加
　　会場：新宿区立上落合小学校
８月８日㈫・９日㈬
　　第59回埼玉県造形教育研究大会
　　会場：東松山市立高坂小学校
８月23日㈬　平成29年度身体障害者福祉のための第59回埼玉県児童生徒美術展覧会　中央審査会
　　会場：埼玉県障害者交流センター
８月24日㈭　役員研修会（理事会）
　　会場：埼玉大学教育学部附属小学校
10月18日㈭　郷土を描く児童生徒美術展中央審査会
　　会場：行田市総合体育館
10月21日㈯・22日㈰
　　平成29年度身体障害者福祉のための第59回埼玉県児童生徒美術展覧会
　　会場：戸田市文化会館
11月17日㈮・18日㈯
　　第57回関東甲信越静地区造形教育研究大会長野大会参加
11月25日㈯・26日㈰
　　第52回郷土を描く児童生徒美術展
　　会場：行田市総合体育館

１月下旬～２月上旬
第58回埼玉県小・中学校児童生徒
美術展　県下10会場で開催
２月16日㈮　役員研修会（理事会）
会場：埼玉県立近代美術館
２月17日㈯・18日㈰
第58回埼玉県小・中学校児童生徒
美術展　第10回中央展

Ⅲ　研究内容

１　第59回埼玉県造形教育研究大会

⑴　大会主題
「きらめく感性　つくりだす喜び
～子どもが輝く　生き生き授業～」

⑵　趣旨
本連盟では、参加される先生方が研修会の主体となり、子どもたちと同じ目線で、新しい授業提案や題材開発につながるような授業実践発表会や実技研修会を求めて、本大会を実施してきた。一昨年度より、それまでは年２回に分けて開催していた「授業実践研究会」と「創造体験研修会」を夏季休業期間に１日半で実施した。子どもたちが、つくりだす喜びにあふれる授業を実現したいとの思いで、子どもたちの喜びの声や輝く顔を実現するための授業提案や体験研修を企画し、後者では様々な素材をもとにした題材の表現のあり方や可能性を追求する目標に加えて、題材開発という視点だけでなく創造的な技能と創造する心を学ぶことを重視している。分科会ごとのテーマを設定し、参加される先生方がそれぞれの希望に応じて多様なコースを選択できるようにした。

⑶　主催　埼玉県美術教育連盟
⑷　後援　埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
⑸　期日　平成29年８月８日㈫　授業実践研究会
８月９日㈬　創造体験研修会
⑹　会場　東松山市立高坂小学校
⑺　１日目　授業実践研究会
日程　受　付　　９：00～９：30
全体会　　９：30～10：00
提案①②　10：15～12：30

	分科会	分科会協議題
1	素材との対話	①切った紙を友達と協力してつないで、つるす、造形遊び ～つないで　つるして（小２）～ ②まざまな素材を通して自己を表現する造形活動　こころのあかり ～自分の“かたち”に“想い”を灯して～（中３）
2	自己との対話	①想いをふくらませ、自分の表現を楽しむ造形活動 ～できたらいいな、あんなこと、こんなこと（小１）～ ②自分らしさをイメージしながら表現することにより自己を見つめる活動 ～「自分らしい器」～（中２）
3	生活との対話	①自分の思いを大切にし、生活をより豊かにする授業実践 わすれられない　あの時　あの瞬間 ～思い出かがやく写真をかざろう～ ②新聞を使って生活空間を豊かに彩るオブジェの制作 ～私のインテリアデザイン Byニュースペーパー～（中１）
4	作品等との対話	①身近な場所からイメージを広げ、表現と一体化した鑑賞活動 ～夢見のアートパーク～ ②感性を働かせて美術館で本物と対話する活動 ～アートカードを活用して～ 美術館へ行こう！ ～国立西洋美術館編～（中１）

⑻　２日目　創造体験研修会

日程　受　付　　９：00～９：30
　　コース説明　　９：30～10：00
　　研修会　前半　　10：00～12：00
　　後半　　13：00～15：30
　　後片付け　　15：30～16：00

コース		テーマ
Aコース	造形遊びⅠ	風を感じて・光を感じて ～目に見えない物と 素材による造形遊び～
		目の前に広がるのは自然の光と風、そして人工的に作られた光と風のみ。素材との出会いにより、動きの面白さや色彩の美しさを体感する造形遊びを展開します。
Bコース	造形遊びⅡ	光で遊ぼう！【光の造形遊び】 ～明かりのレシピＶｅｒ．３～
		「光で遊ぼう！」では、教科書掲載の造形遊びやチームで開発した楽しい体験活動を提案します！光るスライム、虹色コレクション、プロジェクターイリュージョン、光と砂のコントラストなど、自分で作り出した光を手に、触れて・動かして・造形遊びをしませんか？
Cコース	絵に表す	うつして発見　～ウキウキ版画体験～
		版表現の可能性は無限大で楽しいものです。授業で悩んだ時に役に立つ版画の『基礎・基本』を学び、身に付けませんか。版画指導のヒントが満載の人気のコースです。
Dコース	立体に表す	紙の七変化 ～紙からはじまる生き生き授業～
		「紙」はイメージを自分の手で形にできる素敵な素材。小学校から中学校まで、授業の主役となる「紙」にスポットを当て立体造形の様々な可能性を探ります。
Eコース	生活に生かす	心地よさを求めて ～五感を活かしてつくる～
		聴く（音）、見る（形・光）、肌で感じる（手触り）、嗅ぐ（香り）等、五感を心地よく刺激し、生活にうるおいを与えてくれる作品を身近な素材を使って作ります。
Fコース	鑑賞活動	絵本の鑑賞 ～あなたの知らないアートな本の世界～
		うらわ美術館所蔵の貴重な絵本を鑑賞後、受けたインスピレーションをもとに、しかけ絵本づくりを行い、作品を鑑賞し合います。

Ⅳ　関ブロ大会への参加

１　第57回関東甲信越静地区造形教育研究大会

長野大会

⑴　大会テーマ

「私っていいな！　つながる　ひろがる
アート　〝響・同・帯〟」

⑵　期日　平成29年11月17日㈮・18日㈯

⑶　会場（全体会）軽井沢町立軽井沢中学校
（公開保育・公開授業・分科会）
信学会佐久幼稚園
佐久市立近代美術館
佐久市市民創練センター
佐久市立佐久平浅間小学校
佐久市立中佐都小学校
佐久市立浅間中学校
軽井沢ニューアートミュージアム
長野県軽井沢高等学校

⑷　日程

１日目　・都県代表者会議
　　・研究授業
　　・授業研究会
　　・分科会
　　・レセプション
２日目　・全体会
　　・記念講演
　　・閉会セレモニー

⑸　埼玉県の発表者

発　表　者	分科会テーマ
飛知和　朋子 （さいたま市立 高砂小学校）	「“楽しく”つながる」 子どもがいきいき活動していく造形活動・鑑賞活動を目指して

Ⅴ　児童生徒美術展の開催

１　平成29年度身体障害者福祉のための第59回埼玉県児童生徒美術展覧会

⑴　主催・共催

主催　社会福祉法人
　　埼玉県身体障害者福祉協会
共催　埼玉県美術教育連盟

⑵　地区審査

県下10会場で地区審査が行われ、入選・特選作品が選ばれた。

⑶　中央審査会

平成29年８月23日㈬　埼玉県障害者交流センターで、地区審査特選作品750点の中から、特別賞の作

品68点が選ばれた。

また、今年度から県内特別支援学校児童生徒の作品も出品されての審査会となった。

(4) 展覧会会期・会場

会期　平成29年10月21日(土)・22日(日)

会場　戸田市文化会館

(5) 表彰式

平成29年10月21日(土)　実施

2　第52回郷土を描く児童生徒美術展

(1) 主催・共催

主催　埼玉県校外教育協会　埼玉県

埼玉県教育委員会

埼玉県芸術文化祭実行委員会

共催　さいたま市教育委員会

埼玉県市町村教育委員会連合会

埼玉県美術教育連盟

(2) 地区審査

県下10会場で地区審査が行われ、入選作品9,254点・特選作品1,009点が選出された。

(3) 中央審査会

平成29年10月18日(木)　行田市総合体育館において地区審査で選ばれた特選作品1,009点の中から、埼玉県知事賞等120点が選ばれた。

(4) 展覧会会期・会場

会期　平成29年11月25日(土)・26日(日)

会場　行田市総合体育館

(5) 表彰式

平成29年11月14日(火)　実施

さいたま市文化センター

3　第58回埼玉県小・中学校児童生徒美術展

(1) 主催・共催

主催　埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

埼玉県美術教育連盟

共催　埼玉県市町村教育委員会連合会

(2) 会期　１月下旬～２月上旬に実施

(3) 会場　県下10地区会場で開催

(4) 第10回中央展

①会期　平成30年２月17日(土)・18日(日)

②会場　埼玉県立近代美術館

③内容　平面作品100点・立体作品100点

④表彰　県知事賞

県議会議長賞

県教育委員会教育長賞

さいたま市教育委員会教育長賞

⑤表彰式　平成30年２月18日(日)　13時30分～

埼玉県立近代美術館

Ⅵ　今後の課題

図画工作・美術科として、学力の重要な要素である①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力・人間性等、そして造形的な見方・考え方を重視した研究を推進していく。

また、「子どもの心」「確かな力」という観点を生かしつつ、新研究主題に向けて、さらに「主体的・対話的で深い学び」を視点に研究を深めていく。

8　保健体育教育

埼玉県保健体育研究会

本研究会は、小学校部会と中学校部会から成り立ち、互いに連絡を取り合いながら活動をしている。

以下、本年度の両部会の研究方針や活動状況について概略を報告したい。

Ⅰ　小学校部会

本部会の主な活動の中心は「県小学校体育研究協議会」である。本研究協議会は、決められた研究テーマに基づき、個人あるいは共同で研究した結果を発表し合って研究協議を重ね、より優れた体育科教育の指導法や資料を得ようとするものである。

従って、研究については実践的で、日々の指導に直接役立つものが求められている。

1　研究主題の決定

理事会を年度当初に開催し、県教育委員会の指導をいただき、どの学校にも共通した課題として次のような研究主題と３つの領域を決定した。そして、領域毎に分科会を組織して研究協議を進めている。

2　研究主題

「各指導内容をバランスよく指導・評価し、運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫」

「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健学習の工夫」

⑴　陸上運動系

①　跳の運動遊び　（１・２年）

②　幅跳び、高跳び　（３・４年）

③　走り幅跳び、走り高跳び　（５・６年）

⑵　ボール運動系

①　ボールゲーム　（１・２年）

②　ゴール型ゲーム　（３・４年）

③　ゴール型　（５・６年）

⑶　保健　（３～６年）

3　研究主題と方針

生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくためには、小学校段階において運動に親しむ資質や能力の基礎を確実に育成することが重要となる。

運動に親しむ資質や能力とは、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能などを指している。

これらを育てるためには、以下の３点が重要である。

⑴　児童の発達の段階、運動の特性や魅力に応じて、各指導内容をバランスよく指導・評価し、運動の楽しさや喜びを味わわせることができるようにする。

⑵　児童に身に付けさせたい具体的な内容を明確にし、指導内容の確実な定着を図ることができるよう指導と評価を的確に行い、できる喜びや達成感を味わわせる。

⑶　学習規律の確立を図り、助け合い、励まし合い、教え合い、高め合う学習集団を育て、人間関係は温かく、安全で効率的な授業が行えるよう努める。

保健領域については、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を実践的に理解することを通して、自らの生活行動や身近な生活環境における学習課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を培うことが重要となる。

以上のことから、平成29年度の研究主題を「各指導内容をバランスよく指導・評価し、運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫」及び「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健学習の工夫」とした。そして、今年度の研究領域は、「陸上運動系」、「ボール運動系」、「保健」とした。

4　活動状況

⑴　資料交換会

研究協議会の参会者に他地区の研究資料を事前に配付することにより、研究を深め、よりよい協議ができるように行っている。

⑵　指導者・司会助言者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

⑶　研究協議会

協議会においては、意見交換や協議が充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（９分科会）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

⑷　指導者

○　県教育局県立学校部保健体育課指導主事

○　県教育局教育事務所指導主事

○　県総合教育センター指導主事

○　さいたま市教育委員会指導主事

○　市町村教育委員会指導主事

○　県小学校体育連盟役員

５　研究の視点

本年度は、各運動領域の次のことに視点を当てて研究を進め、協議する。

⑴　陸上運動系

「跳の運動遊び」は、仲間と競い合う楽しさや、調子よく跳ぶ心地よさを味わうことができる運動である。また、体を巧みに操作しながら跳ぶなどの動きを身に付けることもできる。

学習指導では、跳ぶ動き自体の面白さ・心地よさを引き出す指導を基本にしながら、どのような力を持った児童においても競争に勝つことができたり、意欲的に運動に取り組むことができたりするように、楽しい活動の仕方や場の工夫をすることが大切である。

「幅跳び・高跳び」は、体を巧みに操作しながら、合理的で心地よい動きを身に付けるとともに、仲間と跳んだ長さや高さを競い合ったり、自己の目指す記録を達成したりすることの楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

「走り幅跳び・走り高跳び」は、合理的な運動の行い方を大切にしながら競争や記録の達成を目指す学習活動が中心となるが、競争では勝敗が伴うことから、できるだけ多くの児童が勝つ機会を持てるように指導を工夫することが大切である。

一方、記録を達成する学習活動では、自己の能力に適した課題を発見し、解決することができるよう、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう指導することが大切である。

⑵　ボール運動系

「ボールゲーム」や「ゴール型ゲーム」は、勝敗を競い合う運動をしたいという欲求から成立した運動であり、主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

学習指導では、仲間と協力してゲームを楽しくすることの工夫や楽しいゲームを作り上げることが、児童にとって重要な課題となってくる。集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり、作戦を立てたりすることを重視しながら、簡単な動きを身に付けて、ゲームを一層楽しくしていくことが学習の中心となる。また、公正に行動する態度、特に勝敗の結果をめぐって正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。

「ゴール型」は、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心となる。また、ルールやマナーを守り、仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することができるようにすることが大切である。

学習指導では、互いに協力し役割を分担して練習を行い、型に応じた技能を身に付けてゲームをしたり、ルールや作戦を工夫したりすることが学習の中心となる。また、ルールやマナーを守り、仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することができるようにすることが大切である。

なお、これらの領域における技能は「ボール操作」及び「ボールを持たないときの動き」で構成されている。「ボール操作」は投げる、受ける、蹴る、止める、運ぶなど、攻防のためにボールを制御する技能である。「ボールを持たないときの動き」は、保持者からボールを受けることができる場所に動く技能である。

⑶　保健

保健については、自他の生命を尊重するとともに、健康的な生活行動や習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、小学校においては、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な事項で構成し、「毎日の生活と健康」「育ちゆく体とわたし」「心の健康」及び「けがの防止」「病気の予防」の5つの内容がある。

指導に当たっては、学習のねらいと内容を明確にするとともに、児童の発達の段階や生活体験等を十分に踏まえ、効果的な指導時期を設定したり、児童がより実践的に理解するために主体的・対話的で深い学びができるよう指導方法を工夫したりすることが重要である。

６　研究の推進

⑴　県小学校体育連盟各支部においては、必ず２領域（「陸上運動系」「ボール運動系」）の研究に取り組む。なお、「保健」に取り組む支部は「陸上運動系」「ボール運動系」のどちらかを合わせて２領域とすることができる。

⑵　学校内・地域のグループ、支部等で組織的に取り組むことが望ましい。

⑶　研究対象学年は、陸上運動系とボール運動系は全学年、保健は第３～６学年の中から選ぶ。

⑷　研究仮説をもとに具体的な単元の学習指導計画を作成し、授業を実践して結論を導くようにする。

⑸　研究の結果については、単元の目標と評価規準に照らし合わせた指導の成果を踏まえ、児童の具体的な変容（数値等）を示して考察を進め、まとめるようにする。

７　今後の課題

○　埼玉県やさいたま市の体力向上施策や課題となっている体力を踏まえたさらなる研究の推進。

○　本研究協議会後、各地区で行われている報告会の

確保と内容の充実。

Ⅱ　中学校部会

本部会の主な活動である「県中学校保健体育研究協議会」では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校における保健体育指導の充実と一層の進展を期するため、教科保健体育の指導及び学校における体育･健康に関する指導上の諸課題から研究主題を設定し、各校の実践を通して得られた成果を持ち寄り、研究協議をする。

このことにより、一層充実した研究実践を進め、心身共にたくましい生徒の育成を期すると共に、指導者の資質の向上を図ることをねらいとしている。さらに、県の研究協議会に至るまでの各学校における実践、各地区での資料の作成など研究活動の充実を図る上からも重要な研究協議会である。

1　研究主題の決定

本年度の研究主題は、学習指導要領に基づく体育授業の実践を目指し、昨年度のアンケート調査の結果を参考にし、研究常任委員会で検討を加え、その話し合いでの問題点を県教育委員会・県中学校体育連盟・県保健体育研究会の三者で調整を図り、次に示すように決定された。

2　研究主題と方針

研究主題

「生徒一人一人を伸ばす保健体育指導の実践」

＜第１主題＞

学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の工夫

⑴　研究の趣旨

学習指導要領は、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うことを重視し、心と体をより一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要であるとしている。また、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視し、学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化を図っている。

さらに、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランス良く育てることを重視している。指導に当たっては、生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められる。

このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、観点毎の評価をバランス良く実施することが必要である。

学習評価の妥当性、信頼性等を高める取組が求められていることからも、これらを踏まえ、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定することや評価方法などの評価の計画を工夫する必要がある。

⑵　研究の観点

生徒一人一人を伸ばす授業の実践に当たっては、個々の能力、適性、興味・関心等に応じた学習指導に努めるとともに、生徒の主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の推進や、より安全に配慮した指導計画を立てることが大切である。

そのためには、生徒一人一人が自らの目標や課題を明確にし、課題を解決し目標を達成できるようにすることが重要である。

また、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

これらを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、改めて各学校や生徒の実態を的確に把握し、客観的で信頼できる評価規準の設定や創意工夫した評価方法などの評価の計画について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、学校や生徒の実態に応じた指導と評価の一体化について研究協議を行う。

＜第２主題＞

ダンスの特性に応じた効果的な学習指導の工夫

⑴　研究の趣旨

ダンスは、イメージをとらえた表現や踊りを通した交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動であり、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

第１学年及び第２学年では、「イメージをとらえた表現や踊りを通した交流ができるようにする」ことをねらいとし、第３学年では、「感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表ができるようにする」ことを学習のねらいとしている。

学習指導要領の趣旨に基づき、生徒一人一人の自発的・自主的な運動への取組を引き出し、体力と運動技能を高めるとともに、運動の特性や魅力にふれる楽しさや喜びを味わわせるため

の学習指導の工夫をする必要がある。

⑵　研究の観点

生徒一人一人を伸ばす授業の実践に当たっては、個々の能力、適正、興味・関心等に応じた学習指導に努めるとともに、生徒の主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の推進や、より安全に配慮した指導計画を立てることが大切である。

そのためには、生徒一人一人が自らの目標や課題を明確にし、課題を解決し目標を達成できるようにすることが重要である。教師が生徒の課題に対して適切な資料を準備したり、学習を支援する用具の工夫や適切な言葉かけ等を行ったりすることが求められる。

これらのことを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、あらためて各学校や生徒の実態を的確に把握し、生徒一人一人を伸ばす「ダンス」の学習指導について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、生徒一人一人を伸ばす「ダンス」の学習指導について研究協議を行う。

＜第３主題＞

健康で安全な生活を営むための実践力を育てる保健学習の工夫

⑴　研究の趣旨

「保健」については、個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることをねらいとしている。

中学校においては、主として個人生活における健康・安全について、科学的に思考し、理解できるようにすることを目指している。

このことは、発達の段階を踏まえて、心身の健康の保持増進に関する内容を、単に知識や記憶としてとどめるだけではなく、生徒が現在及び将来の生活において、健康･安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断の下に意志決定や行動選択を行い、自らの健康を適切に管理し改善していく思考力･判断力などの資質や能力の基礎を育成することを目指したものである。

⑵　研究の観点

小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、小学校における「身近な生活において実践的に理解する」という指導内容や学習状況を把握した上で、子供たちの発達の段階を踏まえて、指導内容を明確にすることが大切である。このため、学習指導要領及び解説から学習内容、指導上の配慮事項、学習方法などを充分読み取る必要がある。

学習指導の展開では、基礎的・基本的な知識を習得した上で、思考力・判断力を育成するために知識を活用する学習活動を授業展開の中に取り入れていくことが重要である。例えば、事例などを用いたディスカッション、ブレインストーミング、心肺蘇生法などの実習、実験、課題学習、また必要に応じてコンピュータ等を活用したり、専門性を有する教員の参加・協力を推進したりするなど、多様な指導方法の導入が効果的である。

このように、生徒の興味や関心を生かし、主体的に活動させ、思考や判断が働くような授業づくりが求められている。そのため、指導方法や評価方法を工夫した効果的な保健学習の在り方について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、学校や地域における授業実践を通して、実践力を育てる学習指導の在り方について研究協議を行う。

３　活動状況

⑴　資料交換会

研究協議会の参会者に他地区の研究資料を事前に配付することにより、研究を深め、より良い協議ができるようにするために行っている。

⑵　指導者・司会者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

⑶　研究協議会

分科会においては、意見交換や協議することが充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（各３グループ）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

⑷　指導者

○　県教育局県立学校部保健体育課指導主事
○　県教育局教育事務所指導主事
○　県立総合教育センター指導主事
○　さいたま市教育委員会指導主事
○　市町村教育委員会指導主事
○　県中学校体育連盟役員

４　今後の課題

○　埼玉県やさいたま市の体力向上施策や課題となっている体力を踏まえたさらなる研究の推進。

○　小学校や高等学校の研究協議会と連携を図るなど研究協議会のさらなる充実。

９　英　語　教　育

埼玉県英語教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「児童生徒一人一人が積極的に活動し、コミュニケーション能力を培う授業の創造」

２　主題設定の理由及び方針

これからの学校教育においては、「確かな学力」の向上と「心の教育」の充実を図り、自ら課題を見つけ、自ら考え、問題を解決していく資質や能力などの「生きる力」を育むことが求められている。この視点から日々の実践において、児童生徒一人一人が積極的に活動できる授業の創造がきわめて重要な課題となる。

英語教育においては、国際社会の一員として世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行える資質、能力の基礎を養う観点から、コミュニケーション能力を育てる新たな授業の構築が重要な課題であると考えられる。

そこで、言語の実際の使用場面に結びついたコミュニケーション能力を身に付ける活動に積極的に取り組ませるために、年間指導・評価計画を作成し、指導過程や学習形態になどを工夫する。そして、児童生徒一人一人の活動を支援し、適切に評価し、指導に生かすことで主題に迫る方針である。

Ⅱ　活動状況および研究内容

１　行事計画

６月９日㈮　理事・幹事会
（年間の方針、総会提出議案等の審議）
於：熊谷市立熊谷東小学校

６月９日㈮　総会・授業研究会
（決算、予算、役員選出、事業報告、事業計画についての審議及び研究協議）
於：熊谷市立熊谷東小学校

６月13日㈫　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成にあたっての研究協議①）
於：さいたま市民会館うらわ

６月30日㈮　関ブロ都県代表者会
（関中英協理事会研修会）　於：長野県

７月26日㈬　専門部研修会
（問題作成にあたっての研究協議②）
於：附属中学校学校図書館

８月４日㈮　専門部研修会
（問題作成にあたっての研究協議③）
於：附属中学校学校図書館

８月９日㈬　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成にあたっての研究協議④）
於：附属中学校集会室

８月17日㈭　専門部研修会
（問題作成にあたっての研究協議⑤）
於：附属中学校学校図書館

８月18日㈮　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成にあたっての研究協議⑥）
於：附属中学校集会室

10月６日㈮　英語弁論大会準備会
（大会実施に向けての準備・役割分担）
於：国立女性教育会館

10月11日㈬　第69回高円宮杯英語弁論大会埼玉県予選
（生徒による英語弁論大会）
於：国立女性教育会館

11月17日㈮　英語学力調査実施（全学年実施）
於：各実施校

11月17日㈮　第41回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会　長野大会
（授業研究、研究成果発表、講義等）
於：長野県

12月26日㈫　専門部研修会
（結果分析をもとにした研究協議⑦）
於：附属中学校図書館

２月13日㈫　教員研究発表会（関ブロプレ大会）準備会
（教員研究発表会に向けての準備及び研修会）
於：鴻巣市立赤見台中学校

２月23日㈮　教員研究発表会（関ブロプレ大会）準備会
（県下英語科教員等による研究発表・研修等）
於：鴻巣市文化センター

３月２日㈮　埼英研だより発行（広報誌の発行）
英語学力調査結果分析速報の発行

３月６日㈫　常任理事会
（年度末反省及び次年度全体研究）
於：附属中学校学校図書館

３月30日㈮　研究紀要発行

２　役　員

６月９日㈮に熊谷市立熊谷東小学校で行われた総会

において、本年度の役員が次のように選出された。

・会　長　　新井　裕則（鴻巣・赤見台中校長）
・副会長　　関根　栄一（本庄・本庄東中校長）
　　杉田　茂久（横瀬・横瀬中校長）
　　長谷川　等（鴻巣・吹上北中校長）
　　二見　隆久（朝霞・朝霞第一中校長）
　　佐藤　栄一（所沢・南陵中校長）
　　小林　美音（所沢・美原小校長）
　　小島　久和（越谷・越谷西中校長）
　　青野　　保（蓮田・黒浜西小校長）
　　湯沢　保紀（さいたま・馬宮東小校長）
　　阿久津一浩（さいたま・美園中校長）
・監　事　　柳澤登紀男（さいたま・東浦和中校長）
　　茂木　隆資（深谷・深谷西小校長）
・支部長
　さいたま市　柳澤登紀男（さいたま・東浦和中校長）
　北足立南部　笠井　誠司（草加・新田中校長）
　北足立北部　加藤　秀樹（北本・宮内中校長）
　入　　間　新井　健一（日高・高萩中校長）
　比　　企　関口　高広（ときがわ町・玉川中教頭）
　秩　　父　杉田　茂久（横瀬・横瀬中校長）
　児　　玉　福島　　実（神川・神川中教頭）
　大　　里　新井　英和（熊谷・奈良中校長）
　北　埼　玉　漆原　　亮（行田・長野中校長）
　埼　　葛　内田　弘志（三郷・彦成中校長）

【　新井　裕則　会長　】

3　専門部組織

・行事部　総会、英語弁論大会を担当
　部　長　　深須　英昭（深谷・深谷中教諭）
　副部長　　笠原　基男（川越・川越西中教諭）
・研修部　教員研究発表会を担当
　部　長　　髙橋　伸行（富士見・西中教諭）
　副部長　　笠原　　俊（秩父・秩父第一中教諭）
・調査研究部　学力調査問題作成、結果分析担当
　部　長　　嶋村　　淳（さいたま・春里中教諭）
　副部長　　小山　協子（狭山・堀兼中教諭）
・広報部　研究紀要、広報誌の発行
　部　長　　三上　恭子（志木・宗岡第二中教諭）
　副部長　　松本　光正（東松山・北中教諭）
・庶務部　庶務、会計等を担当
　部　長　　髙橋　太一（埼大附属中教諭）
　副部長　　蓬澤　　守（埼大附属中教諭）

4　活動の状況

(1)　授業研究会、総会
・期日　　平成29年６月９日㈮
・会場　　熊谷市立熊谷東小学校
・日程　　12：30～13：55　役員打合せ
　　13：20～13：55　受付
　　13：40～14：45，14：50　公開授業
　　14：50～15：40　研究協議
　　15：45～16：30　総会
・指導者（敬称略）
　埼玉県教育局義務教育指導課指導主事　竹内　徳望
　熊谷市教育委員会指導主事　岡村　賢一
・来　賓（敬称略）
　熊谷市教育委員会教育長　野原　　晃
・授業者（敬称略）
　熊谷市立熊谷東小学校　中山　陽一
　　水野　浩簾
　　Vukica Unaisi
　熊谷市立熊谷東中学校　内田　　陽
　　長谷川雄平
・総会
　①平成28年度事業報告
　②平成28年度決算報告
　③平成29年度役員選出
　④会則改正案審議
　⑤平成29年度活動方針案審議
　⑥平成29年度事業計画案審議
　⑦平成29年度予算案審議

(2)　英語学力調査

現行教育課程実施に伴う英語学力を調査して、その実態を把握し、学習活動の指針とするとともに、言語活動のあり方についての資料とすることを目的に実施しているものである。調査は県内全域の中学生を対象とし、学年ごとに実施している。本年度の参加校数は約70校であった。実施に至る経過は以下のとおりである。

・６月13日㈫　学力調査問題作成委員研修会

（さいたま市民会館うらわ）
問題作成委員の委嘱、方針・計画・分担等についての研究協議
・７～８月　問題作成委員会　（各地区）
担当組織ごとに開催（１年：埼葛、２年：児玉、３年：さいたま市、スピーキング：調査研究部）
・８月９日㈬・18日㈮　第１・２回問題作成委員会
（第１回、第２回：附属中学校学校図書館）
問題の検討及び完成
・８月28日㈪　実音テスト録音　（附属中学校）
・11月17日㈮～12月12日㈫
学力調査実施（各参加校）
・12月26日㈫　学力調査結果の分析（各担当組織）
・１月12日㈮　分析結果速報の発送

⑶　教員研究発表会（関ブロプレ大会）
英語教育に関する個人またはグループによる研究成果を発表し、県下英語科及び外国語活動担当教員の資質の向上をねらい、開催されるものである。
・期日　平成30年２月23日㈮
・会場　鴻巣市文化センター、鴻巣市立川里中学校
・指導者（敬称略）
埼玉県教育局南部教育事務所
主任指導主事　牛久　裕介
埼玉県教育局北部教育事務所
指導主事　小久保俊之
埼玉県教育局西部教育事務所
指導主事　二口　法子
・内容
〇全体研修
「生徒の学びに寄り添った指導の工夫
～主体的･対話的で深い学びの実現に向けて～」
宇都宮大学教育学部附属中学校
田村　岳充　先生
〇分科会研究協議
＜第１分科会＞
『統合的な言語活動を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成』
桶川市立桶川西中学校　石川　優子
美里町立美里中学校　岸本　えみ
秩父市立尾田蒔中学校　清野　達也
戸田市立喜沢中学校　堀江　雄二

＜第２分科会＞
『学習形態などの工夫を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成』
北本市立宮内中学校　川端　洋子
熊谷市立玉井中学校　落合　千裕
東松山市立北中学校　松本　光正
さいたま市立大砂土中学校　久保　忠

＜第３分科会＞
『小中高の連携・接続を目指したコミュニケーションを大切にする生徒の育成』
宮代町立東小学校　三浦　洋介
行田市立西小学校　栗本　千鶴
坂戸市立城山小学校　中村　博

⑷　英語弁論大会
・期日　平成29年10月11日㈬
・会場　国立女性教育会館
・目的　県内中学生の英語を話す能力、聞く能力の向上を図るとともに、諸言語活動の発表の場とする。
・審査員（敬称略）
埼玉大学名誉教授　宇田　和子
大東文化大学教授　靜　哲人
埼玉大学准教授　及川　賢
大東文化大学准教授　淡路　佳昌
埼玉大学英語教育開発センター准教授
Leander Hughes
東京理科大学講師　Debjani Ray
埼玉県県民生活部国際課国際交流員
Jane Hommerding
埼玉県教育局高校教育指導課国際交流員
Chris Craigo
・日程
９：15～９：30　受付
９：30～10：00　開会行事
10：00～12：20　予選の部発表
12：20～13：20　昼食・休憩
13：20～14：20　決勝の部発表
14：20～14：50　審査・休憩
14：50～15：30　閉会行事
15：30～16：00　諸連絡等
・入賞者
１位　藤村　綾香　所沢市立北野中学校
A picture is worth thousand words
２位　イマミ　ホスナ　三郷市立彦成中学校
Another Brick In The Wall
３位　古瀬　桜子　熊谷市立玉井中学校
How Can I Thank Him?
４位　蓮見　桃子　さいたま市立浦和中学校
Because of My Dad

５位　藤嶋　志帆　　滑川町立滑川中学校
　　Star Girl
６位　杉田　凜　　さいたま市立日進中学校
　　What Does It Really Mean to Share?
７位　本橋　清香　　志木市立宗岡第二中学校
　　Can you hear pet's cries?
８位　田村　優芽　　行田市立太田中学校
　　Zen to Greatness

今年度も、質の高いスピーチの発表であった。なお、上位３名は、高円宮杯第69回全日本中学校英語弁論大会中央大会に出場した。

【埼玉県中学校英語弁論大会】

⑸　関東甲信地区中学校英語教育研究協議会

第41回を数えることとなった今年度は、長野県下諏訪町で開催された。本研究会からも多数の参加を得ることができ、英語教育に対する各界からの質の高い提言がなされた。概要は以下のとおりである。

①　開会行事
②　全体会
　・大会主題提案
　　主題：「グローバル社会を生きる日本人に求められるコミュニケーション能力の育成」
　　～Can-Doリストを活用した指導と評価の工夫～
③　公開授業
　　下諏訪町立下諏訪中学校
　　下諏訪町立下諏訪社中学校
　　岡谷市立岡谷北部中学校
　　岡谷市立岡谷東部中学校
　　岡谷市立小井川小学校
④　分科会
　・第１分科会
　　他領域と関連付けた「聞くこと」の授業改善
　・第２分科会
　　他領域と関連付けた「話すこと」の授業改善
　・第３分科会
　　他領域と関連付けた「読むこと」の授業改善
　・第４分科会
　　他領域と関連付けた「書くこと」の授業改善
　・第５分科会
　　教科化に向けた学級担任による外国語活動の授業改善

本研究大会において、埼玉県からは第３分科会で熊谷市立熊谷東中学校　内田　陽　教諭が県外提案を行った。

⑹　研究紀要の発行

本年度の本会の活動の総括として以下のような内容の紀要を作成、発行すると共に、来年度以降の研究推進の基礎としたい。

○　教員研究発表会記録
○　英語学力調査全問題、解答および全学年分析結果
○　英語弁論大会経過と各部入賞者及び弁論原稿
○　総会、授業研究会記録
○　埼英研だより等

Ⅲ　今後の課題

平成32年度から順次全面実施される新学習指導要領により、小学校では英語が正式に教科化され、中学校では英語で授業を行うことを基本とし、グローバル化に対応した英語教育改革が進められている。本会の諸活動を通じ、学習内容の深化や主体的な学びの工夫等に関する研修を深め、児童生徒のみならず、県内英語科教員の資質・能力の向上を図っていきたい。

10 道 徳 教 育

埼玉県道徳教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「自己への問いかけを深め、
　　よりよい生き方を求める道徳教育」
～多様で効果的な
　　指導方法の改善を目指して～

2　研究方針

道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、同時に、民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものである。また、道徳教育を通じて育成される道徳性、とりわけ、内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、豊かな情操等は、「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むものである。学校における道徳教育は、児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望、自らの人生を切り拓いていく力を育む源となるものでなければならない。その意味で、道徳教育は、本来、学校教育の中核として位置づけられるべきものであるが、その実態については、学校の教育目標に即して充実した指導を重ね、確固たる成果を上げている優れた取組がある一方で、例えば、道徳教育の要である道徳の時間において、その特質を生かした授業が行われていない場合があることや、発達の段階が上がるにつれ、授業に対する児童生徒の受け止めがよくない状況にあること、学校や教員によって指導の格差が大きいことなど多くの課題が指摘されており、全体としては、いまだ不十分な状況にある。

今回の改正は、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れる等の指導方法の工夫を図ることなどを示したものである。このことにより、「特定の価値観を押しつけたり、主体性をもたずに言われるままに行動するような指導をしたりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」との答申を踏まえ、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図るものである。

道徳教育においては、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から、「特別の教科　道徳」（道徳科）が実施されることとなる。「これからの時代に求められる資質・能力の育成」や、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の改善を先取りし、「考え、議論する」道徳科への転換により児童生徒の道徳性を育んでいきたい。

私たちは上記のことを踏まえ、埼玉県道徳教育研究会におけるこれまでの成果を共有するとともに、本県の道徳教育のより一層の推進を図るために、「考え、議論する」道徳科への質的転換のため、県内の先生方と共に研修を深めていくことで、「自己への問いかけを深め、よりよい生き方を求める」児童生徒の育成に邁進していきたいと考え、本主題を設定した。

3　組織・運営

⑴　理事会（総会）・専門部会・全体研究協議会

今年度当初の組織づくりと、活動方針、計画を確認・周知するとともに、全体研究協議会での道徳講話を通して、自己の研究活動を振り返り、今後を見つめる。

⑵　夏季研修会

道徳の時間の指導方法の充実を目指して、「埼玉県道徳教育教材資料集・彩の国の道徳」「さいたま市道徳教育教材資料集・みらいを拓く」に掲載されている教材を用い、低学年・中学年・高学年・中学校各分科会に分かれて、教材吟味及び指導案づくりの研修を実施している。また、若手教員を中心とした道徳教育の基礎基本を学ぶ分科会を開設し、研修を深めている。さらに、中央講師を招聘し、全体講演会を実施することにより、道徳教育を理論と実践の双方から学ぶ貴重な機会となっている。

⑶　埼玉県道徳教育研究会研究大会・越谷大会

本研究会の研究の充実のため、毎年、授業研究を中心とした研究大会を実施している。大会運営に当たっては、各役員の資質向上も含めて、道徳教育の課題解決に向けた授業研究と文部科学省教科調査官等の中央講師を招聘し、道徳教育の重要性を県下に発信する。

⑷　『会報』『道徳教育研究集録』の発行・配付

本会研究活動と全県の教育委員会、各小・中学校

との道徳教育研究の連携を深めるために、広報紙として会報を年１回発行する。また、道徳教育研究の充実と組織の強化、研究内容の普及のために年間の活動や研究内容、実践事例を一冊にまとめた研究活動集録を作成し、希望者に斡旋する。

⑸　各研究会への参加

小・中学校別に開催される関東大会・全国大会の本会への分担要請については、本会の威信にかけて担当者を選考の上、埼玉県道徳教育の情報発信、全国の道徳教育の発展に貢献するため、積極的に派遣する。

⑹　支部活動の推進

道徳教育について、埼玉県全体の振興を図るため本会と県内各道徳教育研究会との連携を深める。その際、会則第３章第５条の旧教育事務所や政令指定都市を単位とした９支部を基本に推進する。

Ⅱ　活動状況

１　平成29年度役員

会　長

梓澤　　恒夫　加須市立加須西中学校長

副会長

会田　　研司　越谷市立中央中学校長
石川　　勉　蓮田市立蓮田中学校長
鴻野　　年伸　寄居町立寄居中学校長
藤澤　由紀夫　越谷市立大沢小学校長

監　事

矢作　　修一　さいたま市立大谷場中学校長
利根川　勝美　吉見町立南小学校長

総務部長

石黒　真愁子　さいたま市立大門小学校長

総務部副部長

金子　　雄二　日高市立高麗小学校長
栗原　　利夫　羽生市立東中学校長
鈴木　　和男　志木市立宗岡第二小学校教頭
芳賀　　一行　本庄市立中央小学校教諭
藤原　　祐介　幸手市立上高野小学校教諭

授業開発部長

島方　　勝弘　越谷市立栄進中学校長

授業開発副部長

藤間　　隆子　加須市立加須平成中学校教頭
柿沢　　英和　杉戸町立泉小学校教頭
浅井　　俊朗　春日部市立中野小学校教頭
滝澤　　美雪　三郷市立吹上小学校教諭
安部　　仁美　伊奈町立小室小学校教諭
田中　　彩子　伊奈町立小針北小学校教諭
田村　　直美　上尾市立東町小学校教諭
土井　　鉄平　坂戸市立城山小学校教諭

企画推進部部長

嘉藤　　央　深谷市立藤沢小学校長

企画推進部副部長

須山　恵美子　川口市立飯仲小学校長
内野　多美子　さいたま市立神田小学校長
長井　　正邦　川越市立高階西中学校長
閑野　　千鶴　桶川市立加納小学校長
夘木　　昌宣　行田市立太田東小校教教頭
正籬　　洋子　春日部市立上沖小学校教頭
清水　美津子　宮代町立百間中学校教諭
秋山　香奈子　越谷市立城ノ上小学校教諭

事務局長

藤澤　由紀夫　越谷市立大沢小学校長

事務局次長

阿部　泰次郎　白岡市立菁莪小学校長
関本　　由美　吉川市立関小学校長
渡邉　　純子　加須市立三俣小学校教諭
山田　　敦子　越谷市立千間台小学校教諭
笹川　　千洋　さいたま市立芝川小学校教諭

２　本年度の主な事業

⑴　平成29年度　総会・専門部会・全体研修会

会　長　挨　拶

①　期　日　平成29年５月19日㈮
②　会　場　さいたま市民会館うらわ
③　内　容

ア　総会（理事会）
平成28年度事業報告、会計報告審議
平成29年度事業計画、予算案審議

イ　専門部会
各専門部会活動計画審議、情報交換

ウ　全体研究協議会
講　演　北陸大学　教授
東風　安生　先生

演　題　「道徳科
その評価の実践に向けて」

【　講演の概要　】

◆　はじめに

○　道徳科の評価の課題

・道徳科において評価の研究はほとんど進んでいない現状。

・評価を考える上で参考になるものとして「学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（H28.7.29　文科初第604号）と「新学習指導要領総則」

◆　「特別の教科　道徳」における評価の実際

○　平成28の通知より

①　指導要録における道徳科の評価は記述式。

②　相対評価ではなく個人内評価。

③　道徳の評価は内容項目ごとではなく大くくりなまとめを踏まえた評価。

④　児童生徒が多面的・多角的な見方に発展しているか、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを評価。

○　指導要録に記述する評価

・一面的な考え方から多面的な考え方に発展しているかどうか、自分との関わりの中で考えを深めているかを見取る。

・１時間の授業の中だけでなく、継続して評価し、児童生徒の変容を見取る。

・道徳性そのものではなく、「学習状況及び道徳性にかかる成長の様子」について記述する。

・発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況を踏まえた上での個に応じた指導、評価にも十分配慮する。

○　指導の効果を上げるための評価

・ＰＤＣＡサイクルを大切にする。

・評価をどのように活用するか教員同士で共有しあうことが大切。

◆　これからの道徳の評価はどこへ向かうのか。

○　新学力の三要素

・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・人間性・協調性」

・「主体性・人間性・協調性」は、道徳教育が求めていること。

⑵　夏季研修会

①　期　日　平成29年８月10日㈭

②　会　場　鴻巣市文化センター（クレアこうのす）

③　内　容　分科会協議及び全体会（記念講演）

基礎基本部会では、「考え、議論する道徳」の授業づくりを目指し、「特別の教科　道徳」の趣旨や理念をしっかり押さえることに重点を置き、指導方法の様々な工夫等について具体的事例や実践ビデオを通して学びを深めた。

小学校低・中・高・中学校分科会では、埼玉県やさいたま市の道徳教育指導資料を用い、資料分析並びに指導案作成をワークショップ形式で行った。それぞれの分科会で積極的な意見交換が行われ、実践的な指導により、今後の授業実践の推進につながる有意義な時間となった。

研　修　風　景

④　記念講演

講　演　文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　澤田　浩一　先生

演　題「『特別の教科　道徳』に向けて
今なすべきこと」

【　講演の概要　】

○　道徳科の評価は、「道徳性に係る児童生徒の成長の様子」でなければならない。

○　道徳科は「道徳的価値の理解を基に」した授業である。道徳性は、内面的資質であり、見取れたと言い切ることはできない。児童生徒の外部に表出された学習状況の変化を追う中で、上向きの変化の状況がみられたときに、道徳性自体が養われているのではないかと感じ取れたということになる。したがって、内容項目ごとに１回ずつ見取っていくのではなく、継続的に見ていく中で初めて見えてくるものである。「大くくりなまとまりを踏まえ」とは、継続的に見ていくということ。

○　個人内評価であること。視点としては、「一面的な自己中心的な偏った見方から離れて、多面的・多角的な見方へ発展していくこと」「道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていくこと」の２点。道徳的価値の理解とは、頭で分かっていたことが、自分の胸にすとんと落ちること。

○　内面的な道徳性に係る評価については、入学者選

抜試験の合否判定について活用することはない。児童生徒一人一人のよい点や進歩の状況について評価する。しかし、道徳科で学んでも日常生活で実践できないことがある。これを何も学んでいないと思うってしまうと道徳科の学習状況が評価できなくなってしまう。道徳科の授業と全教育活動で行われる道徳教育の評価は分かれている。できなくても、あるいは、できないからこそ自分についてよく考えられていたら、授業での評価となる。

○　道徳科の目標には「道徳的価値」ではなく「道徳的諸価値」とある。一つの事象でも様々な価値がかかわりあっている。

○　「考え、議論する」とは「共に考え、共に語り合う」ということであり、評価するためには、児童生徒との信頼関係と児童生徒への愛が必要。

⑶　埼玉県道徳教育研究会研究大会・越谷大会

①　期　日　平成29年11月24日㈮

②　会　場　越谷市立大沢小学校

③　内　容　授業公開
大沢小と栄進中が小・中一貫で
授業公開（小９クラス、中３クラス）

④　指導講評（全体会）
埼玉県教育局県立学校部義務教育指導課
指導主事　安元　信幸　先生

⑤　記念講演
東京学芸大学　教授　　永田　繁雄　先生
演題　「全面実施直前！
これからの道徳授業と評価」

永田先生の御講演

【　講演の柱　】

◆　はじめに

○　道徳のさらなる再生の時を迎える今、次のどちらに心を向けるべきか。
・確かな授業づくりか、多様な授業づくりか
・授業を広げることか、深めることか
・価値を教えることか、価値を育むことか

◆　これからの道徳科の授業に求められること

○　授業を正のスパイラルに
・授業をプラスに受け止める→魅力ある授業づくりを楽しむ→授業が弾力化・活性化する→授業をプラスに受け止める

○　学習指導要領の一部改正の変更点に着目する。
・道徳科の目標：考え、議論する道徳へ
・内容項目：課題への対応が目に見えるものに
・指導の在り方・方法：アクティブ・ラーニング

◆　道徳科の授業での評価をどうするか

○　学習指導要領が示す評価のスタンス
・学習状況の評価、道徳性に係る成長の様子、継続的な評価

○　評価の仕方や記述で特に意識したいこと
・道徳科の学習で見られる様子、具体的な根拠、子どものプラス面、保護者や子どものわかりやすさ、人権的な配慮、前向きな意志や意欲がわくもの等

◆　「考え、議論する」道徳科の授業をどう創るか

○　柔軟な授業を創るために
・子ども自らが問いをもって臨めるようにする。
・人物への共感にとどまらず、価値や生き方を話し合う。
・多様な感じ方、考え方を並べて終わらず、自己の納得を求める。

○　多面的・多角的思考を促すために
・場面、人物、教材、価値を問うなどを意識する。
・共感的、投影的、分析的、批判的に問う。

○　教師が「多面的・多角的」に教材吟味を行う。

Ⅲ　今後の課題

60年にわたる「道徳の時間」の歴史がもうすぐ幕を下ろそうとしている。「特別な教科　道徳」は、これまで「道徳の時間」ではなしえなかった本来の心の教育が実践できる最後のチャンスといっても過言ではない。よりよい生き方を主体的に求める児童生徒を育成するために、各々の教育活動において道徳教育にどのように取り組むか、それを有機的に関連付けるにはどうしたらよいのか、道徳教育の要となる「道徳科」の授業を児童生徒の心に響く本物の授業にするためにはどうしたらよいのか、課題は山積している。これらの課題を解決できるのは、現場の教師である。児童生徒のよりよい成長を願い、道徳教育の在り方を常に模索する教員の育成が本研究会の大きな課題である。

11 特 別 活 動

埼玉県特別活動研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「豊かなかかわりの中で
自尊感情を高める特別活動」
～基礎・基本を踏まえた集団活動を通して～

2　主題設定の理由

子供たちにとって学校は社会である。子供たちは、仲間とともに自分たちの手で豊かな生活をつくり出す中で、日々、成長し、夢や希望を大きく膨らませている。しかし、子供たちを取り巻く社会は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、職業の在り方は現在と様変わりするとも指摘されるなど、未来の予測が困難となっている。このような社会においては、多様な他者と協働し、合意形成を図りながら自ら新しい生活をつくりだしていかなくてはならない。その社会こそが共生社会（他者を思いやり、自他共に幸せと感じる社会）であり、特別活動が中核となって、共生社会の基盤が培われていくと考える。また、共生社会の基盤をつくる上で、子供たちが自分を大切と認めるとともに、自分以外の他者も大切だと認めるような自尊感情が不可欠である。ここで述べる自尊感情とは、他者を排除してまで自分の優位性を保つという歪んだ自己愛ではない。「自分の大切さに気付き、自分を価値ある存在として尊重し、認める気持ち」であり、「自分と同じように自分以外の人も大切な存在だと認める気持ち」である。このような自尊感情を豊かなかかわりの中で高めていくことが、予測困難な社会においても自分の夢を描き続け、未来を切り拓く子供を育てていくことになるのである。

昨年度は、研究主題を「共生社会の基盤をつくる特別活動～豊かなかかわりの中で自尊感情を高める集団活動を通して～」とし、研究を続けてきた。その結果、共生社会の基盤づくりに参画する子供を育てるためには、様々な集団活動や体験活動の指導が欠かせないことを改めて確認することができた。また、研究を進めていくことで、豊かなかかわりの中で自尊感情を高める「自分もよくみんなもよい生活」をつくる集団活動では、個の力だけでなく学校・学級といった集団の力も伸ばしていくことについても再確認することができた。一方で、以下のような課題も明らかになった。①自尊感情の高まりが次年度どう繋がっているのか、②教師間の連携を高める計画はどのようにすればよいのか、である。これらの課題を解決するためには、昨年度の研究を礎に、豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動の指導と評価のさらなる研究が必要である。

自尊感情を高めるには個の力を伸ばすとともに、集団の力も伸ばすことが求められる。特別活動は集団活動を特質とするが、個が埋没してしまうような集団活動では、個の力を伸ばすことはできない。自尊感情は他者とのかかわりの中で、「自分が他の役に立っている」「認められている」といった実感が必要だからである。個を生かした集団活動の中でこそ自尊感情は高められるのである。そこで、自尊感情を高める集団活動の研究を進める上で、望ましい集団活動を方法原理とする特別活動の基礎・基本を踏まえる必要があると考えた。「特別活動の基礎・基本」は、学習指導要領に示された目標をおさえた指導である。本会では、①望ましい集団活動であること、②合意形成、意思決定の機会があること、③自主的・実践的な活動であることを基礎・基本と捉える。これまでの研究においても基礎・基本を踏まえた集団活動の研究を進めてきた。しかし、昨今、経験の浅い教員の割合が増加し、これまで大切にしてきた特質を踏まえた指導が十分に伝達されていない状況も見受けられる。そこで、改めて「特別活動の基礎・基本」を踏まえ、研究を進める必要があると考えた。その視点としては、例えば、

① 一人一人が安心してよさや可能性を発揮できる集団活動の基盤づくり
② 一人一人の思いや願いを生かし、他者との意見の違いを乗り越え合意形成する話合いの展開
③ 他者のよさも認め、生かそうとする実践活動の在り方
④ 自分たちで課題を見付け、自ら進んで取り組もうとする実践活動の在り方

等のを踏まえて展開していきたい。

自尊感情を高める豊かなかかわりとは、教師がねらいをもって取り組む特別活動の中ではぐくまれるものである。子供同士のかかわりだけでなく、学校全体、異年齢集団など多様な人とのかかわりや豊かな自然、伝統文化などとのかかわりも含まれる。豊かなかかわりの中で、特別活動の基礎・基本を踏まえた指導を展

開することで、一人一人の自尊感情が高まり、よりよい社会をつくる一員となると考える。そこで、今年度は、研究主題を「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動」とし、副題を「基礎・基本を踏まえた集団活動を通して」とした。以上の研究主題に基づき、次に示す２つの内容について研究を進めていく。

一つ目は、「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動の指導計画」についてである。系統的な指導計画を作成するため、特別活動の目標や発達の段階をおさえながら、以下の点に留意する。

① 自尊感情の高まりをめざした基礎・基本をふまえた集団活動の計画を工夫する。
② 自尊感情の高まりを踏まえた系統的な指導計画を工夫する。
③ 教師間の連携を高める指導計画を工夫する。

そこで、自校の全体計画、各活動・学校行事の年間指導計画、一単位時間の指導計画等の指導計画は、豊かなかかわりの中で自尊感情を高めるものになっているのか捉え直してみたい。また、これらの指導計画が基礎・基本を踏まえた集団活動になっているかどうかについても見つめ直していきたい。

二つ目は、「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動の指導と評価の方法」についてである。自尊感情を高める系統的な指導と評価を行うため、昨年度までの研究を基盤とし、以下の点について留意する。

① 自校の自尊感情が高まった子供の姿を設定する。
② 自尊感情を高める集団活動の指導方法について実践を通して明らかにする。
③ 集団の雰囲気や人間関係等の変容を見取ることのできるような評価の方法について工夫する。
④ 一人一人のわずかな伸びも見取ることができるような評価の方法について工夫する。

そこで、各活動・学校行事における指導と評価が自尊感情を高める活動になっているかどうか、具体的には、低学年から中学年、中学年から高学年、高学年から中学校の指導において、基礎・基本を踏まえた集団活動の系統性が意識されているか、子供の成長につながる指導と評価になっているかどうか、見つめ直してみたい。また、その際、次期学習指導要領を視野に入れて研究を進めていく。

子供自身が豊かなかかわりの中で自尊感情を高めていくことで、他者と協働し、よりよい生活や文化をつくり出していく。その積み重ねが、他者を思いやり、自他共に幸せと感じる共生社会をつくり出す。これまで培われてきた特別活動の特質を踏まえた指導の在り方を継承し、発展させていくことが、よりよい集団や社会の形成者として、子供を成長させると信じている。

３　研究の方針

⑴　各専門委員会を中心に、研究主題に関わる実践研究を深める。
⑵　総会や講演会を通して、理論研究を深める。
⑶　各支部活動を通して、地域に根ざした実践の情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。
⑷　各種全国規模の大会での提案を通して、全国での情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。

Ⅱ　活動状況

１　支部長・専門委員長・理事等合同研究協議会

○日　時　　平成29年５月９日㈫
　　15時～16時30分
○会　場　　さいたま市民会館おおみや
○内　容　　支部活動、役員選出・承認、総会議案等の審議

２　定期総会並びに講演会

○日　時　　平成29年５月17日㈬
　　13時50分～16時30分
○会　場　　さいたま市民会館おおみや
○内　容　　⑴　定期総会
　　⑵　講演会
演題「これからの特別活動」
講師　文部科学省初等中等教育局教育課程課
　　教科調査官
　　国立教育政策研究所教育課程
　　研究センター教育課程調査官
　　安部　恭子　氏

３　地区別研究協議会

○期　日　　平成29年６月～平成30年２月まで
○実　施　　各地区

４　役員研究協議会

⑴　第１回役員研究協議会
○日　時　　平成29年５月30日㈫
　　15時～16時30分
○会　場　　さいたま市民会館おおみや
○内　容　　平成29年度の専門委員会等の研究・運営計画について
⑵　第２回役員研究協議会

○日　時　　平成30年３月２日㈮
　　15時～16時30分
○会　場　　さいたま市民会館おおみや
○内　容　　平成29年度の専門委員会等のまとめ及び次年度の事業計画について

５　専門委員研究協議会

⑴　第１回専門委員研究協議会
○日　時　　平成29年６月７日㈬
　　13時15分～16時30分
○会　場　　埼玉県県民活動総合センター
○内　容　　研究主題についての共通理解と各専門委員会の研究の視点の確認

⑵　第２回専門委員研究協議会
○日　時　　平成29年９月６日㈬
　　13時15分～16時30分
○会　場　　プラザウエスト（さいたま市）
○内　容　　研究主題に沿った実践の構想レポート検討

⑶　第３回専門委員研究協議会
○日　時　　平成30年１月17日㈬
　　13時15分～16時30分
○会　場　　鴻巣市文化センター　クレアこうのす
○内　容　　実践レポートを基にした研究のまとめ

６　第９回関東地区特別活動研究協議大会埼玉大会
第22回夏季研究協議会

⑴　日　時　　平成29年８月７日㈪
　　９時～16時00分
⑵　会　場　　埼玉会館
⑶　内　容
①講演
演題　「豊かなかかわりの中で
　　自尊感情を高める特別活動」
　　－新学習指導要領を踏まえて－
講師　國學院大學人間開発学部　教授
　　杉田　洋　氏
②実践提案
第１分科会
【小学校低学年　学級活動⑴
　　・小学校　学校行事】
○提案者　　春日部市立武里西小学校
　　教諭　池田有理子　先生
　　狭山市立新狭山小学校
　　教諭　二木　裕美　先生
○指導者　　東京都練馬区立豊玉第二小学校
　　校長　佐野　　匡　先生
　　富士見市立水谷東小学校
　　校長　森田　　惠　先生

第２分科会
【小学校中学年　学級活動⑴
　　・小学校　クラブ活動】
○提案者　　神奈川県横浜市立北方小学校
　　教諭　本田　大亮　先生
　　鴻巣市立吹上小学校
　　教諭　髙柳千絵子　先生
○指導者　　東松山市立新宿小学校
　　校長　荒井　敏夫　先生
　　寄居町立折原小学校
　　校長　堀越由喜子　先生

第３分科会
【小学校高学年　学級活動⑴
　　・小学校　学級活動⑵】
○提案者　　川越市立川越小学校
　　教諭　澁谷　茂之　先生
　　栃木県宇都宮市立国本中央小学校
　　教諭　髙橋　裕子　先生
　　教諭　大牧多美子　先生
○指導者　　所沢市立三ケ島小学校
　　校長　中村　　靖　先生
　　狭山市立入間野小学校
　　校長　小俣惠美子　先生

第４分科会
【小学校高学年　学級活動⑴
　　・小学校　児童会活動】
○提案者　　茨城県潮来市立大生原小学校
　　教諭　岸根　健二　先生
　　長瀞町立長瀞第一小学校
　　教諭　梅澤　郁枝　先生
　　教諭　高木　妙子　先生
○指導者　　茨城県教育研修センター
　　教育相談課長　田部井悦子　先生
　　秩父市立尾田蒔小学校
　　校長　千島　　真　先生

第５分科会
【中学校　学級活動⑴・中学校　生徒会活動】
○提案者　　加須市立加須平成中学校
　　主幹教諭　清水　博文　先生
　　さいたま市立大谷場中学校
　　教諭　鈴木　　恵　先生
○指導者　　熊谷市立久下小学校
　　校長　島村　明義　先生
　　川口市立芝中央小学校
　　校長　熊谷　茂樹　先生

7　研究集録第57集　発刊

8　広報活動

会報「特活」第123・124・125号発刊

9　特活実践の会

⑴　第１回　　平成29年６月24日㈯
　○会　場　　さいたま市民会館おおみや
　○提案者　　さいたま市立中尾小学校
　　教諭　飯塚マリ子　先生
　　さいたま市立上大久保中学校
　　教諭　玉城　　伸　先生
　○指導者　　川口市立芝中央小学校　校長
　　本会副会長　熊谷　茂樹　先生
⑵　第２回　　平成29年９月９日㈯
　○会　場　　花崎コミュニティセンター
　○提案者　　幸手市立さかえ小学校
　　教諭　大沼　　恵　先生
　　久喜市立久喜中学校
　　教諭　秋山　貴則　先生
　○指導者　　越谷市立蒲生南小学校　校長
　　本会事務局長　木場　真理　先生
⑶　第３回　　平成29年11月18日㈯
　○会　場　　川口市幸栄公民館
　○提案者　　川口市立青木中央小学校
　　教諭　品田　　隆　先生
　○指導者　　三芳町立上富小学校　校長
　　本会副会長　山下　道夫　先生
⑷　第４回　　平成30年１月20日㈯
　○会　場　　さいたま市民会館おおみや
　○講　演　　熊谷市立久下小学校　校長
　　本会副会長　島村　明義　先生
　　東松山市立新宿小学校　校長
　　本会副会長　荒井　敏夫　先生
　　三芳町立上富小学校　校長
　　本会副会長　山下　道夫　先生
　　川島町立伊草小学校　校長
　　本会副会長　鍋谷　正則　先生
　　滑川町立宮前小学校　校長
　　本会副会長　金子　和義　先生

10　平成28・29年度研究委嘱校研究発表会

　○期　日　　平成29年12月８日㈮
　○会　場　　熊谷市立久下小学校
　○内　容　「主体的・協働的な活動を通して、未来を切り拓くことのできる児童の育成」
　　～個と集団の高まりをめざす特別活動～

Ⅲ　研究内容

1　定期総会・講演会

〔演題〕　「これからの特別活動」
〔講師〕　文部科学省初等中等教育局教育課程課
　　教科調査官
　　国立教育政策研究所教育課程
　　研究センター教育課程調査官
　　安部　恭子　氏
〔内容〕
①豊かなかかわり合いの中で自尊感情を高める特別活動について
②これからの教育理念である「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて
③学習指導要領改訂のポイントについて

2　第９回関東地区特別活動研究協議大会埼玉大会

〔演題〕　「豊かなかかわりの中で
　　自尊感情を高める特別活動」
　　－新学習指導要領を踏まえて－
〔講師〕　國學院大學人間開発学部　教授
　　杉田　　洋　氏
〔内容〕
・特別活動は「ＴＯＫＫＡＴＳＵ（日本式の教育の象徴）」として海外でも注目を集めている。
・新学習指導要領前文に示された、今後育てたい資質・能力は、特別活動の目標と同様の意味であり、人間関係形成能力は、今後の社会にも、目の前の学校生活でも必要不可欠である。
・自己存在感や自己有用感を育む合意形成による話合い活動に基づく協働実践の充実を目指す。
・明日への希望が人を育て、教育は人間と人間の関係の上に成り立つものである。

12　進路指導・キャリア教育

埼玉県進路指導・キャリア教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

学習指導要領の柱の一つとして、生徒の社会性や豊かな人間性をはぐくむため、学校における体験活動の機会を確保し、充実を図ることが求められている。また、埼玉県５か年計画、安心・成長・自立自尊の埼玉へ（平成24～28年）基本目標１「子どもを鍛え次代を担う人材を育成する」の主な取組に、「発達の段階に応じたキャリア教育の推進」があげられている。本研究会では、キャリア教育を「社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度等を育て、学校の学びと社会（職業）の接続を円滑に行うための教育」と捉え、小学校からのキャリア発達の段階に応じた学級活動や体験学習を充実させることを念頭においている。このようなキャリア教育の視点に立ち、発達の段階に応じたキャリア教育を充実させ、自己理解を深めさせ、生徒の職業的発達（キャリア発達）を促す進路指導・キャリア教育の在り方を研究実践してきた。

また、平成25年度より、小学校段階からの発達の段階に応じたキャリア教育の研究を行っている。その具体的研究として、小学校の実践事例を分析して、中学校との関連を研究し、小学生に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力と活動内容との関連表の作成を進めてきた。今年度は、この関連表の作成において、小学校の実践事例の分析をさらに深めながら、中学校との関連を研究することにより、修正・改善を行った。および、本研究会で作成した「学級活動を核とした中学校キャリア教育」の本を活用した実践を多くの先生方に行ってもらい、小学校と中学校をつなぐ視点を交えながら、実践を検証しまとめていった。以上の点を踏まえ、今年度からの研究テーマを、過去２年間の「小・中学校におけるキャリア発達の段階に応じた学級活動の充実・実践」を考慮するとともに、昨年度から今年度の関ブロ埼玉大会を見据えた上で、「未来を見据え、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進～小・中の連携を円滑に進めるための協同的な取組を通して～」と設定し、研究を進めてきた。

1　研究組織

専門委員会の中に研究推進委員会を組織し、下部組織として、専門委員を第一部会（主に東・南部地区）、第二部会（主に西部地区）、第三部会（主に北部地区）の３部会に分け、原則として地区ごとの部会に所属する。また、各部会において、今年度開催された関ブロ埼玉大会に向けての研究推進を行った。

2　25地区進路指導・キャリア教育研究協議会の実施と協力

県内を25地区に分け、小学校・中学校・高等学校の連携を図り、地区ごとに中学校で研究授業を行い、研究協議をとおして、進路指導・キャリア教育の研究推進を図った。25地区の研究協議会を活性化し、実践内容をまとめ、全県に配布し成果を共有した。

3　副読本『中学生活と進路』（実業之日本社）埼玉県版の改訂

副読本の県版部分を学年ごとに作成し、キャリア教育の新しい視点で３年間をみとおし、埼玉県として指導内容を精選し、指導案を考えるとともに授業に使える資料を掲載するように作成・編集を行った。

4　関東甲信越地区進路指導研究協議会への提案

第43回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会
埼玉大会
・基調提案（大会主題提言等）
・越谷市立千間台小学校・中学校の実践報告
・全６分科会における提案・発表

5　第66回進路指導・キャリア教育研究協議会全国大会への参加

Ⅱ　活動状況

○５月14日㈰　第１回代表者会議
・新年度組織、活動方針について
・総会並びに第１回理事・専門委員合同研修会について

○６月６日㈫
総会並びに第１回理事・専門委員合同研修会
・事業報告、決算報告、役員の承認
・事業計画、予算案、専門委員会の報告
・25地区進路指導・キャリア教育研究委嘱校への委嘱状交付式・前年度委嘱校研究発表
・講演会
演題　「進路指導・キャリア教育の現状と課題」
講師　県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　清水　利浩　先生

○７月16日㈰　第２回代表者会議

・第２回理事・専門委員合同研修会について

○７月27日㈭・28日㈮

第66回進路指導・キャリア教育研究協議会全国大会

国立オリンピック記念青少年総合センター

・記念講演　・分科会、全体会

○８月１日㈫

第２回理事・専門委員合同研修会

・第２回専門委員会

・関ブロ埼玉大会について

・講演会

演題　「次期学習指導要領における進路指導・キャリア教育のあり方について」

講師　富士見市立ふじみ野小学校

校長　堀川　博基　先生

○10月21日㈯　第３回代表者会議

・25地区研究協議会への派遣について

・関ブロ埼玉大会事前協議、プレ発表会

○11月10日㈮

第43回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会埼玉大会

・基調提案（大会主題提言等）

・越谷市立千間台小学校・中学校の実践報告

・記念講演「次期学習指導要領における進路指導・キャリア教育の在り方について」

講師　筑波大学人間系教授　　藤田　晃之　氏

・公開授業（越谷市立千間台小・中学校）

・全６分科会における提案・発表

○１月14日㈰　第４回代表者会議

・第３回理事・専門委員合同研修会について

・関ブロ神奈川大会について

○２月14日㈬

第３回理事・専門委員合同研修会

・理事会、第３回専門委員会

・活動報告、25地区の実施報告

・専門委員会の研修報告

・関ブロ神奈川大会に向けて

・講演会

演題　「これからの進路指導・キャリア教育の在り方」

講師　公益財団法人日本進路指導協会

理事・調査部長　千葉　吉裕　先生

○３月３日㈯　第５回代表者会議

・平成30年度にむけて

・関ブロ神奈川大会に向けて

Ⅲ　研究内容

１　25地区進路指導･キャリア教育研究協議会活動報告

⑴　本年度の取組

①開催期日

平成29年10月18日㈬～平成30年２月２日㈮

②内容

それぞれのテーマに基づいた公開授業並びに研究協議

⑵　研究実施校

県下25地区における進路指導・キャリア教育研究協議会は、進路指導・キャリア教育の実際の課題を、授業を通して研究協議し、進路指導の充実・推進に資することをねらいとして開催している。

今年度は36回目となるが、この積み上げは県下415中学校における進路指導・キャリア教育の実践の改善・充実に大きく寄与している。身近な場所で、研究・実践の交流や研究協議を進め、進路指導の取り組みの全県的な広がりや深まりを目指すことを大切にしている。本年度の実施校は次のとおりである（表１）。

表１　25地区進路指導･キャリア教育研究協議会実施校

№.	地　区　名	会　場　校	開催期日
1	さいたま（東）	さいたま市・七里中	11/15㈬
2	さいたま（西）	さいたま市・上大久保中	２/２㈮
3	川口	川口市・安行中	11/17㈮
4	蕨･戸田	蕨　市・東　中	10/24㈫
5	草加	草加市・両新田中	11/２㈭
6	朝霞･志木･新座･和光	志木市・宗岡中	12/７㈭
7	上尾	上尾市・大石南中	11/24㈮
8	鴻巣･北本･桶川･伊奈	伊奈町・伊奈中	11/22㈬
9	川越	川越市・南古谷中	１/18㈭
10	所沢	所沢市・北野中	１/25㈭
11	狭山･入間	入間市・東町中	11/２㈭
12	飯能･日高	日高市・高麗川中	12/14㈭
13	坂戸･鶴ヶ島･越生･毛呂山	鶴ヶ島市・藤　中	11/17㈮
14	富士見･ふじみ野･三芳	三芳町・三芳中	10/18㈬
15	比企郡市･東秩父	小川町・西　中	11/22㈬
16	秩父郡市（東秩父は除く）	秩父市・尾田蒔中	11/７㈫
17	本庄・美里・上里・神川	本庄市・本庄西中	11/29㈬
18	熊谷	熊谷市・吉岡中	11/24㈮
19	深谷･寄居	深谷市・花園中	２/２㈮
20	行田・羽生・加須	加須市・加須東中	11/17㈮
21	春日部	春日部市・江戸川中	11/29㈬
22	越谷･八潮	越谷市・中央中	11/22㈬
23	三郷･吉川･松伏	吉川市・中央中	11/１㈬
24	久喜･蓮田･白岡	蓮田市・蓮田中	11/17㈮
25	幸手･杉戸･宮代	幸手市・西　中	11/８㈬

⑶　研究協議等の状況

①参加者

表２　～これまでの参加者の推移～

	小学校	中学校	高　校	その他	合　計
平成21年	294	901	35	99	1,329
平成22年	244	950	48	27	1,269
平成23年	250	833	62	14	1,159
平成24年	257	622	89	75	1,043
平成25年	236	661	76	16	989
平成26年	265	788	57	100	1,210
平成27年	265	839	49	221	1,374
平成28年	245	770	73	132	1,220
平成29年	169*	515*	23*	60*	767*

※平成29年度は、平成30年１月14日現在（報告17/25校）

今年度は平成30年１月14日現在で、まだ実施してない学校と報告書が届いていない学校が８校あるため、前年度との単純な比較はできないが、報告の出ている地区の今年度の研究協議会参加者数は合計767名で、参加者数は若干少なめである。

以下は、報告書の出ている17会場について、まとめたものである。

小・中・高全て参加した会場は17会場中11会場。小学校からの参加は現在のところ全会場で参加があり、参加者数も若干増加傾向である。高等学校の参加は11会場で、会場数では昨年と大きな変化はないが、参加者は減少している。

１会場あたりの平均参加者は45名で、昨年より若干減少している。

②公開授業について

全学年・全クラスを公開した学校が17校中５校、全学年を公開した学校が17校中９校と昨年より割合として少なくなったが、公開授業が行われたクラスは132クラスで、例年並みである。

授業内容は、学級活動・総合的な学習の時間を中心に行われ、各教科や道徳が４校で公開された。特に、三芳町立三芳中学校では、保健体育を除く８教科と学級活動、道徳の授業が公開され、特別支援学級も含めて全学年全クラスで公開授業が行なわれた。また、入間市立東町中学校では、これまで取り組んできた小中一貫教育の取組をキャリア教育の視点から捉え直した小中合同授業が二つ公開された。近年多かったゲストティーチャーを招いての授業は１校になった。

今年度も、開催日が11月に集中し、12月、１月の開催が大幅に減ったこともあり、３年生の公開授業が昨年以上に増えた。また、特別支援学級の公開授業は、例年２クラス前後であったが、今年度は６校９クラスで公開された。

表３　～公開授業を行ったクラス数～

教科等	１年	２年	３年	特支	小学生
総合的な学習の時間	4	8	1	0	0
特別活動・学級活動	35	35	25	7	2
道　徳	1	1	1	0	0
教　科	4	4	4	2	0
合　計	44	48	31	9	2

１月14日現在

学級活動で扱われた内容は、昨年までと大きく変わり、課題解決に向けた主体的・協働的な学びの形態をとりながら、生徒一人ひとりに基礎的汎用的能力を身に付けさせようとする公開授業が多く行われた。

公開授業後の研究協議では、講演会や全体会、分科会が開催され、活発な意見交換が行われ、指導者の方からは貴重なご指導をいただくことができた。

⑷　研究協議会の課題等について

本研究協議会は、会場校だけでなく、地区内の小中学校における進路指導・キャリア教育の連携や研修を深める貴重な機会になっている。

キャリア教育について研究を進める学校も増え、キャリア教育的な視点に立った道徳や教科の授業の実施も定着してきているようである。また、小中連携をキャリア教育という視点から捉えようとする取組も増えつつある。

今後も子どもたちのキャリア発達を促したり支えたりするための取組が、各地区で工夫されていくことを期待したい。

２　第43回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会埼玉大会の実施

⑴　大会主題　「未来を見据え、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進」～小中の連携を円滑に進めるための協同的な取組を通して～

⑵　大会期日　平成29年11月10日㈮

⑶　大会会場　埼玉県立大学・越谷市立千間台中学校

⑷　主題提言

文部科学省は学習指導要領の改訂の視点として、新しい時代に必要となる資質・能力①「何をしっているか・何ができるか（個別の知識・技能）」②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力等）」の３点をあげている。この視点はまさに、平成23年に中央教育審議会答申で提示され

た。「キャリア教育の定義」および「キャリア教育の基本的方向性」につながるものであり、キャリア教育への期待とも言える。また、キャリア教育では、常に先ほどの３点からも相通ずるものがある。さらには、特別活動学級活動の内容(3)に「一人一人のキャリア形成と自己実現」が示され、小・中・高のキャリア教育のつながりが明確となった。これらの視点を踏まえつつ、日々の進路指導・キャリア教育の実践に努めることが大切である。

(5) 大会の概要

義務教育段階で将来求められる資質・能力の育成を図るためには、小・中学校が連携を図り、キャリア教育の連続性を高めることを意識することが重要である。

そこで本大会では、研究主題を「未来を見据え、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進～小中の連携を円滑に進めるための協同的な取組を通して～」を掲げ研究を進めた。当日の午前中は埼玉県立大学を会場として、全体会と記念講演会を行った。全体会では、埼玉県進路指導・キャリア教育研究会の田口光一専門委員長から次期学習指導要領のキャリア教育の動向と、それに伴う埼玉県での取組の紹介があった。実践発表は越谷市立千間台小・中学校の事例が紹介され、小中一貫教育におけるキャリア教育の取組実践が紹介された。記念講演会では筑波大学の藤田晃之教授より次期学習指導要領におけるキャリア教育の展望が示された。午後は会場を越谷市立千間台中学校に移して公開授業、分科会を行った。公開授業では小学生の授業も公開され、中学校の公開授業と合わせて研究している様子が伺えた。また、分科会ではテーマに基づいて各都県の取組が紹介され、活発な意見交換が行われた。

【全体会】

主題提言　東松山市立北中学校　　田口　光一　教諭

実践発表　越谷市立千間台小学校

仲　　陽介　主幹教諭

越谷市立千間台中学校

牛島　健一　主幹教諭

全体指導　埼玉県教育局市町村支援部

義務教育指導課指導主事　　清水　利浩　氏

【記念講演会】

演題　次期学習指導要領における進路指導・キャリア教育の在り方について

講師　筑波大学人間系教授　　藤田　晃之　氏

【公開授業】　越谷市立千間台小学校・中学校

【分科会】

○第１分科会【各教科（横の連携）】

千葉県流山市立東深井中学校　　藤井　友紀　教諭

富士見市立ふじみ野小学校　　長森　陽介　教諭

○第２分科会【特別の教科「道徳」】

栃木県那須塩原市東那須野中学校

馬場　大輔　教諭

越谷市立千間台小学校　　薩田　明宗　教諭

○第３分科会【特別活動（学級活動）】

神奈川県横浜市立六ツ川中学校　有賀　浩二　教諭

横瀬町立横瀬中学校　　髙橋　雄大　教諭

○第4分科会【総合的な学習の時間（教科横断的な学び）】

群馬県沼田市立薄根中学校　　内田　　淳　教諭

さいたま市立田島中学校　　松田　祐輝　教諭

○第５分科会【キャリアカウンセリング（進路相談）】

東京都鷹南学園三鷹市立第五中学校

大森　　拓　教諭

八潮市立八幡中学校　　田中　貴大　教諭

○第６分科会【家庭・地域・社会との連携】

茨城県白鳥学園那珂市立瓜連中学校

香取　　恭　教諭

三芳町立三芳中学校　　町田　　雅　教諭

(6) 成果と課題

小・中学校での実践発表や公開授業により、義務教育９年間の発達の段階や特性に応じた、系統的・継続的な実践の積み重ねの重要性を再確認することができた。

今後の課題として、①自分のよさ・適性・特性を見つめる活動を通して、児童生徒の自己肯定感を高める活動をより良く実践していくこと。他者との協同的な活動を通して、自分自身が仲間から認められ、必要とされる大切な存在であることに気付かせ、自己有用感を高める活動を実践していくこと。②児童生徒の変容をとらえるための小・中・高12年間を通してのデータの蓄積を図るためのキャリアノート（キャリアパスポート）などの有効活用を推進することなどがあげられる。

児童生徒に、今の学習と社会とのつながりを意識させるとともに、自分のよさ・適性・特性をどのように将来の社会的・職業的自立と関連付けさせるかが重要となる。

13 視 聴 覚 教 育

埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
・埼玉県学校視聴覚教育連盟
・埼玉県放送教育研究会
・埼玉県教育機器研究会

埼玉県学校視聴覚教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

現在、子どもたちを取り巻く社会環境は高度情報通信社会の真っ只中にあり、インターネットをはじめデジタル放送、デジタルカメラ、携帯電話などの情報収集・情報処理・情報伝達機器が生活の一部として取り入れられるなど、まさにネットワーク化・デジタル化が進んでいる。このような情報化社会の中で、学校現場では今まさに「授業でのＩＣＴ活用」、「教職員の指導力向上」、「情報モラル、情報セキュリティの重要性」など、情報化に関わる教育課題が指摘されている。

また、この度の中央教育審議会での文科大臣からの諮問においても、ＩＣＴを活用し、指導を踏まえた「アクティブ・ラーニング」の充実が示されている。このような現状を受け、学校教育現場での指導については、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や、インターネット、携帯電話・スマートフォン利用にあたっての情報モラルを身に付け、安全にかつ適切に利用できるようにするための学習活動を充実させる必要がある。

これらのことから、本連盟では視聴覚・情報機材、放送機材などの教育メディアを積極的に活用した学習を展開することで、子どもたちが楽しく進んで学ぶことにつながり、『自ら学ぶ意欲』と『主体的に活動できる力』を培い、これからの時代を「心豊かな人間」として生活できることをねらって、【自ら学び主体的に活動する力を育む教育メディアの活用をめざして～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～】と研究主題を設定し、本年度の研究に取り組んだ。

Ⅱ　活動状況

1　役　員

顧　問　神田　俊也
（飯能市立加治小学校　　再任用）

会　長　根岸　和幸
（本庄市立仁手小学校　　校　長）

副会長　菅野　昌司
（所沢市立椿峰小学校　　校　長）

山田　和彦
（美里町立大沢小学校　　教　頭）

池田　久男
（秩父市立大田中学校　　校　長）

中三川　勉
（越谷市立鷺後小学校　　校　長）

事務局　松田　典克
（本庄市立仁手小学校　　教　諭）

2　主な活動

(1)　平成29年５月23日㈫
埼玉県県民活動総合センター
・第１回埼玉県学校視聴覚教育連盟
役員・理事研究協議会並びに総会
・第１回埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
役員・理事研究協議会

(2)　平成29年６月12日㈪
長野県長野上水内教育会館
・関放協・関視連第１回合同理事会

(3)　平成29年８月８日㈫
岩槻駅東口コミュニティセンター
・第21回埼玉県教育メディア活用研究大会
＜研究発表＞８団体より研究発表
「主体的に学び、進んで表現し、
考えを深めることのできる子」
本庄市立秋平小学校　高田　寛道　教諭

(4)　平成29年10月26日㈭
長野県諏訪市文化センター
・関放協・関視連第２回合同理事会

(5)　平成29年10月27日㈮
長野県諏訪市文化センター　他
・関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会
「ＩＣＴを効果的に活用した
言語活動・協働学習の充実」
蓮田市立蓮田中央小学校　茂見　知宏　教諭

(6) 平成30年３月７日㈬
埼玉県県民活動総合センター
・第２回埼玉県学校視聴覚教育連盟
役員・理事研究協議会
・第２回埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
役員・理事研究協議会

Ⅲ　今後の課題

これまで以上に、タブレットＰＣをはじめ、多種多様なＩＣＴ機器、放送教材等の教育メディアを積極的に活用した学習を実践し、より効果的な活用法について研究を深めることが求められている。

また、その実践内容・工夫点などを、互いに共有し合い、より質の高い指導方法を考え、児童生徒の学力向上に努めることが今後の課題である。

埼玉県放送教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「だれもが考える力を育み
世界観をひろげる　埼玉の放送教育」
～ひろがる　つながる　深まる～

２　主題設定の理由

「放送番組を視聴することから子どもの学びが始まる。番組を視聴している子どもは、知識や経験を踏まえ、自分らしく考え、学んでいく。そこから学習がひろがっていく。」という認識のもと、本研究会では発足以来、子どもの内にわきあがる「学びたい」「分かりたい」「もっと知りたい」等を学習活動に活かす指導を実践し、放送番組を活用した子どもの学び方、分かり方を中心に研究を重ねてきた。

今までの研究の成果をもとに、本研究会では2015年に冊子『なぜ教室には　テレビがあるのか！？　－学ぶ喜びのもてる放送教育－』を上梓した。冊子では、放送番組を活用した学習により、子どもは自分らしく学ぶ喜びを味わうことができることを伝えた。以上を踏まえ、本年度は研究主題を上記のとおり設定した。

番組を視聴すると、子どもは皆、「分かった！」と言う。番組には分からせる力、働きがあるからであるが、この「分かった」は、一人ひとり異なっている。それは、一人ひとりの知識や経験、物事のとらえ方や考え方が個性的かつ多様であり、その子なりだからである。放送番組を使った学習では、子どもの知識や経験等を関連付け、脳を活性化させていく。それが考える力の萌芽となる。

活性化した脳（子どもの頭の中の世界）では、色々な見方や考え方がひろがり、つながっていく。世界観（※知的・情意的な側面を含む、ものごとの見方やとらえ方）の深まりである。

しかし、それは限界もある。さらにひろげてくれるのは、他の子どもである。一人ひとりの世界観を学習活動において出し合ったり、確かめ合ったりすることによって、さらに自分の世界観がひろがり、深まっていく。放送番組を活用した学習「放送教育」によって、考える力と子どもの学びが豊かになり、人格の完成にもつながると考える。

本研究会では、そのような学びの実現を目指すとともに、さらなる放送教育の可能性を探るため、以下の事業を計画し、研究主題にもとづき実践的な研究を進めていく。

(1) 日々の授業や研究活動（授業研究）を充実させ、研究主題に迫る放送活用を推進する。
　○　放送番組の視聴を通し、自分らしく考え、自分らしく表現している　【ひろがる】
　○　放送番組と自分の知識や経験、友達の発言を関連付けて考えている　【つながる】
　○　学んだことを生かし、さらに深く考え、追究しようとしている　【深まる】

(2) 研究活動（授業研究等）の研究成果を広く発表し

ていく。

⑶　NHK杯全国中学校放送コンテストの県予選大会を通して、校内放送の普及･充実とその活用を図る。

⑷　公開授業研究会、埼玉県教育メディア活用研究大会を通して、放送活用の普及・充実を図る。

⑸　他の県内外の情報教育関係研究会と連携し、組織改革を推進する。

⑹　冊子『続　なぜ教室には　テレビがあるのか！？－学ぶ喜びのもてる放送教育－』の編集検討をし、研究内容をより改善、深化させる。

Ⅱ　活動状況

1　役　員

会　長　　清水　　肇
（さいたま市立新開小学校長）

副会長　　山田　　茂
（川口市立八幡木中学校教頭）

石川　秀治
（さいたま市立仲町小学校教諭）

事務局長　四方　孝明
（八潮市立八條小学校教諭）

次長　関口麻理子
（新座市立新堀小学校教諭）

武井　佑樹
（朝霞市立朝霞第十小学校教諭）

2　主な活動

⑴　定例会（毎月第３土曜日）
ＮＨＫさいたま放送局、さいたま教育会館

⑵　授業研究会および研究協議会
・第１回授業研究会　　関口麻理子　教諭
９月６日㈬　新座市立新堀小学校
・第２回授業研究会　　冨田　　匡　教諭
11月16日㈭　さいたま市立日進中学校
・第３回授業研究会　　武井　佑樹　教諭
２月６日㈫　朝霞市立朝霞第十小学校

⑶　埼玉県教育メディア研究活用大会
８月８日㈫　岩槻駅東口コミュニティセンター
テーマ「自己の生き方についての考えを深める放送学習」
～「特別の教科　道徳」における放送番組の活用～
提案者　塚崎　典子　教諭
（さいたま市立大砂土東小学校）
石川　秀治　教諭
（さいたま市立仲町小学校）

⑷　ＮＨＫ杯全国中学校放送コンテスト
選考者　福田　珠美　教諭
（草加市立瀬崎中学校　教諭）
・６～７月埼玉県地区大会
・８月５日㈯・６日㈰
全国大会予選　８月18日㈮　決勝
千代田放送会館

⑸　放送教育研究会全国大会
・10月27日㈮・28日㈯
宮城県仙台市　片平丁小学校

(6) 関東甲信越放送・視聴覚研究大会（長野大会）
　・10月27日　諏訪市
(7) 特別研修会　８月26日㈯・27日㈰　草津
(8) 研究会のまとめ作成　３月
(9) 視聴覚教育研究集録第44集刊行　３月

埼玉県教育機器研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「児童生徒一人ひとりの心を大切にした
教育機器の活用」

２　主題設定の理由と研究方針

本研究会は、昭和42年に「シンクロファックス」の活用を最初の研究課題として発足した。以来30数年に及ぶ活動を振り返ると、21世紀を迎えた今日、まさに教育文明の歴史とともに歩んできたという感慨を覚える。特に、教育機器に関わる進歩は、教育現場にたとえようがないほど急激で、大きな変革をもたらしている。

本研究会では、常に児童生徒の「心」の変容を踏まえた指導のあり方、学習のあり方を探究してきた。また、個々の児童生徒の能力や個性、特性をしっかりと見つめ、「学習の個別化」や「授業システム」の研究も同時に進めてきた。これらの過程において、ただ便利だから使う機器ではなく、児童生徒の実態把握をどのように行ったらよいか、学習環境をどのように整備したらよいか、児童生徒一人ひとりをどのように評価したらよいか等、子どもの立場に立った学習活動の展開を求めてきた。単に機器を活用するのではなく、単にメデイアを組み合わせるのではなく、子どもたちの「心」に語りかけることができるような機器の活用を期待している。以下に研究方針を述べる。

教育機器の特性を大切に活かし、21世紀の指導方法を洞察し、児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや、学習意欲が喚起できるような学習環境の整備を図るよう努める。

また、コンピュータのみにとらわれず、常に必要な機器の見直しを行い、積極的に児童生徒の「心」を大切にした教育機器の活用と、そのあり方について研究を進める。

Ⅱ　活動状況

１　役　員

会　長　藤巻　和司
　　新座市立東北小学校　　校長
副会長　金澤　勇一
　　和光市立第五小学校　　校長
副会長　兵藤　一樹
　　北部教育事務所　　管理主事
副会長　山崎　育樹
　　本庄市教育委員会　　指導主事
事務局　高坂　悠太
　　深谷市立桜ヶ丘小学校　教諭
参　与　渡邉　孝広
　　前会長（本庄市立中央小学校）

２　主な活動

(1) 総　会
　ア　期　日　平成29年５月23日㈫
　イ　会　場　埼玉県県民活動総合センター
　ウ　内　容　事業報告並びに役員・理事研修会
(2) 平成29年度
　　第21回埼玉県教育メディア活用研究大会
　　第46回埼玉県視聴覚・放送研究合同大会
　ア　期　日　平成29年８月８日㈫
　イ　場　所　岩槻駅東口コミュニティセンター
　ウ　内　容　分科会（研究会・団体ごと）並びに
　　全体会（記念講演会）
　エ　分科会提案（教育機器研究会）
　　「生徒が主体的に取り組むためのＩＣＴ機器を
　　活用した指導方法の工夫に関する研究」
　　志木市立志木中学校　御船　嘉一　教諭
　　田中　光　　教諭
　オ　全体会講演
　　「プログラミング教育の推進」
　　東京工業大学名誉教授　赤堀　侃司　氏

Ⅲ　今後の課題

研究会会報の充実など、これまでの研究成果をどのように県下の小・中学校に浸透させていくか。また、若い世代の会員の力をいかに発揮させ、より活力ある研究活動を推進していくかが大きな課題である。

14　教育心理・教育相談

埼玉県教育心理・教育相談研究会

Ⅰ　研究主題

「通常の学級における発達障害児童生徒等の指導支援～社会性を育むスキル教育の実践と定着～」

Ⅱ　研究の概要

1　主題設定の理由

⑴　平成17年４月に発達障害支援法が施行され、さらに平成18年度から通級による指導の対象として新たにＬＤ、ＡＤＨＤが加わったことにより、ＬＤ、ＡＤＨＤ、自閉症に対する発達障害・情緒障害通級指導教室の新設や増設が県内で進んでいる。また、このような状況のもと、発達障害を有する児童生徒が、通常の学級に籍を置き学校生活を送るケースも増えてきた。

一方、指導支援する教職員にあっては、このような障害を有する児童生徒に対する理解が十分とはいえず、「どのような学級経営を行ったらよいのか」、「児童生徒を支援する関係機関や支援員との連携協力のあり方について」などの課題が生じている。これらの課題に対して、本研究会としてどのように取組を進めたらよいか協議を重ね、活動方針を固めるとともに必要な資料収集や事例研修会を実施することになった。

⑵　本専門委員会では、本会の研究テーマに関わり掲示用資料集（ＣＤ版）の普及を行ってきた。一昨年度、活用資料集を完成させ、ＣＤ版とセットで普及活動を行ってきた。昨年度には、活用パンフレットを配付し、教育相談の発展に力を注いできた。

昨今の大幅な教職員の世代交代の中、教育相談主任の役割や教育相談室運営について知りたいというニーズが高くなってきた。この現状を踏まえ、今年度から教育相談主任の役割や教育相談室運営について冊子を作成することになった。

2　研究方針

⑴　通常の学級等において、発達障害を有する児童生徒をどう理解し、指導支援していくか、先行事例に学び、研究を深め、実践事例等を広める。

⑵　社会性を育むスキル教育の実践と定着を図るため、各地区の事例や情報に基づいた研究を進める。

⑶　定例の理事会・専門委員会において、教育心理・教育相談の課題等について研究協議を行う。

3　研究計画

⑴　夏季研修会

県内の地域（南部、西部、北部、東部、さいたま市の５地区）ごとに、講演会、ワークショップを実施し、発達障害の理解や教育相談的手法、考え方を活かした指導・援助の方法を身に付け、実践に役立てる。

⑵　教育心理・教育相談講演会

教育心理及び学校教育相談等で活躍している専門家の講演会を通して、教師が、いじめの背景や具体的な対処法などを学び、望ましい人間関係や心を育む教育について理解を深め、実践に役立てる。

⑶　理事研究協議会

本研究会の運営について協議するとともに、国や県内の動向を知り、各地域における学校の実態に応じた研究のあり方を検討する。また、有効な手立てや情報を各地域に持ち帰り、研究活動の啓発及び各学校に活かせる取組を行う。

⑷　専門委員会

教育相談主任の役割や教育相談室運営に関わる情報を収集し、専門委員の気付きを共有し、それらを起点にして広く学校現場に還元できる提案ができるよう検討する。

Ⅲ　活動状況

1　総会及び第１回理事研究協議会

⑴　期　日　平成29年６月２日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・平成28年度事業報告
・平成28年度決算報告及び監査報告
・平成29年度役員承認
・新役員紹介及びあいさつ
・平成29年度活動計画
　本年度の基本方針
　夏季研修会、講演会、理事会等の計画、
　専門委員会活動計画
・平成29年度予算案
・夏季研修会について
・地区別協議
・役員打合せ

2　平成29年度役員

会　長　髙橋　光代（川口市立元郷小学校　　校長）
副会長　兼子紀美江（越谷市立大間野小学校　校長）
　　大木　　剛（東秩父村立東秩父中学校 校長）
　　髙村　美恵（川口市立安行小学校　　校長）
　　宇野　聡規（熊谷市立江南中学校　　校長）
　　千葉　和博（さいたま市立大成中学校　校長）
監　事　新井　　恵（川口市立前川小学校　　校長）
　　山根　　明（草加市立小山小学校　　校長）
代表幹事
　南部　加藤　吉宏（草加市立花栗中学校　　教諭）
　西部　井上　和美（坂戸市立浅羽野中学校　教諭）
　北部　渡辺　智彦（寄居町立鉢形小学校 主幹教諭）
　東部　小澤　範子（越谷市立蒲生南小学校 主幹教諭）
　さいたま　内山　一幸（さいたま市立上里小学校　教頭）
事務局　増田　真二（川口市立元郷小学校 主幹教諭）
幹　事　須加野千明（上尾市立西小学校　　教諭）
　　角田　和美（蕨市立南小学校　　教頭）
　　木戸　由美（所沢市立林小学校　　教諭）
　　千島　元代（坂戸市立南小学校　　教諭）
　　渡邊　由佳（坂戸市立坂戸小学校　　教諭）
　　神田めぐみ（東秩父村立東秩父中学校 養護教諭）
　　井上　恭子（本庄市立児玉小学校 主幹教諭）
　　笹岡　宏之（深谷市立本郷小学校　　教諭）
　　岩崎　成美（本庄市立秋平小学校　　教諭）
　　福島　陽子（越谷市立北中学校　　教諭）
　　大野　里佳（さいたま市立大宮東中学校 教諭）
　　吉岡奈津江（さいたま市立蓮沼小学校　教諭）
理　　事　各地区研究会から選出された47名
専門委員　各地区から選出された20名

3　夏季研修会

(1)　南部地区
　①　期　日　平成29年８月８日㈫
　②　会　場　埼玉県県民活動総合センター
　③　内　容
　　ア　講演会『児童生徒の理解に基づく支援と評価
　　－支援プランの作成－』
　　講　師　星美学園短期大学　幼児保育学科
　　准教授　遠藤　愛　氏
　　イ　ワークショップ
　　・ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）の実践・教材体験
　　・医療機関との連携
　　～校内組織の役割について考える～
　　・エンカウンター～人間関係づくり～

(2)　西部地区
　①　期　日　平成29年８月１日㈫
　②　会　場　フレサよしみ
　③　内　容
　　ア　講演会『不適応行動の理解とその指導・支援について』
　　講　師　日本体育大学　スポーツ文化学部
　　教授　藤田　主一　氏
　　イ　ワークショップ
　　・ソーシャルスキルトレーニング
　　・発達に課題のある子供たちの特徴とその支援
　　・引っかき回す子がいるクラスへの支援

(3)　北部地区
　①　期　日　平成29年７月28日㈮
　②　会　場　深谷公民館
　③　内　容
　　ア　講演会『教育相談から～学校に伝えたいこと～』
　　講　師　前深谷市立教育研究所
　　専門員　吉井　恵美子　氏
　　イ　ワークショップ
　　・教育相談・特別支援教育担当者が身に付けたい力
　　・中学校通級指導教室における指導
　　～多様な学びによりそって～

(4)　東部地区
　①　期　日　平成29年８月９日㈬
　②　会　場　文教大学
　③　内　容
　　ア　講演会『教育相談で高める～教師の4ぢから～』
　　講　師　文教大学　教育学部
　　教授　会沢　信彦　氏
　　イ　ワークショップ
　　・学級づくりに活かすアドラー心理学
　　・新学習指導要領とアサーション
　　～主体的・対話的で深い学びができる言語環境をめざして～
　　・不登校と脳育て

(5)　さいたま市
　①　期　日　平成29年８月４日㈮
　②　会　場　さいたま市立教育研究所
　③　内　容
　　ア　講演会『児童生徒の諸問題への実践的な対応
　　～保護者や家族との上手なかかわり方～』

講師　東北大学大学院　教育学研究科
准教授　若島　孔文　氏

イ　ワークショップ

・ＷＩＳＣ-Ⅳ知能検査の見方と活用の仕方

４　夏季研修会でのアンケート結果

県内５地区において、夏季休業中に教育心理・教育相談に関する研修会を実施している。

⑴　地区別参加者数　【人】

	南	西	北	東	合計
人数	69	91	84	73	317

⑵　性別　【人】

	南	西	北	東	合計
男 性	13	15	21	12	61
女 性	37	76	63	61	237

⑶　勤務所属　【人】

	南	西	北	東	合計
小	35	63	64	39	201
中	15	28	20	29	92
その他	0	0	0	5	5

⑷　年代

	20代	30代	40代	50代
割合（%）	15	17	22	46

⑸　参加回数

	初めて	２回目	３回目	４回以上
割合（%）	63	15	7	15

⑹　校務分掌

	教心・教相	生徒指導	その他
割合（%）	61	4	35

⑺　参加理由

項　　目	午前	午後
	割合（%）	割合（%）
児童生徒について理解を深めたい	26	14
学級経営に活かしたい	10	20
配慮を必要とする児童生徒の指導	23	27
専門家の話が聞きたい	24	20
教育相談的手法を身に付けたい	15	16
その他	2	3

⑻　ワークショップの感想

項　　目	割合（%）
とても参考になった	76
参考になった	22
あまり参考にならなかった	2
参考にならなかった	0

⑼　講演会の感想

項　　目	割合（%）
とても参考になった	79
参考になった	21
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0

⑽　今後希望する演習等（複数回答）

項　　目	割合（%）
グループエンカウンター	18
エゴグラム	14
自律訓練法	21
ロールプレイング	8
カウンセリング技法	37
グループワーク	9
ソーシャルスキルトレーニング	35
人間関係づくり	30
学校教育相談の進め方	41

※アンケート集計は、さいたま市を除く。

※⑴以外はアンケートの回答数を集計。

５　第２回理事研究協議会

⑴　期　日　平成29年10月27日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・専門委員会活動報告

・夏季研修会報告

・冬季講演会について

・研究集録について

・夏期研修会諸経費について

・地区別協議

・役員打合せ

６　冬季講演会

⑴　期　日　平成29年11月10日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　講　師　所沢市立泉小学校
発達障害・情緒障害通級指導教室
坂本　條樹　氏

⑷　演　題『教室内の学習場面の行動観察のポイント』

７　第３回理事研究協議会

⑴　期　日　平成30年２月16日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・平成29年度事業報告
・平成29年度専門委員会報告
・平成29年度会計報告
・平成30年度事業計画
・平成30年度専門委員会計画
・平成30年度役員推薦について
・研究集録について
・地区別協議
・役員打合せ

Ⅳ　専門委員会の活動

専門委員会では、平成23年度から「社会性をはぐくむスキル教育」の実践と定着を図ることを目指し、掲示用の資料作成に取り組んだ。その資料は平成26年度からＣＤ資料として配布販売され、昨年度からは、その活用パンフレットも配付されるに至り、県内で教育相談の発展に寄与することができた。今年度は、その活動に一区切りがついたことで、新たな活動を検討していくこととなった。

教育界の世代交代の中、教育相談主任としての役割と教育相談室運営などのニーズが高い現状を踏まえ、オリエンテーション版として、その指針となる趣旨の配布物を作成することとなった。一年目として、専門委員のメンバーが資料提供と情報提供を相互に行う中で、配布に向けての準備を進めている。

１　第１回専門委員会

⑴　期　日　平成29年６月２日㈮

⑵　内　容

・昨年度の活動内容確認と今年度の計画立案
・今年度の活動内容確認

２　第２回専門委員会

⑴　期　日　平成29年10月27日㈮

⑵　内　容

・教育相談主任としての役割の情報交換
・教育相談室の運営についての情報交換

３　第３回専門委員会

⑴　期　日　平成29年11月10日㈮

⑵　内　容

・書式の検討
・小・中学校との書式のすり合わせ

４　第４回専門委員会

⑴　期　日　平成30年２月16日㈮

⑵　内　容

・書式の決定
・今年度の反省と次年度の確認

Ⅴ　今後の活動

夏季のワークショップや講演会等を通して発達障害を有する児童生徒への指導支援の重要性が認識されるとともに、具体的に学んだことを生かし、効果的な指導が実施されるようになっている。

教職員アンケートの結果や課題を検討する中で、「発達障害」「いじめ」「不登校」等への継続的な対応から、保護者とのコンサルテーション、教職員の世代交代に関わること、校内教育相談体制全般に関わること、その他多くの話題が報告された。どれも学校現場からの切実な背景が込められていた。

研修会の参加回数から見てもわかるとおり、教育心理・教育相談に本格的に関わることが初めてである教職員がかなり多くなってきている。本年度からの専門委員会の活動は、教育相談の実践に不安を抱える教職員への一助となるものと考えている。本研究会での活動が、本県の教育心理・教育相談分野の発展に寄与できるように研究を重ねていく。

15 特別支援教育

埼玉県特別支援教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加につながる指導・支援のあり方を求めて」

2　研究活動方針

特別支援教育がスタートして10年目を迎え、今や特別支援教育の推進は、幼・小・中・高の全ての学校等において、教育実践の重要な柱となりつつある。特に、障害者の権利に関する条約が批准され、インクルーシブ教育システム構築への動きが加速する中、ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善や、障害者差別解消法において義務付けられた合理的配慮への対応は、特別支援教育推進上の大きな課題となっている。さらには、次期学習指導要領を見据えた実践と研究、障害の重度・重複化や多様化への対応、幼児期からの早期支援、後期中等教育における特別支援教育の推進等、特別支援教育推進上の課題は多岐にわたるが、これは特別支援教育が、新しい時代を拓く教育のあり方として、これまで以上に大きな期待が寄せられていることの証とも言える。

これらの課題解決に向け、私たちはより高い専門性を身につけるとともに、子どもたちが夢と自信に満ちて社会で活躍できるよう、自立に向けた指導・支援を推進する必要がある。本研究会は、これらの特別支援教育推進に係る諸課題を解決するべく、各学校等の実態を把握し、各教職員が抱える今日的課題を踏まえて研究を推進する。そして、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育の一層の充実をめざして、指導力の向上と埼玉県の特別支援教育の振興に寄与していく。

また、平成31年10月17日㈭・18日㈮には、全特連全国大会埼玉大会がさいたま市を会場として開催される。本研究会が70年にわたって蓄積してきた特別支援教育に関する知見を活かすとともに、新しい時代を拓く特別支援教育のあり方を提案できる大会となるよう準備を進めていく。

Ⅱ　活動状況

1　研究組織

本研究会は、小学校・中学校の特別支援学級を母体とする本部と障害種・学校別の３つの部会（難聴・言語、発達・情緒、特別支援学校）とで構成されている。

2　本部事業

⑴　平成29年度総会・講演会

昨年度の活動状況及び本年度の研究活動方針や事業計画について審議した。また、全特連全国大会埼玉大会実行委員会を発足、第１回実行委員会を実施した。

期　　日　平成29年６月９日㈮
会　　場　埼玉大学教育学部附属特別支援学校
協議事項　平成28年度事業報告、平成29年度事業計画、新役員選出、等
参加者数　96名

⑵　第57回埼玉県特別支援教育研究協議会

毎年夏に開催する重要な事業である。午前の全体会では、埼玉県立特別支援学校塙保己一学園の生徒３名を招いて「夢の実現　特別支援教育」～塙保己一学園（盲学校）生徒からの発信～」というテーマで特別講演会が行われた。午後は、すべての分科会に指導助言者として大学機関等の研究者を迎え、専門的な見地から特別支援教育における的確な御指導と貴重な情報を提供いただいた。

分科会は、すべての教育現場で特別支援教育の推進を目指す観点から、幼稚園・保育所、高等学校分科会、通常の学級に関する分科会を設定した。実践に基づく貴重な提案がなされ、熱心な協議が展開された。

期　　日　平成29年８月４日㈮
会　　場　ウエスタ川越、川越市立中央小学校
内　　容　全体会（講演会）、分科会
参加者数　661名
全 体 会　特別講演会
テ ー マ「夢の実現　特別支援教育」
～塙保己一学園（盲学校）
生徒からの発信～
講　　師　埼玉県立特別支援学校塙保己一学園
高等部普通科３年　金子　和也さん
高等部普通科２年　佐野　優人さん
高等部専攻科２年　竹内　智美さん
分 科 会　61ページの一覧で報告する

⑶　第25回特別支援教育実践研究協議会

今年度は、４つの分科会を設定し、実践事例を持ち寄り、教えるプロとしての熱意の感じられる充実した協議会を開催することができた。

期　　日　平成29年８月23日㈬
会　　場　埼玉県立加須げんきプラザ・花崎コミュニティセンター
参 加 者　98名

第57回埼玉県特別支援教育研究協議会　分科会一覧

分科会No	分科会名とテーマ	指導助言者			提案者			司会者			分科会会場	分科会No
1	学校経営	埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター	教授	櫻井　康博	本庄市立秋平小学校	校長	黒﨑　暢徳	白岡市立南小学校	校長	山中　正志	中央小学校 2F－１松	1
	特別支援教育を基盤とした一人一人の豊かな学校生活を支える学校経営のあり方	草加市立青柳小学校	校長	益岡　和正	吉見町立北小学校	校長	大野　陽康	川越市立霞ヶ関北小学校	校長	関根　康弘		
2	各教科等を合わせた指導①（日常生活の指導・遊びの指導）	聖学院大学	教授	金谷　京子	県立深谷はばたき特別支援学校	教諭	加藤　淳一	県立所沢おおぞら特別支援学校	教諭	吉田　美穂子	中央小学校 2F－1竹	2
	一人一人の意欲や技能を高め、人とのかかわりを育てる日常生活の指導・遊びの指導のあり方	さいたま市教育委員会	指導主事	根岸　智子	吉川市立北谷小学校	教諭	渡辺　直美	吉川市立美南小学校	教諭	宮本　絵美		
3	各教科等を合わせた指導②（生活単元学習・作業学習）	文教大学	教授	小野里　美帆	県立越谷特別支援学校	教諭	杉田　聡	県立上尾特別支援学校	教諭	熊井　明徳	中央小学校 3F－3松	3
	将来の自立と社会参加を目指し、一人一人の生活する力、働く力を育てる生活単元学習・作業学習のあり方	県立越谷特別支援学校	教頭	池澤　健	熊谷市立江南南小学校	教諭	堀川　大介	熊谷市立妻沼小学校	教諭	榎本　晋吾		
4	教科別の指導①（小学校段階）	聖学院大学	特任教授	齋藤　一雄	県立草加かがやき特別支援学校	教諭	高阪　陽子	県立狭山特別支援学校	教諭	小川　明子	中央小学校 3F－３竹	4
	小学校（部）段階における、生活に生きる確かな学びを大切にした教科別指導のあり方	さいたま市教育委員会	指導主事	戸張　友子	さいたま市立植水小学校	教諭	佐藤　歩	さいたま市立桜木小学校	教諭	指田　和彦		
5	教科別の指導②（中・高段階）	埼玉純真短期大学	教授	伊藤　道雄	川越市立特別支援学校	教諭	溝口　文雄	県立越谷特別支援学校	教諭	小林　幸祐	中央小学校 3F－４松	5
	中学校（部）、高等部段階における、生活に生きる確かな学びを大切にした教科別指導のあり方	県立深谷はばたき特別支援学校	教頭	楠奥　佳二	上尾市立上尾中学校	教諭	大川　佳那子	上尾市立原市中学校	教諭	田渕　拓		
6	自立活動	文教大学	教授	今野　義孝	県立川越特別支援学校	教諭	村浦　新之助	県立川口特別支援学校	教諭	門馬　美咲	中央小学校 2F－ＰＣ室	6
	個別の教育的ニーズに応じ、豊かな生活を支援する自立活動のあり方	県立上尾かしの木特別支援学校	教頭	藤原　卓也	新座市立東野小学校	教諭	丸山　里奈	新座市立東野小学校	教諭	宇田川　明子		
7	知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒への指導・支援	埼玉大学教育学部附属特別支援教育臨床研究センター	専門相談員	高田　豊	県立狭山特別支援学校	教諭	北村　和代	県立狭山特別支援学校	教諭	内堀　雄太	中央小学校 1F－ プレイルーム	7
	特別支援学校及び特別支援学級における、自閉症の特性に配慮した効果的な指導のあり方	県立総合教育センター	指導主事	森澤　由希	川口市立戸塚東小学校	教諭	平田　祐也	川口市立元郷小学校	教諭	中川　千重子		
8	キャリア教育	横浜日吉就労支援センター	就労相談員	柴田　翠	県立毛呂山特別支援学校	教諭	北村　明春	県立毛呂山特別支援学校	教諭	平澤　修康	中央小学校 2F－５松	8
	一人一人の個性を活かした社会参加をめざすキャリア教育・進路指導のあり方	県立川口特別支援学校	教頭	杉山　功一	熊谷市立富士見中学校	教諭	鳥海　真由美	熊谷市立大幡中学校	教諭	小島　美幸		
9	特別支援教育コーディネーターの役割と個別の教育支援計画・指導計画の活用	埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター	教授	尾﨑　啓子	県立上尾特別支援学校	教諭	石川　雅章	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	教諭	若林　大輔	中央小学校 2F－１梅	9
	個別の教育支援計画、個別の指導計画等を活用した学校内外の連携のあり方	県立川島ひばりが丘特別支援学校	教頭	増山　温子	所沢市立山口小学校	教諭	北澤　浩美	所沢市立泉小学校	教諭	斎藤　文子		
10	交流及び共同学習	東京家政大学	教授	半澤　嘉博	県立騎西特別支援学校	教諭	磯部 浩美 横山 雅子 金井 睦美	県立騎西特別支援学校	教諭	上田　正枝	中央小学校 2F－1桜	10
	ノーマライゼーションの進展をめざし、豊かな関わり合いの中で共に学び合う交流及び共同学習のあり方	県教育局県立学校部特別支援教育課	主幹	小坂　達郎	さいたま市立春野小学校	教諭	佐俣　リカ子	さいたま市立柏崎小学校	教諭	西　弘子		
11	通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援	埼玉大学	准教授	名越　斉子	川越市立富士見中学校	教諭	千代田　義明	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	教諭	関口　義己	中央小学校 2F－５竹	11
	特別支援学級の弾力的運用等を活用した、発達障害のある児童生徒への支援のあり方	川越市教育委員会	指導主事	宮﨑　洋平	越谷市立越ヶ谷小学校	教諭	渡邉　聡	越谷市立大間野小学校	教諭	金子　満由美		
12	通常の学級における授業改善	埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター	教授	長江　清和	戸田市立笹目小学校	教諭	野﨑　隆	戸田市立笹目小学校	教諭	平井　良子	中央小学校 3F－４竹	12
	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、すべての子どもにとって分かりやすい授業づくりのあり方	越谷市教育委員会	主幹	田嶋　栄蔵	東松山市立南中学校	教諭	細村　洋介	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	教諭	加藤　智子		
13	通級による指導①（発達障害・情緒障害）	星美学園短期大学	准教授	遠藤　愛	富士見市立諏訪小学校	教諭	大木島　研	所沢市立泉小学校	教諭	坂本　條樹	中央小学校 3F－６松	13
	通級指導教室における発達障害・情緒障害のある児童生徒への支援のあり方	所沢市教育委員会	指導主事	伊東　真吾	川口市立元郷中学校	教諭	古賀　未来子					
14	通級による指導②（難聴・言語障害）	国際医療福祉大学	教授	畦上　恭彦	小川町立小川小学校	教諭	髙橋　一恵	上尾市立芝川小学校	教諭	髙野　智樹	中央小学校 4F－音楽室	14
	通級指導教室における難聴・言語障害のある児童生徒への支援のあり方	県立特別支援学校大宮ろう学園	教頭	楠見　弘樹	越谷市立大沢小学校	教諭	飛田　明子	さいたま市立日進小学校	教諭	坂田　成子		
15	重度・重複障害のある児童生徒への指導・支援（訪問教育・医療的ケアを含む）	県立特別支援学校羽生ふじ高等学園	校長	小池　浩次	県立和光特別支援学校	教諭	今井　信乃	県立和光特別支援学校	主幹教諭	永山　千洋	中央小学校 3F－２梅	15
	重度・重複障害のある児童生徒の理解と支援、及び医療との連携のあり方	県立大宮北特別支援学校	教頭	柴原　正明	県立日高特別支援学校	教諭	宇野　吉輝	県立日高特別支援学校	教諭	白石　優子		
16	幼児期の特別支援教育	発達支援教室ビリーブ 文教大学	代表 講師	加藤　博之	川越市立あけぼの・ひかり児童園	ひかり児童園 副園長	鈴木　清美	県立特別支援学校塙保己一学園	教諭	岩田　理恵	中央小学校 3F－２竹	16
	幼稚園や保育所における、一人一人のニーズに応じた早期支援と就学支援のあり方	皆野町教育委員会	主査	大澤　百代	学校法人 聖公会北関東学園 初雁幼稚園	園長	山本　由香里	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	教諭	丸山　碧		
17	高等学校における特別支援教育	星美学園短期大学	専任講師	太田　研	県立川越工業高等学校	教諭	知念　順治	県立川越工業高等学校	教諭	池田　なな子	中央小学校 3F－２松	17
	高等学校における特別支援教育の推進体制及び校内支援体制のあり方	県教育局県立学校部特別支援教育課	指導主事	田中　幸子	県立越生高等学校	教諭	田島　智裕	県立川越特別支援学校	教諭	斎藤　みち子		
18	特別支援学級での授業づくり入門	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	副校長	神田　佳明	熊谷市立熊谷西小学校	教諭 教諭	堀部　慧 杉浦　里奈	さいたま市立植竹小学校	教諭	三遠　梨那	中央小学校 3F－4梅	18
	特別支援学級における授業づくりの基礎と学級経営のあり方				川越市立霞ヶ関西中学校	教諭	古俣　亜沙子 松井　克成　市川 誉之	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	教諭	栗原　悦子		

⑷　第５回埼玉県特別支援教育みらいセミナー

長期研修派遣教員が学んだ先端研究や優れた教育実践に触れ、新たな特別支援教育の方向性を学ぶ機会として開催された。特別支援に関する研究成果を、教育実践と結びつけながらの発表で、意義深い会となった。

期　　日　平成29年12月２日㈯

会　　場　埼玉大学教育学部附属特別支援教育臨床研究センター

⑸　第47回埼玉県特別支援教育研究発表大会

特別支援教育にかかわる実践研究の成果を広く公募し、その中から、創意工夫あふれる優れた研究実践を紹介し、特別な配慮を必要とする児童生徒への教育の更なる充実・発展をめざしている。今回は、自立活動の授業づくりの取組、小学校の特別支援教育コーディネーターの取組、県立特別支援学校の地域連携（専門家）の取組についての実践研究の成果が発表された。

期　　日　平成30年１月26日㈮

会　　場　埼玉大学教育学部附属特別支援教育臨床研究センター

⑹　提案者等の推薦

第51回関東甲信越地区特別支援教育研究協議会

期　　日　平成29年８月９日㈬

第９分科会「教科別の指導（体育・保健体育）」

提案者：堀部　　慧

（熊谷市立熊谷西小学校　教諭）

杉浦　里奈

（熊谷市立熊谷西小学校　教諭）

司会者：森田　哲史

（埼玉大学教育学部附属小学校　教諭）

⑺　研究委嘱

＜委嘱年度28・29年度＞

①　戸田市立笹目小学校

「ユニバーサルデザインと学校づくり」

②　鴻巣市立松原小学校

「共に励み　共に学び　共に磨く松原の子の育成」

③　熊谷市立熊谷西小学校

「基礎基本を確実に身に付け、たくましく生きる児童の育成」

＜委嘱年度 29・30 年度＞

④　戸田市立笹目小学校

「ユニバーサルデザインと学校づくり」

⑤　戸田市立喜沢小学校

「望ましい集団活動を通して、心豊かに生きる児童の育成」

３　難聴・言語障害教育研究部会

「児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援の在り方を求めて」を目標として今年度は２回の研究協議会と２回の講演会を行った。講演会では１回目に東京学芸大学教育学部特別支援科学講座の　澤　隆史　教授による講話を聞き、難聴児への支援の在り方について理解を深めることができた。また、２回目は埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課教育指導担当（学級・通級）の　阿相　道子　先生による講演を聞き、特別支援教育の現状についての認識を深めることができた。

また、２回の研究協議会においては、５ブロックの分科会で、指導者を呼び理解を深めることや各学校の情報交換を行い教育活動の活性化を図ることなど充実した時間をもつことができた。

県内の通級指導教室のある小学校と大宮・坂戸ろう学園合わせて、64校127人の参加人数で研修を行うことができ、貴重な研究協議会となった。

○　具体的な研修内容

第１回　全体研修会
期日　平成29年４月25日㈫
会場　さいたま市立仲本小学校

［全体協議］平成29年度度研修計画立案及び役員選出

［50周年記念講演会］

テーマ「難聴児の自立を促す支援
－“今”の育ちを踏まえて－」

講　師　東京学芸大学教育学部特別支援科学講座
教授　澤　　隆史　氏

第２回　グループ別研修会
期日　平成29年６月20日㈫
会場　鴻巣市吹上生涯学習センター

【５つのグループ別研修のテーマ】

①構音グループ　　「課題別事例研修」
②吃音グループ　　講師を招聘して研修
「吃音がある子の理解と支援」
③難聴グループ　　「課題別事例研修」
④教室経営グループ「各市の教室経営の実態」
⑤50周年誌グループ「50周年誌の作成」

第３回　グループ別研修会
期日　平成29年10月17日㈫
会場　越谷市立大沢小学校

【グループ別研修のテーマ】

①構音グループ　　「構音指導」講師を招聘して研修」
②吃音グループ　　「大沢小学校実践発表」
③難聴グループ　　「レポート代表発表教材教具の紹介等」
④教室経営グループ「通級指導教室の設備及び備品について」
⑤50周年グループ　「50周年誌の作成」

第４回　役員研修会
期日　平成30年２月16日㈮
会場　川越市立川越小学校

［講演会］

テーマ「特別支援教育の現状と課題」

講　師　埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課
指導主事　阿相　道子　先生

［全体協議］①平成29年度の活動報告

②平成30年度の役員、活動計画について

4　発達・情緒障害教育研究部会

＜研究部研修テーマ＞

「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方」のもと、３つの分科会を設定し取り組んだ。

○（分科会Ⅰ）自閉症・情緒障害特別支援学級

○（分科会Ⅱ）発達障害・情緒障害通級指導教室

○（分科会Ⅲ）通常の学級における指導上の諸問題

【第１回研究協議会】

期　日　平成29年６月22日㈭

会　場　武蔵浦和コミュニティセンター　参加　78名

全体会　演題「特別支援教育担当者が知っておきたい神経心理学と子どもの神経発達」

発表者　所沢市立泉小学校　発達障害・情緒障害通級指導教室　教諭　坂本　條樹

特別支援教育の一形態である「通級による指導」は、平成18年４月より、学習障害（LD）および注意欠如・多動性障害（ADHD）のある児童生徒も新たに対象となり、指導を受ける児童生徒は年々増加している。これらの発達障害のある子どもの指導法をめぐっては、社会的技能訓練（SST）や学業スキルの習得など、よりよい指導法の創出を求めて研究が進められているが、いまだ発展途上にあるといえる。

その中で、所沢市の通級指導教室では、発達障害児の支援方法の一つとして情報処理アプローチに基づき、認知機能を向上させることを目的とした取組を行っている。この取組は、主に注意の集中・持続・プランニング・反応抑制の機能を訓練することで、認知機能だけでなく、学校適応に関わる諸機能が改善されることが示されている（神経行動教育）。これらの取組に対して、脳科学的手法を利用した客観的生理指標・行動指標による効果のエビデンスも蓄積されつつある。

本研修会では、認知神経科学の礎となった神経心理学について、人間の情報処理の仕組みを感覚・知覚の側面から概説するとともに、発達の段階における質的変化を交えて発表いただいた。

分科会Ⅰ自閉症・情緒障害特別支援学級（参加15名）

自閉症・情緒障害特別支援学級の対象の知的障害のない自閉症等の児童生徒の教育課程について各地の特別支援学級での取組や現状について意見交換を行った。

分科会Ⅱ通常の学級や通級による指導での発達障害児の指導（参加55名）

通級指導教室における経験年数や各地域の偏りが生じないようにグループを編成して、今回の役員ならびに経験年数が長い担当者がファシリテーターとなって各グループを担当し、通級指導に関して、教室運営の方法や指導法について意見交換を行った。

分科会Ⅲ学級担任・特別支援教育コーディネーター

はじめて特別支援教育コーディネーターを指名された先生方や通常の学級担任で特別支援を要する児童生徒を担任している先生方でグループを編成し、本会役員が状況に応じて助言を行った。（参加８名）

【第２回研究協議会】

期　日　平成30年３月９日㈮

会　場　所沢市立並木小学校　　参加者　70名

講演会　「ペアレントトレーニングの実際」
～子育てに困っている保護者を協力者から協働者にするコツ～
埼玉県スクールカウンセラー
臨床心理士　美和健太郎　氏

特別支援教育を担当するものにとって保護者支援は、直接的な児童生徒の指導ではないが、担当教員の重要な仕事の一部となっている。また、子どもの行動変容にとって保護者と協働関係であたることは、効果的な指導を進めるにあたって不可欠である。美和先生からは、子どもの対応に関して困っている保護者を対象としたペアレントトレーニングの実際と、特別支援教育担当者が教員として保護者に指導助言する際の留意点や勘所を実技・演習を通してご指導いただいた。

5　特別支援学校部会（９つの研究部会）

各研究テーマのもと外部講師の招聘や実技研修も交え、取り組んでいる。

［国語］「生活を豊かにする国語の指導」

［算数・数学］「発達の段階に応じた指導法について」

［日常生活の指導］「生活力を身につけ、高める日常生活の指導」

［生活単元学習］「どの子も主体的に活動できる生活単元学習」～テーマのある学校生活を目指した授業（生活）づくり～

［作業学習］「生徒の実態に即した作業学習」

［自立活動］「個の障害特性・ニーズを踏まえた自立活動の充実」～アセスメントを活かした授業づくり～

［体育］「よりよい授業づくりを目指して」～授業をとおして運動の経験を積み重ね、卒業後の生きがいにつながる指導の工夫～

［音楽］「豊かな表現力を育てる音楽教育」～児童生徒一人一人の力を高め、互いに学び合える授業の工夫～

［図工・美術］「一人一人が主体的に楽しめる図工・美術」（各部会の研究内容：本会発行の会報50号を参照）

6　今後の課題

全ての教育機関において「特別支援教育」の必要性が叫ばれ、インクルーシブ教育システムの構築が課題となっている。本会の研究協議会の参加者は、幼・小・中・高の全ての校種、特別支援学級、特別支援学校の教員に加え通常の学級の教員や管理職まで幅広い。今後とも広い教育現場での特別支援教育のニーズに、最も応えられる団体としての充実と貢献が必要である。

16 学 校 図 書 館 教 育

埼玉県学校図書館協議会

Ⅰ　研究主題

「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造」
～主体的・協働的な深い学びを支える
学校図書館教育～

Ⅱ　主題設定の理由・方針

現行学習指導要領では、「生きる力」の育成をめざし、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むことが求められている。

また、各教科等を通じて児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図ることとしている。その中でも、読書活動は、児童生徒の知的活動を増進し、豊かな心と確かな学びを育むとともに、人間形成・情操や情報活用能力を養う上で重要である。全教育活動を通し、児童生徒の望ましい読書習慣や図書館等を活用する学習習慣をつけるため、学校図書館を計画的に利用して、多様でしかも創意工夫した学習指導の展開を図ることが必要である。

さらに、次期学習指導要領の柱である「主体的で、協働的な学び」についての理解と学校図書館の果たすべき役割についても研究を深めていくことが急務である。

そこで、本年度は、学習指導要領の趣旨に基づき、主体的・協働的な深い学びを支える学校図書館の研究を最重要課題に設定し、研究大会や読書感想文コンクールをはじめとする諸事業の一層の充実を図ることとした。

1　活動方針

⑴　管理運営：学習・情報センターとしての学校図書館の充実
　①　学校図書館全体計画
　②　年間経営計画
　③　小中・地域連携全体計画の見直し

⑵　利用指導：学び方を学ぶ情報活用能力を育成する指導の在り方
　①　学び方指導計画、情報メディアを活用する学び方体系表
　②　利用指導年間指導計画の見直し
　③　学校図書館活用事例を付記した各教科等年間指導計画例の提案

⑶　読書指導：生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導の在り方
　①　読書指導の全体計画体系表
　②　読書指導年間指導計画
　③　小中連携の系統表

⑷　地域連携：学校、家庭、地域社会等の連携による読書活動の推進の在り方
　①　学校・家庭・地域等（図書館ボランティア等）の連携の体系表
　②　家庭教育との連携
　③　公立図書館等との連携推進

2　各部の事業概要

⑴　事務局……事業の計画・実施・評価、各会議の開催手続、年度資料ファイル管理、一般会計、会計監査等

⑵　総務部……読書感想文コンクール、読書感想画コンクールの企画・運営、表彰式の企画・運営

⑶　研究部……活動方針と努力点の計画・実施、研究員協議会、研究大会、授業研究会の企画・運営・管理・記録、研究刊行物の再編集

⑷　情報部……広報誌のための基礎資料収集と発行、ホームページの管理

⑸　出版部……研究集録・感想文集「真珠」の編集・発行、刊行物の企画・運営・管理等

3　活動状況

５月12日㈮　第１回本部役員研修会
　会場：朝霞市立朝霞第六小学校
６月２日㈮　新旧役員研修会（総会）・理事会
　本部役員会・第１回研究員研究協議会
　会場：越谷市中央市民会館
７月４日㈫　第２回研究員研究協議会
　会場：越谷市中央市民会館
７月28日㈮　埼玉県学校図書館研究大会
　会場：越谷市北部市民会館
　共催：埼玉県図書館協会
８月８日㈫・９日㈬
　関東地区学校図書館研究大会

群馬大会へ参加
11月24日㈮　第63回読書感想文コンクール
県中央審査会
会場：三郷市立彦糸小学校
12月１日㈮　授業研究会（中学校）及び
第２回本部役員研修会
会場：さいたま市立常盤中学校
指導者：深谷市教育委員会指導主事
柴﨑　勇二　氏
授業者：新井　俊之　教諭
内容：『竹取物語』の壁新聞発表会
１月16日㈫　第29回読書感想画コンクール
県中央審査会
会場：さいたま市立美園小学校
来賓：毎日新聞さいたま支局
支局長　松下　英志　氏
埼玉県教育局義務教育指導課
指導主事　小峰　　元　氏
さいたま市立与野西中学校
校長　中川　昇次　氏
さいたま市うらわ美術館
指導主事　脇元　重彰　氏
１月30日㈫　第３回研究員研究協議会
会場：越谷市中央市民会館
２月16日㈮　読書感想文・感想画コンクール表彰式並びに第２回理事会
会場：越谷市北部市民会館
３月10日㈯　第２回本部役員会（予定）
会場：朝霞市立朝霞第六小学校

☆　研究集録　発行
☆　感想文・感想画集　「真珠」発行
☆　広報誌「埼玉SLA」発行

Ⅲ　本年度の主な研究内容

１　埼玉県学校図書館研究大会

平成29年７月28日㈮　越谷市北部市民会館にて、埼玉県学校図書館協議会・埼玉県図書館協議会の共催による「埼玉県学校図書館研究大会」を、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会の後援を受け開催した。当日は、「豊かな心と学びを育む学校図書館の創造」をテーマに、午前に講演を１本、午後は全体講義を１本と４分科会に分かれての研究会を行った。小・中・高校の司書教諭や学校図書館・公立図書館の関係者が多数参加し、有意義な大会となった。

＜講演会＞

「ファンタジーとリアルのあいだ」
講師　児童文学作家　　戸森　しるこ　氏

『ぼくたちのリアル』は、３人の男の子の友情＋αの物語。私の友人にプロの漫画家がいて、その人の描いた子どもの絵を見ていたら、主人公が動き出した。わたるから２人を見る形。私にとって、作品はパズルに似ている。そして、書き出しと結末が大事で、これは、最初に決まっている。しかし、結末が変わることもある。最初は、リアルとわたるが高校生で再会するストーリーだった。小学校で終わると、２人がどうなったのか想像できる。また、続編の可能性も。

空想は現実に勝てない。私はリアリズムの作家と言われるが、ファンタジーを書いているつもりで、それは、リアリズム寄りのフアンタジーと言える。

『ぼくたちのリアル』という作品を子ども達にどう渡したらよいか。作家としてこういう子に渡してほしいというのはない。キャラクターのとりこになって３人と友達になってもらいたい。

＜全体講義＞

「学校で行うビブリオバトル」
講師　春日部女子高校　主任司書　　木下　通子　氏

ビブリオバトルの原型は、2007年に発案者　谷口　忠大　先生が京都大学情報学研究科共生システム論研究室で、「即興性」を大切にして、みんなが探してきた本を、レジュメもなく紹介し合ってその中で一番いい本を紹介し合う勉強会にあった。

ビブリオバトルを学校で行うメリットは、本を通して人を知る、人を通して本を知ることにある。

ビブリオバトル公式ルール

１　発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
２　順番に一人５分間で本を紹介する。
３　それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを２～３分間行う。
４　すべての発表が終了した後に「どの本が一番読んでみたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

学校で行うポイント

１　バトラー（発表者）が紹介したい！と思った本を選ぶ。
２　必ず、５分間を使う。
３　話すための原稿は生徒が用意し、本番は見ない。
４　ディスカッションタイムが重要。
５　必ず投票をする。

＜分科会＞

分科会Ａ（管理運営）

「学校図書館の運営と充実」

提案発表者

所沢市立宮前小学校　　江原　美華　教諭

所沢市立上山口中学校　荒川　琴美　教諭

江原教諭は、１年間の学校図書館の運営について、司書教諭として、図書ボランティアや市立図書館司書との連携、図書委員会の活動の取組を発表した。子ども読書の日前後のポスター掲示、３年生への読み聞かせなどの諸活動、読書月間の児童集会発表、サマースクールでの図書委員の読み聞かせ活動が行われている。宮前小独自の課題図書を設定し、学級に配置している。学校図書館年間カレンダーにより、誰でも、何に取り組んでいるかがわかるようにしている。

荒川教諭は、「いごこちのよい図書館を目指して」と題して、学校司書と司書教諭連携の、学校図書館運営を発表した。新入生のガイダンスは教科担任と学校司書のＴＴで行っている。活動が継続して行われる素地が作られているので、委員会の活動はスムーズである。

分科会Ｂ（利用指導）

「学校図書館を活用した情報活用能力の育成」

提案発表者

幸手市立幸手小学校　　山田　瑞貴　教諭

越谷市立東中学校　　古舘　恵里　教諭

山田教諭は、学校図書館の利用についてのオリエンテーションと、各学年の教科で実践した授業について発表した。今年度からのデータベース化を受け、全学年でオリエンテーションを行った。第５学年国語科での著作権の学習では、担任と役割演技をしたり、公益団体のICT教材を活用したりして「作り手を守るためにあるルール」である著作権について児童の理解を深めることができた。

古舘教諭は、学校図書館利用についてのオリエンテーション、日本十進分類の定着に向けた取組、総合的な学習の時間の中での活用について発表した。国語の基礎学習力定着のためのミニテストに、年２回日本十進分類を入れている。調べ学習では、テーマ設定の資料や生徒の記録カードを紹介し、情報を活用する力の育成の重要性について議論を交わした。

分科会Ｃ（読書指導）

「生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導」

提案発表者

八潮市立中川小学校　　藤本　智香　教諭

川口市立領家中学校　　諸田　祐介　教諭

藤本教諭は、学校と八潮市の取組について発表した。中川小学校では月曜日・水曜日の朝活動で読書タイムに取り組んでいる。１年生へは、６年生が読み聞かせに入って、学校図書館活用に向けて準備を始めている。低学年への地域ボランティアによる読み聞かせでは、エプロンシアターを実施するなどして子どもの興味を引く工夫がされている。

諸田教諭は、読書活動の可視化が重要であると捉えた活動を発表した。「みんなで千羽鶴」と「いいね！ブック」の取組は、どちらも生徒ばかりでなく、教員も巻き込んだものになっている。それにより、学校図書館の活用がより活性化されている。

分科会Ｄ（地域連携）

「連携による読書活動推進の在り方」

提案発表者

三郷市立戸ヶ崎小学校　　佐々木麻衣　教諭

越谷市立図書館　　太田　秀子　主幹

後藤　文恵　主任

佐々木教諭は、公立図書館との連携、地域・家庭との連携について発表した。学校図書館の蔵書をカバーするために市立図書館の「学級文庫お楽しみセット」団体貸し出しやリサイクル本を活用している。調べ学習の際、指導員の派遣も依頼している。

太田主幹・後藤主任は、越谷市の主な児童サービスと学校との連携について発表した。児童サービスでは、広報紙・おすすめ本リストの作成・配付、おはなし会実施、布絵本の作製、読み聞かせ講座、児童文学講演会の実施をしている。学校との連携では、団体貸出、市立図書館の見学会、調べ学習の相談、ブックトーク、所管本の提供、学校図書館運営ボランティア対象講座、社会体験の受け入れを行っている。

２　授業研究会（中学校）

期　日：12月１日㈮

会　場：さいたま市立常盤中学校

内　容：『竹取物語』壁新聞発表会

授業者：司書教諭　　新井　俊之　教諭

指導者：深谷市教育委員会

指導主事　柴﨑　勇二　先生

３　第63回読書感想文コンクール県中央審査会

期　日：11月24日㈮

会　場：三郷市立彦糸小学校

最優秀賞受賞者
≪読書感想文≫
◎課題読書
小低
上尾市立東町小学校　１年　前田　浬沙
作品名　わたしはばあばっこ
小中
新座市立野火止小学校　３年　並木　　格
作品名　「干したから…」を読んで
小高
さいたま市立常盤小学校　５年　鈴木　桜子
作品名　間ちがえながら生きていく
中学校
飯能市立加治中学校　２年　池田　　睦
作品名　「円周率の謎を追う」を読んで
◎自由読書
小低
さいたま市立大谷小学校　１年　森　　奏汰
作品名　なまえはすてきだよ
小中
日高市立高萩小学校　３年　金嶋　　響
作品名　みてろよ！父ちゃん!!
小高
草加市立新田小学校　５年　西塚　はる
作品名　　心に咲かせる
中学校
越谷市立中央中学校　３年　大内　綾乃
作品名　真実を受け継ぐ

４　第29回読書感想画コンクール県中央審査会

期　日：１月16日㈫
会　場：さいたま市立美園小学校

最優秀賞受賞者
≪読書感想画≫
◎指定読書
小低
三郷市立吹上小学校　２年　山口　美緒
小高
さいたま市立沼影小学校　５年　山田　眞子
中学校
熊谷市立三尻中学校　２年　田中　孝枝
◎自由読書
小低
熊谷市立熊谷西小学校　３年　坂本　陽花
小高
三郷市立新和小学校　６年　河野　瑠星
中学校
上里町立上里北中学校　１年　中藤　愛乃

Ⅳ　成果と今後の活動

夏季休業中の研究大会には多数の参加者があり、「主体的・協働的な深い学び」に果たす学校図書館と読書活動の役割について多様な視点から学ぶことができた。また、２月に感想文・感想画コンクールの表彰式と理事会を持ち、１年間のまとめと次年度に向けての準備を行うことができた。

昨年度まで合本であった研究紀要と読書感想文・感想画優秀作品集「真珠」を分け、『真珠』を各校で購入できるようにした。広報誌「埼玉SLA」を刊行した。

課題として、研究部員の確保と各部の活動のさらなる改善が必要である。ホームページの試行、役員・研究員のネットワーク化も、引き続き、工夫改善の余地がある。来年度も、各地区理事や研究員と綿密に連携し、学校図書館教育の充実をなお一層図っていきたい。

17　中学校技術・家庭科教育

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会

Ⅰ　はじめに

技術・家庭科のねらいの具現化に向け、題材計画の検討および題材開発検討を行い、実践研究を進め、その研究成果を県内各中学校の技術・家庭科の教育活動に広げ、生かす取り組みを行ってきた。また、全国研究大会と７ブロックの研究大会を中心とする教科の研究と、生徒の学習成果の発表の場として設定されている「創造ものづくり教育フェア」の開催・運営を活動の両輪として教育実践を進める形が全国的な動きとなっているなか、本県でも同様に運営と広報の体制を整備し、フェア関係事業の拡張を意識した取り組みを行っている。

Ⅱ　研究主題

本県研究テーマ
「次代を担い、
　　社会を生き抜く力を育む学習指導の研究」

本年度は、昨年度に実施された関ブロ埼玉大会の成果検証の年と位置付け、これまで研究を進めてきた「次代を担い、社会を生き抜く力を育む学習指導の研究」というテーマのまとめを行った。

Ⅲ　本年度の研究内容・活動状況

１　研究方針・研究体制

⑴　県内を11支部に分け、各支部より専門委員を選出し、指導内容等による分科会を配置し、研究について情報交換を行いながら、研究発表を行う体制を作る。

⑵　専門委員会の活動を中核とし、各支部でリーダーシップをとった技術・家庭科教育の充実を図る。

⑶　昨年度までの研究成果と課題を基に、現行学習指導要領から次期学習指導要領への円滑な移行も意識しながら実践研究を進める。

⑷　現行学習指導要領の趣旨の具現化につながるよう、各支部で授業研究会等を推進する。

⑸　各校の技術・家庭科の授業実践に活かせる資料を可能な限り検討及び作成・収集する。

⑹　平成27年度より継続して実施してきた研究の成果をまとめた。

また、９部会
①材料と加工に関する技術部会
②エネルギーの変換に関する技術部会
③生物育成に関する技術部会
④情報に関する技術部会
⑤家族・家庭と子どもの成長部会
⑥食生活と自立部会
⑦衣生活・住生活と自立部会
⑧身近な消費生活と環境部会
⑨教育課程部会）

ごとに、学習指導要領の趣旨に則った年間指導計画及び評価計画を新学習指導要領も意識した形で再度作成し、その中からの授業実践や、授業提案を取り上げながら研究を進めると共に指導力向上を図った。

また、創造ものづくり部会を別に設け、フェア運営の充実を図った。

２　研究経過・活動の概要

⑴　専門委員会

①　第１回専門委員会
６月20日㈫　県民活動センター
○平成28年度　活動報告
○平成29年度　研究概要の説明・周知
○研究の検討及び進め方について

②　第２回専門委員会
８月22日㈫　ハストピア
○全体会（今後の研究の見通しについて）
○各分科会の研究協議
（今後の研究の方向性・実践予定の検討）
○文部科学省教科調査官（技術分野）講演

③　第３回専門委員会
11月28日㈫　県民活動総合センター
○全体会（確認事項及び事務連絡）
○各分科会の研究協議
（研究集録の確認・今後の研究について）
○ものづくりフェア関東大会に向けた準備

④　教員研究発表会
２月20日㈫　ハストピア
○各分科会で工夫し創造する能力を意図的に育む授業を軸に検討した年間指導計画及び評価計画による授業研究成果の検証について発表（全体

提案及び９分科会）
○文部科学省教科調査官（家庭分野）講演
埼玉大学教育学部教授（技術分野）講演

⑵　支部長研修会
①　支部代表者会
５月17日㈬　県民活動総合センター
○理事会・総会
②　支部長研修会
９月16日㈮　県民活動総合センター
○２学期以降の諸事業運営検討
○関ブロ新潟大会に向けた準備
○ＳＡＩＴＡＭＡ創造ものづくり教育フェア運営について
③　支部長研修会
３月７日㈬　県民活動総合センター
○平成29年度事業報告
○平成29年度会計報告・監査報告
○平成30年度事業計画

⑶　ＳＡＩＴＡＭＡ創造ものづくり教育フェア
11月10日㈮　県民活動総合センター
＜後援＞埼玉県教育委員会　さいたま市教育委員会
川越市教育委員会　越谷市教育委員会
＜趣旨・目的＞
○ものづくりの発表を通して、生徒が知識や技術を習得・活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。
○技術・家庭科で習得した知識や技術を生かし、生徒がつくる喜びや仲間と共同して競技をする喜びを味わう機会とする。また、発表の場を通して、他校生徒との交流を図り、併わせて知識や技能の向上を図る。
○「ロボットコンテスト部門」、めざせ！「木工の技」チャンピオン部門、「豊かな生活を創るアイデアバックコンクール部門」「あなたのためのお弁当コンクール部門」「生徒作品コンクール部門」共に、第18回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する大会を兼ねるものとする。上記の第18回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する５部門と「生徒研究発表会部門」の計６つの部門からなる大会運営を実施した。県研究会のＷｅｂページや県専門委員会でのＰＲ等の広報活動を行った。今後とも各部門での多くの参加者･出品数となるように研究会としても検討していきたい。

①　生徒研究発表部門
身近な問題や、タイムリーな話題となっている事柄を研究テーマに設定し、担当の技術・家庭科教師による指導のもとで各支部代表生徒による研究発表会が行われた。生徒が日々直面している生活の中から、疑問に思っていることがらの解明や生活する上での工夫等が多く取り上げられた。発表の仕方についても自信を持ってはっきりとした口調で話し、実物の提示や実演など研究内容が聞き手にわかりやすく伝わるよう各自で工夫を凝らし、しっかりと準備をしてこの会に臨んだ様子がうかがえた。聞き手も立派な態度で各研究について聞き入っていた。
＜講評＞
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
主任指導主事　酒井　一昭　氏
②　埼玉ロボットコンテスト部門
全国大会へつながるルールと、県内のローカルルールを合わせて毎年８種類以上の競技が行われる。
トーナメント部門
Ａ　ワン・ツー・チャンス
Ｂ　あっち行けポイ
Ｃ　ロボット・オリエンテーリング
Ｄ　コンピュータ制御プログラミング
Ｅ　ロボサッカー
全国部門
Ｆ　全国基礎部門「はじめてのおつかい2017」
Ｇ　全国活用部門「take of colorball?」
Ｈ　全国応用部門「つむつむライン」
Ｉ　全国動画部門

Ｆ・Ｇ・Ｈの各部門については部門毎に４チームが、関東甲信越地区埼玉大会への代表としてそれぞれ出場することになった。
得点至上主義に走らず、互いの良さやアイディアを評価し合おう。」というスローガンを掲げ、勝敗にこだわらず、お互いのアイデアを認め、学びあいの場となるよう配慮している。
＜審査員＞
埼玉県総合教育センター
指導主事　山本　智広　氏
埼玉大学　准教授　荻窪　光慈　氏
春日部市立大沼中学校　教頭　安藤　義仁　氏
東松山市立東中学校　教頭　岡部　成志　氏
③　めざせ！「木工の技」チャンピオン部門
授業で習得した知識や技能を活用して、材料等

の制約条件の中で作品を考え、構想図をもとに製作した作品を募集したが応募がなかった。現行の学習指導要領において実践していくことは難しく、どのような形で募集を募るのか検討をしていく必要がある。

④　生活を豊かにするアイデアバックコンクール部門

これまで生徒が身に付けてきた知識と技術を生かして製作した作品とレポートをもとに審査を行い、関東甲信越地区埼玉大会への代表選考が行われた。上位２作品を選出し、関東甲信越大会へエントリーした。

⑤　あなたのためのお弁当コンテスト部門

食材や献立を、お弁当を作る対象に合わせて思いやり、工夫して調理に当たるコンテストとなる。全国大会と同様に実際に調理を行い、審査を実施した。最優秀作品は全国大会へエントリーした。

＜審査員④⑤＞

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　佐藤　朋子　氏

さいたま市教育委員会

指導主事　加藤　順子　氏

⑥　生徒作品コンクール部門

全県から作品を募集し、県の研究会で全て審査し、県代表の選出を行なっている。技術分野と家庭分野で授業内製作作品（Ⅰ部門）、自主製作作品（Ⅱ部門）、家庭分野より合計５点を選出し、全国大会へエントリーした。提出される作品の質が年々低下しており、どのように質と量を高めていくかは今後の課題である。

＜審査員＞

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

主任指導主事　酒井　一昭　氏

⑷　第18回全国中学生創造ものづくり教育フェア

関東甲信越大会埼玉大会

12月３日(日)　ウイングハット春日部

＜後援＞　埼玉県教育委員会　さいたま市教育委員会

川越市教育委員会　越谷市教育委員会

＜共催＞　春日部市教育委員会

＜趣旨・目的＞

○ものづくりの発表を通して、生徒が知識や技術を習得・活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。

○関東・甲信越地区におけるロボットコンテスト、アイディアバッグコンクールの全国中学生創造ものづくり教育フェア出場者を決める予選を開催する。

ロボットコンテスト、アイディアバッグコンクールの運営を行った。ロボットコンテストにおいて本年度は、例年に比べ公開の仕方に工夫を凝らし、各都県より大盛況であった。次年度以降の県大会では、同様の見せ方で行い、県内の参加率の向上に努めたい。

(5)　第18回全国中学生創造ものづくり教育フェア
　１月20日(土)・21日(日)
　第一会場　葛飾区水元総合スポーツセンター
　　生徒作品コンクール他
　第二会場　女子栄養大学駒込キャンパス
　　あなたのためのお弁当コンテスト

各都道府県の大会からブロック大会を経て、全国大会に至る一連の流れの最高位となるフェアの全国大会が東京都内二会場にて開催された。盛大に技術・家庭科の学習成果発表ができた。

(6)　埼玉県発明創意くふう展
　10月28日(土)・29日(日)
　さいたま新都心ビジネス交流プラザ

本年度も各地区より集まった作品を公開し、本研究会としては、埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞を８名に授与する形で携わった。

Ⅳ　成果と今後の課題

今年度の関東フェア埼玉大会では、フェアの在り方について新たな形を埼玉県として示すことができ、結果全国大会にもその域を広げることができた。研究に関しては、専門委員会の部会において、これまでの研究成果について細かく検証し、次年度以降の新学習指導要領における先行実施に向けた準備を県全体で進めることができた。

今後は、学習指導要領の改訂に向けて多くの学校での指針を示すべく、実践事例等を発信していきたい。

18　小学校家庭科教育

埼玉県小学校家庭科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」

－身近な消費生活と環境への関心を高め、関わり合い、学び合う中で主体的に生活を工夫する力を育てる家庭科学習－

2　方針

本研究会は、昭和58年度に「第１回関東ブロック大会」、昭和63年度に「第25回全国大会、第６回関東ブロック大会」、平成11年度に「第17回関東ブロック大会」、平成24年度に「第29回関東ブロック大会」を開催した。その成果は年度を追って充実、発展しつつ今日に受け継がれている。

今年度の研究を推進するに当たって、昨年までの本研究会の研究成果と課題を踏まえながら、自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成をめざし、研究指定地区東部（北埼玉地区）とし研究を推進することとした。

具体的には、東部（北埼玉地区）の家庭科教育研究会を核とし、授業研究を中心とした実践的な研究を展開していく。

3　研究主題について（埼玉県研究主題）

⑴　児童の実態と課題

児童の実態調査から本地区の児童は、家庭科の学習が好きで家庭生活への関心や意識が高いことが伺える。しかし、実生活へと目を向けてみると、学んだ知識及び技能を自分の生活に生かしきれていない傾向にある。特に、内容Ｄ「身近な消費生活と環境」は、他の内容と比べると関心・意欲、家庭での実践ともに低い傾向にある。そこで、社会での学習「４年　ごみのゆくえ」や道徳の内容項目「節度、節制」、総合的な学習の時間の「環境に関する学習」など他教科と関連を図り、自分の生活に生かしていける児童を育成することが課題となっている。

⑵　家庭科で育みたい児童の姿

本研究では、内容Ｄ「身近な消費生活と環境」を中心として内容Ａ「家庭生活と家族」、内容Ｃ「快適な衣服と住まい」の学習と関連させ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成をねらいとしている。児童にとって実際の生活場面を設定し学習することで、自分の家庭生活における消費生活と環境への関心を高め、よりよい物やお金の使い方を理解し、自分で考え、実践できる児童を育てたいと考えた。そのために、自分の課題解決に向け、自分の考えをもって他の児童と学び合ったり、ゲストティーチャーのアドバイスを参考にしたりして、自分の考えを再構築できる学習過程が必要であると考えた。平成24年８月には、消費者教育推進法が制定され、変化の激しいこれからの時代の課題としても、社会の中で消費者としての素地を身に付けることが大きく求められている。小学校家庭科ではぐくみたい児童の姿は、消費生活に関する知識を習得し、適切な行動に結び付けることのできる児童である。そこで、小学校家庭科では主体的に生活を工夫する力を育成し、中学校へつなげていきたい。

⑶　次期学習指導要領を見据えた授業改善

次期学習指導要領の改善方針では、家庭科で育成することを目指す資質・能力を次のように捉えている。「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ、生活の中の様々な問題から課題を設定し、その解決を目指して解決方法を検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善するという活動の中で思考・判断・表現することで育成できる。

そのために、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点の授業改善が求められている。家庭科における「生活の営みに係る見方・考え方」とは、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」と整理されている。内容Ｄを中心に捉えた本研究では、他の内容と関連を図る中で消費生活や環境に配慮した生活の仕方を「もったいない、シンプルライフ、エコライフ」というキーワードを使って、学び合い、協働して考えることで持続可能な社会の構築の視点で自分の生活を工夫できることを意識付け実践させたいと考えた。

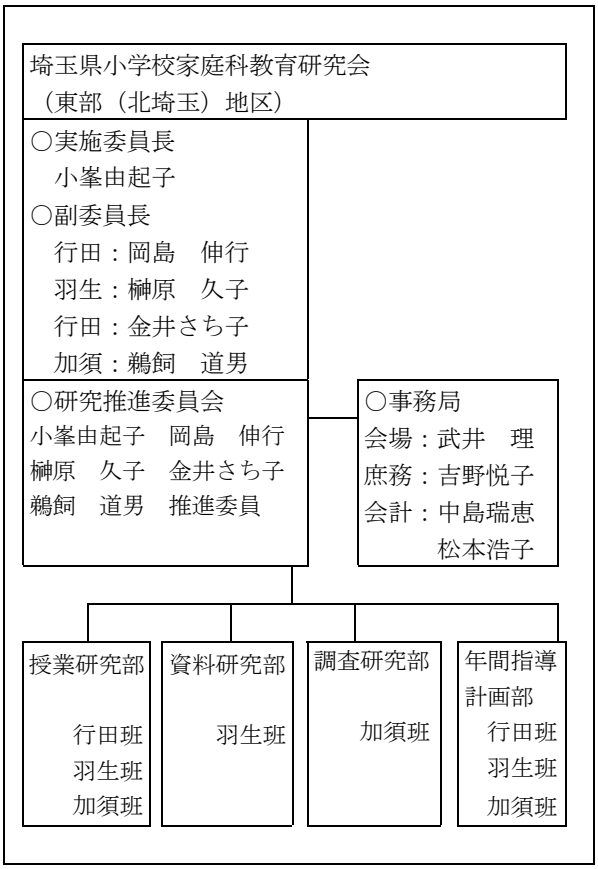
Ⅱ　研究概要について

1　研究の方法

⑴　研究の基本的な考え方

研究主題及び副主題に迫る実践的な研究をする。

⑵　研究組織



2　研究の内容

＜目指す児童像＞

○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けている子

○自ら課題を見い出し、学び合う中で学んだことを活用して解決できる子

○家族の一員として、生活をよりよくしようと実践できる子

＜研究の視点＞

以下の４つの視点から、それぞれ具体的な手立てを立て、研究を進めた。

視点１　５年間を見通したカリキュラム（内容Ｄを中心に）の作成

＜手立て＞

⑴　小・中の段階的、系統的な題材の開発と配列

⑵　キーワード（もったいない、シンプルライフ、エコライフ）でつないだ題材の開発

⑶　内容Ｄと他の内容や他教科との関連を明確にしたカリキュラム

視点２　関わり合い、学び合う中で確かな学力を育む指導方法の工夫

＜手立て＞

⑴　学び合いの中で基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用できる問題解決的な学習の工夫

⑵　主体的、協働的に活動するための学び合いの過程の工夫

⑶　自分や集団の考えを広げる学び合いの工夫

視点３　個を伸ばす評価の工夫

＜手立て＞

⑴　一人一人の思考の深まりを評価するワークシートの工夫

⑵　知識及び技能の確実な習得を図る評価の工夫

⑶　多様な評価方法の工夫

視点４　中学校、家庭・地域との連携

＜手立て＞

⑴　中学校教諭と連携した学習の工夫

⑵　家庭・地域と連携した学習の工夫

⑶　家庭実践の位置付け

3　研究の成果と課題

＜研究の成果＞

○「もったいない　シンプルライフ　エコライフ」を２年間の学習を貫く視点として年間指導計画を作成したことにより、衣・食・住生活を消費生活と環境に関連させて繰り返し学習したことが、実生活へと結びついた。さらに、『５年間を見通した「内容D消費生活と環境」に関する題材と消費生活・環境の指導のポイント』を作成したことで、どの題材で、系統的に何を指導すべきか明確となり指導に役立った。また、題材を通しての「学びのあしあと」が、１時間の授業での見通しと振り返り、題材の見通しと振り返りを行うのに有効的であり、主体的な学習につながった。

○学び合いの過程を繰り返してきたことで、児童は課題解決の方法を身に付けてきている。その変容

した姿は、ワークシートの記述からも見取ることができた。

○１時間ごとの評価規準とその方法を明記し、評価基準を設定したことにより一人一人の評価を適切に行うことができた。また、知識及び技能の確実な習得を図るために繰り返し評価を位置付けたことで、「努力を要する」状況（C）の児童への手立てにより確実な定着を図ることができた。

○中学校教諭との連携では、児童の興味・関心や中学校家庭科への期待の高まりを実感することができた。また、家庭との連携では、様々な情報発信と家庭実践への協力やコメントの記入を依頼したことが、実生活への実践につながった。

＜研究の課題＞

○問題解決的な学習過程の「みつめる・さぐる・実践・深める・いかす」のさらなる深化を図る。特に、課題の設定において、問いを導き出す等の工夫を行ってきたが、「みつめる」場面で自分の課題の深まりやそれを発展させることまでには至らなかった。

○学び合いを深めるための板書（思考の視覚化）の工夫、発表のさせ方、ＩＣＴの活用、教師の言葉かけ等研究を進める中で、全員が深い学びにつながるような主体的な活動を行わせることの難しさを感じた。

○今後も家庭との連携を充実し、学校で学習したことを活用して実生活に生かしていくことを家庭実践を通して継続的に働きかけていく。さらに、地域との連携方法を探り、開かれた教育課程をめざす。

Ⅲ　平成29年度埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動

１　平成29年度　研究組織

相　談　役	染谷　和美（東部）	
会　　長	田中　恵子（西部）	
所属研究部	副会長（部長）	監事（副部長）
研　修　部	長島　淑子（さいたま）	棚村かおり（北部）
	渋谷　恵子（さいたま）	－
調査研究部	小峯由起子（東部）	井上　千春（南部）
広　報　部	金田　佳子（北部）	井深　道子（北部）
庶務会計部	榊原　久子（東部）	鈴木　美幸（東部）
専門委員会	茂呂　尚美（南部）	池田智恵子（西部）
	幹事 吉田みゆき　横家　知世　髙橋容史子	

地区理事　62名

（常任理事24名含　常任理事は研究部に所属する）

専門委員　14名

研　修　部　部長：長島　淑子

・研修会の計画及び運営

・児童研究発表会の計画及び運営

・研究集録の編集及び発行

調査研究部　部長：小峯　由起子

・全国調査の協力

広　報　部　部長：金田　佳子

・小家研会報の作成

庶務会計部　部長：榊原　久子

・文書作成及び発送

・総会、常任理事会、研修会等の要項作成

専門委員会　部長：茂呂　尚美

・学習指導の実践に関する研究

２　研究会活動状況

(1)　平成29年度役員研修会並びに講演会

平成29年６月６日㈫

＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校

①　役員研修会

・平成28年度事業報告

・４部会・専門委員会の活動報告

・平成28年度決算報告・監査報告

・役員の補充・新役員の承認

・平成29年度事業計画、平成29年度予算案

・４部会・専門委員会の活動計画

・全小家研の入会について

・研究指定地区の研究の概要

②　講演会

講師　県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　　佐藤　朋子　先生

演題「これからの家庭科教育について」

＜内容＞

１　新学習指導要領実施に向けて

＜育成を目指す　資質・能力＞

２　家庭科と「主体的・対話的で深い学び」

①主体的な学び

②対話的な学び

③深い学び

３　小学校家庭科　新学習指導要領＜内容＞

４　これからの家庭科教育＜家庭科の実践課題＞

(2)　夏季研修会

平成29年８月２日㈬

＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校

① 全体会
・発明創意くふう展について
・家庭科教育研究協議会について
・児童研究発表会について
・地区別授業研究会の計画について
・４部会の活動
② 平成29年度地区別授業研究会実施発表会
③ 講演会
講師 埼玉大学教授 川端 博子 先生
演題 「ＩＣＴの活用とその効果」
－布を用いたものづくり学習の授業事例－

(3) 第48回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会
平成29年10月31日㈫
＜会場＞ 行田市立埼玉小学校
① 研究授業並びに研究協議会
・題材名「すっきりさわやか快適生活 物やお金を大切に ～もったいないでシンプルライフ～」
５年１組授業者 池田 まり 教諭
・題材名「家族や地域の方のためにエコパーティーを開こう」
６年１組授業者 亀屋 寛尚 教諭
② 記念講演
文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 筒井 恭子 先生
演題「これからの家庭科教育」
③ 研究集録第48集の発行
平成２年度から研究指定地区研究の成果のまとめと埼玉県小学校家庭科研究会の組織・活動状況の２部構成で編集している。

(4) 地区別授業研究会（４地区）
① さいたま市
平成29年11月16日㈭
さいたま市立馬宮東小学校
② 南部・北足立北部地区
平成29年12月７日㈭
上尾市立大石南小学校
③ 北部・児玉地区
平成29年12月６日㈬
神川町立青柳小学校
④ 西部・入間地区
平成29年11月１日㈬
毛呂山町立毛呂山小学校

(5) 埼玉県発明創意くふう展
平成29年10月28日㈯・29日㈰
＜会場＞ 新都心ビジネス交流プラザ

(6) 平成29年度児童研究発表会
平成29年11月８日㈬
＜会場＞ 国立女性教育会館
指導者 埼玉県立総合教育センター
指導主事 白井 里佳子 先生

(7) 第３回役員研修会
平成30年２月14日㈬
＜会場＞ 埼玉大学教育学部附属小学校
・平成29年度の反省と次年度の展望
・会報37号の配付

19　生活科・総合的な学習の時間教育

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

「思考力・表現力・判断力を高める支援の工夫」

＜方針①＞　授業研究会の開催

本年度は、さいたま市立向小学校、秩父市立花の木小学校、所沢市立安松小学校、加須市立三俣小学校で研究を深めることを目的に授業研究会を開催する。

＜方針②＞　指導法の研究と指導事例集の刊行

「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の３つの視点を掲げ、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に指導法の研究を行う。

Ⅱ　活動状況

1　活動内容

⑴　事務局幹事打合せ会

○期日　　平成29年４月６日㈭
○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　　常任理事会の原案作成
　　各地区理事の調査用紙発送
　　講演会の講師の依頼

⑵　常任理事会

○期日　　平成29年５月12日㈮
○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　　平成28年度決算報告
　　平成29年度の役員案
　　平成29年度事業計画及び予算案審議
　　各地区理事の確認
　　専門部の決定

⑶　講演会及び総会

○期日　　平成29年６月16日㈮
○会場　　武蔵浦和コミュニティセンター
○内容
　①総会　常任理事の決定
　　専門部組織決定
　　平成29年度の事業計画及び日程
　　平成29年度の予算案の決定
　②講演会
　　演題「次期学習指導要領における生活・総合的な学習の時間」～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて～
　　講演　國學院大学人間開発学部
　　教授　田村　学　氏

⑷　第１回指導法研究委員会

○期日　　平成29年６月28日㈬
○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　　委員の委嘱
　　研究の進め方

⑸　生活科・総合的な学習の時間研究発表会

○期日　　平成29年８月４日㈮
○会場　　さいたま市民会館おおみや
○内容　　研究発表及び協議

⑹　第２回指導法研究委員会

○期日　　平成29年８月18日㈮
○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　　指導方法の研究

⑺　第３回指導法研究委員会

○期日　　平成29年10月27日㈮
○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　　指導方法の研究

⑻　授業委嘱校研究発表会

○期日　　平成29年11月16日㈭
○会場　　さいたま市立向小学校
○内容　　詳細はⅣを参照

⑼　授業委嘱校研究発表会

○期日　　平成29年11月16日㈭
○会場　　秩父市立花の木小学校
○内容　　詳細はⅣを参照

⑽　授業委嘱校研究発表会

○期日　　平成29年11月22日㈬
○会場　　所沢市立安松小学校
○内容　　詳細はⅣを参照

⑾　授業委嘱校研究発表会

○期日　　平成29年12月１日㈮
○会場　　加須市立三俣小学校
○内容　　詳細はⅣを参照

⑿　理事研修会

○期日　　平成30年２月13日㈫
○会場　　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　　実践報告及び講演
　「新学習指導要領における授業のあり方」
　①生活科
　　実践報告：加須市立三俣小学校
　　教諭　松本　美香　氏
　　指導者　：行田市立南河原小学校
　　校長　小川　聖子　氏
　②総合的な学習の時間
　　実践報告：所沢市立安松小学校
　　教諭　五月女竜也　氏
　　指導者　：北部教育事務所
　　指導主事　市川　篤史　氏

2　運営組織

本研究会の事業は、４つの専門部会において、具体的に進められている。それぞれ、各地区理事が所属し、生活科・総合的な学習の時間教育の発展に大きな役割を果たしている。

⑴　総務部

○地区活動全体の総轄
・総会・理事会・講演会の計画及び実施
・通知文書の発送・受理
・予算案・決算書の作成

⑵　研修部
○生活科・総合的な学習の時間研修に関する総轄
・研究発表会の計画及び実施
・授業研究会の計画及び実施

⑶　編集部
○研究会編集物に関する総轄
・研究集録の作成

⑷　指導法研究部
○生活科・総合的な学習の時間教育の指導法に関する総轄
・指導法の研究
・研究成果の編集

Ⅲ　研究内容

1　生活科・総合的な学習の時間指導法研究委員会

生活科・総合的な学習の時間の授業における指導方法の研究と各単元における指導のあり方について研究し、学習指導に役立てることを目的とする。

研究の視点として、「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の三つの視点を基に、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に研究を深めた。

その成果物として「生活科・総合的な学習の時間指導事例集　第26集」を発行した。

2　生活科・総合的な学習の時間研究発表会

○期　日　平成29年８月４日㈮
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容
⑴　実践発表
①さいたま市立上木崎小学校　教諭　安富　悠介
テーマ「思いにふれ地元が好きになる町たんけん」
②春日部市立桜川小学校　　教諭　小檜山佳代子
テーマ「主体的な探究を促す総合的な学習の時間のあり方
～協働を通した個の学び～」
③川口市立鳩ヶ谷中学校　　教諭　小池美由紀
〃　　教諭　堀子佐和子
テーマ「地域貢献活動の取組について
―鳩の子恩返し隊―」
⑵　指導講評
共栄大学教育学部　　教授　若手三喜雄　氏

3　生活科・総合的な学習の時間教育編集委員会

総会における講演の要旨、研究発表会の発表の要旨、役員一覧、生活科・総合的な学習の時間指導事例集、研究組織一覧、支部だより、事業報告などを主な内容として編集した。

○研究刊行物　「生活・総合」　第28号

Ⅳ　授業研究委嘱校の発表概要

本年度は、さいたま市立向小学校、秩父市立花の木小学校、所沢市立安松小学校、加須市立三俣小学校の４校に授業研究の委嘱をした。それぞれの公開授業等の概要について紹介する。

さいたま市立向小学校

1　日　時　　平成29年11月16日㈭
2　授　業　　生活科　第２学年
3　単元名　「むかいのまち　すてきだね」内容⑶
4　授業者　　小林　傑
5　授業の概要

本単元は、地域で生活したり働いたりする人々に目を向け、地域の人々との関わりをもちながら、地域への愛着や親しみを深めることをねらいとしている。

町探検に出かけ、楽しく人と関わるなかで、その人への親しみや、地域への愛着をもてるようにした。発表方法については、教師がモデルを作り、それぞれの発表方法にどのようなよさがあるか考える時間をとった。

本時では、町探検で気付いたことや分かったことをクラスの友達に伝えた。町のよさがよりよく伝わるように、工夫して表現できるよう指導した。学級での発表会の前に交流し、伝え合いの時間をとることで、もっと工夫できるところに気付き、より向の町のすてきが伝わるように指導した。学級での発表会の後、自分たちが作った紙芝居や新聞などとお礼の手紙を持って、再度店や施設を訪ねた。人と関わることの楽しさ、新しいことを知る喜び、まとめたものを伝えることの達成感などを味わえるように指導計画を作成した。

6　授業を振り返って

導入で教師が見付けたすてき写真を見せることにより、自分たちも発表したいという思いをもつことができた。写真の内容も、人や仕事のすてきに焦点を当て、地域の人に愛着をもてるように意識して選定した。事前に「伝えたいすてきポイント」をワークシートに書いておくことにより、相手を意識して伝え合いに臨むことができた。

伝え合いの場面では、人数や場、道具などを工夫し、対話的な学びをすることができた。本校特有の空間であるオープンスペースを使うことで、児童の声が交じり合うことなく伝え合いを進めることができた。また、「伝わった」「もっと知りたい」というカードを使うことで、よく聞こうとする意欲をもつことができた。しかし、友達の伝えたすてきをもっと掘り下げるような質問が少なく、次時につながる学びのヒントを得られないグループもあった。

振り返りでは、本時の目標である「表現の工夫」に気付いた児童を紹介し、次時の学級発表会につながるよう指導した。

7　指導講評
共栄大学教育学部　教授　若手三喜雄　氏

導入で教師のすてきを示したことで、見る視点・聞く視点を明確にすることができた。内容をよく聞いて、町のすてきやもっと工夫できるところに気付くことができた。具体的な活動や体験である町探検

を単元計画のうち１/３は取りたい。内容の深まりには繰り返すことが大切である。町の人との関わりとしてFAXや電話での質問も取り入れるとよかった。

秩父市立花の木小学校

1　日　時　　平成29年11月16日㈭
2　授　業　　総合的な学習の時間　第５学年
3　単元名　「みんながよりよく暮らせる地域にしよう」
4　授業者　　内田　裕也
5　授業の概要

本校の学区は古くから中心市街地に形成された地域で、伝統的な祭りや屋台ばやしがさかんに行われ老若男女問わずたくさんの人が参加している。歴史ある地域のよさや特色に気付くことができるようにするとともに、その地域に住む人々がよりよく暮らせるために、自分たちにできることを考え、実践できるように本単元を設定した。

本授業は課題を「お互いの活動をよりよいものにしよう」と設定し、今までの取組の経過報告と今後の活動計画について話し合った。ピラミッドチャートを活用し、考えをまとめて決定した３つのグループに分かれて、お互いの活動についてのアドバイスや改善点の指摘、質問などを児童主体で話し合った。そして現実的で充実したゴールまでの活動計画の軌道修正を行った。

6　授業を振り返って

今までの取組から主体的に取り組んできた活動に対して、児童はそれぞれの思いや考えをもっていると感じた。そのため、指導の場面を精選し、できる限り児童同士の話合いを尊重させた。それぞれの思いや他のグループの気になることについて積極的に発表する姿がよく見られた。また、事前に自分のグループや活動についてアンケートを実施し、座席表にまとめて配付した。それにより言葉で表現することが苦手な児童も安心して発表し、全員が参加することができた。だが、児童主体の進行やまだまだ発表したい児童が途切れなかったため、時間内でグループごとにまとめるまでいたらなかった。話合いは活発に行われ、質問や意見が飛び交っていたが、高い希望や理想の意見が多く、建設的な考えに近づける配慮が足りなかった。児童に理想と現実のバランスを取る思考力・判断力を身に付けさせることの難しさを感じた。

7　指導講評

埼玉県教育局北部教育事務所
指導主事　市川　篤史　氏

児童一人ひとりに単元を貫いて「みんながよりよく暮らせる」という概念を構築させていくことが重要であり、「何を学ぶか」という学習内容にあたる。それを全員が理解していたため、単元を通して活動にぶれがなかった。また、単元の中にストーリー性のある体験（目的が明確で探究的な学習活動に位置付けられた体験）を位置付け、体験後の振り返りなどの言語活動を充実させていた。

子供たちができることは限られており、小さなことかもしれないが、子供たちが真剣に取り組もうとする姿は周囲の大人を動かす大きなきっかけや原動力になる。本単元においては、子供たちが家庭や地域を巻き込み、誰もが自分の住んでいるこの地域をよくしたいという機運の高まりにつながる。総合的な学習の時間は問題解決にひた走る子供たちを中心に、応援や支援をしてくださる大人と協働で課題解決していく大きな力をもっている。

所沢市立安松小学校

1　日　時　　平成29年11月22日㈬
2　授　業　　総合的な学習の時間　第５学年
3　単元名　「ザ・安松っ米　～お米で広がる僕らの世界～」
4　授業者　　五月女竜也
5　授業の概要

本単元はバケツ稲の栽培をしながら、日本の米に関する様々なデータを整理・分析し、「将来、日本のお米は無くなってしまうかもしれない。」という分析結果から「米の消費を増やす取組を考えよう」という課題でスタートした。しかし、バケツ稲の栽培が上手くいかない上に本校地域に稲作をしている水田や農家が皆無であるという実態から「ご飯を食べて消費を増やす」ではなく「ご飯がすすむ漬け物作り」へと課題を移行した。

漬物作りに励むに連れて「自分達の漬け物を地域の方々にも食べてもらいたい」という思いから漬け物試食会を開くことになった。そこで、漬け物試食会に必要な仕事内容を大きく３つに分けた。

本授業では、「漬け物試食会に向けて、やるべき仕事を精選し仕事の優先順位をつける」との課題に向けて仕事内容の班ごとに活動をした。整理・分析に必要な思考ツールを自分たちで選択し、課題の解決に向けて話合いをした。

6　授業を振り返って

班で整理・分析を始める前に、漬け物会に来てくださる方を意識することや確実にすべきこと、各班で調整が必要なことはその都度行うこと等を確認した。整理・分析が始まると、各班で思考ツールを使い分けながら話合いをしていた。また、調整が必要なことは班の代表者同士で話し合いながら調整を行っていた。最終的には、ほぼすべての班がピラミッドチャートを用いて仕事の優先順位を考えることが出来た。ただ、試食会の会場が決定しないと仕事の優先順位が付けられないという理由で、めあてに到達できない班も出てしまった。

全体で進捗状況の確認後、ゲストティーチャーにもう一度他者意識（「今のままでは、来てくださる方に喜んでもらえるのか」などのお話を通じて）の重要性を意識付けしていただいた。児童の振り返りカードには「もっと来る人のことを考えなくてはいけない」といった記述が目立った。

7　指導講評

淑徳大学教育学部　教授　　岡野　雅一　氏

よい授業では、いい意味で子供が「ガチャガチャ」している。「ガチャガチャ」とは子供たちの動きや声があること。今回の授業では、子供たちが思考ツールを媒体に真剣に話し合う動きや声が見られた。授業の中で決まらなかった会場について、研究協議で「会場は教師が決めてもいいのではないか」という意見も出たが、子供たちが決めるのも教師が決めるのもどちらでもいいと思う。ただ、子供たちは思いを持って会場を決めようとしているので、このまま子供たちの話合いで決めていいのではないか。思考ツールについては子供たちが思考ツールのよさを実感しているかどうかが大切である。その点で子供たちは十分それぞれのツールのよさを理解していたように見えた。このような学びが他教科でも使えるようになっていくのではないか。ただ、思考ツールを「このクラスだけが使っている」ではなく各学級、各学校で使用しているツールを整理し、共有財産にできるとよい。また、思考ツールは付箋を利用することが多いが、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べるということが大切である。今回授業者が提案した一般化（どの学校で実践できる総合的な学習の時間）については、発想は面白いが実際の一般化とすると難しい。一般化できるとしたら、例えば「地域の環境」が挙げられる。地域を探検して安全な場所や危険な場所を調べ、その改善策を考え、市役所に提案するのではなく地区長さんにお話するといった活動であれば、どの学校でも実践できる単元になり得るだろう。

加須市立三俣小学校

1　日　時　　平成29年12月１日㈮

2　授　業　　⑴　生活科　第１学年
　　⑵　総合的な学習の時間　第３学年
　　⑶　総合的な学習の時間　第５学年

3　単元名　　⑴　「つくろう　あそぼう」
　　⑵　「見つけたよ！三俣じまん！」
　　⑶　「米作りに挑戦」

4　授業者　　⑴　松本　美香
　　⑵　橘　実沙
　　⑶　米澤敦司、中野紗恵子、秋山天

5　授業の概要

⑴　１年３組　「つくろう　あそぼう」

前時までに自分で作ったおもちゃのパワーアップを目指し、自分の考えや工夫を友達と共有したり、深めたりするためにイメージマップを活用した。その後、自分の考えたことを実際に試し、どんな工夫をしたらよりよくなったのか気付くことができるようにした。

⑵　３年３組　「見つけたよ！三俣じまん！」

香川県のうどんが有名になった理由を自分なりに分析し、付箋に書いたものを基にしてグループで話し合ったり、ベン図を活用したりして、加須のうどんをもっと有名にするための策を考え、次の課題設定を行えるようにした。

⑶　第５学年　「米作りに挑戦」

米や米に関する事象についてウェビングマップを活用して調査し、作成した資料及び実際の農具やわら等を使いながら発表や実演を通して学び合い、米に関連する知識を広げるようにした。また、発表やゲストティーチャーの話を聞き、自分の考えを深め、学習のまとめを行った。

6　授業を振り返って

１年生の生活科では、自分で作ったおもちゃをどうしたらパワーアップできるか、１つでも見つけられればよいと思い、授業づくりをした。そのための思考ツールを、１年生に対してどのように取り入れることができるか悩んだが、イメージマップを活用して１年生なりに広げていくことができた。

３年生の総合的な学習の時間では、様々な思考ツールの中で、違いをはっきりさせるためにベン図を活用した。事前に付箋の数を絞ったが、まだ多かったため話合いの時間配分が難しかった。加須市と香川県の違いを教師がまとめてしまったが、もっと児童の意見を生かし、次時の課題設定をしなくてはならなかった。

第５学年では、現代的、文化的、自然環境的に価値のあるものをテーマとして、児童の興味関心に基づき調査をし、まとめた。その際、ウェビングマップの活用により、思考を整理し知識の広がりを自覚できるまとめにすることができた。今後も、児童の調べたいという意欲の向上と価値のある知識に主体的に関与する授業の構成を検討していきたい。

7　指導講評

⑴　行田市立南河原小学校校長　　小川　聖子　氏

おもちゃ作りは簡単に成功しなくてよい。失敗することで試行錯誤が生まれる。実際に試し、失敗する試行錯誤の中に思考ツールが使われていた。思考ツールは新しいことを始めようではなく、今までのものを大切にした上で、プラスして活用するように考えることが大切である。

⑵　埼玉県教育局東部教育事務所
　学力向上推進担当指導主事　　安東由美子　氏

思考ツールは作ることが目的ではない。読み取ることが一番のねらいである。読み取ることが伝わらなかったら深い学びへはつながらない。何か困ったことがあったら一緒に悩み、最後のゴールに到達できれば遠回りでもよい。時には荒い道を通らせるのもよい。

⑶　関西学院大学教育学部　教授　峯岸　由治　氏

相互交流によって共同的に知識を構築するピサ型学力観に基づいた授業が展開されていた。学習者自身が知識を獲得する思考とは、問いと答えの間に発する考えのことである。ステップチャートは思考を再構成したり、整理したりするために使うものである。思考ツールは思考スキルに対応して使われるものであり、必要なものを使い全てを使う必要はない。また、言語活動の充実は思考力育成の手立てとなる。

20　本校の研究の取り組みについて

埼玉大学教育学部附属小学校

Ⅰ　本校の研究概要

1　研究主題

「学びの本質」を育む授業の創造
～新しい時代に求められる思考力、判断力、表現力～

2　研究主題について

⑴　「学びの本質」とは

本研究における「学びの本質」とは、全教科・健康教育等に共通の学力であり、これを本校では、「マスターキー」と呼んでいる。（図１参照）このマスターキーは、21世紀の「グローバル化社会」において、児童が正解の見えづらい問題に相対したとき、それに対応し、最善解を導いていくことができ、生きて働く力となっていくと考える。

【図１】

そこで、目指す児童の具体的な姿を以下に示す。

⑵　「学びの本質」が育まれた児童の姿

> 問題解決の過程で、自ら多様な考えを生み出したり、自ら明確な根拠をもって考えを絞り込んだりしている姿

児童は学習活動の中で、問題解決に向けて、自分なりに考えを生み出したり、考えを絞り込んだりしている。本研究では、この問題解決の過程において、考えを生み出す際には、見通しや既習経験を焦点化したり、複数の考えを関連付けたりしながら、多様な考えを生み出せるようにしていく。また、考えを絞り込む際には、生み出された多様な考えを比べたり、整理したり、選んだりすることで、考えを再構成することができるようにしていく。そして、問題解決が図られた先には、さらに追求すべき新たな問題に向けた取組が始まるようにしていく。

⑶　研究の視点

現代の情報化社会では、欲しい情報が容易にかつ大量に入手できる。しかし、情報は自分自身の考えの基にはなるが、自分の考えそのものではない。入手した情報を踏まえて、自分の考えを生み出さなければならないし、その考えに根拠をもてるようにしなければならない。問題解決の過程で考えてみると、一つの答えに直ちにたどりつくことは稀である。自分の考えを複数出した後、考えを絞って一つの答えに達するのである。本校では、このように思考する力を「水平思考力」、「垂直思考力」と呼び、「全教科・健康教育等に共通の学力」ととらえる。そして、これらの力を思考力，判断力，表現力に関するマスターキーとして、研究主題にせまっていく。

①「**水平思考力**」

児童が課題の解決に向けて考える際、自分の考えを増やしたり、広げたりできるようにしたい。つまり、多様な観点で、複数の考えを生み出す力が必要である。この力が「水平思考力」である。

②「**垂直思考力**」

児童が課題に対する答えを導く際、明確な根拠をもって自分の考えを絞り込んでいけるようにしたい。そのためには、課題に対する自分の考えを再構成する力が必要である。この力が「垂直思考力」である。

3　研究の内容

①　思考スキル及び手立ての確立並びに評価規準の設定

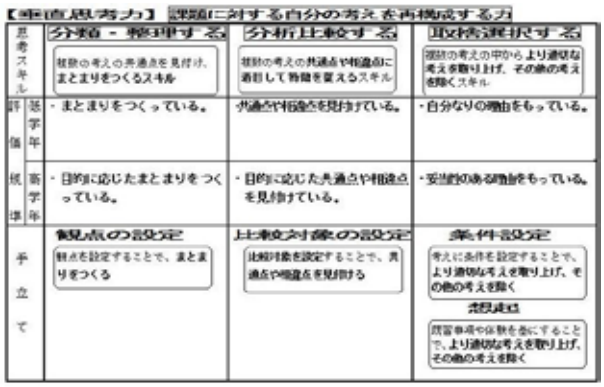
児童がマスターキーを身に付け、活用できるようになるためには、スキルを身に付ける必要がある。そしてそのスキルは複数存在し、それらを教材や学習場面に応じ、関連させることで、児童がマスターキーを身に付け、活用できるようになるのである。

「水平思考力」、「垂直思考力」それぞれにおいて、児童が身に付けるべきスキルを「思考スキル」と位置付け、各思考スキルを身に付けるための手立てを明確にし、日々の授業実践に取り組んだ。

また、児童がマスターキーを身に付けたのか、手立ては有効に働いたのかを検証するために、思考スキルごとに発達の段階に応じた評価規準を設定した。評価規準の設定にあたっては、各教員のマスターキーに関わる実践を集約し、思考スキルごとに、共通している児童の姿を探っていくことで、全教科・健康教育等に共通の規準を設定できるようにした。

【水平思考力】多様な観点で、複数の考えを生み出す力

思考スキル	発想する 最初の考えを生み出すスキル	連想する 既に明らかとなっている考えを基に、同じ観点の考えや新たな観点の考えを生み出すスキル	
評価規準	・問題（課題）に対し、具体物・半具体物を操作して、発想している。	・既存の考えから新たな観点や考えを連想している。	・既存の複数の考えから新たな観点や考えを連想している。
手立て	焦点化 ・問題（課題）に対する疑問と上の児童の見通しを焦点化する。 ・問題（課題）に対する児童の既習経験等を焦点化する。	グループ化 ・自分や友達の考えについて、同じ観点で分類しグループをつくり基などに整理し、それぞれを図や記号で関連付ける。	構造化 自分や友達の考えをワークシート等に整理し、それぞれの観点を考えを変えて見直すようにする。



【垂直思考力】 課題に対する自分の考えを再構成する力

		分類・整理する	分析比較する	取捨選択する
思考スキル		複数の考えの共通点を見付け、まとまりをつくるスキル	複数の考えの共通点や相違点に着目して物事を変えるスキル	複数の考えの中から より適切な考えを取り上げ、その他の考えを除くスキル
評価規準	低学年	・まとまりをつくっている。	・共通点や相違点を見付けている。	・自分なりの理由をもっている。
	高学年	・目的に応じたまとまりをつくっている。	・目的に応じた共通点や相違点を見付けている。	・妥当性のある理由をもっている。
手立て		観点の設定 観点を設定することで、まとまりをつくる	比較対象の設定 比較対象を設定することで、共通点や相違点を見付ける	条件設定 考えに条件を設定することで、より適切な考えを取り上げ、その他の考えを除く 経験 既習事項や体験を基にすることで、より適切な考えを取り上げ、その他の考えを除く

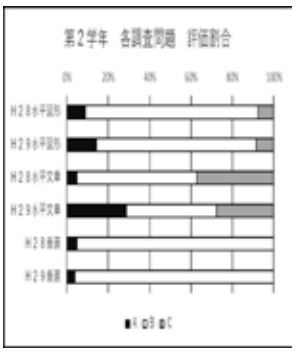
これらの思考スキルについては、平成28年度から２年間かけて見直しを図り、水平思考力の「転換する」は、「連想する」に含まれることと、児童は一単位時間の授業の中で複数のスキルを活用しながら思考力を働かせることがあることが分かってきた。

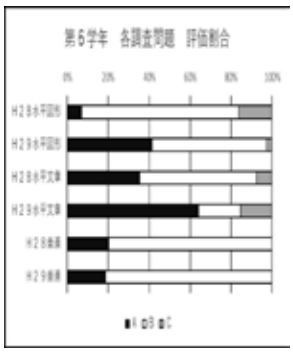
② 本校独自の調査問題の作成・分析

児童の思考力，判断力，表現力の現状をとらえるため、「水平思考力」、「垂直思考力」に関する本校独自の調査問題を作成した。本調査は、児童の思考力・判断力・表現力の変容を見取ったり、抽出児童を選んだりすることに活用した。また、平成28年度末には、調査問題の刷新を図り、児童の「水平思考力」「垂直思考力」及び、思考スキルについて正確に見取ることができるようにした。

さらに、ベネッセコーポレーションとの共同研究に取り組み、主に問題の作成や評価の仕方について、意見交換をしてきた。

「水平思考力」調査問題では、考えを広げていく内容とし、回答数（量）と観点数（質）を分析した。「垂直思考力」調査問題では、理由を説明する内容とし、回答を「分類・整理」、「分析比較」、「取捨選択」などの観点に照らして分析した。以下に、２年間同じ問題に取り組んだ平成29年度第２学年と第６学年について、「水平思考力」、「垂直思考力」の評価割合の変容と分析を示す。



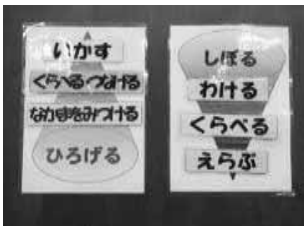


垂直思考力については、平成28年度の時点で多くの児童が身に付けていることが分かる。水平思考力については、第２学年、第６学年ともにＡ評価児童の割合が多くなっている。このことから、児童の「多様な観点で、複数の考えを生み出す力」が着実に高まっていることが分かる。

なお、本調査は児童の思考力，判断力，表現力の現状をとらえるものである。そのため、実施後の答え合わせ等は行っておらず、児童は何を書けば正答かを把握していない状況であるため、実施回数が増えても、正答が増えるとは限らない。

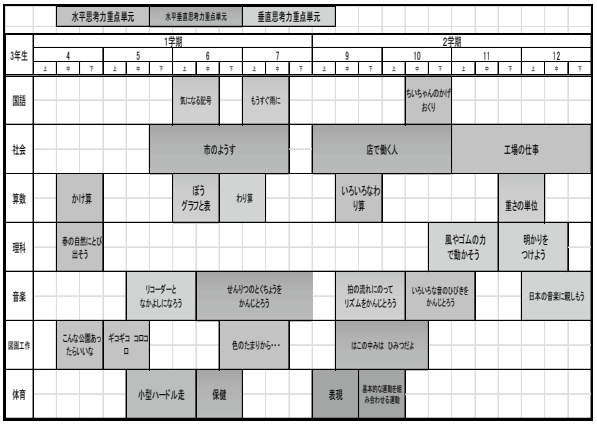
③ 掲示物の作成

各教室等に「水平思考力」、「垂直思考力」をイメージした掲示物を掲示している。また、児童に分かりやすい言葉になるように、水平思考力は「ひろげる」、垂直思考力は「しぼる」という言葉にして掲示している。また、授業の際には、「今日はどちらを使うとよいかな。」などと問いかけ、日頃から児童が水平思考力、垂直思考力を意識することができるようにしている。



④ 水平思考力・垂直思考力年間重点指導計画表（素案）の作成

学年・教科ごとに、どの単元で「水平思考力」や「垂直思考力」を高めていくのかが一目で分かるような表の素案を作成した。この表には、各教科のどの単元で重点的に「水平思考力」・「垂直思考力」を高めていくことができるのかを検討し、それぞれ５単元を選んで入れるようにした。今後は、この資料をさらに改善し、カリキュラム・マネジメントをしていく際にこの表を生かすことや、各担任が共通の認識の下で指導にあたることができるようにしていきたいと考えている。



Ⅱ　活動内容

1　第85回小学校教育研究協議会について

(1) 期　日　　平成29年10月24日(火)・25日(水)

(2) 会　場　　埼玉大学教育学部附属小学校

(3) 主　題　「学びの本質」を育む授業の創造
～新しい時代に求められる
思考力，判断力，表現力～

(4) 趣　旨

各自が学校研究主題と教科の研究テーマに基づいて公開授業を行い、研究協議を通して小学校教育の充実を図る。

⑸　後　援
埼玉県教育委員会　　さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会　埼玉県公立小学校校長会
⑹　公開授業　　全18クラス　　39授業提案
⑺　分科会（各教科･健康教育･総合的な学習の時間）
本年度は、継続研究６年次として教科分科会を設定した。学校研究主題と各教科等の研究主題、個人研究のテーマを基に、具体的な方策を考え、授業を通して提案し、研究協議を行った。

◎教科の研究主題 ①提案者　②公開授業　③指導者　④司会者

【国語科】
◎課題解決に機能する言語能力を育成する指導の工夫
①松下洋介　②６年「あなたの見方　私の見方」
①吉野竜一　②４年「えらんでのせようリーフレット」
①笠原雅広　②１年「ここがすきだよ　このおはなし」
３年「ぼくはこう読む　このお話」
③埼玉大学・戸田　功、山本　良、本橋幸康
県教育局・小野塚祐一
④富士見・みずほ台小・道祖土拓弥
深谷・川本北小・飯塚　誠

【社会科】
◎社会がわかり、社会にかかわる児童を育てる社会科授業の指導の工夫
①矢島弘一　②５年「くらしを支える食料生産」
６年「わたしたちの生活と政治」
①岩田信之　②４年「災害からくらしを守る」
③埼玉大学・大友秀明、桐谷正信、谷　謙二
県教育局・辻　英一
④さいたま・仲町小・舩津需遥
深谷・岡部西小・大熊弘明

【算数科】
◎数学的に考える資質・能力を育てる指導
①神谷直典　②４年「がい数」
６年「速さ」
①関口泰広　②２年「かけ算」
５年「単位量あたりの大きさ（速さ）」
①藤田明人　②１年「ひろさくらべ」
３年「分数」
③埼玉大学・二宮裕之　県教育局・志村憲一
④さいたま・東大成小・清原一樹
毛呂山・毛呂山小・堀口知彦

【理科】
◎自然事象を通して、科学を語る児童を育てる指導の工夫
①杉山直樹　②４年「物のあたたまり方　～空気～」
①塩盛秀雄　②５年「流れる水のはたらき」
６年「てこのはたらき」
①肥田幸則　②３年「音の性質を調べよう」
６年「土地のつくりと変化」
③埼玉大学・小倉康、中島雅子　県教育局・下妻淳志
④さいたま・大谷口小・岩崎雄二郎
越谷・川柳小・関根達也
鶴ヶ島・鶴ヶ島第一小・佐藤賀一

【生活科】
◎学びを自らの生活に生かす生活科の学習指導
①若村健一　②１年「こうえんを　たんけんしよう」
①横田典久　②１年「ぼく・わたしにできること」
２年「生きものとなかよし」
③埼玉大学・宇佐見香代
総合教育センター・田上智明
④東松山・唐子小・市川皓己　蕨・塚越小・渡部景子

【音楽科】
◎感性を働かせ、主体的・創造的に音楽を伝えようとする児童を育てる指導の工夫
①波多江慶太　②３年「日本の音楽に親しもう」
①納見　梢　②２年「いろいろな音を楽しもう」
①三橋博道　②１年「どれみでうたったりえんそうしたりしよう」
②６年「和音の美しさを味わおう」
③埼玉大学・伊藤　誠　県教育局・齋藤直美
④戸田・新曽小・野口恵理　坂戸・勝呂小・金子孝晴

【図画工作科】
◎表現と鑑賞を相互に関連させ、思考力，判断力，表現力を高める指導の工夫
①廣田和人　②３年「小さなはこの物語」
①坂井貴文　②６年「切り取って、重ねて、変えて･･･」
①安藤健太　②１年「つづきえ　どんどん」
５年「わたしは段ボール　アーティスト！」
③埼玉大学・池内慈朗、石上城行
県教育局・武田圭介
④本庄・旭小・星野哲郎　和光・広沢小・杉原優華

【家庭科】
◎よりよい生活を目指して、課題を解決しようとする児童を育む指導の工夫
①吉田みゆき　②６年「１食分の食事　ランチを作ろう」
①横家知世　②５年「ピカピカ気持ちよいくらし　クリーン大作戦　そうじをしよう」
③埼玉大学・河村美穂　県教育局・佐藤朋子
④春日部・上沖小・川田亜紀
川口・戸塚綾瀬小・外山千香子

【体育科】
◎「わかる」と「できる」をつなぐ思考力，判断力，表現力を高め、運動への自信をもてる指導の工夫
①河野裕一　②３年「タグラグビー（ゴール型ゲーム）」
②４年「フラッグフットボール（ゴール型ゲーム）」
①森田哲史　②２年「折り返し障害物リレー（走の運動遊び）」
①首藤祐太朗　②５年「走り幅跳び（陸上運動）」
③埼玉大学・有川秀之、松本　真
県教育局・佐藤泰弘
④さいたま・常盤小・大澤　諭
蕨・中央東小・坂本直規

【健康教育】

◎学びをつなぎ、ひろげて健康課題を解決することができる児童を育てる指導の工夫

①藤田徹子　②６年「病気の予防」
①石山結加里　②２年「おなかのひみつをさぐろう」
③埼玉大学・七木田文彦
県教育局・芦川恵美、金杉博美
④久喜・久喜東小・持田萌子
さいたま・芝原小・岡田亜由美

【おおとり（総合的な学習の時間）】

◎協同して課題解決する力を育てる指導の工夫

①岩田信之　②４年「みんな　なかよし　プロジェクト」
①坂井貴文　②６年「美しさって何？」
③埼玉大学・庄司康生　県教育局・小峰　元
④春日部・桜川小・小檜山佳代子

２　校内授業研究会について

個人の研究主題を基に、授業を通して検証を試み、全員で研究協議を行った。研究会には、埼玉大学及び県教育局から指導者を招聘した。本年度は、各教科で授業研究会を６回実施した。

①教科等（学年）　②授業者　③研究主題　④指導者

⑴　平成29年６月12日㈪
①理科（６年）　②肥田幸則
③自然事象に対してより妥当な考えをつくりだす児童の育成
④埼玉大学・近藤一史

⑵　平成29年６月19日㈪
①算数科　②関口泰広
③数学のよさに気付く児童を育てる指導
④埼玉大学・二宮裕之

⑶　平成29年11月６日㈪
①家庭科（５年）　②横家知世
③創造的な技能が発想や構想の能力につながる図画工作指導の工夫
④埼玉大学・亀﨑美苗

⑷　平成30年２月５日㈪
①生活科（１年）　②若村健一
③学びを生活に生かす指導の工夫－振り返りに視点を当てて－
④埼玉大学・宇佐見香代

⑸　平成30年２月８日㈭
①図画工作科（３年）　②廣田和人
③意味や価値をつくりだし思考力，判断力，表現力等を高める指導の工夫
④埼玉大学・小澤基弘

⑹　平成30年２月22日㈭
①道徳　②杉山直樹
③本校の指導法改善に関わる授業研究
④県教育局・安元信幸

Ⅲ　今後について

今年度は、第85回小学校教育研究協議会や校内授業研究会において、これまでの研究を継続し、６年目としての学校研究主題を具現化した授業を提案することができた。主な成果は以下のとおりである。

○児童が自ら複数のスキルを使いこなして、考えを広げたり絞ったりする姿が見られるようになった。一単位時間の授業の中で、「水平思考力」、「垂直思考力」の両方の思考スキルを活用して課題解決をする姿も見られるようになってきた。また、思考スキルを繰り返し活用している具体的な姿を示すことができた。

○授業での児童の姿から、「水平思考力」の思考スキルと「垂直思考力」の思考スキルの両方を活用している児童の姿を捉えることができた。

○４年次までの研究では、「水平思考力」の手立て「焦点化」「グループ化」「構造化」は、それぞれ決まったスキルの活用に働くものと捉えていた。しかし、５年次以降の研究で、これらの手立ては、「水平思考力」のどのスキルを育むのにも有効であることが分かった。学習課題に応じて、効果的な手立てをとることによって、児童の「水平思考力」を育むことができた。

○「水平思考力」の思考スキルを精選し、「転換する」については、「連想する」に含むこととした。

○授業での児童の姿から、多くの児童が思考スキルを使って考えを絞ることができていることや、一単位時間の授業の中で、複数の思考スキルを繰り返し使っていることが分かり、「垂直思考力」が十分に高まっていると判断することができた。

○新しい調査問題を作成し、明確な評価規準を設定することで、児童の実態や変容を着実に捉えることができた。

○結果を分析すると、「垂直思考力」については、多くの児童が身に付けていることが分かった。「水平思考力」についても、児童の力が高まってきていることが分かった。また、思考スキルとの関連を考慮して調査問題を作成したことで、児童の思考スキルの活用状況についても捉えることができた。

汎用的な資質・能力の育成は、今日の教育界において、重要な内容の一つである。本校としても、来年度以降引き続きマスターキーの育成を研究の柱の一つとしていく。そして、今後も授業時における児童の姿で研究の成果を示せるように研究及び授業をより充実させていく。

21　埼玉大学教育学部附属中学校

Ⅰ　研究主題と方針

1　主題

「社会を主体的に生き抜くことができる生徒の育成（最終年次）－主体的な学びを実現する学習指導と評価の在り方－」

2　方針

これまでの本校の研究の成果や社会の状況、及び生徒の実態を踏まえ、生徒一人一人に対して、変化の大きな社会を生き抜くために必要とされる資質・能力を育むことをねらいとして研究を進めていく。１年次は、育成すべき資質・能力を定義し、生徒の主体的・能動的な学びと協働的な学びを両輪として学習活動の具現化を図った。２年次は、生徒の主体的・能動的な学びと協働的な学びをより充実させながら、よりよい解や新しい価値を創造する力の育成を図ってきた。最終年次は、これまでの研究を踏まえた実践の充実と、資質・能力を多角的・多面的に見取る評価の工夫について考えていく。

＜研究の方向性＞

問題解決的な学習を単元・題材の中で設定し、評価場面を適切に位置づける。その上で、学びの過程を多面的・多角的に評価する方法、各教科等の資質・能力をどのように評価していくかについて研究した。

研究の視点として次の２つを挙げ、実践を行った。

＜視点Ⅰ＞

生徒に学びの自覚を促す形成的評価の工夫

＜視点Ⅱ＞

各教科等の資質・能力をはかる問題（課題）とその判断基準

Ⅱ　活動状況および研究内容

1　平成29年度中学校教育研究協議会

⑴　発表主題

「社会を主体的に生き抜くことができる生徒の育成（最終年次）－主体的な学びを実現する学習指導と評価の在り方－」

⑵　主催　埼玉大学教育学部附属中学校

⑶　後援　埼玉県教育委員会･さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会
埼玉県中学校長会･さいたま市中学校長会
埼玉県市町村教育委員会連合会

⑷　期日　平成29年５月23日㈫・24日㈬

⑸　内容

【国語科】

研究主題「生活に生きてはたらく国語の能力の育成をめざす授業の創造」

指導者　埼玉県教育局　橋爪　優　先生
埼玉大学　山本　良　先生

司会者　上里町立上里北中学校　松浦　達也　先生

本年度は以下の２つの内容について研究・実践を行った。

⑴　現行学習指導要領と新学習指導要領の内容の整理

⑵　【視点Ⅰ】「生徒に学びの自覚を促す形成的評価の工夫」

各領域において、「単元を通じた課題解決的な活動」を取り入れながら、言語活動の設定についてより工夫することを目指した。昨年度の課題から、今年度は身に付けた力を他教科での学習場面に転化させることができるよう、より資質・能力を「使う」ことを意識させる授業づくりを行った。

⑶　【視点Ⅱ】「各教科の資質・能力をはかる問題（課題）とその判断基準」

「振り返りの工夫」について、①振り返り自体のタイミング②期間③内容④生徒の変容の４つに整理し、実践を行った。

以上の取り組みを行った結果、生徒の学習記録の記述から、「よりよい解や新しい価値」に気付く視点が育まれつつあることが確認できた。一方、国語科で育成された資質・能力が授業以外の場面でどのように活用されているのかなどを評価する手段については確立できていないため、今後は、資質・能力の定着と活用について、適切に評価する方法を考えていきたい。

【社会科】

研究主題「社会の形成者としての資質や能力を育成する社会科学習」

指導者　埼玉県教育局　清水　利浩　先生
埼玉大学　谷　謙二　先生　清水　亮　先生
髙橋　雅也　先生

司会者　嵐山町立玉ノ岡中学校　田中　裕里　先生

本校社会科部では研究主題を受け、研究を深める具体的な手立てとして次の２つについて取り組んだ。

①　生徒に学びの自覚を促す形成的評価の工夫

②　各教科等の資質・能力をはかる問題（課題）とその評価基準の設定

今回社会科部では、中教審の審議のまとめより「見方・考え方」を働かせた学びから主体的な学びの検討と、その評価について研究を進めていった。２つの手立てを研究するにあたり、自己の学びを振り返ることと、学びに対しての評価とその基準を明確化していくことで、生徒の公民的資質の基礎を養うことができると考えた。研究の手立てとして①にあたる部分では、「学習評価」と「学力評価」を明確にした上で、生徒が学びを自覚し実感するような工夫をしていった。例えば、毎時間のワークシートの作業をしていく過程において、グループや教師からの形成的評価を行う事で、学びの自覚を促す工夫を行った。手立て②にあたる部分では、パフォーマンス評価とルーブリックの作成を行った。パフォーマンス課題を受けての記述語からなる評価基準表（ルーブリック）を具体的に示した。これらを受け、第１学年歴史的分野「近世の日本～時代を大観して～」、第２学年地理的分野「世界の地域構成」、第３学年公民的分野「私たちと経済～財政について考えよう～」を題材に研究授業に取り組んだ。

【数学科】

研究主題「豊かな創造性を育む数学学習指導」

指 導 者	埼玉県教育局	松永　　哲	先生
	埼玉大学	二宮　裕之	先生
司 会 者	川口市立戸塚中学校	中嶋　康雄	先生

研究仮説は、「問題解決学習において、学習場面の設定や振り返りを重視することにより、自ら問い、統合的、発展的に考える生徒の育成につながる。」とした。

基礎的研究として、次期学習指導要領で語られている資質・能力について整理した。また、研究主題に迫る学習展開としてアクティブ・ラーニングについてまとめることを通して、数学科における問題解決の過程を整理した。そして、学習場面の設定と振り返りを重視した問題解決学習とその評価の具体化について検討した。

研究の内容としては、２つの視点で研究を行った。１つ目は、「生徒に学びの自覚を促す形成的評価の工夫」である。学習の成果のみでなく、問題解決学習におけるそのプロセスを評価する形成的評価を取り入れることで、学習者にとって途中で生じる学習内容の理解の深化を促した。２つ目は、「各教科等の資質・能力をはかる問題（課題）とその判断基準」である。問題解決の視点を踏まえて評価規準を設定し、達成状況を見取る小テストを実施した。自己の考えをまとめて記述できるような小テストを実施することで「主体的・対話的で深い学び」を成立させ、学びを評価するものとしてとらえることができた。

【理科】

研究主題「自然を主体的・科学的に探究する能力の育成」

指 導 者	埼玉県教育局	鮫島　弘樹	先生
	埼玉大学	中島　雅子	先生
司 会 者	さいたま市立美園中学校	管野　敬之	先生

科学的な見方や考え方を進んで活用し、新たな価値を創造していくことができる生徒を目指す生徒像として設定し、以下のような研究実践を行った。

＜視点Ⅰ＞として、主体的・対話的で深い学びを促すために、学習者が科学的な見方や考え方を進んで活用したいと感じる探究課題を単元の学習に位置付け、そのパフォーマンスを評価基準表をもとに評価することを試みた。探究課題には、その単元で身に付けさせるべき資質・能力を埋め込み、現段階でどの程度達成できているかを見取ることができるようにした。

＜視点Ⅱ＞として、単元を通して発揮された学習者のパフォーマンスを見取り、評価する方法として、概念地図を取り入れた単元評価プリントを本校独自に考案した。具体的には、学習者が「単元を貫く問い」に概念地図および文章で回答することで、単元の学習を通して獲得した概念を結び付け、概念理解を深めるとともに概念構造を再構築していくことをねらった。

【音楽科】

研究主題「音楽科における思考力・判断力・表現力を育てる指導法の研究」

指 導 者	県教育局	齋藤　直美	先生
	埼玉大学	伊藤　　誠	先生
	埼玉大学	小野　和彦	先生
司 会 者	川越市立寺尾中学校	小熊　克宜	先生

題材ごとに生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、授業実践を行うことで、系統的かつ計画的に全ての領域・分野をバランス良く取り組むことができた。授業における指導と評価の過程で、形成的な評価の内容と仕方について工夫することで、生徒の主体的な学びにつなげることができた。また、生徒の思考力・判断力・表現力の深まりや変容の過程を見取るワークシートの作成の工夫やそれらを評価する具体的な判断基準を設定し評価することにより、生徒の主体的な学びにつなげることができた。また、我が国の伝統音楽を学習教材として扱い、歴史や文化と関連させながら学習することによって、自己の新たな価値を見いだすことができ、我が国の伝統的な音楽のよさや美しさを味わうことができた。

今後の研究では、「Ａ表現」領域と「Ｂ鑑賞」領域を関連させて指導していく過程において、具体的にどのように相互が関連し合い、効果的な思考力・判断力・表現力の育成につながったのかについて、〔共通事項〕を要

としながら明確にする必要がある。

【美術科】

研究主題「表現と鑑賞を一体化させながら
資質・能力を育成する学習指導の工夫」

指 導 者　埼玉県教育局　武田　圭介　先生
埼玉大学　高須賀昌志　先生

司 会 者
埼玉大学教育学部附属小学校　廣田　和人　先生

美術科では本校の研究主題を受け、上記の研究主題を設定した。研究にあたっては、美術科の活動そのものが、社会を主体的に生き抜き、その上で変化や新たな価値を主導・創造するための資質・能力を育成するものであると考え、自分の見方や感じ方を大切にしながら主体的によさや美しさなどを感じ取り味わう鑑賞の活動と、自己の表したい主題を創出し表現する活動の資質・能力を明確にし、相互に関連させ一体化させながら育成することを実践した。

学習場面の設定と学習活動の工夫として、「題材を通して感性を働かせ効果的に思考分析力を身に付けるためのワークシートの工夫と振り返り」と「感性を働かせながら造形的な視点を通した資質・能力の育成につなげる評価指針を活用し、鑑賞の記述を評価」を実践した。成果として、感性や想像力を豊かに働かせて造形的な視点を通して美術科での育成を目指す資質・能力を見取るための指針を用いて評価を行い、指導につなげることができた。

【保健体育科】

研究主題「主体的な学びを育む保健体育の学習」

指 導 者　埼玉県教育局　西川　光治　先生
埼玉大学　古田　　久　先生

司 会 者　埼玉大学附属小学校　森田　哲史　先生

本校保健体育科では、研究主題を「主体的な学びを育む保健体育の学習」とし、問題解決的な学習を単元・題材の中で設定し、評価場面を適切に位置付けた上で、学びの過程を多面的・多角的に評価する方法、各教科等の資質・能力をどのように評価していくかについて、次の２点の内容を研究した。１点目は、生徒に学びの自覚を促す形成的評価の工夫に視点を置き、生徒が目的をもって取り組むことができる学習場面の設定と学習活動の工夫を行った。２点目は、各教科等の資質・能力をはかる問題（課題）とその判断基準に視点を置き、「課題提示（問い）」の工夫を行った。成果としては、生徒が目的をもって授業に取り組むことができる学習場面を設定することにより、基礎的・基本的な知識の定着を図ることにつながり、より深い学びに向かって活動する生徒の姿が見られるようになった。また、変化の過程を見取るような学習カードの工夫を行うことで、形成的評価及び総括的評価にも生かすことができるようになった。さらに、仲間と関わりながら様々な課題を達成していく中で、保健体育の授業に限らず互いに切磋琢磨して高め合う環境づくりにつなげることができた。

【技術・家庭科】

研究主題「主体的・協働的な学習活動を通して、
資質・能力を育む学習指導の工夫」

指 導 者　埼玉県教育局　酒井　一昭　先生
佐藤　朋子　先生
埼玉大学　山本　利一　先生
内海　能亜　先生
川端　博子　先生

司 会 者　秩父市立秩父第二中学校　根岸　秀和　先生
さいたま市立与野南中学校　宇塚　亜衣　先生

技術・家庭科では、「社会を生き抜く生徒の育成＝生徒の生活を工夫し創造する能力と実践的な態度の育成」と捉えた。実践的な態度は、工夫し創造する能力と関係性があることが埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会の研究によって実証されているため、生活を工夫し創造する能力を育むことで目標を生徒に迫ることとした。能力を育むためにも、今年度はまず次期学習指導要領に示された「見方・考え方」についてそれぞれの分野で研究し理解することで、問題発見、解決それぞれの場面で見方・考え方が働かせられる題材計画や授業方法の実践を行った。また、生徒が「見方・考え方」を働かせ、よりよい解や新しい価値を見いだすために、振り返りやワークシートの活用を通して働きかけた。実際の授業場面では、問題発見や解決の場面で働かせてきた見方・考え方より検討した自分の製作物や、自分の考えについて互いに議論し合う場面を公開し、主体的に活動に臨む姿勢が多く見られた。また、過去の学習活動を振り返りながら検討することや、考えを導くためのワークシートを活用することでさらなる問題を発見したり、解決方法を検討したりしようとする姿勢が見られる生徒もいた。次年度以降の研究では、それぞれの題材毎に見方・考え方を働かせ、３年生になったときに様々な見方・考え方を働かせて検討していくことができる生徒に育成できるよう継続して実践していく。

【英語科】

研究主題「コミュニケーションの質の向上を図る
学習指導の工夫」

指 導 者　埼玉大学　及川　　賢　先生
埼玉県教育局　福沢　仁恵　先生

司 会 者　久喜市立菖蒲南中学校　田中　佑治　先生

英語科では、前年度に引き続き学校研究主題から、「コミュニケーションの質の向上」に関する研究を基盤として、学習指導をより効果的にするための指導法の工

夫・改善について、実践研究を進めた。

具体的には、生徒のコミュニケーションの質の向上を図る指導の手立てとして、「生徒に学びの自覚をうながす形性的評価の工夫」と「各教科等の資質・能力をはかる問題（課題）と判定基準」という２つの視点から研究主題に迫った。前者については、「自己の形成的評価」、「協働的な形成的評価」、「教師による評価」、「スパイラル的な形成的評価」、「ＩＣＴ機器を利用した形成的評価」を柱とし、後者については、「受信者を大切にする学習の場面設定」、「実際のコミュニケーションに近い課題設定」、「CEFR等を用いた明確な判断基準の設定」の３つを柱として研究を進めた。

研究の成果として、学習到達目標を設定することで、どのような英語力が身に付くか、英語を用いて何ができるかを明らかにすることができ、そうした情報を生徒や保護者と共有することで生徒への適切な指導を行うことができるようになった。今後の課題として、到達度指標の更なる活用と生徒中心の授業設計について、さらに研究を進めていきたい。

【学校保健】

研究主題　「心豊かな人間性を育むため指導の工夫」

指 導 者　埼玉大学准教授　　七木田文彦　先生
　　川口市立青木中学校教頭　岩澤奈々子　先生
司 会 者　北本市立西中学校　　芳野　尚子　先生

平成29年度は、３年計画の最終年次である、主体的な学びを実現する学習指導と評価の在り方であった。学校保健では、健康教育全体を通して目指すべき生徒像を掲げ、社会を主体的に生き抜くために身に付けたい力はどのようなものかを示した。教科にとどまらず学校生活や学校行事等のすべての積み重ねにより、生徒たちに身に付けたい「資質や能力」を学校保健の視点から実践を積み重ね提案した。教科・領域も含め、横断的にかかわりながら心豊かな生徒を育てる指導の工夫を考えていった。

１　具体的な研究・授業内容

⑴　「呼吸法」実践の見直し･･･資料のバージョンアップや指導法の改善、工夫

⑵　１年生に「３分間呼吸法」の実践、体験後の感想

⑶　呼吸法継続のための活動･･･生徒保健委員会の指導の工夫と充実

⑷　教育メンタルトレーニング教室の再開

２　保健学習「心身の機能の発達と心の健康」の授業

「エ　欲求やストレスへの対処と心の健康」を２年生で実施した。日頃「呼吸法」を実施していることもあり、心と体の関係について身をもって学んだ様子が見られた。

２　平成29年度の研究概要

⑴　研究主題

「新学習指導要領に基づく学習指導法の改善～教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた学習指導の工夫～」

⑵　研究主題について

本校では、平成33年度新学習指導要領の全面実施に備えて準備を進め、主に各教科等による学習指導法の改善の研究とすることとした。更に、学校全体の研究主題を模索する期間でもあるので、各教科等に共通の視点をもって研究に臨むことを確認した。そのため、新学習指導要領が目指す方向性はもちろん、改訂の経緯やその背景についての検討を行い、生徒の実態に合わせて研究を進めていく。

⑶　研究の内容

○　学習指導要領の構造化された今回の改訂で、「見方・考え方」が改めて明示され、資質・能力が一貫して捉えやすくなり、各教科等の役割が鮮明になった。

○　「深い学び」の中核が「見方・考え方」であり、「見方・考え方」を働かせた学びを実現する授業実践ができれば、主体的・対話的で深い学びにつながる。

これらを受け、以下の２つの視点で研究を進める。

視点Ⅰ：各教科等における、単元・題材、指導計画、本時の「見方・考え方」とは何かを明らかにする。

視点Ⅱ：資質・能力を育成するために「見方・考え方」を働かせるとは、どのような手立てによるのか、どんな授業イメージか、どのような生徒の姿か、などについて明らかにする。

⑷　研究経過

①　研究全体会

全教員で研究内容について議論を重ね、共通理解を図った。年間で５回実施し、研究の基礎理論、研究主題の設定、研究推進の実務について検討した。

②　研究情報の収集

国立大学附属学校等の研究発表や「教育展望セミナー」などへの参加を通して、研究情報を集めた。

③　夏季教員研修会（講演会）平成29年８月24日㈭
講師　埼玉大学教育学部教授　大澤　利彦　先生

④　校内授業研究会

第１回　英語　髙橋　太一　平成29年７月６日㈭
第２回　技術　木村　　僚　平成29年11月20日㈪
第３回　社会　齊藤耕太郎　平成30年２月14日㈬

平成 29 年度

研究集録

Ⅱ　関東地区教育研究発表大会
埼玉大会の報告

１　第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会　埼玉大会 ……90

２　第９回関東地区特別活動研究協議大会　埼玉大会 ……91

３　第43回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会　埼玉大会 ……92

第35回関東ブロック中学校社会科 教育研究発表大会　埼玉大会

1　研究主題

「追究する力を育てる社会科学習
－主体的・協働的に学ぶ学習の充実－」

2　期　　日　平成29年11月17日㈮

3　会　　場　川越市立川越第一中学校
川越市立富士見中学校
川越市立城南中学校
ウェスタ川越

4　大会の概要

本大会では、これからの社会科学習において、学習の過程や学習活動を工夫して、各分野における社会的な見方・考え方を発揮させて、課題の発見と解決に向けて生徒が主体的・協働的に学ぶ学習を一層充実させていくことが求められていると捉えた。そこで、研究を推進していくための方策として、次の３つを設定した。

⑴　社会科学習に係る生徒の実態や小学校社会科との系統性、中学校社会科で育成すべき資質・能力を捉え指導計画を作成改善し、学習指導に生かす。

⑵　資質や能力の習得、習熟に着目して単元指導計画を工夫し、主体的・協働的な学習の充実を図る。

⑶　課題解決的な学習を踏まえた単元の指導計画を工夫して、主体的・協働的な学習の充実を図る。その際、一連の学習の過程を通して生徒が主体的に学習する中で、総合的に資質・能力を働かせるよう留意する。

午前にはウェスタ川越において全体会として、開会行事、基調提案を行い、その後、記念講演として文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の　藤野　敦　先生による「中学校社会科がめざす学習」～新学習指導要領から考える～を演題にご講演いただいた。午後には、公開授業として地理・歴史・公民の３分野を３校に分かれて発表し、各分野の分野提案、グループに分かれての研究協議会、大学・行政等の各指導者の先生方によるご指導、ご講評をいただき、参会者にとって得るものがたくさんあった大会となった。

【公開授業】

○　地理的分野

「北アメリカ州」

川越市立城南中学校　　小川紗世子　教諭
宮川　剛久　教諭

「関東地方」

川越市立城南中学校　　関　　正史　教諭

○　歴史的分野

「中世の日本」

川越市立川越第一中学校　　中井　　亨　教諭

「近代の日本」

川越市立川越第一中学校　　中島　裕子　教諭

○　公民的分野

「地方自治と私たち」

川越市立富士見中学校　　宮﨑　浩平　教諭

5　成果と課題

今回の一番の成果として、生徒の実態把握を重視するとともに、学習指導要領に基づく学習内容の押さえと、発達の段階や技能の習得段階を構想した年間指導計画の作成、単元レベルで授業を構想、実践した。

また、全小社埼玉大会と研究時期が重なったことをプラスに捉え、小学校からの７年間を見通した社会科学習を意識した取組であったと考える。本研究として総合的に、問題解決能力を育てるための方略をめぐらし、方策を選定して実践していく教師の姿勢を提示することが出来たのではないかと考える。

課題として、「追究する力」を育てる効果的な手立てについて、「課題を見いだす段階」で生徒の課題意識を高め、動機付けを図る問いや、単元を貫く課題の設定などが「実践上の課題」となった。これらの点に着目して工夫改善を図っていくことが今後の課題となる。また、主体的な学び、社会参画に対する意欲や態度の高まりなどを、どのように評価していけばよいか、グループ学習による生徒の学習状況を的確に把握するためには、どのように評価活動をしていけばよいかといった、評価と指導の工夫改善についても今後の課題となろう。

2028年には、全国中学校社会科教育研究発表大会が本県にて初の開催となる。埼玉県社会科教育研究会として今回の成果と課題を生かして、来たる大会に万全を期して臨んでいきたい。

第９回関東地区特別活動研究協議大会
埼玉大会

１　研究主題

「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動」

２　期　　日　平成29年８月７日(月)

３　会　　場　埼玉会館

４　大会の概要

午前中は、開会行事に続き、前文部科学省初等中等教育局視学官、國學院大學人間開発学部教授　杉田洋先生をお招きし、本会研究主題にある「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動」を演題に、新学習指導要領を踏まえた特別活動の役割をご講演いただいた。

午後は、５つの分科会に分かれ実践提案および研究協議が行われた。それぞれの分科会において、２名の提案があり、２名の指導者から貴重なご指導をいただき、自尊感情を高める特別活動の在り方を考える活発な研究協議となった。

【分科会概要】

○第１分科会　小学校低学年学級活動（１）
小学校学校行事

提案Ⅰ
「互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築く学級活動」
春日部市立武里西小学校　　池田　有理子　教諭

提案Ⅱ
「自他共に高め合う集団宿泊行事」
狭山市立新狭山小学校　　二木　裕美　教諭

○第２分科会　小学校中学年学級活動（１）
小学校クラブ活動

提案Ⅰ
「少人数の豊かなかかわりをつくり出し、思いや願いを実現することで自尊感情を高める学級活動」
神奈川県横浜市立北方小学校　本田　大亮　教諭

提案Ⅱ
「互いを認め合い、笑顔があふれるクラブ活動」
鴻巣市立吹上小学校　　髙柳　千絵子　教諭

○第３分科会　小学校高学年学級活動（１）
小学校中学年学級活動（２）

提案Ⅰ
「自他共に認め合い、共に成長しようとする態度を育てる学級活動」
川越市立川越小学校　　澁谷　茂之　教諭

提案Ⅱ
「多様な意見のよさを生かした話合い活動を通してよりよく自己決定する力の育成」
高橋　裕子　教諭
大牧　多美子　教諭

○第４分科会　小学校学級活動（１）
小学校児童会活動

提案Ⅰ
「子供の自尊感情や主体性を育てる学級活動」
「宿泊学習を成功させよう」
茨城県潮来市立大生原小学校　岸根　健二　教諭

提案Ⅱ
「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める児童会活動」
「いじめ防止キャンペーン」
長瀞町立長瀞第一小学校　　梅澤　郁枝　教諭
高木　妙子　教諭

○第５分科会　中学校学級活動（１）
中学校生徒会活動

提案Ⅰ
「自他のよさを認め合い､自尊感情を高める学級活動」
「体育祭のクラス旗をつくろう」
加須市立加須平成中学校　清水　博文　主幹教諭

提案Ⅱ
「あこがれと感謝の思いを育む学校文化の創造」
さいたま市立大谷場中学校　　鈴木　恵　教諭

５　成果と課題

どの分科会においても活発な議論がかわされ、豊かなかかわりの中で自尊感情を高めるための考えを深めることができた。

さらに、指導者の先生からは学校全体への取り組みへと発展させるため豊富な経験をもとにご示唆をいただいた。

集団や社会から認められた自尊感情は、自立と共生の力の育成につながる。新学習指導要領前文には、今後育てたい資質・能力として「自分のよさや可能性を」「多様な人々と協働しながら」と示された。そのために個の伸びを認め褒める。これが人間関係をよりよくし、互いに認め合い高め合える関係をつくることができる。

今後も本大会の成果と課題を踏まえ、研究を深めていきたい。

第43回関東甲信越地区
中学校進路指導研究協議会　埼玉大会

1　研究主題

「未来を見据え、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進」

～小中の連携を円滑に進めるための協同的な取組を通して～

2　期　　日　平成29年11月10日㈮

3　会　　場　埼玉県立大学・越谷市立千間台中学校

4　大会の概要

義務教育段階で将来求められる資質･能力の育成を図るためには、小･中学校が連携を図り、キャリア教育の連続性を高めることを意識することが重要である。

そこで本大会では、研究主題を「未来を見据え、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進～小中の連携を円滑に進めるための協同的な取組を通して～」を掲げ、研究を進めた。

当日の午前中は、埼玉県立大学を会場として、全体会と記念講演会を行った。全体会では、埼玉県進路指導・キャリア教育研究会の　田口　光一　専門委員長から次期学習指導要領のキャリア教育の動向と、それに伴う埼玉県での取組の紹介があった。実践発表は、越谷市立千間台小・中学校の事例が紹介され、小中一貫教育におけるキャリア教育の取組実践が紹介された。記念講演会では、筑波大学の　藤田　晃之　教授より次期学習指導要領におけるキャリア教育の展望が示された。午後は、会場を越谷市立千間台中学校に移して公開授業、分科会を行った。公開授業では、小学生の授業も公開され、中学校の公開授業と合わせて研究している様子が伺えた。また、分科会ではテーマに基づいて各都県の取組が紹介され、活発な意見交換が行われた。

【全体会】

主題提言　東松山市立北中学校　　田口　光一　教諭

実践発表　越谷市立千間台小学校

仲　　陽介　主幹教諭

越谷市立千間台中学校

牛島　健一　主幹教諭

全体指導　埼玉県教育局市町村支援部

義務教育指導課指導主事　清水　利浩　氏

【記念講演会】

演題　次期学習指導要領における進路指導・キャリア教育の在り方について

講師　筑波大学人間系教授　　藤田　晃之　氏

【公開授業】　越谷市立千間台小・中学校

【分科会】

○第１分科会【各教科（横の連携）】

千葉県流山市立東深井中学校　　藤井　友紀　教諭

富士見市立ふじみ野小学校　　長森　陽介　教諭

○第２分科会【特別の教科「道徳」】

栃木県那須塩原市東那須野中学校　馬場　大輔　教諭

越谷市立千間台小学校　　薩田　明宗　教諭

○第３分科会【特別活動（学級活動）】

神奈川県横浜市立六ツ川中学校　　有賀　浩二　教諭

横瀬町立横瀬中学校　　髙橋　雄大　教諭

○第４分科会【総合的な学習の時間（教科横断的な学び）】

群馬県沼田市立薄根中学校　　内田　　淳　教諭

さいたま市立田島中学校　　松田　祐輝　教諭

○第５分科会【キャリアカウンセリング（進路相談）】

東京都鷹南学園三鷹市立第五中学校　大森　　拓　教諭

八潮市立八幡中学校　　田中　貴大　教諭

○第６分科会【家庭・地域・社会との連携】

茨城県白鳥学園那珂市立瓜連中学校　香取　　恭　教諭

三芳町立三芳中学校　　町田　　雅　教諭

5　成果と課題

小・中学校での実践発表や公開授業により、義務教育９年間の発達の段階や特性に応じた系統的・継続的な実践の積み重ねの重要性を再確認することができた。

今後の課題として、

⑴　自分のよさ・適性・特性を見つめる活動を通して、児童生徒の自己肯定感を高める活動をより良く実践していくこと。他者との協同的な活動を通して、自分自身が仲間から認められ、必要とされる大切な存在であることに気付かせ、自己有用感を高める活動を実践していくこと。

⑵　児童生徒の変容をとらえるための小・中・高12年間を通してのデータの蓄積を図るためのキャリアノート（キャリアパスポート）などの有効活用を推進することなどが挙げられる。

児童生徒に、今の学習と社会とのつながりを意識させるとともに、自分のよさ・適性・特性をどのように将来の社会的・職業的自立と関連付けさせるかが重要となる。

平成 29 年度

研究集録

Ⅲ　地域教育研究団体の研究

1　戸田市教育研究会 …… 94
2　和光市教育研究会 …… 96
3　上尾市教育研究会 …… 98
4　川越市教育研究会 …… 100
5　坂戸市教育研究会 …… 102
6　三芳町教育研究会 …… 104
7　小川班教育研究会 …… 106
8　菅谷班教育研究会 …… 108
9　秩父教育研究会 …… 110
10　児玉郡本庄市教育研究会 …… 112
11　深谷市教育研究会 …… 114
12　行田市教育研究会 …… 116
13　久喜市教育研究会 …… 118
14　幸手市教育研究会 …… 120
15　杉戸町教育研究会 …… 122

1　戸田市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、戸田市立小学校12校、中学校６校に在籍する教職員を会員として組織されている教育研究会である。本会では、日頃の教育活動の充実を図るとともに、教職員の資質・指導力の向上、教育課題を解決することを目的としている。

上記の目的を達成するために、以下の事業を行う。

・小中学校授業研究会
・資質向上研修会
・実技研修会
・戸田市児童生徒作品展覧会
・講演会
・その他本会目的達成に必要な行事

Ⅱ　本会の組織

1　会員の所属する研究部は会員の希望を原則とする。

研究部は、専門領域の研究、部会事業の計画的実施、研究部記録、研究物の保管、その他必要な事業を行う。

2　本会に次の役員を置く

代表（会長）１名　研究部長１名、副部長１名

3　本会の会計（平成29年度）

市からの研究部補助金　300,000円

Ⅲ　本会の基本方針及び今年度の努力点

1　基本方針

教職員の指導力向上並びに資質向上を図る。

2　今年度の努力点

⑴　小中学校授業研究の充実を図り、教職員の指導力向上を目指す。

⑵　アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を推進する。

Ⅳ　主な事業

1　全体活動

・教科等研究部総会（５月）　戸田第一小学校

2　各研究部の活動

⑴　国語教育研究部会
・部会（５月）
・授業研究会（10月）

⑵　書写教育研究部会
・部会（５月）
・硬筆展審査会（６月）
・戸田市児童生徒作品展（11月）
・授業研究会（11月）
・実技研修会（12月）
・書きぞめ展審査会（１月）

⑶　社会科教育研究部会
・部会（５月）
・授業研究会（２月）

⑷　算数・数学教育研究部会
・部会（５月）
・授業研究会（10月）

⑸　理科教育研究部会
・部会（５月）
・戸田市サイエンスフェスティバル自由研究相談会（７月）
・戸田市児童生徒科学展覧会（９月）
・授業研究会（１月）

⑹　生活・総合教育研究部会
・部会（５月）
・先進事例等講演会（１月）
・授業研究会（２月）

⑺　音楽教育研究部会
・部会（４月・９月）
・戸田市小学校音楽鑑賞会（５月）
・実技研修会（８月）
・授業研究会（12月）
・戸田市小中学校音楽会（11月）

⑻　図工・美術教育研究部会
・部会（５月・12月）
・身障者展審査（７月）
・授業研究会（10月）
・各ポスター展審査（６月～１月）
・戸田市児童生徒作品展（11月）
・埼玉県児童生徒美術展覧会（１月）

⑼　小学校家庭科教育研究部会
・部会（５月）
・実技研修会（７月）
・二市発明創意くふう展（９月）
・授業研究会（10月）
・戸田市児童生徒作品展（11月）

⑽　技術・家庭科教育研究部会
・部会（５月）
・二市発明創意くふう展（９月）
・戸田市児童生徒作品展（11月）
・授業研究会（２月）
⑾　小学校体育研究部会
・部会（５月・７月・８月・12月・２月）
・第33回戸田市小学校陸上運動会（10月）
・小学校実技伝達講習会（７月）
・授業研修会（10月・11月）
・球技大会（バスケットボール）（９月～11月）
・研究紀要発行（３月）
⑿　中学校保健体育研究部会
・部会（５月）
・実技研修会（９月）
・授業研究会（第１分科会７月、第２分科会７月）
⒀　外国語・外国語活動教育研究部会
・部会（４月・５月・９月・２月）
・授業研究会（10月・１月・２月）
・戸田市中学校英語弁論暗唱大会（９月）
・蕨班中学校英語弁論暗唱大会（９月）
⒁　道徳教育研究部会
・部会（５月）
・授業研究会（８月・９月）
⒂　特別活動教育研究部会
・部会（５月）
・授業研究会（10月）
⒃　人権教育研究部会
・部会（５月）
・人権教育先進地フィールドワーク（１月）
・北足立地区人権教育研修会（１月）
⒄　特別支援教育研究部会
・部会（５月）
・授業研究会（１月）
⒅　学校図書館教育研究部会
・部会（５月）
・市読書感想文コンクール審査会（９月）
・県読書感想作文コンクール審査会（10月）
⒆　国際教育研究部会
・部会（５月）
・授業研究会（10月）
⒇　情報教育研究部会
・部会（５月）
(21)　環境教育研究部会
・部会（５月）
・各校の実践報告会（11月）
(22)　ボランティア・福祉教育研究部会
・部会（５月）
・授業研究会（11月）
(23)　学校教育相談部会
・部会（５月）
・研修会（２月）
(24)　安全教育部会
・部会（５月）
・研修会（11月）
・研修会（２月）
(25)　学校食育部会
・部会（５月）
・授業研究会（２月）
(26)　進路指導・キャリア教育部会
・部会（５月）
・部会（10月）
(27)　養護部会
・部会（各月）
・小・中班別研究（５月・７月・８月・12月）
・救急法実技研修会（７月）
・学校保健室視察研修（11月）
・視察研修会（11月）
(28)　特別支援教育担当者連絡会
・連絡会議（５月・６月）
・特別支援学級授業研究会（５月）
・小中合同レクリエーション（７月）
・中学校特別支援学級合同行事（11月）
・小学校特別支援学級合同行事（12月）
(29)　学校事務部会
・部会（５～３月）

Ⅴ　今後の課題

１　指導方法の工夫改善

学習指導要領に対応した年間指導計画の作成と指導方法の工夫改善を多くの教職員が共有し、主体的・対話的で深い学びにつながる優れた指導方法を市全体に広めていくよう努める。

２　授業研究会への積極的な参加

教員の指導力向上が児童生徒の学力向上につながることを確認し、授業研究会へ積極的に参加する。

研究協議会では充実した研究会になるよう、活発な意見交換の場となるよう努める。

３　研修会の充実

教職員の資質向上を図るため、各研究部の研修会を教育課題解決に即した内容となるよう努める。

2　和光市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、和光市立小・中学校12校の教職員で組織し、17の研究部会をもって活動している。

Ⅱ　活動概要

和光市教育研究会は、毎年11月半ばの金曜日を一斉授業研究日とし、全研究部が授業研等を行っている。

また、各研究部では夏季休業中等に現地研修会や実技研修、講演会等を企画・実行したほかに、授業研前には指導案検討会も行っている。

1　国語研究部

⑴　研究テーマ

「子どもによりそって、豊かで確かな言葉の力を」

⑵　授業研究会

和光市立第五小学校　11月17日㈮

授業者　髙木　千絵　教諭

単元名等　第６学年「やまなし」

指導者　児童言語研究会東京支部代表

前川　明　氏

2　社会科研究部

⑴　研究テーマ

「資料を生かした社会科指導法の研究」

⑵　授業研究会

和光市立第三小学校　11月17日㈮

授業者　野村　俊勝　教諭

単元名等　第３学年「和光市の人々の仕事」

指導者　和光市立第四小学校　校長

武藏　昌行　氏

3　算数・数学研究部

⑴　研究テーマ

「わかる授業のための教材・指導法の工夫」

⑵　授業研究会

和光市立第三中学校　11月17日㈮

授業者　山田　敬久　教諭

神山　麻衣子　教諭

単元名等　第１学年「比例と反比例」

指導者　埼玉大学教育学部　教授

二宮　裕之　氏

4　理科研究部

⑴　研究テーマ

「子どもの科学的な見方や考え方を育てる指導法の研究」

⑵　授業研究会

和光市立第三中学校　11月17日㈮

授業者　松島　優子　教諭

単元名等　第２学年「電気の世界」

指導者　和光市立第三小学校

教頭　小寺　恵理子　氏

5　音楽研究部

⑴　研究テーマ

「音楽の楽しさを味わい、生き生きと表現できる児童生徒の育成」

⑵　授業研究会

和光市立第四小学校　11月17日㈮

授業者　髙橋　めぐみ　教諭

単元名等　第４学年

「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」

指導者　和光市立新倉小学校校長

藤原　啓　氏

6　図工・美術研究部

⑴　研究テーマ

「子どもの表現力を高める指導法の研究」

⑵　授業研究会

和光市立第五小学校　11月17日㈮

授業者　伊藤　祥一郎　教諭

単元名等　第３学年「これがBOOK ART」

指導者　元さいたま市立岸町小学校　教諭

北島　理喜枝　氏

7　保健・体育研究部

⑴　研究テーマ

「児童生徒一人一人が運動の楽しさを味わい、達成感を感じられる指導法の研究」

⑵　授業研究会

和光市立第二中学校　11月17日㈮

授業者　伊藤　成美　教諭

単元名等　第１学年「ダンス」

指導者　和光市教育委員会学校教育課副主任兼指導担当統括主査兼指導主事

島﨑　秀　氏

8　外国語研究部

⑴　研究テーマ

「モチベーションを高める授業の工夫

～小・中携を図って～」

⑵　授業研究会

和光市立第二中学校　11月17日㈮

授業者　秋山　和也　教諭

単元名等　第１学年「Program8−3 Origami」

指導者　和光市教育委員会学校教育課副主任兼指導主事　近藤　克代　氏

9　道徳研究部

⑴　研究テーマ

「これからの道徳授業の追究」

⑵　授業研究会

和光市立白子小学校　11月17日㈮

授業者　庄司　真樹　教諭

単元名等　第５学年「ミレーとルソー」

指導者　東京都杉並区立浜山田小学校

主任教諭　幸阪　創平　氏

10　特別活動研究部

⑴　研究テーマ

「子どもの主体的な活動を促す特別活動の研究」

⑵　授業研究会

和光市立第三中学校　11月17日㈮

授業者　井浦　隆介　教諭

単元名等　第３学年「もっとクラスの仲が深まるような会を開こう」

指導者　日本体育大学講師

島田　光美　氏

11　教育相談・生徒指導研究部

⑴　研究テーマ

「望ましい人間関係づくり」

⑵　授業研究会

和光市立第三中学校　11月17日㈮

授業者　大月　豊貴　教諭

単元名等　第３学年　学級活動（２）

「自分の思いや考えを上手に伝えよう」

指導者　和光市立第三中学校

教頭　政所　宏真　氏

12　特別支援教育研究部

⑴　研究テーマ

「児童生徒一人一人を大事にした指導法の研究」

⑵　授業研究会

和光市立第五小学校　11月17日㈮

授業者　梅原　和美　教諭

単元名等　自立活動

「ソーシャルスキルトレーニング」

指導者　埼玉純真短期大学こども学科講師

齋藤　光男　氏

13　情報教育研究部

⑴　研究テーマ

「学習の見える化のための教材・指導法の工夫」

⑵　授業研究会

和光市立本町小学校　11月17日㈮

授業者　丸山　陽平　教諭

単元名等　第５学年　国語科（書写）

「用紙に対する文字の大きさ」

指導者　和光市立本町小学校校長

來嶋　実樹子　氏

14　学校図書館研究部

⑴　研究テーマ

「読む楽しさを味わわせる読書指導と学校図書館の効果的な活用」

⑵　授業研究会

和光市立下新倉小学校　11月17日㈮

授業者　寺下　未央　教諭

単元名等　特別支援学級　国語科

「本に親しむ　食欲の秋・食べ物」

指導者　和光市立大和中学校校長

隅田　浩文　氏

15　学校保健研究部

⑴　研究テーマ

「健康教育の充実　～保健資料の作成～」

⑵　講座・研究協議会（模擬授業）

和光市立白子小学校　11月17日㈮

内容等　歯科保健模擬授業・研究協議

指導者　女子栄養大学保健栄養学科保健養護学専任講師　久保田　美穂　氏

16　学校事務研究部

⑴　研究テーマ

「事務用ファイリングの統一」

⑵　実習・協議会

和光市立第五小学校　11月17日㈮

内容等　事務用ファイリングの統一についての実習及び研究協議

17　食育研究部

⑴　研究テーマ

「子ども達の豊かな心とからだを育てる食育」

⑵　実習・協議会

和光市立広沢小学校　11月17日㈮

内容等　鶏卵の半透膜で見る　塩分の摂りすぎで起こる変化

18　全体の事業

⑴　総会・一斉研究部会　５月12日㈮

⑵　教育講演会　８月23日㈬

演題　「不登校の子どもの理解と対応」

講師　跡見学園女子大学教授　野島　一彦　氏

⑶　一斉授業研究会　11月17日㈮

⑷　実践報告会・一斉研究部会　２月９日㈮

実践報告「外国語研究部」「道徳研究部」

Ⅲ　おわりに

本研究会では「子どもから出発して、子どもに還る教育研究」を全体理念とし、日々研鑽を積んでいる。

３　上尾市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、上尾市教育研究会と称し、小学校22校、中学校11校に在職する教職員963名を会員として組織されている。本会は会員相互の研修により資質の向上を図り、もって市内小･中学校の教育の充実に資することを目的に「教育実践を深める市教研」～生きる力をはぐくむ教育活動を目指して～というテーマのもと以下の事業を行っている。

・資質向上のための研修
・他教育研究機関との連絡提携
・その他本会の目的達成のために必要な事業

Ⅱ　本会の組織

１　役員

会長１名　副会長２名　幹事４名　監事２名

２　研究部

⑴国語科　⑵書写　⑶社会科　⑷算数・数学科
⑸理科　⑹音楽科　⑺図画工作科・美術科
⑻家庭科・技術・家庭科　⑼体育科・保健体育科
⑽外国語活動・英語科　⑾道徳教育
⑿生活科・総合的な学習の時間　⒀特別活動
⒁生徒指導　⒂進路指導･キャリア教育
⒃健康教育　⒄人権教育　⒅特別支援教育
⒆情報教育　⒇学校図書館教育　㉑教育相談
㉒食育　㉓学校事務

Ⅲ　主な事業

１　本部関係

・所属研究部の決定　（４月）
・会計監査会　（４月）
・新旧事務局会議　（４月・５月）
・運営委員会　（４月）
・研究部会　（４月）
・運営委員･研究部長合同会議
　（５月・６月・10月・１月・３月）
・定期総会並びに教育実践発表会　（５月）
・研究発表会並びに記念講演会　（１月）

２　各研究部の活動

⑴　国語科研究部

「伝え合う力を高める工夫」
・夏季実技講習会（国語科教育の現状とこれから）
・小学校授業研究会
・中学校授業研究会

⑵　書写研究部

「主体的に学び合う書写」
・夏季実技講習会（篆刻　賞状の書き方）
・小学校授業研究会
・中学校授業研究会

⑶　社会科研究部

「自ら社会とかかわる子どもを育てる社会科学習」（小学校）
「追求する力を育てる社会科学習～主体的・協働的に学ぶ学習の工夫～」（中学校）
・講演会
・中学校授業研究会

⑷　算数・数学科研究部

「学ぶことの楽しさと充実感のある学習展開の工夫」
・夏季実技講習会
・授業研究会　（２回）

⑸　理科研究部

「児童生徒が自然を主体的に調べる活動を重視した指導法の研究」
・上尾支部科学教育振興展覧会準備会
・夏季臨地研修会（木の葉化石園：那須塩原市）
・上尾支部科学教育振興展覧会運営
・中学校理科授業研究会

⑹　音楽科研究部

「思いや意図をもって表現する活動と鑑賞との関連を図った学習指導の工夫～生涯にわたって音楽を愛好する心情の育成～」
・夏季実技講習会
・箏の実技研修会
・授業研究会　（２回）

⑺　図画工作科・美術科研究部

「子どもの心を見つめ、確かな力を育てる図工･美術」
・夏季実技研修会
・授業研究会　（２回）
・埼玉県児童生徒美術展出品

⑻　家庭科、技術･家庭科研究部

「自分の生活を見つめ、身近な生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」
・夏季実技講習会

・授業研究会
・研究発表会実践報告

⑼　体育科・保健体育科研究部
「児童が主体的に取り組む授業を目指して」
・体育実技伝達講習会
・授業研究会　（５回）

⑽　外国語活動、英語科研究部
「児童生徒が主体的に取り組む授業の創造～新指導要領実施に向けて～」
・夏季実技講習会
・上尾市中学生英語弁論・暗唱大会
・授業研究会

⑾　道徳教育研究部
「人間としての生き方を考える道徳の授業～他者と関わりながら自己を深く見つめるための発達に応じた話合い活動～」
・夏季実技研修
・授業研究会　（２回）

⑿　生活科・総合的な学習の時間研究部
「子どもたち一人一人に生きる力の育成を目指して」
生活科～気付きの質を高める授業の展開～
総　合～探求的な学習を生かした授業の展開～
・夏季実技講習会
・生活科（一般社団法人ハンギングバスケット協会）
・総　合（埼玉県歴史と民俗博物館）
・授業研究会

⒀　特別活動研究部
「望ましい集団活動を通して、共生社会の担い手としての自覚をもち、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成を図る特別活動の実践」
・夏季実技研修会
・授業研究会

⒁　生徒指導研究部
「小･中一貫教育を踏まえた生徒指導」
・夏季研修会（さいたま家庭裁判所）
・授業研究会

⒂　進路指導・キャリア教育研究部
「キャリア教育の視点を活かした教育活動」
・小学校授業研究会
・25地区進路指導･キャリア教育研究発表会

⒃　健康教育研究部
「元気はつらつ、上尾っ子の育成をめざして」
・夏季実技講習会
・研修会

⒄　人権教育研究部
「人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒の育成」を目指して
・授業研究会

⒅　特別支援教育研究部
「発達障害など障害のある児童生徒の教育的ニーズに的確に応える指導の充実を目指して～早期からの一貫した支援と連続性のある「多様な学びの場」を通じて～」
・研修会　（２回）

⒆　情報教育研究部
「教育実践に生かせる学校ＩＣＴの効果的な活用を目指して」
・夏季実技講習会（プログラミング教育）
・授業研究会

⒇　学校図書館教育研究部
「本好きの児童生徒を育てる図書館教育」
読書感想文指導研修会
・夏季実技講習会
・全国読書感想文コンクール上尾支部審査会
・全国読書感想文・感想画コンクール結果発表
・研究発表会実践報告

(21)　教育相談研究部
「小中連携を踏まえた教育相談のあり方」
・研修会
・研究発表会実践報告

(22)　食育研究部
「児童生徒の生きる力をはぐくむ食育の実践」
・夏季実技講習会
・小学校授業研究会

(23)　学校事務研究部
「子ども・教職員・地域とともに創造する学校事務の研究」
・夏季実技講習会（個人型確定拠出年金保険について）
・県費市費学校事務職員合同研修会

Ⅳ　おわりに

今年度も、各研究部の部長が中心となり、事業計画を立案し、活動を推進することができた。

来年度も新学習指導要領の全面実施に向けての教育活動が展開されるよう、本研究会が推進役となって学校相互の連携、会員の資質向上に努め、本市の教育の充実に寄与していきたい。

4　川越市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、川越市立小･中･特別支援学校55校の教職員で組織する25の研究部会をもって活動している。また、全体研修会として夏季休業中には「教育講演会」を11月には「教育研究協議会」を開催している。

Ⅱ　活動概要

1　全体研修会について

⑴　教育講演会　８月24日㈭

会場　ウェスタ川越大ホール

講師　JR東日本メカトロニクス株式会社
代表取締役社長　椎橋　章夫　氏

演題　「Suicaペンギン空を飛ぶ！
－新しい社会インフラ創造への挑戦－」

本研究会では、隔年で教育関係と教育関係以外の講師の方をお招きし、講演会を開催している。

⑵　教育研究協議会　11月10日㈮

会場　川越小学校・川越西小学校・大東西中学校

教育研究協議会は、会員の自主的なレポート発表の場である。それぞれの発表に、指導者を招聘し、参加者は、自分の参加したい発表に参加する。

今年度は、小学校17本　中学校８本　合計25本のレポート発表が行われた。

2　各研究部の活動について

⑴　国語研究部

①児童作品集「かりがね」第62号　発行

②授業研究会　川越市立名細中学校　２月２日㈮

授業者　川越市立名細中学校
佐久間　結花　教諭

指導者　川越市立南古谷中学校長
伊藤　　博　氏

⑵　書写研究部

①川越地区硬筆展覧会　７月２日㈰

会場　川越市立高階中学校

②講習会　星野学園石原キャンパス　11月15日㈬

講師　文教大学講師　荻田　哲男　先生

③川越地区書きぞめ審査会　１月16日㈫

⑶　社会科研究部

①小学校授業研究会　10月６日㈮

授業者　川越市立月越小学校　朝倉　大輔　教諭

指導者　川越市立月越小学校長　平岡　　健　氏

②関東ブロック中学校社会科教育研究大会
埼玉大会
ウェスタ川越　11月17日㈮

⑷　算数・数学研究部

①算数・数学研究部合同研修会　７月31日㈪

会場　川越市立教育センター

講師　埼玉大学教授　二宮　裕之　先生

②小学校授業研究会　11月22日㈬

授業者　川越市立大塚小学校　今井　孝広　教諭

指導者　川越市立川越西小学校長
福島　みどり　氏

③中学校授業研究会　２月14日㈬

授業者　川越市立野田中学校　大木　北斗　教諭

指導者　川越市教育委員会学校管理課副主幹
守岡　信一　氏

⑸　理科研究部

①小・中・高合同実技研修会　８月１日㈫

会場　川越市立川越高等学校

指導者　県立浦和東高等学校　飯田　和明　氏

②川越市科学教育振興展覧会　９月24日㈰

会場　川越市立川越小学校

③小学校授業研究会　12月12日㈫

授業者　川越市立川越第一小学校
星野　聡　教諭

指導者　川越市立特別支援学校長
吉野　和仁　氏

④中学校授業研究会　２月13日㈫

授業者　川越市立川越第一小学校
泉　和之　教諭

指導者　川越市立城南中学校長　内藤　　隆　氏

⑹　音楽研究部

①川越市小中学校音楽会

小学校の部　ウェスタ川越　11月６日㈪

中学校の部　川越市やまぶき会館　11月８日㈬

②授業研究会

小学校　川越市立南古谷小学校　２月７日㈬

授業者　川越市立南古谷小学校　早船　剛　教諭

指導者　日高市立高麗川小学校
教頭　吉原　敦子　氏

中学校　川越市立寺尾中学校　１月30日㈫

授業者　川越市立寺尾中学校　小熊　克宜　教諭

指導者　川越市立山田中学校
教頭　岡島　一恵　氏

⑺　図工・美術研究部

①第９回川越市立中学校美術部の祭典
８月20日㈰～27日㈰　川越市立美術館

②川越市小・中・特別支援学校児童生徒美術展
１月27日㈯・28日㈰　川越市立美術館

⑻　体育研究部

川越市小・中学校体育連盟と連携し、授業研究会、川越市中学校駅伝競走大会等を行った。

⑼　生活科研究部　夏季研修会　８月１日㈫
会場　川越市農業ふれあいセンター
内容　「次期学習指導要領を視野に入れた生活科の授業づくり」

⑽　総合的な学習の時間研究部
講演会　川越市立教育センター　10月18日㈬
講師　淑徳大学教授　岡野　雅一　氏

⑾　技術科研究部
①実技研修会　８月29日㈫
会場　川越市立名細中学校
②児童生徒発明創意くふう展
（家庭科研究部と共催）
③授業研究会　10月３日㈫
授業者　川越市立霞ヶ関西中学校
森田　眞澄　教諭

⑿　家庭科研究部
①児童生徒発明創意くふう展　９月５日㈫
会場　川越市大東市民センター
②小学校授業研究会　12月12日㈫
授業者　川越市立川越小学校　清野　美里　教諭
指導者　嵐山町立菅谷小学校長
池田　智恵子　氏
③　中学校授業研究会　10月18日㈬
授業者　川越市立山田中学校　松本　亜美　教諭
指導者　鶴ヶ島市立南中学校
教頭　酒本　希朱　氏

⒀　外国語研究部
①第69回川越市中学校英語祭　10月４日㈬
会場　川越西文化会館
②中学校英語授業研究会　11月１日㈬
授業者　川越市立寺尾中学校　宮根千佳代　教諭

⒁　情報教育研究部
授業研究会　川越市立新宿小学校　１月24日㈬
「教育機器を利用した授業の展開」

⒂　保健研究部　ブロック研修会
東ブロック「保健室経営」西ブロック「保健指導」
南ブロック「応急処置」北ブロック「健康診断」

⒃　道徳研究部
①小学校授業研究会
授業者　川越市立上戸小学校　清野　瑞以　教諭
指導者　開智国際大学教育学部准教授
土井　雅弘　先生
②中学校授業研究会
授業者　川越市立鯨井中学校　鳥澤　佳奈　教諭
指導者　川越市立高階西中学校長
長井　正邦　氏

⒄　特別活動研究部
①講演会　川越市立教育センター　６月20日㈫
講師　東松山市立松山第一小学校長
稲垣　孝章　氏
②授業研究会　12月５日㈫
授業者　川越市立大東西小学校
嘉崎　裕朗　教諭
指導者　富士見市立水谷東小学校長
森田　惠　氏
③児童連絡協議会　１月30日㈫～２月７日㈬
④生徒連絡協議会　１月24日㈬～２月７日㈬

⒅　学校図書館研究部
①読書感想文コンクール
②学校図書館授業研究会　10月27日㈮
授業者　川越市立大塚小学校　鈴木　恵理　教諭
指導者　川越市立南古谷小学校　中島　晶子　氏
③読書感想文集「光」発行

⒆　特別支援教育研究部　講演会　11月１日㈬
会場　川越市農業ふれあいセンター
講師　埼玉大学教育学部附属臨床研究センター
髙田　豊　氏

⒇　生徒指導研究部
①青少年健全育成地域の集い　10月13日㈮
会場　川越南文化会館
②川越地区学校・警察連絡協議会　学期毎に開催
会場　川越市立教育センター

㉑　安全教育研究部　夏季研修会　８月29日㈫
会場　埼玉県防災学習センター「防災体験と講習」

㉒　進路指導研究部
25地区進路指導・キャリア教育研究協議会
川越市立南古谷中学校　１月18日㈭
指導者　川越市立初雁中学校教頭
三上　正明　氏

㉓　人権教育研究部
小学校授業研究会　11月28日㈮
授業者　川越市立高階南小学校
小澤　淳子　教諭
中学校授業研究会　12月５日㈫
授業者　川越市立高階西中学校
藤田　優紀　教諭

㉔　教育相談研究部　講演会　12月13日㈬
会場　川越市農業ふれあいセンター
講師　光の家療育センター　鈴木　郁子　氏

㉕　学校食育研究部
①　授業研究会　２月20日㈫
授業者　川越市立今成小学校　新井　司　教諭
指導者　川越市立富士見中学校
養護教諭　渡辺　広美　氏
②　学校食育研究発表会　３月２日㈮
会場　川越市菅間学校給食センター
発表者　川越市立上戸小学校
小島　満知子　教諭
川越市立霞ヶ関西小学校　須田　友美　教諭
川越市立霞ヶ関東中学校　畑原　詩央　教諭

5　坂戸市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、坂戸市立小・中学校18校の教職員で組織する29の専門部会をもって活動している。

Ⅱ　活動概要

各部会は、研修会や授業研究、講演会をとおして、指導力の向上を目指している。

⑴　国語
①入間地区国語科学力調査報告会（８月）
②講演会・主任研修会（２月）

⑵　書写
①市内硬筆審査会・主任研修会（６月）
②市内書きぞめ審査会・主任研修会（１月）
③主任研修会（２月）

⑶　社会
①現地研修会・主任研修会（11月）

⑷　算数・数学
①入間地区算数科学力調査報告会（８月）
②授業研究会
坂戸市立上谷小学校
授業者　上谷小学校　　内田　謙太郎　教諭
指導者　前東松山第一小校長　　大谷　一義　氏

⑸　理科
①作品展審査・主任研修会（９月）
②坂戸市児童生徒作品展

⑹　生活・総合
①講演会・主任研修会（１月）
「新学習指導要領における授業のあり方」
②主任研修会（２月）

⑺　音楽
①主任研修会（９月）
②実技研修会（10月）
③市内音楽会（11月）
④授業研究会（１月）中止
坂戸市立上谷小学校
授業者　上谷小学校　　七澤　香織　教諭
指導者　東部教育事務所
指導主事　柳田　加代　氏
⑤入間地区授業研究会（２月）
坂戸市立坂戸中学校
授業者　坂戸中学校　　須田　信子　教諭
指導者　西部教育事務所
指導主事　村越　澄子　氏

⑻　図工・美術
①主任研修会（11月）
②市児童生徒美術展審査・主任研修会（１月）
③主任研修会（２月）

⑼　小学校体育
①授業研究会
坂戸市立大家小学校
授業者　大家小学校　　佐藤　璃空　教諭
指導者　市教委　指導主事　　野口　潤也　氏
②実技伝達講習会（７月）
③授業研究会
坂戸市立上谷小学校
授業者　上谷小学校　　野口　晋平　教諭
指導者　埼大附属小学校　教頭　河野　裕一　氏

⑽　中学校体育
①主任研修会（７月）
②授業研究会
坂戸市立坂戸中学校

⑾　小学校家庭科
①主任研修会（７月）
②実技研修・主任研修会（８月）
③発明創意くふう展審査・主任研修会（９月）
④授業研究会
坂戸市立城山学園
授業者　城山学園　　井上　　蘭　教諭
指導者　嵐山市立菅谷小学校校長
池田智恵子　氏
⑤主任研修会（２月）

⑿　技術家庭
①実技研修会（８月）
②入間地区発明創意くふう展･主任研修会（９月）
③主任研修会（２月）

⒀　英語
①主任研修会（６月）
②英語弁論大会・主任研修会（９月）
③授業研究会
坂戸市立住吉中学校

⒁　道徳
①講演会・主任研修会
②授業研究会（９月）
坂戸市立坂戸中学校

授業者　坂戸中学校　　児玉　幹生　教諭
指導者　開智国際大学　准教授　土井　雅弘　氏

⒂　特別活動
①入間地区講演会・主任研修会（７月）
②授業研究会（10月）
坂戸市立桜中学校
授業者　桜中学校
桜中学校　　千葉　朋紀　教諭
指導者　飯能市吾野中学校 校長　岡野　民嗣　氏
③授業研究会
坂戸市立入西小学校

⒃　進路指導
①主任研修会（10月）
②主任研修会（３月）

⒄　生徒指導
①主任研修会（12月）

⒅　学校図書館
①主任研修会（６月）
②読書感想文審査会・主任研修会（９月）
③主任研修会（２月）

⒆　情報教育
①主任研修会（２月）

⒇　特別支援教育
①授業研究会（６月）
坂戸市立桜小学校
授業者　桜小学校　　利根川空観　教諭
細川　　幸　教諭
永井　あき　教諭
大木　あい　教諭
指導者　県教委指導主事　　新井由美子　氏
県センター指導主事　　栃金　　聡　氏
西部教事指導主事　　鈴木　孝雄　氏
②主任研修会（11月）
③けやき作品展審査会・主任研修会（１月）
④主任研修会（２月）

(21)　人権教育
①主任研修会（７月）
②授業研究会（10月）
坂戸市立若宮中学校
授業者　若宮中学校　　保積　宏至　教諭
指導者　前川越名細小校校長　　齊藤　　薫　氏
③主任研修会（２月）

(22)　安全教育
①授業研究会（10月）
坂戸市立坂戸小学校
②主任研修会（２月）

(23)　保健
①講演会・主任研修会（８月）
講師　女子栄養大学教授　　遠藤　信子　氏
②主任研修会（２月）

(24)　養護
①主任研修会（６月）
②講演会・主任研修会（８月）
講師　女子栄養大学教授　　遠藤　信子　氏
③主任研修会（11月）
④主任研修会（２月）

(25)　学校給食
①合同主任研修会（６月）
②主任研修会（２月）

(26)　栄養
①合同主任研修会（６月）
②主任研修会（８月）
③授業研究会（12月）
坂戸市立城山中学校
授業者　城山中学校　　林　　和美　教諭
城山小学校　　古茶　明子　教諭

(27)　学校事務
①主任研修会（６月）
②実務研修会（７月）
③主任研修会（10月）
④主任研修会（12月）
⑤主任研修会（１月）中止

(28)　教育相談
①事例研修会・主任研修会（８月）
②主任研修会（２月）

(29)　国際理解教育
①合同主任研修会（12月）
②授業研究会（１月）
坂戸市立坂戸小学校

Ⅲ　おわりに

本研究会は、坂戸市内の小中学校教職員の会員で構成され、教育者としての専門性及び資質向上を目指した会員相互の研修の場として大変意義のある役割を担ってきた。本市教育の伝統･文化を継承しつつ、会員一人一人に研修意欲を喚起し、その時代や社会に求められる資質や指導方法の向上を図り、国･県･市の教育施策等を相互に学び合い、各学校現場で児童生徒の指導･育成に生かしていく機能を果たしている。

今後も、本教育研究会は、組織的に学校間の連携を図りながら研究を深め、会員一人一人の資質向上に努め、本市の教育の充実と発展に貢献する活動を目指していきたい。

6　三芳町教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、三芳町立小・中学校８校の教職員で組織する29の教科・領域等部会をもって組織する。

Ⅱ　活動概況

各研究部会は、主任研修会、授業研究会や講演会を通して、指導力の向上を目指している。

1　国語研究部会

研究主題　「主体的・対話的で深い学び」

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

⑵　授業研究会　藤久保中学校　　11月16日㈭

授業者　三芳町立藤久保中学校　川崎　正博　教諭

指導者　川越市立芳野中学校長　天達　新一　先生

2　書写研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

⑵　硬筆展地区審査会　三芳町総合体育館　　６月16日㈮

⑶　書きぞめ展作品搬入　竹間沢小学校　１月18日㈭

⑷　町内書きぞめ展　三芳町文化会館　２月２日㈮

3　社会科研究部会

研究主題「小・中の連携を図り町内全体の社会科教員の資質向上」

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

⑵　主任研修会　ふじみ野市三芳町環境センター　現地視察　８月４日㈮

4　算数・数学研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

⑵　授業研究会　上富小学校　　11月29日㈬

授業者　三芳町立上富小学校　新井　光弘　教諭

5　理科研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

⑵　町内科学教育振興展覧会　藤久保小　９月９日㈯

⑶　入間地区科学教育振興展覧会　唐沢小　　10月21日㈯

6　音楽研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

⑵　三芳町小・中学校音楽会　三芳町文化会館　　11月17日㈮

指導者　元狭山市立入間川東小学校教諭　砂田　弘行　先生

所沢市立南陵中学校　大館　雅子　教諭

7　図工・美術研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

⑵　町内児童生徒美術展　三芳町文化会館　　１月19日㈮

8　小・体育研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

⑵　連合運動会　三芳町総合運動場　　10月３日㈫

⑶　授業研究会　三芳町立唐沢小学校　11月22日㈬

授業者　三芳町立唐沢小学校　三原　貴裕　教諭

指導者　三芳町教育委員会指導主事　渡邊　重樹　先生

9　中・体育研究部会

⑴　小学校体育授業研究会　唐沢小　　11月22日㈬

⑵　「学力・体力の向上（授業力向上）」研究発表会　２月16日㈮

授業者　三芳東中学校　　加藤　匡彦　教諭

三芳東中学校　　上　健太郎　教諭

指導者　富士見市立勝瀬中学校　教頭　藤井　文則　先生

10　小・家庭科研究部会

⑴　実技研修会　竹間沢小学校　　８月４日㈮

指導者　　元教諭　佐藤　みよこ　先生

⑵　児童生徒発明創意くふう展　藤久保公民館　　９月３日㈰

11　技術・家庭科研究部会

⑴　入間地区及び町内発明創意くふう展関係打ち合わせ小中合同主任研修会　藤久保中　　６月30日㈮

⑵　町内発明創意くふう展　藤久保公民館　　９月２日㈯

⑶　入間地区発明創意くふう展　富士見市キラリふじみ　　９月８日㈮・９日㈯

12　英語研究部会

⑴　英語部研修会　藤久保中学校　　７月26日㈬

ICT（iPat）授業研修　英語弁論大会の打ち合わせ

⑵　町内英語弁論暗唱大会　三芳町中央公民館　　９月22日㈮

13　生活・総合研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　　４月19日㈬

各校の実践内容を知ることにより、自校での実践可能な内容を検討した。

14　道徳研究部会

⑴　講演会「道徳の教科化に向けた取り組み」　三芳町役場　　６月29日㈭

指導者　埼玉県西部教育事務所教育支援担当
指導主事　鈴木　孝雄　先生

⑵　講演会「考え、議論する道徳の授業づくり及び評価について」　三芳町役場　８月25日㈮

指導者　埼玉県教育総合センター
指導主事　清水　良江　先生

⑶　授業研究会　三芳東中学校　11月28日㈫

授業者　三芳東中学校　飯塚　祐士　教諭

指導者　ふじみ野市立福岡中学校教諭
横山　勝志　先生

15　外国語活動研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　４月19日㈬

今年は、町の三芳町英語（外国語活動）研究推進委員会の取組と連携し、研修を進めた。

16　特別活動研究部会

⑴　特別活動研修会　上富小学校　１月17日㈬

三芳町教育委員会委嘱特別活動研究発表会
内容検討及び役割分担確認等

⑵　三芳町教育委員会委嘱特別活動研究発表会

三芳町立上富小学校　１月30日㈫

研究主題「自治的に活動し、よりよい人間関係を築く児童の育成」　第６学年

授業者　三芳町立上富小学校　小林　貴智　教諭

指導者　富士見市立関沢小学校教頭
野村佐智夫　先生

17　特別支援部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　４月19日㈬

⑵　三芳町特別支援学級図画工作美術作品展
１月20日㈯・21日㈰

18　教育心理・教育相談研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　４月19日㈬

⑵　主任研修会　藤久保中学校　７月12日㈬

各校の教育相談の現状ついて

19　学校図書研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　４月19日㈬

⑵　主任研修会　三芳小学校　９月14日㈭

読書感想文　町内審査

20　学校給食研究部会

⑴　献立検討委員会　三芳町学校給食センター

毎月１回　計11回　献立の検討、学校間の情報交換「牛乳パックのリサイクル」の各校の状況等

21　学校視聴覚・情報教育研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　４月19日㈬

⑵　視聴覚機器等に関する実態調査　８月～９月

22　生徒指導研究部会

⑴　入間東部地区学校警察連絡協議会　町総体育館
７月４日㈫　10月18日㈬　12月６日㈬

学警連、（富士見市･ふじみ野市･三芳町）での生徒指導上の情報交換、警察等の外部機関からの情報の入手、情報提供等、生徒指導上の諸課題の共有化

23　学校安全研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　４月19日㈬

⑵　主任研修会　三芳中学校　５月24日㈬

24　人権教育研究部会

⑴　人権教育担当者研修会　８月９日㈬

⑵　人権教育実践交流会・講演会　12月２日㈯

⑶　ヒューマンフェスタ2018　２月３日㈯

⑷　市・町合同人権教育研修会　２月７日㈬

25　保健教育研究部会

⑴　保健主事・養護教諭合同授業研究会
10月27日㈮

授業者　三芳中学校　田村　苑美　養護教諭
三芳中学校　宮寺　準平　教諭

指導者　ヤクルトおなかプロジェクト　橋本　様
「生活習慣～おなかの健康を考えよう」

⑵　中学校区における地域学校保健委員会　３月

26　養護教育研究部会

⑴　主任研修会　上富小学校　６月13日㈫

定期健康診断、災害発生状況の考察

⑵　主任研修会　藤久保中学校　７月14日㈮

医療機関表の見直しと医療機関マップの作成

⑶　保健主事・養護教諭合同授業研究会

三芳中学校　10月27日㈮

27　学校事務研究部会

⑴　主任研修会　三芳町総合体育館　４月19日㈬

⑵　主任研修会　竹間沢小学校
６月22日㈭　７月18日㈫
10月31日㈫　12月５日㈫

年度当初の制度改正や、給与事務その他に関する特殊な事例について発表し、情報を共有した。

28　進路・キャリア教育研究部会

⑴　25地区進路指導・キャリア教育研究協議会

三芳町三芳中学校　10月18日㈬

29　学校運営研究部会

⑴　第１回学校運営部研修会

三芳町総合体育館　４月19日㈬

⑵　第２回学校運営部研修会

藤久保中学校　６月15日㈭

⑶　第３回学校運営部研修会

三芳中学校　10月５日㈭

Ⅲ　おわりに

今年度の活動について抜粋して掲載している。

7　小川班教育研究会

Ⅰ　はじめに

小川班教育研究会は、小川町と東秩父村の小・中学校あわせて11校、教職員187名の会員で組織されている教育研究団体である。

本研究会は、公教育の理念と両町村の教育振興計画に基づき、授業研究会・講演会・講習会等を開催し、専門的な指導力の向上に努めている。また、会員相互の情報交換を各種主任会を通して密に図り、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、以下の組織をつくり、様々な事業を行っている。

Ⅱ　本会の組織及び運営

1　役員

会長１名、副会長２名、理事各校２名、
監事３名、幹事２名

2　総会員数　187名

3　会　費　１人年間　1,000円

4　研究補助費　257,500円

5　研究部会　32　研究部構成

次の研究部会を置き、部の構成は、各校の主任をもってする。

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷算数・数学　⑸理科
⑹生活　⑺音楽　⑻図工・美術　⑼保健体育
⑽家庭・小　⑾技術・家庭　⑿英語　⒀小・英語
⒁道徳　⒂特別活動　⒃総合的な学習　⒄特別支援
⒅教育心理相談　⒆視聴覚　⒇学校図書館　㉑給食
㉒進路指導　㉓人権教育　㉔安全教育　㉕生徒指導
㉖国際理解教育　㉗環境教育　㉘教務　㉙情報教育
㉚保健　㉛養護　㉜学校事務

各研究部会には、部の事業を執行するための部長および副部長を置く。部長および副部長は、主任会で選出し、各校は、研究部ごとに主任を置く。役員の任期は１年とする。また、役員の任期は１年とする。

Ⅲ　本年度の主な事業

1　本部の活動

⑴　第１回理事会（４月）
⑵　専門部会＜教科・教科外＞（４月）
⑶　総会並びに研修会（５月）
⑷　第１回理事・部長会（６月）
⑸　全員研修会（８月）
講師　鈴木　賢一　様による講演
演題　「道徳の授業・教科化に向けて」
～評価・いじめ等を考えて～
⑹　第２回理事会（９月）
⑺　小中学校音楽会（10月）
小川班小中11校の代表児童による演奏会
会場　リリックおがわ
⑻　理科教育研究発表会（11月）
小川班小中11校の代表児童による発表会
会場　パトリアおがわ
⑼　第２回理事・部長会（１月）

2　各専門部の活動

⑴　国語
・主任研修会（４月・２月）
⑵　書写
・主任研修会（４月・５月・11月）
・比企地区硬筆展審査会（６月）
・比企地区書きぞめ展審査会（１月）
⑶　社会
・主任研修会（４月・２月）
⑷　算数・数学
・主任研修会（４月・２月）
⑸　理科
・主任研修会（４月・９月・11月）
・児童生徒理科研究発表会（11月）
⑹　生活
・主任研修会（４月・11月）
⑺　音楽
・主任研修会（４月・９月・２月）
・小・中学校音楽会（10月）
・西部北地区小中学校音楽会（11月）
⑻　図工・美術
・主任研修会（４月・８月・12月）
・七夕祭り作品展（７月）
・埼玉県児童生徒美術展覧会（８月）
・郷土を描く児童生徒美術展（10月）
・むさしの小京都おがわを描く会（２月）
⑼　保健体育
・主任研修会（４月・10月）
⑽　家庭・小
・主任研修会（４月・９月）

・比企地区夏季研修会（８月）
・発明創意くふう展（９月）
⑾　技術・家庭
・主任研修会（４月・２月）
・比企地区産業振興総会（６月）
・発明創意くふう展（９月）
⑿　小・英語
・主任研修会（４月・２月）
⒀　英語
・主任研修会（４月・２月）
⒁　道徳
・主任研修会（４月・11月・１月）
⒂　特別活動
・主任研修会（４月・２月）
⒃　総合的な学習
・主任研修会（４月・12月）
⒄　特別支援
・主任研修会（４月・９月・２月）
・小中学校特別支援教育交流遠足（10月）
⒅　教育心理相談
・主任研修会（４月・12月）
⒆　視聴覚
・主任研修会（４月・12月）
⒇　学校図書館
・主任研修会（４月・９月）
・読書感想文コンクール審査会（９月）
(21)　給食
・主任研修会（月１回）
(22)　進路指導
・主任研修会（４月・２月）
(23)　人権教育
・主任研修会（４月・２月）
(24)　安全教育
・主任研修会（４月・11月）
(25)　生徒指導
・主任研修会（４月・２月）
(26)　国際理解教育
・主任研修会（４月・11月）
(27)　環境教育
・主任研修会（４月・２月）
(28)　教務
・主任研修会（４月・12月）
(29)　情報教育
・主任研修会（４月・２月）
(30)　保健
・主任研修会（４月・８月・２月）
(31)　養護
・主任研修会（４月・７月・12月）
・授業研究会
「生命の授業」
指導者：NPO法人くまがやピンクリボンの会
<中学１年生対象>（11月）
(32)　学校事務
・主任研修会（４月・３月）
・現地研修会（８月）
(33)　新たな取り組みとして
①毎年、教科領域ごとに授業研究会を行っているが、今年は養護部会で「がん」についての研修会を行なった。
②部会にはないが、今年度は通級指導教室で１月に授業研究会を行なった。
授業者：小川町立みどりが丘小学校

吉田　千佳　教諭

Ⅳ　おわりに

「ぴっかり千両」とは、和紙を天日干しにした様子から、和紙が高く売れ財を成すという意味を表す。細川紙は2014年にユネスコ無形文化遺産に登録され、小川町と東秩父村は、和紙という共通の文化を古くより共有し、このように世界に発信する伝統文化を持つ。

平安時代初期から栄えた東国最大の山岳寺院である慈光平廃寺は、東西820m、南北270mにも及び、多くの僧が修行した。寺での写経には、和紙の存在は欠かせなかったであろう。古くから和紙の需要があった。

一方、小川町・東秩父村は、新たな産業に乏しく人口流出による児童生徒の減少が大きな課題となっている。今後は学校の統合も視野に入れ、９年間を見通したカリキュラムを行う小中一貫教育にかじ取りをしてゆくであろう。そして、激変の21世紀を生き抜く子どもを育てる。

良き伝統を理解し継承しつつ、新たな時代の波に挑んでいくたくましい子どもたちを育てることが、私たち小川班教育研究会の使命と考える。その子達が誇れるふるさと作りに、やがて携わることを強く信じて。

8　菅谷班教育研究会

Ⅰ　はじめに

本教育研究会は、埼玉県比企郡菅谷班教育研究会といい、事務所を会長所在の学校に置く。

本会は、嵐山町、滑川町の２町内の小中学校に籍を置く教職員が会員となって組織されている教育研究団体である。

学校数は、小学校６校、中学校３校の計９校、教職員会員数は 207 名である。

本会は、班内における教職員が主体となり、職能の向上、教育の振興をはかり、地域社会の文化発展に貢献することを目的とする。

この会は、上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

1　学校教育に関する調査研究
2　青少年文化活動の研究とその振興
3　社会教育の普及徹底
4　研究会、講演会、研究発表会、展覧会、体育祭、音楽会等の開催
5　会員の研究に対する研究助成
6　PTA 及び各種団体との連絡提携
7　その他必要な事項

Ⅱ　本教育研究会の組織

1　役員

会長１名、副会長２名、理事若干名、
常任理事若干名、監事３名、幹事若干名

2　会員

正会員（班内各学校教職員）賛助会員（この会の趣旨に賛同する個人または団体）

3　会議

会議を分けて、総会、理事会とする。但し、必要により専門部会を開くことができる。

総会は、毎年１回開催し、会長が招集する。但し、必要がある時は臨時総会を開くことができる。なお、総会および臨時総会は、理事会をもってかえることができる。

4　研究会

この会は、次の研究会をおき、部の構成は、各校の主任をもってする。

⑴国語　⑵書写
⑶社会　⑷算数・数学
⑸理科　⑹音楽
⑺図工・美術　⑻保健体育
⑼技術家庭　⑽家庭
⑾英語・国際理解　⑿生活・総合
⒀道徳　⒁特別活動
⒂教育心理・教育相談　⒃特別支援教育
⒄学校図書館教育
⒅進路指導・キャリア教育
⒆生徒指導　⒇教務
(21)養護　(22)事務
(23)学校食育　(24)人権教育
(25)安全教育　(26)保健主事
(27)環境教育　(28)情報教育

各研究部は、部の事業を執行するための部長及び副部長を置く。部長及び副部長は、主任会で選出し、各校は、研究部ごとに主任を置く。

Ⅲ　本年度の主な事業

1　本部の活動

・教科等主任研修会・新旧理事会兼総会　4月 11 日㈫
・講演会（全員研修会）　8月 21 日㈪
演題「新学習指導要領から見える不易と流行」
講師　田丸　淳哉　先生
・理事研修会　3月９日㈮
・会計監査　3月９日㈮

2　各教科等研究部の活動

⑴　国語
・授業研究会　11 月８日㈬

⑵　書写
・主任研修会　4月 11 日㈫・５月 23 日㈫・10 月 24 日㈫
・比企地区硬筆展審査会並びに研修会　6月 16 日㈮
・比企地区書きぞめ展作品搬入、審査、搬出　1月 19 日㈮・１月 22 日㈪

⑶　理科
・主任研修会　4月 11 日㈫・９月 14 日㈭
・科学教育振興展比企地区展準備審査会　9月 29 日㈮
・授業研究会　12 月８日㈮

・菅谷班児童生徒理科研究発表会　12月1日㈮
・埼玉県理科教育発表会比企地区発表会
1月17日㈬

⑷　音楽
・主任研修会　4月11日㈫・7月7日㈮
10月3日㈫・2月27日㈫
・菅谷班小中学校音楽会準備会　10月30日㈪
・菅谷班小中学校音楽会　10月31日㈫

⑸　図工・美術
・主任研修会　4月11日㈫・12月15日㈮
・身体障害者福祉のための美術展比企地区展作品
搬入、審査　8月4日㈮
・郷土を描く児童生徒美術展比企地区展作品
搬入、審査　10月10日㈫
・埼玉県小中学校児童生徒美術展比企地区展作品
搬入、審査、会場受付、搬出
1月26日㈮・1月29日㈪
・埼玉県小中学校児童生徒美術展県中央展作品
搬入、展示、搬出　（2月）

⑹　保健体育
・主任研修会　4月11日㈫

⑺　家庭
・主任研修会　4月11日㈫
・比企地区児童生徒研究発表会・発明創意くふう展
9月14日㈭
・比企地区小学校授業研究会　1月31日㈬

⑻　技術家庭
・主任研修会　4月11日㈫
・技術・家庭実技研修会　8月2日㈬
・比企地区児童生徒研究発表会・発明創意くふう展
9月14日㈭
・西部地区技術・家庭科授業研究会
11月29日㈬

⑼　英語・国際理解
・主任研修会　4月11日㈫
・外国語科授業研究会　1月16日㈫

⑽　特別支援教育
・主任研修会
4月11日㈫・7月13日㈭
2月6日㈫
・菅谷班交流学習会　9月7日㈭

⑾　学校図書館教育
・主任研修会　4月11日㈫
・読書感想文審査　9月26日㈫

⑿　進路指導・キャリア教育
・主任研修会　4月11日㈫
・西部地区進路指導・キャリア教育研究協議会
10月17日㈫
・25地区進路指導・キャリア教育研究協議会
11月22日㈬

⒀　養護
・主任研修会
4月11日㈫・7月18日㈫
12月13日㈬・2月9日㈮

⒁　事務
・主任研修会　4月11日㈫
・旅費相互審査会　（5月～2月に毎月1回実施）
・菅谷班学校事務研修会
10月11日㈬・2月1日㈭
・代表者研修会　4月11日㈫・12日㈬

⒂　学校食育
・主任研修会　4月11日㈫
・食育部会　（8月以外の全ての月に実施）

⒃　教務
・主任研修会　4月11日㈫・12月7日㈭

Ⅳ　今後の課題

各研究部で授業研究会や実技研修会、講演会等を開き、充実した研究を実施することができた。

しかし、研究部によっては活動に偏りも見られた。小規模校にとっては主任を兼務している学校もあり、今後は、活動内容の精選と充実を考えていきたい。

今年度は、班内各校の学校課題授業研究会が盛んに行われ、班内校の参加を呼びかけたことで、班内全体での研修意欲が高まった。

委嘱校のみならず、各校への助成を可能な限り行うことでさらなる教職員研修の充実と資質向上を目指し、児童の学力向上、豊かな心の育成につなげていきたい。

９　秩父教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、秩父教育研究会と称し、事務局を会長所属の学校に置く。

本会は、秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野町、長瀞町１市４町の小･中学校の教職員をもって組織されている教育研究団体である。教職員の資質向上と地域教育の振興に寄与することを目的としている。

学校数は、小学校23校、中学校12校の計35校、教職員会員数は640名である。

本会は、上記の目的を達成するために、教育関係機関並びに諸団体と連携し、次の事業を行う。

１　教育に関する研究会･講習会･発表会･展覧会等の開催
２　教育に関する研究調査
３　教育に関する実践的研究の委嘱
４　教育に関する図書雑誌の編集刊行斡旋
５　その他、教育に必要な事項

Ⅱ　本教育研究会の組織

１　役員

会長１名、副会長２名、理事（代議員）各校１名、監事３名、幹事若干名

２　任務

本会の役員の任務は次のとおりとする。

⑴　会長は本会を代表し、会務を掌理し各種会議を招集し、その議長となる。
⑵　副会長は会長を助け、会長に事故あるときはその職務を代理する。
⑶　理事は理事会を組織し、本会事業の企画運営に関して審議し、会務の執行にあたる。また、代議員として学校を代表し総会に出席する。
⑷　監事は、本会の会計を監査する。
⑸　幹事は、会長の命を受け、本会の庶務会計にあたる。

３　任期

役員の任期は２カ年とする。但し、再任を妨げない。補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

４　会議

毎年１回総会を開催し、会務の報告、会長･副会長･監事の選出、予算決算、その他重要事項につき審議決定する。会長が必要と認めた場合または会員の３分の１以上の要求がある場合は、臨時に総会を開くことができる。総会は代議員による総会とする。各種会議の議決は、出席人数の過半数の賛成を必要とする。

５　経費

本会の経費は、会費及び補助金、その他をもってこれにあてる。会費は、１人年額1,000円とし、６月に全額納入する。

補助金は、秩父郡市内各市町より500円×学級数分をいただいている。

６　研究部

研究部は次のとおりとする。

⑴国語　⑵社会　⑶算数･数学　⑷理科　⑸生活
⑹音楽　⑺図工･美術　⑻保健体育　⑼技術･家庭
⑽家庭　⑾外国語　⑿書写　⒀生徒指導　⒁総合学習
⒂教育心理･教育相談　⒃学校図書館教育
⒄放送･視聴覚教育　⒅特別支援教育　⒆学校経営
⒇学校事務　㉑特別活動　㉒道徳教育　㉓学校給食
㉔進路指導･キャリア教育　㉕養護　㉖人権教育
㉗教務　㉘安全教育

各研究部には部長･副部長を置く。部長は本採者から選出する。役員の任期は１カ年とする。但し、再任を妨げない。また、部長は次年度第１回の研究部会を主催する。

Ⅲ　本年度の主な事業

１　事務局主催の活動

⑴　第１回理事研修会（４月）
⑵　総会（５月）
⑶　第１回研究部（教科外）研修会（５月）
⑷　第１回研究部（教科）研修会（６月）
⑸　第２回理事研修会（７月）
⑹　教育講演会（８月）
　講師　精神科医・立教大学現代心理学部映像身体学科　教授　香山　リカ　先生
　演題　「“よい子”の心を考える」
⑺　第３回理事研修会（２月）

２　各研究部主催の活動

⑴　国語
　講演会（11月）「国語教育の周辺」
　講師　秩父ほうしょう幼稚園
　　園長　千島　力夫　先生
⑵　社会
　授業研究会（10月）「新しい日本」
　　授業者　持田　翔平　教諭
⑶　算数・数学
　算数・数学教育研究協議会（11月）
　授業研究会（２月）「三角形と四角形」
　　授業者　森川　　亮　教諭

⑷　理科
科学教育振興展覧会（10月）
理科研究発表会（１月）
⑸　生活
実技研修会（７月）「折り紙講習会」
講師　乾　　君江　先生
⑹　音楽
授業研究会（12月）
授業者　西本　史子　教諭
実技研修会（10月）
講師　眞鍋　なな子　先生
⑺　図工・美術
造形教育実技研修会（７月）
講師　福嶋　　淳　教諭
⑻　保健体育
中学校授業研究会（11月）
小学校授業研究会（11月）
⑼　技術家庭
実技研修会（７月）
発明創意くふう展並びに研究発表会（９月）
授業研究会（９・10月）
⑽　家庭
調理の実技研修会（８月）
研究協議会（８月）（指導案検討）
授業研究会（12月）
授業者　松本　美香　教諭
⑾　外国語
授業研究会（12月）「A New Year's Visit?」
授業者　花輪　佳彦　教諭
⑿　書写
秩父地区硬筆展覧会（６月）
秩父地区書きぞめ展覧会（１月）
⒀　生徒指導
研修会（６月）
⒁　総合学習
授業研究会（11月）
授業者　　内田　裕也　教諭
⒂　教育心理・教育相談
講演会（12月）
「子どものすこやかな成長をねがって」
講師　白石　公子　先生
⒃　学校図書館教育
読書感想文審査会（９月）
⒄　放送・視聴覚教育
授業研究会（１月）
授業者　　齊藤　寛鎮　教諭
講師　東京学芸大学教育学部
准教授　高橋　　純　先生
⒅　特別支援教育
講演会（10月）
⒆　学校経営
視察研修・講演会（11月）
講師　秩父みどりが丘工業団地工業会
会長　飯野　水男　先生
⒇　学校事務
講演会（８月）「怒りのコントロール術」
講師　有隣興業（株）　宮前　昌美　先生
(21)　特別活動
授業研究会（11月）
研究発表会（１月）
(22)　道徳教育
授業研修会（２月）「すれちがい」
授業者　　逸見　　梓　教諭
(23)　学校給食
実技研修会（８月）「パン作り体験」
(24)　進路指導・キャリア教育
授業研究会（10月）
(25)　養護
班別研修会（７月）
「掲示のもつ力・保健室の掲示物作成」
講演会（10月）
「保健室で出会ったこどもたち、その理解と支援」
講師　中嶋　和子　先生
(26)　人権教育
研修会（６月）
(27)　教務
研修会（６月）
(28)　安全教育
研修会（６月）

10　児玉郡本庄市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、児玉郡・本庄市内の小中学校32校、30の教科等研究会をもって組織する。

Ⅱ　活動概要

各研究会は、授業研究会や講演会を通して、指導力の向上を目指している。

⑴　国語教育研究会
①授業研究会　上里町立上里北中学校　９月27日㈬
授業者　上里町立上里北中学校　松浦　達也　教諭
指導者　北部教育事務所指導主事 大澤　　聡　先生
②文集「こだま」第25号作成

⑵　書写教育研究会
①第56回硬筆展地区審査会　６月13日㈫
②実技研修会　８月２日㈬　「作品集制作（和綴じ製本）」　講師　児玉高等学校　荻野　大輔　先生
③第71回児玉郡本庄市書きぞめ展覧会
１月13日㈯･14日㈰

⑶　社会科教育研究会
①授業研究会　上里町立七本木小学校　10月27日㈮
授業者　上里町立七本木小学校　忰田　真俊　教諭
指導者　北部教育事務所指導主事
篠田かなえ　先生
②社会科教育研究会研修会　８月４日㈮
講師　元文部科学省主任視学官・元文教大学教授
嶋野　道弘　先生

⑷　算数・数学教育研究会
①授業研究会　上里町立上里東小学校　11月16日㈭
授業者　上里町立上里東小学校　山本　友子　教諭
指導者　上里町教育委員会学校教育
指導室指導主事　新津　善彦　先生
熊谷市立長井小学校長　森田　健二　先生

⑸　理科教育研究会
①科学展地区展　本庄市立本庄南小学校 10月７日㈯
②授業研究会　小学校　12月５日㈫
中学校　11月28日㈫
小学校：授業者　本庄東小学校　田島　晴彦　教諭
指導者　北部教育事務所指導主事 小泉　貴寛　先生
中学校：授業者　上里町立上里北中学校
若林　佑　教諭
指導者　上里町教育委員会　根岸　康雄　先生

⑹　音楽教育研究会
①北部西地区音楽会　本庄市民文化会館 11月８日㈬
指導者　川口市立本町小学校校長
関口　景子　先生
②授業研究会　１月23日㈫
授業者　神川町立丹荘小学校　廣田すみれ　教諭
指導者　北部教育事務所指導主事 江原　　誠　先生

⑺　図工・美術教育研究会
①夏季実技研修会　本庄市立旭小学校　７月28日㈮
指導者　本庄市立旭小学校教頭　岡村　和美　先生
②研究発表会　本庄市立本庄西小学校　２月15日㈭
発表者　本庄市立本庄西小学校　小泉　　亘　教諭
指導者　北部教育事務所指導主事
大谷　裕紀　先生

⑻　保健体育教育研究会
①小学校体育実技講習会　６月26日㈪　８月３日㈭
②小学校体育授業研究会　11月10日㈮
③小学校体育研究協議会　10月24日㈫　11月21日㈫
④中学校体育授業研究会　９月20日㈬
⑤中学校体育研究協議会　12月１日㈮
⑥女子体育実技講習会　８月１日㈫

⑼　技術・家庭科教育研究会
授業研究会　本庄市立本庄西中学校　12月６日㈬
神川町立神川中学校　10月17日㈫
神川町立青柳小学校　12月６日㈬
指導者　北部教育事務所指導主事
栃木　法雄　先生
本庄市立北泉小学校長　金田　佳子　先生
東松山市立市の川小学校長
田中　恵子　先生

⑽　生活科・総合的な学習の時間研究会
授業研究会　本庄市立藤田小学校　11月29日㈬
授業者　本庄市立藤田小学校　柳内　朋美　教諭
指導者　深谷市立川本北小学校
校長　高木　千津子　先生

⑾　外国語活動・英語教育研究会
①授業研究会　11月24日㈮
授業者：本庄市立児玉中学校　大沢　麻美　教諭
指導者：岐阜大学教授　巽　　徹　先生
②埼玉県英語教員研究発表会　２月23日㈮
発表者：美里町立美里中学校　岸本　えみ　教諭

⑿　道徳教育研究会
授業研究会　本庄市立本庄東小学校　11月30日㈭
授業者　本庄市立本庄東小学校　亀田　央葉　教諭
指導者　北部教育事務所　指導主事
中原　　裕　先生

⒀　特別活動教育研究会
①総会・講演会　７月31日㈪
講師　さいたま市子ども未来局
和久井　伸彦　先生
②授業研究会
・本庄東小学校　７月11日㈫
授業者　清水　貴行　教諭
・本庄西中学校　11月15日㈬
授業者　新井　悠平　教諭

指導者　北部教育事務所指導主事
中山　浩一　先生

⒁　生徒指導教育研究会
講演会　本庄市児玉文化会館　８月25日㈮
講　師　北部教育事務所いじめ非行防止支援員
浅見　信行　先生
演　題　「北部管内の生徒指導の現状と課題」

⒂　教育相談教育研究会
講演会　深谷市　深谷公民館　７月28日㈮
講師　深谷市教育委員会　吉井　恵美子　先生
演題　「教育相談から　～学校に伝えたいこと～」

⒃　進路指導・キャリア教育研究会
①授業研究会　本庄市立旭小学校　11月７日㈫
授業者　本庄市立旭小学校　星野　哲郎　教諭
指導者　北部教育事務所指導主事　江原　誠　先生
②授業研究会　本庄市立本庄西中学校　11月29日㈬
授業者　本庄市立本庄西中学校　柿沼　謙太　教諭
指導者　北部教育事務所
指導主事　江原　誠　先生

⒄　学校視聴覚・情報教育研究会
①パソコン研修会　８月４日㈮
指導者　ITチャレンジの会　山内　淳子　先生
②授業研究会　神川町立青柳小学校　12月８日㈮
授業者　神川町立青柳小学校　田口　諒　教諭
指導者　北部教育事務所指導主事 根岸　伸行　先生

⒅　学校図書館教育研究会
①講演会　美里町コミュニティセンター　11月17日㈮
演題　「学校図書館の活用の仕方と学校図書館主任としての役割」
講師　埼玉県立久喜図書館
司書主幹　高野　治子　先生
担当課長　松村　庸子　先生
②読書感想文集　第48号

⒆　学校緑化教育研究会
現地研修会　県立児玉白楊高等学校　10月19日㈭
講師　児玉白楊高校生物資源科
教諭　倉林　尚生　先生
内容　参加各校の緑化計画の資料の交換
パンジーの種まき・鉢上げ・管理について

⒇　学校食育研究会
①総会・研修会　６月15日㈭
講師　県教育局保健体育課指導主事
金杉　博美　先生
②調理実習研修会　８月７日㈪
講師　管理栄養士　長谷川典夫　先生

㉑　保健主事教育研究会
①研修会　上里町男女参画推進センター　８月18日㈮
講師　日本心理学会認定心理士　大場　陽子　先生
演題　「子供の心の健康について」
②研修会　ときがわ町立玉川小学校　11月28日㈫
埼玉県「がん教育」授業研究会

㉒　養護教諭研究会
①第２回（夏季）研修会　７月27日㈭
講師　一般社団法人防災普及協会
宮﨑　賢哉　先生
演題　「避難所運営ゲーム（HUG）の実践」
②第３回研修会及び研修発表会　12月８日㈮
指導者　北部教育事務所指導主事
櫻井　隆夫　先生

㉓　学校安全教育研究会
研修会　８月３日㈭
上里町男女共同参画推進センター
講師　本庄警察署交通課総務係長　様
演題　「子どもの交通事故防止と学校の役割」

㉔　特別支援教育研究会
①夏季研修会
講師　本庄発達教育支援センター
猿谷　郁子　先生
演題　「明日を語る担任でいられるように」
②児玉郡本庄市特別支援教育児童生徒作品展
本庄市児玉総合文化会館　12月２日㈯・３日㈰

㉕　学校事務研究会
①研修会　美里町中央公民館　６月２日㈮
講師　埼玉県勤労者福祉課　労働相談担当者
演題　勤めたら知っておきたい労働の基礎知識
②研究発表会　神川町中央公民館　12月８日㈮
「共同実施について」神川班

㉖　人権教育研究会
①講演会　講師　菊池　聡　氏　８月10日㈭
②授業研究会　11月17日㈮
授業者　美里町立大沢小学校　福田　勇人　教諭
指導者　美里町教委指導主事　門倉　正人　先生

㉗　主幹教諭・教務主任研究会
①第１回研修会（講演会）　８月23日㈬
「学校組織と主幹教諭・教務主任の役割」
講師　北部教育事務所副所長　下野戸陽子　先生
②第２回研修会（研究校視察）　10月11日㈬
「考え、話し合い、学び合う学習」普及のための実践協力校に係る授業研究協議会
会場　本庄市立児玉小学校

㉘　学校栄養士研究会
①食品衛生管理の研修　８月23日㈬
美里町コミュニティセンター
②栄養教諭研究会　６月14日㈬、８月８日㈫
本庄上里学校給食センター
レシピの検討、掲示資料作成

㉙　環境教育研究会
①環境教育研修会夏季研修会
場　所　早稲田リサーチパーク
開催日　７月25日㈫　講師　神座　侃大　先生
演　題　自然環境と雑木林について

㉚　国際理解教育研究会
研修会　上里町立七本木小学校　８月23日㈬
指導者　本庄市立本庄東中学校教頭
川田　博樹　先生
内　容　各校で実践した国際理解教育を視点に据えた授業の指導案交換と代表６校による実践発表研修会

11　深谷市教育委員会

Ⅰ　はじめに

本研究会は小学校19校、中学校10校の計29校会員数683名で、46の研究部を組織し活動しています。各研究部は、授業研究会や主任会・講演会を通して、指導力の向上を目指しています。

本年度の研究集録には、今年度小・中合同授業研究会を行った研究部の活動について掲載します。

Ⅱ　活動内容

1　国語科研究部（小学校）

○努力目標「言語活動を定着させる指導と評価の工夫」

⑴　活動概要

・６/28㈬　教育研究所　第１回主任会　講演会
・８/24㈭　明戸小学校　第２回主任会
・11/10㈮　明戸小学校　合同授業研究会
授業者　明戸小学校　榎本　浩子　教諭
指導者　深谷市立深谷小学校長　石川　浩　氏
・２/７㈬　教育研究所　第３回主任会
・２/13㈫　ウェスタ川越（県内視察）

2　社会科研究部（小学校）

○努力目標「地域や学校、児童の実態を生かした指導と評価の計画を作成し活用する」

⑴　活動概要

・６/７㈬　深谷西小学校　第１回主任会
・８/７㈪　幡羅小学校　第２回主任会
・10/25㈬　花園小学校　第３回主任会
・11/10㈮　花園小学校　合同授業研究会
授業者　花園小学校　浅見　将吾　教諭
指導者　深谷市教育研究所　河田　重三　氏

3　算数研究部（小学校）

○努力目標「学ぶことの楽しさと充実感のある学習展開の工夫」

⑴　活動概要

・５/23㈫　幡羅小学校　第１回主任会　講演会
・８/17㈭　深谷市教育研究所　第２回主任会
・10/17㈫　花園小学校　第３回主任会
・11/10㈮　花園小学校　合同授業研究会
授業者　花園小学校　下山　裕太　教諭
指導者　深谷市教育委員会　染谷　明信　氏

4　理科研究部（小学校）

○努力目標「学習環境を整備し、観察、実験等を充実して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業の展開に努める」

⑴　活動概要

・６/13㈫　本郷小学校　第１回主任会
・８/４㈮　川本北小学校　第２回主任会
・９/２㈯　本郷小学校
深谷市科学展（～３日㈰）
・10/７㈯　川本北小学校
大里地区科学展（～８日㈰）
・10/11㈬　常盤小学校　第３回主任会
・11/10㈮　常盤小学校　合同授業研究会
授業者　深谷市立常盤小学校　益田　眞実　教諭
指導者　深谷市教育委員会　淺野　貴之　氏

5　図画工作科研究部（小学校）

○努力目標「一人一人の資質や能力を高める指導と評価の計画を活用し、その改善と充実を図る」

⑴　活動概要

・６/９㈮　榛沢小学校　第１回主任会
・７/28㈮　上柴東小学校　第２回主任会
・11/10㈮　合同授業研究会　上柴東小学校
授業者　上柴東小学校　安西　あゆみ　教諭
指導者　深谷市教育委員会　強瀬　哲朗　氏
・11/22㈬　小中合同主任会　榛沢小学校

6　家庭科研究部（小学校）

○努力目標「児童や地域の実態を生かし、児童の主体的な学習活動や個性を生かすことができる２年間を見通した指導計画を作成し、活用を図る。個に応じた指導と評価を工夫し、実践的な態度を育てる」

⑴　活動概要

・８/４㈮　藤沢小学校　第１回主任会
・８/10㈭　妻沼小学校　実技研修会
・９/14㈭　花園小学校　発明創意くふう展
・10/10㈫　川本南小学校　第２回主任会
・11/10㈮　川本南小学校　合同授業研究会
授業者　川本南小学校　新井　真由美　教諭
指導者　岡部小学校　教頭　今井　和美　氏
・12/13㈬　藤沢小学校　大里地区家庭科授業研究会

7　体育科研究部（小学校）

○努力目標「各指導内容をバランスよく指導する授業を実践し、運動の特性や魅力を味わわせる」

⑴　活動概要

・５/26㈮　藤沢公民館　第１回主任会
・８/４㈮　深谷市小学校体育実技指導者講習会
・８/18㈮　深谷公民館　第２回主任会
・10/３㈫　深谷市小学校親善運動会
・11/10㈮　教研合同授業研究会　上柴東小学校
授業者　上柴東小学校　冨澤　岳大　教諭
指導者　深谷市教育委員会　小林　亘　氏

・11/24㈮　藤沢小学校　第３回主任会

8　道徳教育研究部（小学校）

○努力目標「道徳的緒価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的･多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の着実な実践と充実を図る」

⑴　活動概要

・６/23㈮　藤沢小学校　第１回主任会　講演会
・８/23㈬　幡羅公民館　第２回主任会
・10/27㈮　八基小学校　第３回主任会
・11/10㈮　八基小学校　合同授業研究会
授業者　八基小学校　保泉　朱美　教諭
指導者　深谷市教育委員会　本多　斎士　氏

9　人権教育研究部（小学校）

○努力目標「人権問題を正しく理解し、人権感覚を身につけ、様々な人権問題を解決しようとする児童を育成する」

⑴　活動概要

・６/13㈫　岡部小学校　第１回主任会
講演会　花園小学校長　持田　倫武　先生
・８/21㈪　榛沢小学校　授業研究会指導案検討
・11/10㈮　榛沢小学校　合同授業研究会
授業者　榛沢小学校
関口　雅美　教諭・徳世八千代　教諭
指導者　深谷市立花園小学校校長
持田　倫武　氏
・１/23㈫　藤沢中学校　第2回主任会　合同研修会

10　数学科研究部（中学校）

○努力目標「数学的活動の充実を図り、その楽しさや数学のよさを実感し、活用して考えたり判断したり表現したりしようとする態度を育てる」

⑴　活動概要

・８/７㈪　教育研究所　第１回主任会
・10/24㈫　川本中学校　第２回主任会
・11/10㈮　川本中学校　合同授業研究会
授業者　川本中学校　作本　寿紀　教諭
指導者　埼玉県教育局　松永　哲　氏
・１/23㈫　上柴中学校　第３回主任会

11　理科研究部（中学校）

○努力目標「基礎基本の確かな定着とともに、観察・実験等を充実し、自然を主体的に調べる授業の展開に努める」

⑴　活動概要

・６/13㈫　本郷小学校　第１回小中合同主任会
・８/２㈬　本郷小学校　第２回主任会
・10/25㈬　豊里中学校　第３回主任会
・11/10㈮　豊里中学校　合同授業研究会
授業者　豊里中学校　柴﨑　栄一　教諭
指導者　深谷市教育委員会　山下　雅之　氏

12　保健体育科女子研究部（中学校）

○努力目標「運動の特性や魅力にふれる楽しさや喜びを味わわせ、体力と運動の技能を高める授業実践」

⑴　活動概要

・６/７㈬　幡羅中学校　第１回主任会
・８/１㈫　南中学校　第２回主任会
・11/10㈮　深谷中学校　合同授業研究会
授業者　深谷中学校　杉本　彩　教諭
指導者　深谷市教育委員会　松島　猛　氏
・１/24㈬　深谷中学校　第３回主任会

13　英語科研究部（中学校）

○努力目標「学習到達目標を明確にし、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を育成する授業を創造する」

⑴　活動概要

・６/13㈫　幡羅中学校　第１回主任会
・８/23㈬　藤沢中学校　第２回主任会
・９/５㈫　深谷市･寄居町英語弁論大会
第３回主任会
・11/10㈮　幡羅中学校　合同授業研究会
授業者　幡羅中学校　堀口　貴秀　教諭
指導者　深谷市教育委員会　大沢　裕　氏

14　特別支援教育研究部（中学校）

○努力目標「すべての学校において一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する」

⑴　活動概要

・５/23㈫　深谷市教育研究所　第１回主任会
・６月実施　第１回小・中合同学習会
・８/１㈫　深谷市教育研究所　第２回主任会
・11月～12月実施　第２回小・中合同学習会
・11/10㈮　岡部中学校　合同授業研究会
授業者　岡部中学校　萩原　明　教諭
清水　正樹　教諭
指導者　深谷市教育委員会　栗原　秀人　氏
・１/31㈬　深谷市教育研究所　第３回主任会

15　図書館教育研究部（中学校）

○努力目標「学校図書館を利用した学習指導の充実と情報活用能力の育成・進んで読書をする生徒の育成」

⑴　活動概要

・７/26㈬　南中学校　第１回主任会
・８/24㈭　川本中学校　第２回主任会
・10/３㈫　深谷中学校　第３回主任会
・11/10㈮　川本中学校　合同授業研究会
授業者　川本中学校　稲葉　敦子　教諭
指導者　深谷市教育委員会　柴﨑　勇二　氏

Ⅲ　おわりに

これからも本研究会は、「学校・家庭・地域の結びつきを深め『知・徳・体』のバランスのとれた児童生徒の育成を目指し、生きる力を育む学校教育の推進」を研究主題として様々な事業を進めてまいります。

12　行田市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、小学校16校、中学校８校の会員数453名、34の教科等研究部で組織されている。

本会は、行田市内小中学校の各種教育研究活動を促進すると共に、相互の連絡を緊密にし、行田市教育の振興を図ることを目的とする。

また、この目的達成のため、次の事業を行う。

1　教育の研究に関すること。
2　教育の調査に関すること。
3　研究成果並びに資料等の作成刊行に関すること。
4　教員の研修に関すること。
5　県郡市及び地域の教育研究団体の連絡提携に関すること。
6　その他目的達成に必要な事業。

Ⅱ　本会の組織

1　役員
会長１名、副会長２名、理事33名、監事２名、幹事１名

2　会計（平成29年度予算）
会　費　292,500円　　助成金　400,000円
負担金　87,990円　　繰越金　98,106円

3　教科等研究部
⑴校長会　⑵教頭会　⑶教務主任　⑷保健主事
⑸研修　⑹養護　⑺学校事務　⑻国語　⑼書写
⑽社会　⑾算数数学　⑿理科　⒀生活・総合
⒁音楽　⒂図工美術　⒃保健体育　⒄家庭
⒅技術・家庭　⒆英語活動　⒇外国語　㉑道徳
㉒特別活動　㉓学校図書館　㉔視聴覚・情報教育
㉕教心相談・教育相談　㉖特別支援教育　㉗食育
㉘生徒指導　㉙進路指導・キャリア教育
㉚幼年教育　㉛学校安全　㉜人権教育　㉝環境教育
㉞国際理解教育

Ⅲ　各教科等の研究主題と活動概要

1　校長
「次期学習指導要領への移行を踏まえた学校経営」
・校長研究協議会（年間11回）

2　教頭
「学校課題に正対し、課題解決できる学校力の向上と教頭の職務～心をつなぐ、未来をつなぐ、学びの学校づくりを目指して～」
・教頭研究協議会（年間７回）

3　教務主任
「学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施・評価・改善」
・主任研究協議会（４月・７月）

4　保健主事
「児童生徒の生きる力を育む、健康教育の工夫と改善」
・主任研究協議会（４月・７月）
・北埼玉地区学校保健研究協議会（12月）

5　研修
「自校の課題を的確にとらえ、その解決に向けた校内研修の推進」
・主任研究協議会（４月・７月）

6　養護
「養護教諭の執務上の諸問題とその対応について」
・主任研究協議会（４月・７月・２月）

7　学校事務
「再任用職員の諸手当と服務について」
・主任研究協議会（４月・７月）

8　国語
「基礎的な言語能力の定着を図るための指導と評価の工夫」
・主任研究協議会（４月・７月）

9　書写
「言語活動を有機的に位置づけた書写指導の創意工夫」
・主任研究協議会（４月）
・実技研修会（５月・10月）
・市内硬筆展（６月）・市内書きぞめ展（１月）

10　社会
「基礎的基本的な知識や技能の確実な定着と授業展開の工夫」
・主任研究協議会（４月・８月）
・現地研修会（８月）

11　算数数学
「（小）指導内容の系統や関連を踏まえ、児童一人一人を確実に伸ばす指導の充実
（中）生徒の実態に即した指導計画の活用と数学的活動の充実」
・主任研究協議会（４月・８月）

12　理科
「科学的に解決する力や表現する力を育成し、自然を主体的に調べる活動を重視した授業の工夫」
・主任研究協議会（４月）・現地研修会（８月）

13　生活・総合
「各校の特色を生かした年間指導計画の実施と改善」
・主任研究協議会（４月）・授業研究会（11月）

14　音楽
「感性を高め、工夫して表現したり鑑賞したりするという、一連の過程を重視した学習指導の工夫」
・主任研究協議会（４月・８月・１月）
・市内音楽会、研究協議会（10月）
15　図工美術
「（小・中）一人一人の資質や能力を高める指導と評価の計画を活用しその改善と充実を図る」
・主任研究協議会（４月・12月）
・実技研修会（７月）・身障展審査会（７月）
・郷土美展審査会（11月）
16　保健体育
「運動の特性や魅力を味わわせ、体力と運動の技能を高める授業の実践」
・主任研究協議会（４月・５月・２月）
・実技伝達講習会（８月）
・授業研究会（10月・11月）
・小学校連合運動会（10月）
17　家庭
「自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」
・主任研究協議会（４月）
・実技研修会（７月）・授業研究会（９月）
18　技術・家庭
「習得した基礎的・基本的な知識及び技術を生活で活用する力の育成を図る学習指導の研究」
・主任研究協議会（４月）
・実技研修会（８月）・授業研究会（11月）
19　英語活動
「コミュニケーションの楽しさを体験的に学習する授業の工夫　～主体的な学びを通して～」
・主任研究協議会（４月・７月）
・初任者、転入者対象研修会（５月）
・英語活動カリキュラム研修会（８月）
20　外国語
「小・中・高の連携を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成」
・主任研究協議会（４月・８月）
21　道徳
「心に響く道徳の時間の指導方法の工夫」
・主任研究協議会（４月・８月）
22　特別活動
「よりよい学校・学級文化を創造する特別活動」
・主任研究協議会（４月・８月）
・授業研究会（10月）
23　学校図書館
「学校図書館の効率的な運用と計画的な読書指導の推進」
・主任研究協議会（４月）
・読書感想文コンクール審査会（９月）
24　視聴覚･情報教育
「自主的･主体的な活動を通した情報活用能力の育成」
・主任研究協議会（４月）・実技研修会（８月）
25　教心相談・教育相談
「学校教育相談体制の充実と実践」
・主任研究協議会（４月・８月）
26　特別支援教育
「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、個別の指導計画を作成し、指導・支援の充実を図る」
・主任研究協議会（４月・８月）
27　食育
「望ましい食習慣の形成と食事環境の充実」
・主任研究協議会（４月・７月）
・現地研修会、研究協議会（７月）
28　生徒指導
「（小）心豊かな児童の育成をめざす生徒指導
（中）生徒一人一人の自己指導能力の育成を図る生徒指導」
・主任研究協議会（４月・７月・12月）
・現地研修会（１月）・学警連補導（年間６回）
29　進路指導・キャリア教育
「自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう進路指導･キャリア教育の充実を図る」
・主任研究協議会（４月）・現地研修会（８月）
30　幼年教育
「生きる力をはぐくむための保幼小の連携のあり方」
・主任研究協議会（４月）・教育研修会（８月）
・小学校授業参観（９月）
31　学校安全
「自主的に安全な行動がとることができる児童生徒の育成」
・主任研究協議会（４月）・現地研修会（８月）
32　人権教育
「一人一人の児童生徒の発達の段階に応じた人権教育～さまざまな人権課題を解決しようとする児童生徒の育成～」
・主任研究協議会（４月・８月）
33　環境教育
「環境問題に気付き、環境を守ろうとする心と態度の育成」
・主任研究協議会（４月）・現地研修会（８月）
34　国際理解教育
「国際理解教育の具体的かつ継続的な指導の推進～自己表現力・コミュニケーション能力を高める授業の工夫～」
・主任研究協議会（４月・８月）

Ⅳ　おわりに

本研究会では、未来を切り拓く教育の創造を目指して、着実な教育研究活動を継続してきた。今後も、組織的・継続的に各部の研究活動を推進し、行田市の教育の充実と発展のために力を尽くす。

13　久喜市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、市内の小学校23校、中学校11校、計34校に在職する教職員740名を会員として組織されている。

Ⅱ　本会の重点目標

○「生きる力」をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力の育成を図る学習指導の工夫改善に努める。

○会員相互の連携を深めながら円滑効率的な会の運営に努め、久喜市教育のより一層の充実を目指し、互いに真摯な研修と実践に努める。

Ⅲ　本会の組織

1　本会の研究部組織は、次のとおりとする

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷算数・数学
⑸理科　⑹生活　⑺音楽　⑻図工・美術
⑼家庭　⑽技術・家庭　⑾保健体育
⑿英語活動・英語　⒀総合的な学習の時間
⒁道徳　⒂特別活動　⒃特別支援教育
⒄教育心理・教育相談　⒅情報教育
⒆学校図書館　⒇生徒指導
(21)進路指導・キャリア教育　(22)学校安全教育
(23)学校食育　(24)学校保健　(25)人権教育
(26)養護教員　(27)学校事務　(28)教務

・各研究部には、小・中学校の教科等主任で構成した主任会をおき、事業計画を立て、研究に努め、事業の運営を行う。

・小・中学校の校長は、研究部の顧問であり相談役とする。

2　本会に次の役員を置く。

会長１名、副会長３名、理事各校１名、
監事２名、幹事３名、研究部
（顧問・埼葛教研代表・部長・副部長）

Ⅳ　本会の主な事業

1　本部の活動

全員研究協議会（４月）　理事・部長会（４月）
定期総会（５月）　部長会（７月・１月）
理事会（２月）

2　各研究部の研究テーマ及び活動

⑴　国語「言語活動を通して指導事項を定着させ、生活で活用できる確かな国語の力を育成する」
・授業研究会（10月）

⑵　書写「児童生徒の書写能力を高める書写指導法の研究」
・市内硬筆展審査会（６月）
・毛筆実技研修会（11月）
・市内書きぞめ展審査会（１月）

⑶　社会「地域や学校、児童・生徒の実態を生かした指導と評価の計画を作成し活用する。また、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着と、それらを活用して考える授業展開の工夫・改善に努める」
・授業研究会（９月）

⑷　算数・数学「算数・数学的活動の充実を図り、その楽しさや算数・数学のよさに気付き、進んで生活に活用して考えたり、表現したりしようとする態度を育てる」
・授業研究会（９月）

⑸　理科「自ら自然を調べる探求活動の工夫による科学的な思考・表現力の育成」
・授業研究会（７月）
・市内科学教育振興展覧会（９・10月）

⑹　生活「児童の思いや願いを生かした気付きの質を高める授業展開の工夫」
・実践報告会（１月）

⑺　音楽「音楽の美しさ、活動の喜びを心から味わえる指導方法の工夫」
・実技研修会（６月）
・市内音楽会（９月・10月・11月）

⑻　図工・美術「つくり出す喜びを味わわせ、基礎的な能力をもとに創意工夫し、豊かな情操を養う指導の工夫」
・授業研究会（９月）
・市内児童生徒美術展覧会（12月）

⑼　家庭「自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成」
・市内小学校発明創意くふう展覧会（９月）
・授業研究会（12月）

⑽　技術・家庭「基礎的・基本的な知識及び技術を確実に習得させ、生きる力をはぐくむ学習指導の工夫」
・市内中学校発明創意くふう展・発表会（９月）
・授業研究会（12月）

⑾　保健体育「①運動の特性や魅力に触れる楽しさや喜びを味わわせ、体力の向上と運動の技能を高める授業の実践②健康・安全に関する基礎的な内容を実践的に理解させる授業の展開」
・代表者会議（４月）
・市内小学校陸上競技大会（５月）
・授業研究会（10月）

⑿　英語活動・英語「①外国語活動において、外国語に触れ、コミュニケーション能力の素地づくりを行う②言語の使用場面や言語の働きに配慮し、コミュニケーション能力を育成する授業を通して、小中間の有機的な連携を図る」
・市内中学校英語弁論大会（９月）
・授業研究会（12月）

⒀　総合的な学習の時間「生きる力をはぐくむ総合的な学習の時間の工夫」
・授業研究会（10月）

⒁　道徳「教科化を踏まえて、自己の生き方についての考えを深める授業展開の工夫」
・講演会（６月）

⒂　特別活動「よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成を図る」
・授業研究会（11月）

⒃　特別支援教育「発達障害を含む傷害のある児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育支援を行う。特別支援学級の特性を生かした指導の充実を図る」
・授業研究会（６月）
・市内特別支援学級合同遠足（６月・９月）
・研究協議会（１月）

⒄　教育心理・教育相談「学校教育相談体制の充実と学校・家庭・関係機関との連携」
・事例研修会（10月）

⒅　情報教育「やる気を起こさせる視聴覚機器（コンピュータ）の効果的な活用の工夫」
・実技研修会（11月）

⒆　学校図書館「自ら学ぶ児童生徒を育てる学校図書館の充実～学習情報センター・読書センターとしての機能の充実～」
・市内読書感想文審査会（９月）
・研修会（10月）

⒇　生徒指導「実態に即した校内生徒指導体制の充実と積極的な生徒指導の推進」
・講演会（11月）

(21)　進路指導・キャリア教育「児童・生徒理解に基づく進路指導・キャリア教育の工夫」
・授業研究会（11月）

(22)　学校安全「児童・生徒が自ら安全に行動できる実践力を高める指導の工夫」
・研究協議会（７月）

(23)　学校食育「正しい知識と望ましい食習慣を身につけ自ら健康管理ができる資質・能力を育む指導の工夫」
・授業研究会（11月）

(24)　学校保健「学校保健部会の推進～望ましい保健教育のあり方～」
・研修会（12月）

(25)　人権教育「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童・生徒を育成する学校人権教育の推進」
・授業研究会（11月）

(26)　養護教員「保護者や関係者等と連携した保健教育、保健管理の推進」
・研究協議会（７月・11月・１月）

(27)　学校事務「学校事務の効率化－実務研修－」
・実務研修会（12月）

(28)　教務「創意工夫を生かした教育課程の編成・実施・評価」
・研究協議会（12月）

Ⅳ　まとめ

１　研究冊子の発行

本年度の本会の活動をまとめた「新久喜の教育　第８号」を発行する。

２　おわりに

本年度、小学校陸上大会、音楽会をはじめ、作品展や審査会等々が開催され、児童生徒の活躍を数多く見ることができた。

また、28の各研究部では、47回もの授業研究会や研修会が開催された。

今後も本研究会の実践が、各学校の教育活動の充実に結びつくよう努めていく。

14　幸手市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、幸手市立小・中学校の教職員262名で組織され、27の研究部で研究を進めている。

Ⅱ　活動概要

各研究部では、授業研究会や講演会、大会や各種展覧会等を通して指導力の向上を目指している。

1　国語教育研究部
研究主題「生きて働く国語力の定着を図る授業の創造」
研究協議会　幸手市立権現堂川小学校　２月７日㈬

2　書写教育研究部
研究主題「自らの課題を持って意欲的に学ぶ為の書写指導の工夫」
⑴　市内硬筆審査会　幸手市立長倉小学校　６月16日㈮
⑵　実技研修会　幸手市立さかえ小学校　10月26日㈭
指導者　堀越　正　先生
⑶　幸手市児童生徒書きぞめ展覧会　幸手市立さかえ小学校　１月20日㈯

3　社会科教育研究部
研究主題「生きる力を育む社会科授業の展開」
授業研究会　幸手市立行幸小学校　11月15日㈬
授業者　幸手市立行幸小学校　海野　雅人　教諭
指導者　幸手市教育委員会主幹兼指導主事　平野　和教　氏

4　算数・数学教育部
研究主題「数学的な活動の楽しさや見方・考え方のよさに気づき活用できる児童生徒の育成」
授業研究会　幸手市立さくら小学校　11月１日㈬
授業者　幸手市立さくら小学校　伊藤　澄子　教諭
峰岸　明日香　教諭　飯島　朋香　教諭
指導者　埼玉大学教育学部付属小学校　教諭　神谷　直俊　先生

5　理科教育研究部
研究主題「学び合いを通して科学的思考力・表現力を育成する指導法の工夫改善」
⑴　幸手市科学振興展覧会　幸手市立長倉小学校　10月１日㈰
⑵　埼玉県科学振興展覧会埼葛地区展　幸手市立権現堂川小学校　10月14日㈯・15日㈰

6　生活科教育部
研究主題「子どもの願いを生かす体験学習の支援の仕方　～実践を通して研修を深める～」
授業研究会　幸手市立さかえ小学校　11月17日㈮
授業者　幸手市立さかえ小学校　染谷　弥生　教諭
指導者　東部教育事務所　安藤　由美子　氏

7　音楽教育研究部
研究主題「音楽を形作っている要素が生み出すよさや特質を感じ取り表現したり鑑賞したりする過程を重視する学習指導の工夫」
⑴　夏季実技研修会　松伏町中央公民館　７月28日㈮
⑵　市内小中学校音楽発表会　アスカル幸手　11月７日㈫
指導者　杉戸町立泉小学校長　吉野　知美　先生

8　図工・美術教育研究部
研究主題「基礎・基本の定着を充実させる」
実技研修会　幸手市立西中学校　８月３日㈭
指導者　久喜市立久喜東中学校　小林　寿子　先生

9　保健体育研究部
研究主題「各指導内容をバランスよく指導・評価し運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫～運動好きな子供を～」
⑴　幸手市小学校陸上競技大会　幸手総合公園陸上グラウンド　５月24日㈬
⑵　授業研究会　幸手市立さくら小学校　11月16日㈭
幸手市立さかえ小学校　11月24日㈮
授業者　幸手市立さくら小学校　三森　隼也　教諭
幸手市立さかえ小学校　杉田　良介　教諭
指導者　筑波大学　准教授　長谷川　悦示　氏
幸手市教育委員会主幹兼指導主事　平野　和教　氏

10　技術・家庭科教育専門部
研究主題「学ぶ楽しさや実践する喜びを味わわせる指導の工夫（小）
３年間を見通した題材の工夫と個に応じた評価の工夫（中）」
⑴　幸手市発明創意くふう展　幸手市立吉田小学校　９月８日㈮
⑵　実技研修会　ウエルス幸手　８月24日㈭

11　英語・外国語活動教育部
研究主題「コミュニケーション能力を高めるための指導方法の工夫」
⑴　幸手・杉戸班中学生英語弁論大会　カルタスすぎと　９月12日㈫

⑵　研究協議会　幸手市立西中学校　　１月29日㈪

12　道徳教育研究部

研究主題「道徳的諸価値についての理解を基に自己を見つけ物事を多面的多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の着実な実践と充実を図る」

講演会　　幸手市立上高野小学校　　６月27日㈫

講師　　幸手市教育委員会教育長

山西　　実　氏

13　総合的な学習の時間教育部

研究主題「学校の創意工夫を生かした学習活動の展開」

研究協議会　幸手市立西中学校　　２月８日㈭

指導者　幸手市立八代小学校

教頭　坂本　信之　先生

14　特別活動教育部

研究主題「よりよい人間関係を築く学習活動を推進するための指導法の工夫」

授業研究会　幸手市立上高野小学校　２月６日㈫

授業者　幸手市立上高野小学校　髙橋　有希　教諭

指導者　久喜市立桜田小学校長　渋谷　修造　先生

15　特別支援教育部

研究主題「発達障害のある児童生徒の具体的な支援の充実」

⑴　合同学習会　幸手市立幸手中学校・西中学校　11月21日㈫

⑵　手をつなぐ子らの作品展　ウエルス幸手　１月24日㈬～30日㈫

⑶　手をつなぐ子らの交歓会　幸手市立北公民館　２月16日㈮

16　教育心理・教育相談教育部

研究主題「子どもの心にひびく教育相談」

事例研修会　幸手市立八代小学校　　12月８日㈮

指導者　幸手市立東中学校養護教諭

新井　直子　先生

17　情報（視聴覚）教育部

研究主題「情報機器の活用」

⑴　研究協議会　幸手市立上高野小学校　８月28日㈪

⑵　授業研究会　幸手市立行幸小学校　11月30日㈭

授業者　幸手市立行幸小学校

田村　浩基　教諭

18　学校図書館教育部

研究主題「読書好きな児童生徒の育成を目指しての図書館の整備運営」

研究協議会　幸手市立幸手中学校　　９月15日㈮

19　生徒指導教育部

研究主題「児童生徒の基本的な生活習慣の確立を目指して」

研究協議会　幸手市立行幸小学校　　１月23日㈫

指導者　幸手市立東中学校長　　古関　正広　先生

20　進路指導・キャリア教育部

研究主題「自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう進路指導・キャリア教育の充実を図る」

研究協議会　幸手市立西中学校　　11月８日㈬

指導者　幸手市教育委員会

主幹兼指導主事　平野　和教　氏

21　安全教育部

研究主題「児童生徒の自主的な安全意識の高揚と実践化」

研究協議会　幸手市立長倉小学校　　11月８日㈬

指導者　埼玉県教育局県立学校部保健体育科指導主事

渡部　順一　氏

22　学校給食・栄養士部

研究主題「食に関する指導の工夫」

先進地域視察　　７月31日㈪

23　保健主事部

研究主題「保護者や関係者等と連携した保健教育関係の管理の推進」

研究協議会　すぎとピア　　12月４日㈪

24　人権教育部

研究主題「人権を大切にする教育の推進」

授業研究会　幸手市立幸手小学校　　１月17日㈬

授業者　幸手市立幸手小学校　　鳥矢部真世　教諭

指導者　幸手市立さかえ小学校長

長谷川　守　先生

25　養護部

研究主題「幸手市の児童生徒のたくましい心と体づくりに果たす養護教諭の役割～幸手市養護教諭執行マニュアルの見直し～」

研究協議会　幸手消防署西分署　　８月18日㈮

26　学校事務部

研究主題「学校事務の効率化」

研究協議会　幸手市立東中学校　　８月25日㈮

27　教務部

研究主題「学力向上に向けた教育課程の充実について」

Ⅲ　終わりに

本市教研では、「学力の向上」を目指し、学びに向かう意欲や基礎・基本の確実な定着、知識・技能を活用するための思考力・判断力の育成を進めている。今後も子ども一人一人のよさや生きる力を伸ばすために教職員の指導力の向上を推進していく。

15　杉戸町教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、杉戸町立小・中学校９校の教職員で組織する28の専門部会をもって活動している。

Ⅱ　研究概要

各専門部会は、授業研究会や講演会、各種展覧会等をとおして、指導力の向上に目指している。

1　国語部会
重点「言語能力の定着を図る指導と評価の工夫」
授業研究会　杉戸町立西小学校　11月28日㈫
授業者　西小学校　大島　千聖　教諭
指導者　元久喜市立久喜北小学校長　山本　千恵子　先生

2　書写部会
重点「児童生徒の書写能力及び教師の指導技術の向上」
・町小中学校硬筆展　カルスタすぎと　６月10日㈯・11日㈰
・町小中学校書きぞめ展　カルスタすぎと　１月13日㈯・14日㈰

3　社会部会
重点「生きる力を育む社会科授業を目指して」
授業研究会　杉戸町立西小学校　10月17日㈫
授業者　西小学校　阿部　翔吏　教諭
指導者　行田市立中央小学校　主幹教諭　向井　隆盛　先生

4　算数・数学部会
重点「学ぶことの楽しさと充実感のある学習展開の工夫」
授業研究会　杉戸町立高野台小学校　１月23日㈫
授業者　高野台小学校　林由　美子　教諭
指導者　幸手市立幸手中学校　教頭　田村　嘉則　先生

5　理科部会
重点「基礎的・基本的な力を伸ばし、主体的・対話的で深い学びにより、科学的な思考力や表現力の育成を図る」
科学教育振興展覧会杉戸地区展　泉小学校　９月23日㈯、24日㈰
管外視察　越谷市立大袋小学校　２月１日㈭

6　生活科部会
重点「気付き、考え、自分の思いや願いに向かって生き生きと活動する子の育成」
授業研究会　杉戸町立西小学校　11月16日㈭
授業者　西小学校　竹内　文子　教諭
指導者　越谷市立大袋小学校　主幹教諭　新原　秀典　先生

7　音楽部会
重点「児童生徒が感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した学習指導の工夫」
授業研究会　杉戸町立杉戸第三小学校　11月24日㈮
授業者　杉戸第三小学校　竹村　励　教諭
指導者　春日部市立正善小学校　田矢　真理　先生
杉戸町小中学校音楽会　杉戸中学校　11月２日㈭

8　図工・美術部会
重点「児童生徒一人一人の資質や能力を高め、つくりだす喜びを味わわせる指導と評価の工夫」
杉戸町児童生徒美術展　杉戸町西公民館　12月２日㈯・３日㈰

9　保健体育部会
重点「運動の特性や魅力を味わわせ、おもいっきり汗をかく体育授業」
小学校陸上競技大会　杉戸小学校　６月１日㈭
小学校体育実技伝達講習　高野台小学校　７月21日㈮
授業研究会　杉戸町立杉戸小学校　11月29日㈬
授業者　杉戸小学校　小林　公貴　教諭
指導者　県立総合教育センター指導主事　古島　隆寛　先生

10　家庭科部会
重点「自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」
家庭科研究発表会並びに発明創意工夫展　杉戸町立高野台小学校　９月13日㈬
指導者　杉戸第三小学校長　齋藤　芳明　先生

11　技術・家庭科部会
重点「生徒の学びを高め、生活する力を主体的に学ぶ学習指導の工夫」
杉戸町立広島中学校　９月13日㈬
生徒発明創意くふう展並びに研究発表会

12　英語・英語活動部会
重点「小中連携を考えた英語授業のあり方」
授業研究会　杉戸町立杉戸中学校　７月11日㈫
授業者　杉戸中学校　山本　和弥　教諭
指導者　久喜市立本町小学校教頭　大島　薫　先生
幸手・杉戸班弁論大会　カルスタ杉戸　９月12日㈫

13　道徳部会
重点「道徳の教科化にむけた学習指導・評価の工夫」
授業研究会　杉戸町立西小学校　　６月28日㈬
授業者　西小学校　　松本　彩果　教諭
指導者　蓮田市立蓮田中学校校長
石川　　勉　先生
14　特別活動部会
重点「児童生徒の望ましい人間関係を築くための話合い活動への指導のあり方」
研究協議会　杉戸町立東中学校　　11月16日㈭
15　総合的な学習の時間部会
重点「主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動を展開する」
授業研究会　杉戸町立広島中学校　　９月22日㈮
授業者　広島中学校　　卯木　紀子　教諭
岩崎友希乃　教諭
指導者　杉戸小学校教諭　　長谷川知徳　先生
16　特別支援教育・交流教育部会
重点「障がいのある子どもの生活を豊かにする指導法の推進」
交流遠足　越谷市立児童館「ヒマワリ」
６月21日㈬
交流会　杉戸町立杉戸小学校　　11月10日㈮
なかよし作品展　　杉戸町立西公民館
１月27日㈯・28日㈰
17　学校教育相談部会
重点「児童生徒のより望ましい成長と自己実現への支援」
研究協議会　西小学校　　10月31日㈫
指導者　スクールカウンセラー
三瓶　泰代　先生
18　放送教育・情報教育部会
重点「教育メディアの効果的活用」
研究協議会・実技研修会　杉戸第三小学校
７月28日㈮
指導者　Ｓｋｙ株式会社　　田部　成孝　氏
19　学校図書館教育部会
重点「豊かな感性や情操を育む読書センターとしての機能を発揮できる学校図書館を目指して」
研究協議会　杉戸町立広島中学校　　９月28日㈭
20　生徒指導部会
重点「小中一貫を視点に入れた生徒指導」
管外視察　国立武蔵野学院　　11月28日㈫
21　進路指導・キャリア教育部会
重点「９年間を見据えた、進路指導・キャリア教育」
授業研究会　杉戸町立杉戸第二小学校
11月30日㈭
指導者　杉戸町教育委員会指導主事
須賀　一永　先生
22　学校安全部会
重点「自らの命を守る実践的な態度や能力を育成する安全教育」
研究協議会　杉戸町立杉戸第二小　　12月８日㈮
23　学校給食部会
重点「望ましい食習慣と人間関係の育成を目指した学校給食の充実」
研究協議会　杉戸町立学校給食センター
１月16日㈫
24　学校保健部会
重点「生涯にわたって心身共に健康で安全な生活を主体的に実践できる児童生徒を育成する」
研究協議会　杉戸町立泉小学校　　８月29日㈫
25　人権教育部会
重点「人権問題を正しく理解し、解決に向けて自ら行動できる児童生徒の育成」
杉戸町人権教育合同研修会参加　すぎとピア
８月３日㈭
26　養護部会
重点「学校給食における食物アレルギー対応の資料作成」
研究協議会　６月23日㈮　　高野台小学校
広島中学校　７月19日㈬
東中学校　10月11日㈬
杉戸第二小学校　12月20日㈬
泉小学校　２月27日㈫
27　学校事務部会
重点「教育支援を目的とした学校事務」
研究協議会　杉戸町立杉戸第二小学校　12月15日㈮
28　学校運営部会
重点「創意工夫を生かした教育課程の編成・実施・評価」
研究協議会　杉戸町立東中学校　　２月27日㈫

Ⅲ　全体研修会（研究発表）

カルスタ杉戸　泉小学校　　５月９日㈫

Ⅳ　講演会　８月25日㈮　カルスタ杉戸

演題「なぜ先生が知る必要があるの？～子どもたちの現状～」
講師　LGBTの家族と友人をつなぐ会
中島　　潤　先生

Ⅴ　終わりに

杉戸町教育大綱の目標に「人を育む、心豊かなまち」とある。本研究会の取組により「知」、「徳」、「体」のバランスのとれた、生きる力を身に付けた人財育成につなげていきたい。

平成 29 年度

研究論文集

Ⅰ　平成29年度研究論文応募者等一覧 …… 126

＜　入　　選　＞

1　児童の学習成果を保障する体育授業モデルの一般化と指導法の共有化についての一考察
～学校間連携による体育授業の充実と新学習指導要領実施に向けてのカリキュラム作成を目指して～【体育】
坂戸市立入西小学校　　教諭　萩原　雄麿…… 128

2　不安傾向が強い生徒への保健室支援の在り方
～「認知再構成法」と「コラム表」を活用しての健康相談活動の実践～【教育心理・教育相談】
三郷市立瑞穂中学校　養護教諭　細谷　光子…… 134

＜　佳　　作　＞

1　自尊感情を高める小学校４年生の学級集団づくり
～学級内の対人関係づくりと話合い活動の実践を通して～【学級経営・特別活動】
さいたま市立大宮小学校　教諭　深井　正道…… 140

2　児玉中授業スタイルによる授業づくり
～主体的・対話的で深い学びを目指して～【学習指導】
本庄市立児玉小学校　　校長　島田　啓司…… 146

Ⅱ　平成30年度研究論文募集要領 …… 153

平成 29 年度研究論文応募者・入賞者一覧

Ⅰ　入賞者

1　入　選

No.	氏　名	所　属　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	萩原　雄麿	坂戸市立入西小学校	教　諭	体　育	個　人
		児童の学習成果を保障する体育授業モデルの一般化と指導法の共有化についての一考察 ～学校間連携による体育授業の充実と新学習指導要領実施に向けてのカリキュラム作成を目指して～			
2	細田　光子	三郷市立瑞穂中学校	養護教諭	教育心理・教育相談	個　人
		不安傾向が強い生徒への保健室支援の在り方 ～「認知再構成法」と「コラム表」を活用しての健康相談活動の実践～			

2　佳　作

No.	氏　名	所　蔵　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	深井　正道	さいたま市立大宮小学校	教　諭	学級経営・特別活動	個　人
		自尊感情を高める小学校４年生の学級集団づくり ～学級内の対人関係づくりと話合い活動の実践を通して～			
2	島田　啓司	本庄市立児玉小学校	校　長	学習指導	学　校
		児玉中授業スタイルによる授業づくり ～主体的・対話的で深い学びを目指して～			

Ⅱ　応募者

No.	氏　名	所　属　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	福田健志朗	伊奈町立小針中学校	教　諭	社会科	個　人
		平和のための“問いをあたためる”社会科授業の開発 ～広島・長崎の思いと核兵器禁止条約を事例に～			
2	小屋　靖明	越谷市立宮本小学校	教　諭	健康教育	個　人
		小学校第４学年におけるがん予防教育授業の実際 ～がん予防教育の教材開発から、授業実践まで～			
3	石川　大樹	吉川市立南中学校	教　諭	教育相談・特別支援教育	個　人
		特別支援学級の弾力的運用例「適応支援教室」 ～教育相談と特別支援教育の垣根をこえた不登校生徒の居場所作り～			
4	斉藤　貴司	羽生市立羽生南小学校	教　諭	理　科	個　人
		構想場面で主体的・対話的で深い学びを取り入れることが、非認知能力と知識に及ぼす効果について ～第６学年「大地のつくり」の学習を例にして～			
5	佐藤真太郎	所沢市立北小学校	教　諭	理　科	個　人
		教室の中で、海外の科学者の研究を疑似体験する授業			

No.	氏　名	所　属　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
6	中村　直紀	さいたま市立西浦和小学校	教　諭	体　育	個　人
		２年生ボール投げゲームを通した、投力・走力の向上と自己肯定感・集団意識の改善			
7	ダイヤモンド 真紀子	羽生市立村君小学校	教　諭	外国語活動	個　人
		効果的な小中連携に繋がる指導方法の研究 ～「読むことの素地」を養う指導方法の工夫～			
8	城内　君枝	ときがわ町立明覚小学校	教　諭	校内研修	個　人
		ＰＤＣＡサイクルを活かした校内研修について ～学力向上方策に焦点を当てて～			
9	清水　秀晶	嵐山町立菅谷中学校	教　諭	音　楽	個　人
		教えあい、伝え合いによる音楽表現づくり ～器楽としてのボディーパーカッション～			
10	吉岡　　章	行田市立星宮小学校	校　長	学校経営・学校運営	個　人
		自主・自立した人づくりで、児童力・教師力を高め学校を変える ～人財育成の８年間の取組（教頭・校長として）～			
11	横須賀　篤	さいたま市立芝原小学校	教　諭	理　科	個　人
		地域の環境を学ぶ理科授業の工夫			
12	嶋崎　栄一	所沢市立若松小学校	校　長	学校経営	個　人
		授業改善への挑戦（教師の発話に注目して） ～校内研修・人事評価制度の活用～			
13	関根　克巳	東松山市立松山第二小学校	校　長	特別の教科　道徳	個　人
		「特別の教科　道徳」を小・中学校連携の核に ～道徳授業の評価の一提案～			
14	佐山　栄俊	さいたま市立大久保中学校	講　師	理　科	個　人
		夢のマシーン（物理学習実験機）（part-5）「中学校特別支援学級への適用」			
15	田畑　栄一	越谷市立東越谷小学校	校　長	教育心理・学校経営	学　校
		子どもが笑顔で安心して生きることができるように ～自殺予防教育の授業を５年間実施して～			
16	菊地　昭男	坂戸市城山学園　坂戸市立 城山小学校・城山中学校	校　長	学校経営	学　校
		これが城山学園　失敗しない小中一貫教育 ～県内初　施設一体型・小中一貫教育校「城山学園」の教育実践～			

児童の学習成果を保障する体育授業モデルの一般化と指導法の共有化についての一考察

～学校間連携による体育授業の充実と新学習指導要領実施に向けてのカリキュラム作成を目指して～【体育】

坂戸市立入西小学校　教諭　萩　原　雄　麿

Ⅰ　はじめに

平成29年3月に新学習指導要領（以下、新要領）が改訂された。各校では､完全実施（平成32年度）に向け、今後2年間の移行期間で、新教育課程の編成に取り組むこととなる。中でも、体育科においては、教科で唯一教科書や教師用指導書がないため、計画的にカリキュラム作成を行うことは、学校全体の体育授業を充実させる上で極めて重要である。

文部科学省は、これまでに「小学校体育まるわかりハンドブック」等の資料を作成し、体育授業の充実を図ろうとしてきた。しかし、こうした行政の指導資料の活用について白旗ら[1]は、「文科をはじめ、行政の資料は体育の指導が得意な教員には、活用してもらっているが、指導が不得意な教員は、十分に使ってもらえていない。」という結果を示し、今後の課題として資料等の周知の仕方や対象を意識した内容構成の2点を挙げた。

また、清水[2]は、「体育授業で困っていること」について小学校教員を対象に調査した結果、「授業の方法」や「学習内容」について悩む教師が半数以上いることを明らかにした。

本校（6年前）においても、同僚教師から「体育では、何をどのように教えたらよいか分かりづらい」といった声が多く挙がっていた。また、児童数1000名（全34クラス）を超える過大規模校で、様々な経験年数、専門性をもつ教員がおり、指導力の差といった大きな問題も抱えていた。

さらに、他校の教員と情報交換する中で、「体育の指導法が分からない」「一目で授業の流れが分かる資料がほしい」といった意見が挙がり、多くの教員が体育授業に悩んでいることが分かった。

こうした背景から、筆者は、どの教員にとっても効果的で、児童の学習成果を保障する体育授業モデルを開発し、指導法を学校間で共有することで、お互いに体育授業を充実させていくことの必要性を強く感じてきた。そして、5年間（平成24年～平成28年）の実践的研究により、体育授業モデルを開発[3]し、成果の上がった指導法を職員間で共有することで､本校における全学年(34クラス）の学習成果と体力向上を保障してきた。

そこで本研究では､本校での先行研究の成果を生かし、筆者が開発した体育授業モデル（本研究では鉄棒運動のみ）を一般化し、効果的であった指導法を様々な学校間で共有することで、本校だけでなく、他校の児童の学習成果（技能・思考／判断・態度）を保障することを目指すこととした。

また、一般化を試みることで、平成32年度の新要領完全実施に向け、教科書や指導書が唯一ない体育科において、各校の新カリキュラム作成の一助になればよいと考えた。

Ⅱ　研究の仮説

6年間の系統性を踏まえた体育授業モデルの一般化を図り、指導法を学校間で共有すれば、本校及び他校の体育授業が充実し、児童の学習成果（技能・思考／判断・態度）を保障できるだろう。

Ⅲ　研究の方法

⑴　対象および期間

埼玉県坂戸市立入西小学校（本校）第1学年から第6学年の児童1,068名を対象に、平成28年4月から平成29年3月までの体育科における鉄棒4時間の授業をデータの対象とした。また、本校の教員35名（1年6名･2年6名･3年4名･4年5名･5年5名･6年5名・特別支援学級4名）をデータの対象とした。

他校については、埼玉県内6校の小学校教諭10名の平成28年度4月から11月までの鉄棒4～5時間の授業をデータの対象とした。他校教員の内訳は表1のとおりである。

表1　他校の教員について

学校	担任	経験年数	専門教科・領域
A校	1年	10年	図画工作科
B校	1年	11年	生活科
C校	2年	14年	情報教育
D校	3年	12年	体育科
	3年	初任者	
E校	3年	20年	教育相談
	4年	3年	算数科
	5年	11年	算数科
	6年	12年	安全教育
F校	5年	6年	生徒指導

⑵　データについて

①技能の成果について

単元前後における、本校1,068名と他校6校の鉄棒運動の技能の変容を検証した。

②思考・判断の成果について

高橋ら[4]が開発した形成的授業評価票の成果次元「新しい発見」項目（あっ、わかった！とかあっそうか！と思ったことはありましたか）における本校（第4学年・第6学年は各全5クラス・その他学年は1クラス[5]）と他校（6校）の児童の自己評価と「コツの記述内容」から、「思考・判断」面の成果を検証した。

③態度面の成果について

高橋ら[6]形成的授業評価票の協力次元「協力的学習」

項目（友達とお互いに教えたり助けたりしましたか）における本校と他校の児童の自己評価から、「態度」面について検証した。

④体育授業モデルの有効性について

同僚教師と他校の実践教員に対する３項目のアンケート調査（「教師用指導資料の活用状況」「活用の頻度」「授業のやりやすさ」）と自由記述による教師の意見をKJ法[7]で分類し、体育授業モデルの有効性を検討した。

また、体育科の有識者３名（大学教授１名・元国立教育政策研究所学力調査係長１名・国立大学附属小学校教諭１名）の意見から有効性を検討した。

Ⅳ　体育授業モデルについて

筆者は、同僚教師や様々な経験年数の教員からの意見（「体育の指導法が分からない」「一目で授業の流れが分かるものがほしい」）を元に、体育授業モデルの開発を平成24年度から開始した。

開発においては、「計画」「作成」「活用」「改善」を５年間繰り返し行い、平成28年度に完成させた。この体育授業モデルは、同僚教師のニーズに応じており、一目で授業の流れや学習内容を理解できる資料である。そして、先行研究として、本校で体育授業モデルを用いながら、授業改善を図り、全学年の児童の学習成果を保障してきたものである。

⑴　体育授業モデルの構成内容

体育授業モデルの構成内容は、同僚教師へのアンケート調査（「体育授業で知りたい内容」）を分析し、表２の８つに整理した。

表２　体育授業モデルの構成内容　※（　）は意見数

１単元の流れ（21）	２教材（18）	３場（17）
４用具（12）	５評価（12）	６写真・イラスト（10）
７ステップ（7）	８技能ポイント（5）	

⑵　体育授業モデルの具体

体育授業モデルは、文科省の「学校体育実技指導資料」[8]や「埼玉県小学校教育課程指導資料」[9]を参考にした。１単元につき１枚（A4判）とし、全学年・全72単元の全72枚の資料である。資料は､教師が知りたがっている８つの内容から構成されている。

なお、本研究において一般化を図った体育授業モデルは鉄棒運動に関するものである（図１)。

⑶　構成内容の詳細

体育授業モデルの８つの構成内容の詳細については①から⑧のとおりである。

①単元の流れ（モジュールよる単元構成）

鉄棒運動は、長期間取り組むことで技能が身に付く運動である。そこで、モジュール10)の考え方を取り入れ、１時間に２つの教材を組み合わせている。(表３)。

この単元構成は、１つの運動を行う時間が20分程度となり、４時間扱い（45分×４回）であれば、８回の授業を行うことができる。それにより、運動頻度の確保と技能向上を図ることができるようにした。

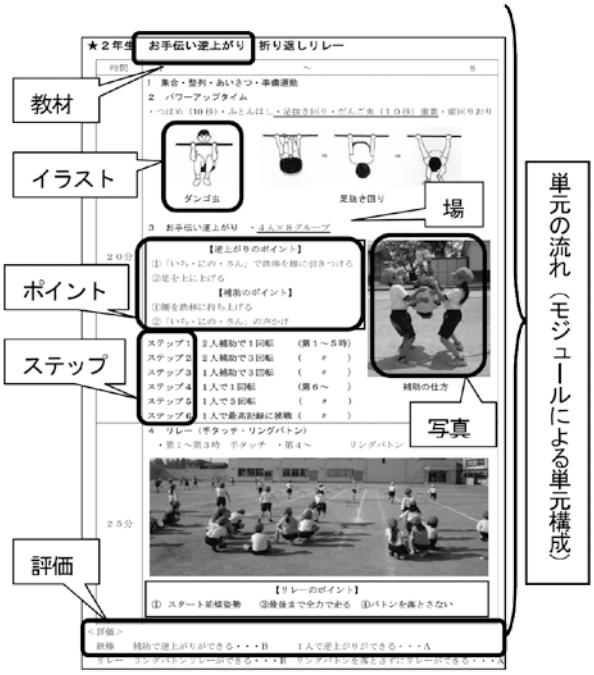


図１　体育授業モデル　（例）

表３　モジュールによる単元構成

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
20分	鉄棒運動							
25分	他領域							

②教材

６年間の系統性を踏まえて、単元を通して取り組む技を１つに絞った。指導内容を明確にすることで、着実に学習内容を習得できるようにした。

③用具

痛み軽減や技の習得の補助となる教具を示した。

④場（グループ数も含む）

運動頻度を保障するために、できるだけ多くの場を設定した。１グループ３～４人になるようにし、８～10か所で取り組むこととした。また、お互いの補助がしやすいように、身長順でのグループ編成とした。

⑤評価

全員ができる喜びを味わえるよう、補助での達成も認める評価規準とした（表４)。評価規準は「小学校学習指導要領解説体育編」を基に作成し､各担任が評価した。

表４　評価規準

Ｂ規準：補助で回転ができる Ａ規準：１人で回転ができる。

⑥写真・イラスト

運動の行い方や補助の行い方、安全面については、写真やイラストを用いることで、一目で理解できるようにした。

⑦ステップ

教師が意図的、計画的指導ができるようにし、児童がめあてをもって主体的に学習に取り組めるよう、スモールステップを示した。表５のステップを基本とし技によって、ステップを工夫できるようにした。

表５　鉄棒運動におけるスモールステップ

段階	方法	時間
ステップ１	２人補助で１回転	第１時～
ステップ２	２人補助で３回転	第３時～
ステップ３	１人補助で３回転	第５時～
ステップ４	１人で１回転	第６時～
ステップ５	１人で３回転	第６時～
ステップ６	１人で最高記録に挑戦	第６時～

⑧技能ポイント

技能ポイントは、「持ち方」「足の振り方」「補助」の３視点から明確にし、教員と児童の両者が理解しやすいようにした（表６）。

表６　技能ポイント

	持ち方	振り方	補助
逆上がり	①逆手で持つ ②鉄棒に腕を引き付ける	①足を振り上げる ②鉄棒に腹を付ける	①腰を支えて、鉄棒に付ける
ダルマ回り前	①腿を持つ ②肘を鉄棒につける ③脇を締める	①足を曲げ伸ばしする	①背中を持ち上げる ②ゆっくり持ち上げる
ダルマ回り後ろ		①足を曲げ伸ばしする ②後ろへ蹴る	
後方支持回転	①順手で持つ ②肩幅で持つ	①足を前後へふる	①膝を鉄棒に引っかける

Ⅴ　体育授業モデルの一般化

体育授業モデルの一般化の方法は、「実態把握」「選定・提案」「提供」「共通理解」「実践・情報交換」「振り返り」の６つの段階で行った。

⑴　児童の実態把握（本校・他校）

本校では、単元毎の技能の習得状況を調査することで、児童の学習状況を把握した。また、他校（６校）については、研修会等で積極的に情報交換を行い、児童の実態を把握することで、授業計画に役立てた。

⑵　６年間の系統を踏まえた教材の選定・提案

授業実践者の担当学年や経験年数は様々であり、指導力の差も見られる。この場合、体育を専門としない教員や苦手とする教員、若手教員は技を選定する基準をもっていないため選択しづらい。そこで、児童の実態から、学習成果が実証されている教材を６年間の系統性を踏まえて選定し、提案した（表７）。

なお、実態により、前年度の教材にも取り組めるようにした。

表７系統性を踏まえた教材

学年	鉄棒教材
1	補助逆上がり
2	１人逆上がり
3	ダルマ回り（前）
4	ダルマ回り（後）
5	補助後方支持回転
6	１人後方支持回転

⑶　提供

体育授業モデルは、本校では、単元に入る１週間前に配付した。他校においては、研修会等で情報交換し児童の実態に適した体育授業モデルを提供した。

⑷　共通理解

提供後、体育授業モデルの構成内容の詳細①から⑧を元に授業の行い方についての共通理解を図った。それによって、教員が「何を」「どんな場で」「どのように指導し」「どう評価するか」といった目標・内容・方法・評価を理解できるようにした。

⑸　実践・情報交換

体育授業モデルを活用して実践し、単元途中に、授業の進捗状況についての情報交換を行った。その際、疑問点として出た指導法（詳細は、Ⅵ）を共有した。

⑹　振り返り

実践後の振り返りで、学習成果と体育授業モデルと指導法の有効性を検討した。体育授業モデルの内容の改善点は次年度に生かせるよう、随時修正した。

Ⅵ　指導法の共有化

単元前と単元半ばの情報交換の中で、教師の疑問点として挙げられた４つの指導法について共有することで、児童の学習内容の保障を意図した。

⑴　補助での取組と相互観察

児童が学習内容を習得するには、仲間同士の補助での取組が重要である。そこで、お互いに補助がしやすい身長順（１グループ４～５人）でのグループ編成を行った。補助の行い方やポイントは、体育授業モデルに載せた。そして、単元初めに児童へ丁寧に指導することを確認した。また、お互いに運動を見合い、回数を数えるといった相互観察の行い方についても共通理解を図った（写真１）。

写真１　補助

⑵　個に応じた指導

単元が進むにつれ、児童間に技能差が出てくる。そこで、単元半ばに同僚教師や学校間で情報交換を行い、授業の様子や児童の実態を把握した。そして、技能の上位・中位・下位の児童のそれぞれに応じた手立てを示し、次の授業で活かせるようにした（表８・表９・表10）。特に、つまずきで多かった「補助が広まらない」については、上手な補助や相互観察を全体に紹介し、評価する等、児童のよい関わり合いを価値付けすることの重要性を確認した。

表８　技能が低位児童のつまずきと手立て

つまずき１	回転できない
手立て１	基礎感覚作りの運動に取り組ませる
手立て２	教師の補助や教具を活用する

表９　技能が中位児童につまずきと手立て

つまずき２	補助が広まらず、回転できない
手立て１	教師が児童のよい関わりを評価する
手立て２	補助の行い方を全体で再確認する

表 10　技能が高位児童に対する手立て

手立て１	回転の最高記録に挑戦させる。
手立て２	できない子の補助を行う。
手立て３	発展技を提示し、挑戦させる。

⑶　技能ポイントの発見学習

１時間の授業の中で運動観察をする時間を設け、そこで、技能ポイントを児童に指導することを学校間で確認した。重要なポイントは集めて指導し、観察する際は、ポイントに気づかせたり、発見させたりする等、児童に思考させながら、技能ポイントを習得できるようにした（写真 2）。

写真２　運動観察（４年）

⑷　教え合い言葉の活用

児童がお互いに関わり合いながら学習に取り組み、学習内容を習得するには、教え合い言葉が効果的であることを学校間で確認した。

回転のタイミングやリズムを言語化し、全体で共有化することで、技能ポイントを意識しながら取り組めるようにした（表 11）。

表 11　鉄棒運動における教え合い言葉

技	教え合い言葉
逆上がり	「いーち・にーの・おなか」
ダルマ回り（前）	「伸ばして～・曲げて～」
ダルマ回り（後）	「伸ばして～・曲げて～・１座り」
後方支持回転	「いーち・にーの・おなか」

Ⅶ　体育科における学習内容の成果

⑴　技能の成果

単元前後の鉄棒運動における達成率（1 人で回転できる）の変化は、表 12 から表 17 のとおりである。

技能成果を見ると、単元後は、概ね 80％の達成率であり、単元前と比べると 20 ポイント以上伸びていることから、大きな技能成果を得ることができたと言える。他校の技能の変容を見ると、本校と同様な技能成果が見られた。

表 12　補助逆上がりの達成率（第１学年）

学校	経験	単元前	単元後
本校		27.0%（48/178）	100%（178/178）
A校	8 年	24.2%（ 8/ 33）	100%（ 33/ 33）
B校	11 年	12.5%（ 4/ 32）	100%（ 32/ 32）
合計		24.7%（60/243）	100%（243/243）

表 13　１人逆上がりの達成率（第２学年）

学校	経験	単元前	単元後
本校		61.7%（121/196）	80.1%（157/196）
C校	14 年	52.9%（ 18/ 34）	85.3%（ 29/ 34）
合計		60.4%（139/230）	80.9%（186/230）

表 14　ダルマ回り（前）の達成率（第３学年）

学校	経験	単元前	単元後
本校		59.4%（ 95/160）	82.5%（132/160）
D校	初任	10.3%（ 3/ 29）	62.1%（ 18/ 29）
	12 年	10.0%（ 3/ 30）	70.0%（ 21/ 30）
E校	21 年	45.0%（ 18/ 40）	85.0%（ 34/ 40）
F校	6 年	30.8%（ 12/ 39）	76.9%（ 30/ 39）
合計		44.0%（131/298）	78.9%（235/298）

※実態より、F 校は５年でのダルマ回りの達成率である。

表 15　ダルマ回り（後ろ）の達成率（第４学年）

学校	経験	単元前	単元後
本校		24.7%（42/170）	80.0%（136/170）
E校	3 年	20.0%（ 8/ 40）	85.0%（ 34/ 40）
合計		23.8%（50/210）	81.0%（170/210）

表 16　補助後方支持回転の達成率（第５学年）

学校	経験	単元前	単元後
本校		62.9%（110/175）	92.0%（161/175）
E校	11 年	51.4%（ 19/ 37）	89.2%（ 33/ 37）
合計		60.8%（129/212）	91.5%（194/212）

表 17　１人後方支持回転の達成率（第６学年）

学校	経験	単元前	単元後
本校		43.1%（72/167）	67.0%（112/167）
E校	12 年	13.6%（ 7/ 22）	68.2%（ 15/ 22）
合計		41.8%（79/189）	67.2%（127/189）

⑵　思考・判断の成果

単元終了後、各学年に授業で発見したコツを記述させた結果は、表 18 のとおりである。児童が大切であると考えたコツの記述が技能に関する内容のものは、各学年 85％以上であった。また、学年全体では、本校が 97.2％、他校が 92.3％であった。なお、技能ポイント以外の記述内容は、「がんばる」といった情緒面に関する記述であった。

記述内容の多くは体育授業モデルに載せた技能ポイントであるが、中には、「くるっと回る」「体をギュッとする」等、オノマトペを使った言葉や自分なりのコツの記述があった。

表 18　記述内容が技能ポイントの割合

学年	本校	他校
1	91.8%　(45/　9)	85.7%　(108/126)
2	96.4%　(54/ 56)	98.6%　(73/ 74)
3	94.1%　(95/101)	88.6%　(78/ 88)
4	96.7%　(261/270)	93.2%　(110/118)
5	98.0%　(49/ 50)	98.9%　(86/ 87)
6	100%　(252/252)	91.9%　(57/ 62)
全	97.2%　(756/778)	92.3%　(512/555)

(　) 内は、記述数

以上の結果から、児童は技能ポイントについて、考え、理解する等、思考判断面が育ったと考える。

また、形成的授業評価の成果次元「新しい発見」項目に着目すると、各学年とも平均値が高得点であり、本校全体の平均値は本校が 2.78、他校が 2.74 で、高橋らの示した評価基準（5 段階評価）でそれぞれ 4 を得ることができた（表 19・表 20）。

表 19　本校における新しい発見の評価結果

	平均値	評価
第 1 学年　(n= 35)	2.68	4
第 2 学年　(n= 32)	2.75	4
第 3 学年　(n= 33)	2.97	5
第 4 学年　(n=166)	2.84	5
第 5 学年　(n= 33)	2.76	4
第 6 学年　(n=172)	2.69	4
全学年　(n=471)	2.78	4

表 20　他校における新しい発見の評価結果

		平均値	評価
第 1 学年	A 校（n = 33）	2.55	3
	B 校（n = 32）	2.69	4
第 2 学年	C 校（n = 34）	2.61	4
第 3 学年	D 校（n = 31）	2.33（初任）	3
	D 校（n = 31）	2.93（12 年）	5
	E 校（n = 40）	2.75	4
第 4 学年	E 校（n = 34）	2.97	5
第 5 学年	E 校（n = 39）	2.83	5
	F 校（n = 37）	2.87	5
第 6 学年	E 校（n = 22）	2.85	4
全体（n =333）		2.74	4

以上の結果から、本校及び他校において児童は、運動について考えていたと考えられ、思考・判断の成果を得られたのではないだろうか。

⑶　態度面の成果

単元終了後、形成的授業評価の成果次元「協力的学習」項目を見ると、各学年とも平均値が高得点であり、本校全体の平均値は 2.75、他校が 2.80 で、高橋らの示した評価基準（5 段階評価）がそれぞれ 4 という高い評価結果であった（表 21・22）。

表 21 本校における協力的学習の評価結果

学　年	協力的学習	評価
第 1 学年　(n= 35)	2.42	3
第 2 学年　(n= 32)	2.56	4
第 3 学年　(n= 33)	2.57	4
第 4 学年　(n=166)	2.81	5
第 5 学年　(n= 33)	2.88	5
第 6 学年　(n=172)	2.83	5
全学年　(n=471)	2.75	4

表 22　他校における協力学習の評価結果

学年	学校	平均値	評価
第 1 学年	A 校（n = 33）	2.70	4
	B 校（n = 32）	2.59	4
第 2 学年	C 校（n = 34）	2.76	4
第 3 学年	D 校（n = 31）	2.83（初任）	4
	D 校（n = 31）	2.77（12 年）	4
	E 校（n = 40）	2.78	4
第 4 学年	E 校（n = 34）	2.91	5
第 5 学年	E 校（n = 39）	2.87	5
	F 校（n = 37）	2.95	5
第 6 学年	E 校（n = 22）	2.87	5
全体（n =333）		2.80	4

以上の結果から、各学校において、児童は関わり合いながら運動を行い、態度面が育ったと考える。

Ⅷ　体育授業モデルの有効性について

⑴　活用状況・活用頻度・授業のやりやすさ

本校及び他校の教員 45 名に対して、アンケート調査を実施した結果、体育授業モデルの活用状況を見ると「活用した」「だいたい活用した」割合は 100%（45 名）であった 。活用の頻度については、「いつも持つ（42.4%）」「単元始め（30.3%）」「時々持つ（18.1%）」「ほとんど持たない（9.1%）」で持つ教員が多く、91.3%（42 名）の教師が、「資料により、体育授業がやりやすい」と感じていることが分かった。

⑵　同僚教師の意見

体育授業モデルに対する同僚教師の意見を自由記述させ、KJ 法で分類した結果は、表 23 のとおりである。有効回答率は、69.7%(回答数 23) である。ほとんどの教師が資料に対して肯定的な意見であった。

表 23　実践教師の意見（抜粋）

分類	内容の具体例
達成 (5)	・資料を活用すると子供ができるようになった。 ・資料を使って、苦手な子も全員できた。
教材 (2)	・教材が決まっているから指導できる。 ・教材が子供たちに適していて運動好きが増えた。
流れ (6)	・１時間の授業の流れが簡潔で分かりやすい。 ・資料があることで、流れが良く分かった。
内容 (2)	・知りたい内容が資料の中に全て入っている。 ・一目で内容が分かる。
写真 (3)	・写真や図があり、見てイメージがすぐつく。 ・道具の配置の図が分かりやすい
その他 (5)	・資料をもとに、クラスの児童の実態に合わせて授業を組み立てることが大切である。 ・資料は、必要な時に渡してくれるから見る。

(　) 内は、有効回答数

⑶　他校教師（10 名）の意見

体育授業モデルに対する意見を他校教師７名にインタビューした結果は、表 24 のとおりである。肯定的な意見がほとんどであり、体育授業モデルが効果的であったと考える。中には、本校をモデルに、体育科のカリキュラムを作成し始めた学校もあった。

表 24　他校教師の意見　※抜粋

学校	内　　容
Ａ校	補助の取組を褒めたら、喜んで取り組んでいた。
Ｂ校	目標と評価があるので、何を目指すのかが分かる。 どのように運動を観察させるのかが分かった。
Ｃ校	資料を活用することで､指導法や授業の流れが分かる。 教え合い言葉があることで､お互いに声をかけていた。
Ｄ校	授業の行い方がよく分かった。 評価がしやすく、補助での良いので助かる。
Ｅ校	活用した授業モデルを元に、本校でも単元計画・場・評価を基本に、資料作成を作成し、提供している。
Ｆ校	資料が分かりやすい｡教材から決めることはできない。

⑷　有識者（３名）による意見

有識者３名の意見を KJ 法で整理した結果は、表 25 のとおりである。筆者が開発した体育授業モデルの構成内容への肯定的な意見が多く、さらには、カリキュラムの視点や協働性についての良さについても出された。

表 25　有識者の意見

分類	内容
教　材	・運動種目が明確であるから活用できる。
単元の流れ	・単元を見通せ、１時間の流れが一目で分かる。 ・単元計画がシンプルで分かりやすい。
指導法	・場や行い方、用具の使い方、補助等、指導方法について書かれているのが助かる。
ｶﾘｷｭﾗﾑ	・他学年間のカリキュラムが見え、領域毎の縦系列の指導を意識できる。
図･写真	・場が図や写真で示されているので、分かりやすく、どの教師でもできそうという気になる。
評　価	・単元計画に評価が簡単にできるように示してある。
協働性	・教師の協働性を高めるシステム作りという視点から、アプローチの仕方が参考になる。

以上の活用状況や同僚、他校の教員、有識者の意見から、体育授業モデルは有効であったと考える。

本研究の目的は、筆者が開発した体育授業モデルの一般化を図り、指導法を学校間で共有することで本校及び他校における体育授業を充実させ、児童の学習成果を保障することであった。

技能面については、本校と他校共に、概ね 80％以上の達成率となり、大きな技能成果を得られた。

この要因は、まず、実態把握を行い、これに適した系統性を踏まえた教材を選定し、提案できたことである。次に、体育授業モデルを提供し、授業の流れについての共通理解を図ることで、目標・内容・方法・評価を意識した実践につながったことが挙げられる。そして、単元途中の情報交換の中で、補助や相互観察の行い方、個に応じた指導法を共有化したことが、児童の技能を大きく向上させたと考える。

思考判断面は、新しい発見次元と児童のコツの記述内容から成果を得られた。これは、技能ポイントの発見学習の行い方について共有し、運動を観察させながら、児童にポイントを発見させたり、考えさせたりしたことが効果的であったと考える。

態度面は、協力学習の次元から成果が得られた。技能ポイントを教え合い言葉にすることで、互いにポイントを伝え合いながら運動に取り組むことができた。また、よい関わり合いを教師が評価し、価値付けすることで、それらが児童間で広まり、態度面が育ったと考える。

このように、体育授業モデルの一般化と指導法の共有化により、教師の指導力が向上し、どの学校においても体育授業の充実が図られ、児童の学習成果を保障できることが明らかとなった。また、活用状況や活用頻度、内容に対する同僚、他校の教師の意見、有識者の意見から、体育授業モデルはどの教師にとっても効果的であったと考える。

以上のことから、本研究における体育授業モデルと指導法は、体育授業を充実させる上で極めて有効であると考える。そして他領域においても、一般化できる可能性が高く、各校の新学習指導要領に向けてのカリキュラム作成の一助になると結論づける。

（注及び参考・引用文献）

１）白旗和也 (2012) 小学校教員の体育科学習指導と行政作成資料の活用に関する研究 .
体育科教育 .60(9).pp 60-62.

２）清水由（2014）体育の教科書､私の課題識の変遷 . 体育科教育 62(12).pp36-37.

３）萩原雄麿 (2015) 全学年の全単元における体育授業モデルの開発 . 埼玉県
連合教育研究会 .pp126-131

４）高橋健夫、他（2003）体育授業を観察評価する . 大修館書店 .pp.163-164.

５）無作為の抽出クラスの内訳は、１年は 30 代女性教諭 10 年経験・２年は 20 代初任者男性教諭・３年は 20 代臨時採用教員であり、体育専門外の様々な経験年数の教員である。

６）高橋健夫、他（2003）体育授業を観察評価する . 大修館書店 .pp.12-14.

７）川喜多二郎（1967）発想法 . 中公新書.

８）文部科学省 . 学校体育実技指導資料（第 4･9･8･9･10 集）

９）埼玉県教育委員会（2011）埼玉県小学校教育課程指導資料 .pp.145-162.

10）文部科学省ホームページ

不安傾向が強い生徒への保健室支援の在り方
～「認知再構成法」と「コラム表」を活用しての健康相談活動の実践～
【教育心理・教育相談】

三郷市立瑞穂中学校　養護教諭　細　谷　光　子

Ⅰ　はじめに

社会は目まぐるしく変化している。子どもたちが遭遇する課題も予測が困難であり、抱える「悩み」や「不安」も多様化・深刻化している。一方、我が国の学校教育は、変化に対応できる知識と柔軟な思考力を持つ児童生徒の育成を目指して急速な改革が行われている。

そのような環境の中、社会の変化に対応して、子どもたちが生涯にわたって豊かに自分らしく生きる力を育成するため、「レジリエンス」（ストレスをはねのける力）を高める教育が求められている。[1)]

Ⅱ　目的

2016年度、文部科学省が公表した、「問題行動・不登校調査」では、不登校が小中学生とも４年連続で増加した。不登校の要因として最も多いのは、「不安傾向」である。

体調不良を訴え保健室に来室する生徒の中には、その背景に「不安傾向」をもつ生徒がいる。これまでに対応した「保健室登校」の生徒においても同様の傾向がみられた。

子どもの不安症は、心理的な問題の中でも最も有病率の高い問題の１つである。不安の病気は、就学前は分離不安症や場面緘黙、小学校に入ると恐怖症、高学年では社交不安症が目立つ。さらに、大人になると、何もかもが怖くなる全般恐怖症につながるなど、その症状が連続することから、早い段階に対処することで、不登校や引きこもり、うつ病などの予防にも効果的であると言われている。

そこで、本研究では、先行研究として、実証に基づく心理療法として有効性が見られた認知行動療法のカウンセリング技法を健康相談活動に活かすための方法について検討した。

本稿では、保健室における健康相談活動において、不安傾向が強くみられる生徒に対し、認知行動療法の認知の再構成を行った。ネガティブな感情の付き合い方及び対処法などの学びが、不安を軽減し、心の健康づくりの有効性について検証を行っていく。

Ⅲ　研究の仮説と手だて

【仮説】

不安傾向が強い生徒に対する保健室対応において、認知の再構成（サポーティブカウンセリング）を行えば、生徒の不安を軽減させ、「不安」や「ストレス」に対する自己コントロール能力を身に付けさせる上で有効であろう。

【手立て】

1　不安の軽減やネガティブ感情の付き合い方の方法を学ぶ「認知再構成法」の活用

2　保健室での対応に活かす「コラム表」の活用

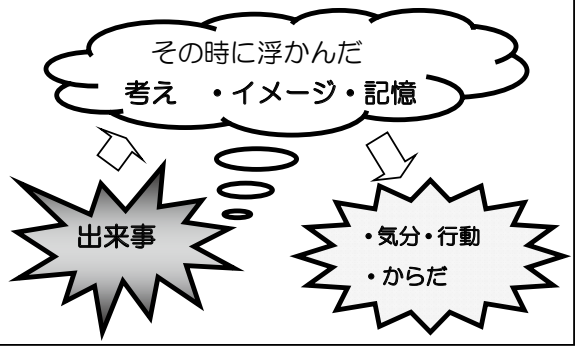
（認知行動療法とは）

「こころのスキルアップ教育の理論と実践」より抜粋 [2)]

> その人のもののとらえ方（考え方、認知）が、気分（感情）とからだの反応、行動に大きく影響しているという原理を用いて、自分の考えを見つめ直すことにより、抑うつ感や不安感といった“つらい気持ち”を緩和することを目指したカウンセリングの技法である。
>
> 2000 年以降、学校の教職員にもメンタルヘルス不調を原因とした休職者が増加し、学校を始め、日本の多くの職場で推奨されている。

図１【こころの動き図】

私たちの気分や行動は、そのとき心の中に浮かんだ「考え」によって影響される。



Ⅳ 研究の方法

1　対象者

・不安や恐怖の程度が他の生徒に比べて顕著な生徒

・学校生活に困り感や苦痛を感じている生徒

２　実施日

保健室来室時

３　対象生徒の抽出

（１）体調不良のため頻繁に来室する生徒Ａ子

（２）学校生活に苦痛を感じ来室する生徒Ｂ子

２つの事例を基に検証を行った。

Ⅴ　研究の実践内容

実践研究　　事例　１

クライエント　15歳　中学３年生（女子）　Ａ子

主　訴　Ａ子は、学校生活において、過剰な不安や緊張を感じてしまう。

問題の経過

Ａ子は、学校生活（特に人が集まる場所での活動）において、過剰な不安や緊張を感じることが多く、精神的緊張とともに、身体的症状（動悸・しびれ・ほてり・心悸亢進・発汗・口の渇き・めまい・吐き気・頻尿など）が表出する。

中学２年生では、38回の保健室来室状況の記録がある。主に２学期に多く来室している。２学期は、「合唱祭」などの大きな学校行事があり、不安や緊張を感じる機会が多くなるためと考えられる。

友人関係・家族関係などは、特に問題はない。

援助方針

Ａ子は、集会活動や体育の実技などの前に、精神状態が不安定になることが多い。不安や緊張が引き金となり、自律神経のバランスが乱れ、様々な症状が出現する。このような状況の際のＡ子の「認知」は、本人の情動や行動に望ましくない影響を与え、体調不良の要因となっていると考えられる。

そこで、事前に、ストレスと自律神経についての保健指導を行った上で、現実に目を向けて考えのバランスをとる「認知再構成法」によるカウンセリングの介入を行う方針を決めた。

実施にあたり、アーロン・Ｔ・ベック博士[3)]の研究を基に、大野　裕[4)]が作成した非機能的思考記録表「コラム法」の技法を活用して行った。

援助経過

Ａ子が保健室に来室の際に、カウンセリングを行った。1回の面接時間は、約40分である。

指導にあたっては、本校のＳＣに専門的な知見からの指導や助言を受けながら実施した。

保健指導（自律神経とストレスについて）

自律神経についての説明やストレスとの関係などについて説明を行った。

心理教育

「私たちは、自分に起こった出来事や状況をどのように受け取るかによって、気持ちや行動が変わっていく」そのことをＡ子が理解しているかを確認しながら、次のような内容の説明を行った。

「情動や行動は、その人の習慣となっている考え方によっても引き起こされる。その人が出来事をどんなフィルターをかけて見るかによってもその後の状況や行動は、変わってくる」Ａ子にとって習慣となっている考え方はないか一緒に考えていくことを話した。

さらに、人間には、認知（考え方）情動、行動、生理という４種の基本的機能が備わっており、もしもこれら４機能の１つに変化が起こると他の３機能も相互に影響を受け合うことの説明をした。Ａ子の場合は、「人が多く集まる場所で何かあったら怖い」と考える（認知）と「強い不安」（情動）が沸き起こって、「人を避けようとする」（行動）ようになり、「ドキドキして苦しくなる」（生理）という形で影響に及ぶ場合があるなど、Ａ子にとって身近に感じられる例を挙げて説明した。

認知再構成法

相対的不安度ＳＵＤ（自覚的障害単位）の測定

「全く不安がなく落ち着いている状態を0（ゼロ）とし、これ以上ないくらいに強い不安を体験している状態を100として、今の不安の度合いを数値で表すといくつ？」と毎回尋ね、数値の回答を得た。最初と最後の回答を比較分析し、心の状態の変化を確認した。

コラム表の記入

コラム表の記入については、最初は、養護教諭が聞き取りを行いながら記入したが、徐々にＡ子自身が一人でも記入できるようにしていった。表１は10月16日にＡ子が記入したコラム表である。

ホームワークの設定

コラム表の記入に慣れてきたところで、「次に会うまでに何か気になることがあったら、記入してみよう」と提案し、ホームワークの設定を行った。

また、ホームワークでは、「出来事」「気分」「考え」の３つの記入から始め、慣れてきたところで、「根拠」「反証」「適応的思考」などを追加していった。

エクスポージャー

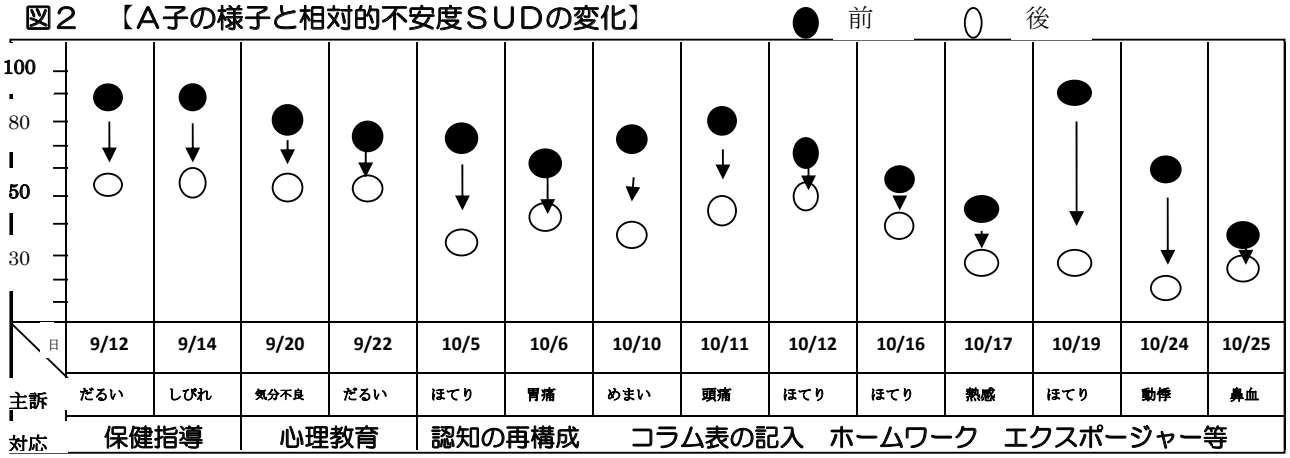
エクスポージャーとは、不安場面に暴露させて、「不安に直面しても大丈夫なんだ」ということを学習させる方法である。合唱祭当日が近づき、Ａ子の体調がよい日は、できるだけ練習に参加するよう促した。

図２は、保健室来室時のＡ子の様子と指導内容及び相対的不安度SUD（開始前と後）の変化である。

表１　【　Ａ子が記入した１０月１６日のコラム表　】

①出来事	●どのようなことがありましたか（具体的に） 合唱祭の練習中めまいやふらつきが起きそうで心配。練習の途中で、保健室に行くと皆にさぼりと思われそう。体育館への移動中、友人に保健室に行くと言ったら、「また？」と言われた。	⑤反証	●その考えに合わない“事実”や“経験談”はありますか。 私は、ストレスなどから自律神経のバランスが崩れやすいと医師から言われている。緊張があると血管が収縮し、血液の流れが悪くなると医師から説明された。{という事実もある}けっして、さぼってはいない。
②気分	●どのような気分を強く感じましたか。 イライラ　くやしい　60点	⑥適応的思考	●確かに④だ、しかし、⑤という事実もあると文章をつなげてみましょう。 確かに、以前、私も見学者や保健室に行く人は、さぼりと思ったことがある。しかし、ストレスなどから自律神経のバランスが崩れやすいと医師から言われている。緊張があると血管が収縮し、血液の流れが悪くなると医師から説明されたという事実もある。
③考え	●その時、どのようなことを思いましたか。 さぼりと思われるのは、とてもつらい。		●④と⑤を、機械的につなげた文章を読み返してみて、こころに浮かんだ{考え}を書いてみましょう。 今日も気分が悪くなるとは、限らない。 皆は、途中で退席すると一瞬、自分を見ると思うが、自分が考える程、人は自分に注目していない。
④根拠	●なぜ、そう考えるのですか？そう考える“事実”“体験談”を書きましょう。 {確かに}以前、自分も体育の授業を見学する人は、さぼりというふうに思ったことがある。	⑦気分	●②で記入した気分は、どのように変化していますか。 イライラ　くやしい　40点

図２　【Ａ子の様子と相対的不安度ＳＵＤの変化】



（事例１の結果から）

相対的不安度ＳＵＤは、面談の最初と最後に測定した。また、この間にＡ子から出た「出来事」は、いずれも合唱祭の練習に関連するものである。出来事と反応を媒介している習慣的な考え方は、「急に気分が悪くなるかもしれない」「もし、途中で保健室などに行ったら、友人や先生からさぼっていると思われてしまう」というものであった。

合唱祭の練習は、途中までの参加の時もあったが最後まで参加できる日もあった。体調が悪くなった場合を考えてＡ子は、水筒持参など自分なりに工夫している様子がみられた。昨年度（中２）に比べ、今年は参加回数が増えたと話していた。

また、新しい考え方は、「気分が悪くなるとは限らない。自分が考えるほど、だれも私に注目してはいない。」というものであった。さらに、自分が考えた「新しい考え方」を実際にやってみての感想として、「そんなに不安を感じることもないんだと思った。友だちは練習に真剣だし、あまり人のことは気にしていないことも分かった。」と述べた。何度か「怖さ」に挑戦していくことで、成功体験が増え、Ａ子にも自信がついていく様子がうかがえた。

実践研究　　事例　２

クライエント：13 歳　中学１年生（女子）Ｂ子
日　時　：平成 29 年９月６日（水）昼休み
主　訴　：頭痛

事例２は、学校生活に困り感や苦痛を感じて保健室に来室し、心の整理をする生徒への対応である。
表２に、認知の再構成を意図的に行う養護教諭と生徒の対話の様子を記した。

表２

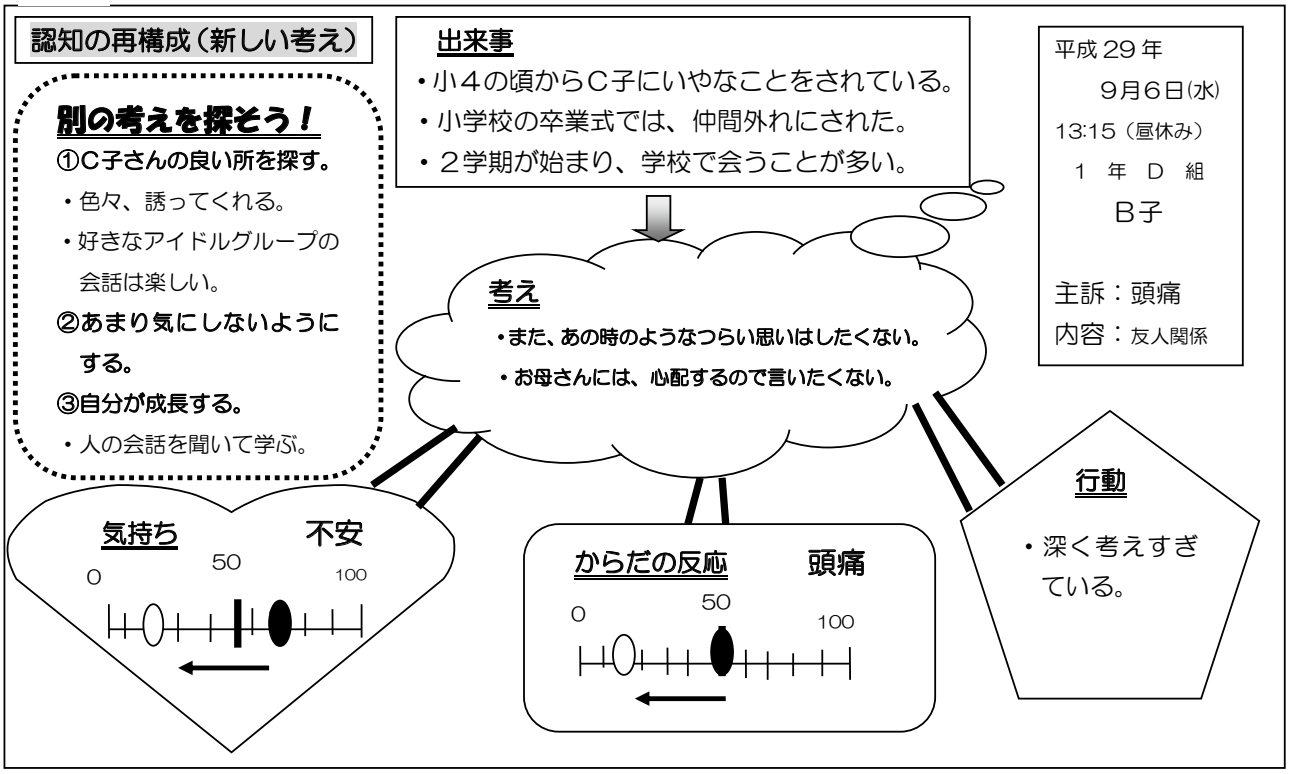
来室時のＢ子の様子と養護教諭の対応	意　図
（頭痛を訴え、昼休みに保健室に来室） Ｔ１　どうしたの？ Ｓ１　頭が痛いです。 Ｔ２　いつから痛いの？ Ｓ２　４時間目が始まったころからです。 （体温測定　36.3℃　（平熱）など　バイタルは異常がみられない） • What　• How • When　• 頻度 • Where　• バイタルサイン • Why　など **養護診断から、背景に心理的要因が疑われる。**	＊確認 ・器質的か？ ・緊急性は？ ・心的要因？
Ｔ３　心とからだはつながっているから、何かつらいことがあると、そのことが原因でからだの不調としてあらわれることもあるよ。何か思い当たることあるかな？ Ｓ３　そういえば、夏休みの終わりの頃からなんとなく色々考えてしまっています。 Ｔ４　どんなこと？ Ｓ４　実は私、**小学校４年生の頃からＣ子さんにいやなことをされています**。**小学校の卒業式の時は、仲間外れにされました。** 出来事 Ｔ５　そう、それはつらかったね。 コラム表の記入 Ｂ子さんの困っていることを整理したいので、紙に書いてみるね。	「出来事」「考え」「思考」（自動思考）「気分」をつかまえる。
Ｓ５　２学期が始まって、また学校で会うので、小学校の頃のようなつらい思いはしたくないです。お母さんには心配するので言いたくないし、**深く考えすぎています。** Ｔ６　深く考えて**不安**になっているのね。不安の程度はどれくらい？ Ｓ６　**70**　くらいです。 行動 気分 適応的思考の促し	相対的不安度（ＳＵＤ）の測定をする。
Ｔ７　Ｂ子さんは、Ｃ子さんと仲良しだったよね。どうして仲がよかったの？ Ｓ７　いつも色々誘ってくれるからです。あと同じアイドルグループが好きなので、話が盛り上がるからです。 新しい考え・適応的思考 Ｔ８　Ｃ子さんて、いいところあるんだね。 Ｓ８　はい。だから**あまり気にしないようにして**みます。 Ｔ９　あっ　今、１ついい案が浮かんだね。 Ｓ９　**自分が成長すればいい**とも思います。 新しい考え・適応的思考 Ｔ10 成長？どうやって？ Ｓ10 私は人と付き合うことがうまくないので、人の会話を聞いて勉強しようと思います。	現実に目を向けて、考えのバランスをとる。 悪循環を好循環に持っていくようバランスをとる。
Ｔ11　なるほど　こうして考えると、「出来事」「考え」「気分」「行動」はつながっているよね。自分で苦しくなったら、こんな風に書き出してみるといいよ。 Ｓ11　はい、気持ちが少し軽くなりました。 Ｔ12　さっき不安は、**70**だったけど、今はどれくらい？ Ｓ12　**20**くらいです。	相対的不安度（ＳＵＤ）を測定し、心の状態の変化を確認する。

Ｔ＝養護教諭　　Ｓ＝生徒

保健室のコラム表（Ｂ子の様子）

表２の内容を表３の「保健室のコラム表」に記した。コラム表は、千葉大学　清水栄司教授[5]らが研究・考案したものを参考にし、簡便なものを作成した。

表３



（事例２の結果から）

Ｂ子の事例は、友人関係に過剰な不安を感じる女子生徒を対象に認知の再構成を行い、生徒の不安の軽減を図ったものである。

Ｂ子がもつ習慣的な考え方は、「またＣ子に仲間外れのような意地悪をされるかもしれない」というものであった。このような考え方をすることによって、学校でＣ子の姿をみるたびに、過剰な不安を感じ、頭痛などの原因となっていた。

ところが、「あまり気にしないようにしよう」「心を強く持って成長しよう」などの新しい考え方をもつことによって、Ｃ子を見ても怖い気持ちがなくなっていった。

コラム表は、面談後Ｂ子に渡した。Ｂ子は時々コラム表を読み返し行動することがあると後に報告してきた。面談後、心が軽くなったとその効果も認めている。

Ｂ子は、友人との人間関係に過敏な傾向がみられたが、この傾向は、思春期という発達の段階に特有な心性でもある。その結果として、Ｂ子が強い不安を感じる状態を招き、メンタルヘルスの低下をもたらしていた。メンタルヘルスの改善を図るためには、Ｂ子の友人関係の不安を解決することが欠かせなかった。その解決のためにも認知の再構成は、一定の効果を発揮したものと考えられる。

Ｂ子のような相談形態の対応は、2学期になってからの2か月間で、1年生４名、２年生2名、３年生３名、計９名あった。全員コラム表の記入をした。その内４名の生徒は複数回記入している。相談内容は「友人関係」が最も多く、次いで「家族のこと」であった。

適応的思考への切り替えが困難な生徒には、①もし、友だちが同じように悩んでいたらどんな声かけをするか。②高校生になった時、このことをどう考えるか。③以前にも同じようなことを経験していないか。経験していればその時どうなったか。などの問いかけをし、自発的な現実的思考（適応的思考）への転換を促した。

Ⅵ　考察

本研究の結果から、以下のようなことが考えられる。不安傾向の強い生徒の対応において、認知の再構成を目的としたサポーティブカウンセリングを行うことで、生徒は、自分の受け取り方や考え方を振り返り、もう一度客観的に現実を見つめ直すことが可能になる。結果、身に付けた対処力が活かされ、生徒の行動変容へと繋がっていった。心の健康を支えるための有効性が示された。

１ 「認知再構成法」の活用から

生徒は、心身の未分化な状態であり、自分の身体の状態や思考、気持ちをうまくセルフモニタリングできず、心理的葛藤が要因でも気付かない場合が多い。また、自分の思いをうまく言語化できず、頭痛・腹痛・気分不良などの不定愁訴を訴え、周囲の大人にSOSを送っていると考えられる。この手法を活用することにより、養護教諭と生徒が一緒に自分の心の状態を振り返り確認することができる。

また、自分の考え方を客観的にみつめることにより、出来事と反応を媒介している習慣的な考え（考え方のクセ）を知り、問題解決に向かう道を自分の力で開くことができる。

養護教諭は、生徒の気持ち（気分や考え）に注目するため、心理状態の理解が容易になり、生徒との信頼関係を築きやすい。また、からだと心の両面から生徒を支え、個別保健指導に活かすことができる。

２ 「コラム表」の活用から

書き出すことで自分の気持ちを外に出し、冷静さを取り戻してつらい気持ちと向き合うきっかけと勇気が生まれる。さらに、自分の心を客観的に観察し、別の視点に気付くことができる。

また、校内連携の観点から、教職員・保護者・SC・相談員などとの連携に活かすことができる。特に、生徒が受け止めて欲しかった困り感や苦痛を伝達できる。

Ⅶ 成果と課題

１ 成果

保健室における認知の再構成は、これまでの生徒対応においても自然に行われていたこととも考える。しかし、この手法の理論と実施方法を学んだ上で実施することは、生徒の心を受け止め、より効果的な健康相談活動のために欠かせないものであったと考えられる。

これまでの保健室での生徒対応では、「なぜ」「どうして」という発問が多かった。しかし、この研究により「気分」「考え」を把握することを重視した発問へと変化し、生徒を元気づけられる機会が増えたことは大きな成果である。

２ 課題

今後も学校が抱える重要課題の１つに「心の健康づくり」が挙げられると考えられる。

長欠、不登校傾向、人間関係のトラブルなど生徒指導上の悩みを抱えている生徒、日常の不安を自分で対処する力が身に付いておらず、感情の浮き沈みの激しい生徒に対し、組織的な対応はもちろん、ワークなどを取り入れた授業実践を行うことで、心の健康づくりに活かすことができると考えられる。積極的に授業実践への働きかけを行っていきたい。

また、事例１のＡ子においては、幼少時に「母子分離不安」があったことがわかった。幼小中連携を密にし、心のケアが必要となる生徒の把握と早期対応に努めたい。

Ⅷ おわりに

保健室という健康を保持促進する学校現場の拠点で、心の健康づくりに活かすことを目的としたこの手法は、何よりも「生徒の内省する力」「生徒自身の成長したいという願い」「養護教諭との信頼関係」の３つが、大切な要素と考える。生徒の心に向き合い、心を支える養護教諭であるよう、これからも自己研鑽を積んでいく所存である。

引用文献

１）認知行動療法教育研究会
『レジリエンスを高めるこころのスキルアップ教育』
セミナー資料一部　2017　8

２）大野裕　中野友美　『しなやかなこころをはぐくむこころのスキルアップ教育の理論と実践』
大修館書店　2015　2　P2

参考文献

３）1960年代　アメリカの精神医　うつ病などの精神疾患（こころの病気）の治療法として提唱

４）精神科医　独立行政法人　国立精神・神経医療研究センター　認知行動療法の日本における第一人者

５）千葉大学大学院医学研究院　認知行動生理学教授
子どものこころの発達教育研究センター長

６）岩井英樹ら　『生きていく力を育てる　個別保健指導』東山書房　2017　8

７）大野裕　田中克俊　『保健　医療　福祉　教育にいかす「簡易型認知行動療法実践マニュアル」』ストレスマネジメントネットワーク　2017　1

８）広島大学大学院　心理臨床教育研究センター
紀要　2012　『子どもの不安に対する心理的介入について』

９）清水　栄司　『ロールプレイングで学ぶ！「保健室で役立つ認知行動療法」』　DVD版
ジャパンライム株式会社　2016

10）心の健康ニュース　『連載　学校で知っておきたい認知行動療法』少年写真新聞社　2011　12

自尊感情を高める小学校４年生の学級集団づくり

～学級内の対人関係づくりと話合い活動の実践を通して～

【学級経営・特別活動】

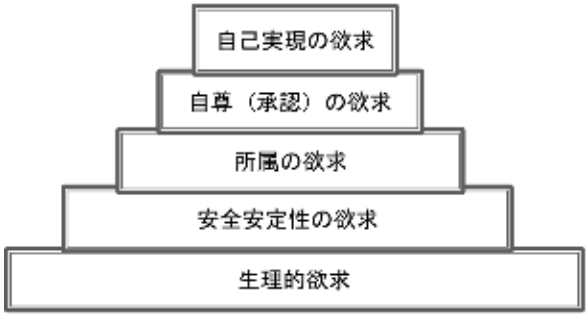
さいたま市立大宮小学校　教諭　深　井　正　道

Ⅰ　問題の所在と目的

次期学習指導要領では、2030年の頃の社会とその先を見据えて、学校教育で育てたい児童生徒の姿が示された。前文には、「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」[1]とある。人工知能が進化したり超高齢化社会が迫ったりして、激変する社会を生き抜くためには、決まったことを効率的にこなすだけでなく、自分から進んで他者と協働して困難な課題に立ち向かい、新しいことを創造していく力が必要だ。そして、そのような児童生徒を育成するために、各学校において「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現が求められている。

このような時代背景の中、私は、「どのようにしたら、児童生徒自身から、『学びたい』『活動したい』という意欲が湧き出てくるのか」という道筋を明らかにすることが、重要だと捉えた。なぜなら、教師や保護者が「勉強しなさい」「友達と一緒に活動しなさい」と言い続けても、思うように意欲が育つものではないからである。児童生徒の心理的な面にも目を向けて、各教科等の手立てを講じることが「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現につながると考える。

そこで、私はアメリカの心理学者マズローの欲求階層説に注目した。人間の欲求は階層をなしていて、低層の欲求が満たされることで高層の欲求が現れるとしている。

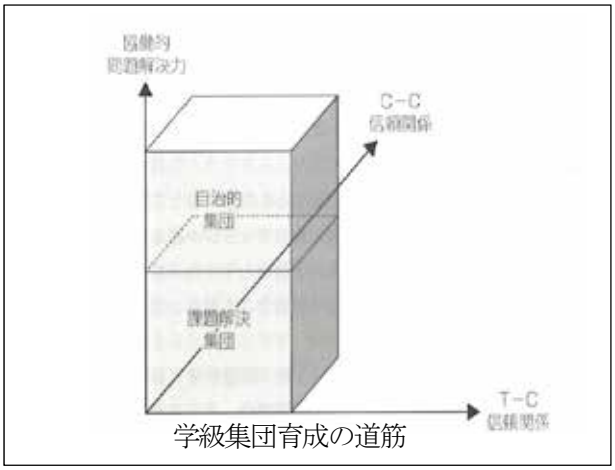


マズローの「欲求階層説」

私は、児童が「○○になりたい」「□□ができるようになりたい」と夢や目標をもった時、目を輝かせて、がむしゃらに学習や活動に取り組む姿を見てきている。これは、人間のもつ「自己実現」の欲求での現れであり、そういった児童の姿を学校教育では目指しているのだろう。しかし、この欲求が現れるためには、下層の４つの欲求が満たされなければならない。小学校の場合、児童は多くの時間を学級内で過ごすため、次のような状態が必要だと捉える。児童が、十分な睡眠や食事がとれていて（生理的欲求）、学級内で暴力や暴言などを振るわれず（安全安定性の欲求）、学級を自分の居場所だと感じて（所属の欲求）、学級内で自分が認められたと感じて（自尊・承認欲求）自尊感情が高まった状態である。

これらのことは、学級経営と深く結びついている。つまり、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現するためには、指導法改善も大切だが、その前に学級経営を充実させて、学級集団をつくることが重要なのだ。次期学習指導要領の総則「児童の発達の支援」の配慮事項には、「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」[2]とあり、その重要性が述べられている。

これまでのことから、私は、担任する小学校４年生において、学級集団づくりを基盤として児童の自尊感情を高めていくことを研究の目的とした。



学級集団育成の道筋

Ⅱ　先行研究の検討

上越教育大学教職大学院の赤坂真二氏は、学級集団育成の道筋を次のように示している。[3]

まず、教師と児童（Ｔ－Ｃ）の信頼関係が深まると、学級内にルールがうまれ、次に児童同士（Ｃ－Ｃ）の信頼関係が深まると学級内にリレーションがうまれる。すると、学級内の児童に安心感がうまれる。これが、自尊感情を高めたり、新たなことに挑戦する意欲を喚起したりする基盤になる。このような学級集団で、生活や学習における課題解決を繰り返し、学級の協働的問題解決力が高まると、児童の自尊感情も高まり、自治的集団が育つというものである。

Ⅲ　研究の仮説と方法

本研究では、先行研究を手がかりにして、次のような仮説をたてた。

信頼関係が深まった学級集団において、協働して問題解決する経験を重ねれば、児童の自尊感情が高まるだろう。

そして、次の手順で実践を行うことにした。

第一に、教師と児童の信頼関係を深める手立てを日常的に実践すること。

第二に、児童同士の信頼関係を深める手立てを日常的に実践すること。

第三に、協働して問題解決する経験を学級活動の時間を中心に重ねること。

また、時期によってそれぞれ指導の重点を決めて実践を行うことにした。

Ⅳ　効果の測定材料

一つ目として、教師と児童の信頼関係の深まり、児童同士の信頼関係の深まりを測定するために、広島大学大学院の栗原慎二氏らが開発した学校環境適応感尺度「アセス」を使用する。アセスは、「生活満足感」「学習的適応」「対人的適応（下位因子「教師サポート」、「友人サポート」、「向社会的スキル」、「非侵害的関係」）」[4]で構成される。本研究では、教師と児童の信頼関係の測定のために「教師サポート」、児童同士の信頼関係の測定のために「友人サポート」、「向社会的スキル」、「非侵害的関係」の項目を使用する。９月初めと11月末に実施して、児童は５段階で回答する。

二つ目として、問題解決する力の高まりを測定するために、自作アンケートを使用する。問題解決の見通しをもって思考して、実践できたかを測定できるように項目を設定した。５月末と11月末に実施して、児童は４段階で回答する。

三つ目は、自尊感情の高まりを測定するために、さいたま市全小中学校で年３回実施されている「心と生活のアンケート」を使用する。「心と生活のアンケート」は、「解決スキル」「言語的スキル」「信頼他者」「信頼自己」で構成される。本研究では、自尊感情の測定で「信頼自己」の項目を使用する。４月末と10月末に実施して、児童は４段階で回答する。信頼自己は、Ａ～Ｅの５段階で示される。本研究では、Ａ･Ｂ判定を自尊感情の高い児童、Ｄ・Ｅ判定を自尊感情の低い児童とする。

Ⅴ　実践の内容

１　教師と児童の信頼関係を深める実践

持ち上がりの学年であったが、クラス替えがあって、学級の半数の児童が入れ替わっていた。そのため、４～５月を重点として、次のような実践を行った。

⑴　教師の願いを様々な場面で伝える

始業式後の学級開きで、「一人ひとりの心がホッとするクラス、何事にも熱い気持ちをもって本気で取り組むクラスにしていこう」や「人の喜ぶ姿をみて、自分も喜べる人になってほしい。人が悲しむ姿を見て、楽しむことはいじめで、それは絶対に許さない」と児童達の目を見ながら本気で語った。その後も、学級内で嬉しいことや問題が起きた時、行事の時などに、教師の願いを繰り返して伝えるようにした。教師の願いをしっかり伝えると、児童にもそれが浸透して学級目標にも反映されやすい。教師と児童が同じ方向を目指して活動に取り組むことができて、信頼関係づくりにつながった。

⑵　授業時間外で児童とかかわる時間を多くもつ

業間休みや昼休みに、児童と一緒に遊んだり雑談したりすることを大切にした。特に、外遊びは一日一回以上行くことを目標とした。なるべく多くの児童に声をかけて、体を動かしながらコミュニケーションをとった。また、給食時は、生活班を順番に回って一緒にごはんを食べるようにした。４、５人ずつゆっくり話すことができるため、習い事や好きなゲーム、就寝時間や家族のことなど様々なことについて話すことができた。教師が児童に積極的にかかわろうとすることは、信頼関係づくりに

つながった。

⑶ 児童を勇気づける

アドラー心理学の「勇気づけ」の考え方をもとに、児童を進んで認めるようにした。できたことだけに注目するのではなく、存在を認めるように心がけた。特に、「ありがとう」という言葉を多く伝えるようにした。「話をきいてくれてありがとう」「静かに待っていてくれてありがとう」「学校に来てくれてありがとう」などである。数年前から実践をはじめて、最初は照れくささやぎこちなさがあった。児童が教師の話を聞いたり学校に来たりするのは当たり前だと考えていたからである。教師は児童を指導するという関係から、自然と縦の関係で考えることが多かったのだろう。しかし、形式的にでも「ありがとう」と言っていると、「対等な人間として感謝の気持ちを伝えたい」と思えるようになって、教師と児童を横の関係でも考えられるようになった。「指導すべきことは指導するが、自分と同じ一人の人間として接する」と心から思えたことが、児童を認める姿勢にあらわれ、信頼関係づくりにつながった。

⑷ 学級通信の発行

学級通信に個人名を挙げて、児童のがんばっていた姿を紹介した。以下は、その内容である。

○○さん、理科の授業の用意を進んで担当の先生に聞きに行ってくれました、ありがとう！ □□さん、運動会の表現の練習の時に大きな声をだして周りをひっぱってくれました、ありがとう！ △△さん、大きな声で返事をしたりあいさつをしたりしていました、すてきです！ ◇◇さん、１年生の給食当番が困っている時に進んで助けていました、すてきです！

私が学級通信を配ると、児童達はすぐに読み始めて、自分の名前が載っていると嬉しそうにしていた。周りの児童の名前を見つけると「あったね」と声をかけあっていた。また、家庭訪問で保護者の方に、「親子で学級通信を楽しみにしています。次は、いつ名前が載るかなって言ってるんですよ。他の子の様子もわかっていいですね。」と言っていただくことがあった。学級通信を媒介すると、教師からだけでなく、保護者や友達、友達の保護者からも児童は承認されるので、より効果が高かった。本年度は、４月～11月中旬までの間に、学級通信を36回発行している。その中で、本学級全児童38人のエピソードを３回ずつ（計114回）紹介している。

２ 児童同士の信頼関係を深める実践

新しい学級に慣れてくるが、児童同士の人間関係が固定化し始める６～７月や行事の多い９～11月を重点として、次のような実践を行った。

⑴ 帰りの会の「今日のありがとう」コーナー

児童同士で、本気の姿を紹介したり感謝を伝えたりするコーナーを帰りの会で設定した。４月から行っていたが、「１週間に１回は全員が発表しよう」という目標を６月に設けて、発表を促進した。また、１回発表すると「ありがとうポイント」が１ポイント貯まるシステムを導入して、学級全体でポイントを貯めた。一定数ポイントが貯まると、担当の係がレクを企画して、みんなでお祝いをした。1000ポイントの時は、くす玉を作って祝賀会を開いた。11月中旬の段階で、1,470ポイント貯まった。一日平均12人が発表していることになる。認め合いの日常的なシステムがあることで、児童同士のかかわりがうまれ、関係づくりにつながった。

⑵ 係活動やプロジェクト活動

係活動は、学級を楽しくするために創造的な活動を行うものであり、自然と児童同士が協力して互いのことを考える場にもなっている。そこで、係活動を活発にするために、道具と時間を工夫した。道具の工夫として、係紹介のカードの下にミニホワイトボードを１つずつ設置した。そして、イベントの予告やお願いなどをいつでも発信できるようにした。カラフルなホワイトボードペンや磁石も置いてあるので、各係で工夫している。毎日書きかえる係もあるが、多くの係は１週間に１回程度書きかえていた。時間の工夫として、金曜日の朝休み後10分間や給食の時間などを活用した。本校では、金曜日の朝休み後10分間を「学級の時間」として、各学級裁量で使っていい時間となっている。本学級では、基本的にその時間を係活動の時間として、各係のイベント開催や打ち合わせなどに使った。定期的なイベントとして、お誕生日会やありがとうポイント祝賀会などがある。給食の時間は、不定期で発表や連絡などを行った。コントを披露したり、スタンプラリーやイラストコンクールの説明をしたりした。また、常設の係とは別に、学級活動で扱った議題をもとに、期間限定のプロジェクトを発足させた。１学期は、トイレのサンダルを揃えるポスターを作成するために、「サンダルプロジェクト」。２学期は、運動会を盛り上げるための「運動会盛り上げプロジェクト」が発足した。児童の立候補制で、常設の係と掛け持

ちができる。学級や学校をよくしたいと思った時に、そのチャンスがあることは、児童の活動を活発化することにつながる。係活動やプロジェクト活動が活発になると、児童同士のコミュニケーションの機会が自然と増えるので、信頼関係づくりにつながった。

⑶　うなずきやあいづちの指導

授業でも日常生活でも、話を聞くことは、相手を認める一つのサインになる。話を最後まで聞く、アイコンタクトをして聞く、肯定的に聞くなどのほかに、うなずきやあいづちをうって話を聞く指導を大切にした。うなずきやあいづちをすると、話し手に「あなたの話をしっかり聞いてます」と伝わりやすいからだ。児童には、「無反応で聞かない。必ず反応するように。」と４月に伝えた。最初は、大げさだと思うくらいやることが大事だと言い、私が率先して行った。すると、徐々に慣れてきて、６月くらいから「あ～」「へぇ～」「お～」などが出るようになった。そして、９月にあいづちの目標を全員で作った。その時に、決まった目標が「あ～＋ひと言」だ。「あ～、なるほど」「へぇ～いいね」「お～そうだったのか」など、自分の気持ちをひと言入れた方が、相手に伝わりやすいからだ。ひと言付け加えることはまだ練習中だが、今では全員があいづちを意識しながら話を聞くようになった。話の聞き方を全員で共通理解して実践することで、互いを認めようとする気持ちが育ち、信頼関係づくりにつながった。

⑷　ミニ先生制度と共通目標

新しい学級に慣れてきた頃から、算数の時間に、練習問題が早く終わった児童を「ミニ先生」として教え合いを行ってきた。解き方が分からない児童は、ミニ先生に質問して一緒に問題を解く。解き方を理解したら、最後に同じ問題を自分一人で解いて、正解できれば合格。分からなければ、もう一度ミニ先生に聞いて、理解してから問題を解き直す。最終的には、全員が自分一人の力で練習問題を解けるようにすることを目標にして、教え合いをした。また、「『分からないから教えて』『困っているから助けて』という発信をどんどんしよう。助けを求める力は、大切な力です。」と児童に何度も呼びかけ、教え合いを恥ずかしがらない雰囲気づくりに努めた。徐々に、教え合いの教科を広げて、国語の読解場面、社会の地図学習、体育の技能習得などでも、全員で目標達成できるように取り組んでいる。共通の目標と教え合いのシステムを整えることで、児童同士で進んでかかわるようになって、信頼関係づくりにつながった。

３　学級活動の実践

11月中旬までに、学級活動で話し合った議題は、23個だった。それらを「つくる活動」、「やる活動」、「解決する活動」で分類すると次のようになった。

分類	数	議題例
つくる活動	7	・学級目標を作ろう ・クラスのマークを作ろう ・運動会で一人ひとりがヒーローになる係を作ろう
やる活動	3	・前期の係や代表委員ありがとう集会を開こう ・みんななかよしチャーハン集会を開こう
解決する活動	13	・給食の「ごちそうさま」の時間が遅れないために、どうしたらいいか。 ・そうじロッカーの前が混雑して、危ないがどうしたらいいか。

年度当初は、係活動や学級目標など学級の枠組みをつくる活動が多かった。その後、集会活動や解決する活動が多くなった。「やる活動」が少ないように感じるが、学級活動の時間外でも、業間休みに週１回以上学級レクを行ったり、金曜日の朝に設定された係活動の時間を活用して各係主催のレクやイベントを行ったりしているので、学級内の集会活動はもっと多い。

学級の実態に合わせて適切に議題選定していくことが大切だが、本学級では「解決する活動」を積極的に取り上げた。話合いによって学級の困り事を解決していく経験が、協働的問題解決力を高めることに大切だと考えたからだ。はじめは、そういった議題があまり出なかった。しかし、「困っていること」や「もっとよくしたいこと」と言い換えて投げかけたり、児童が「どうしたらいいかな」とつぶやいた時に教師が「議題として提案してみたら」と言ったりすることで、徐々に議題が集まりはじめた。また、学級全体にかかわる議題だけでなく、個人の議題も扱った。その際は、比較的多くの児童が悩んでいることを議題として取り上げた。例えば、「忘れ物が多いので減らしたいが、どうしたらいいか」の時は、解決方法を出し合う段階は全員で行って、最後の解決方法の決定は提案者に行わせた。また、他の児童にも「自分だっ

たらどうするか」を考えさせて、最後に意思決定させた。現行の学習指導要領では、学級活動（１）が集団決定、（２）が個人決定、次期学習指導要領では、（１）が合意形成、（２）（３）が意思決定となっているが、どの項目でもよりよい解決方法を考える話合いは学級全体で協力して行うことが例示されている。昔は近所で困ったことがあると、お隣さん達が集まって井戸端会議がよく開かれた。家族で困ったことがあると、家族会議が開かれた。しかし、現在は近所のつながりが薄れたり、多様なライフスタイルの影響で家族のつながりが薄れたりして、そういった姿は減ってきたように思う。そのため、せめて学校では、友達が困っていたら、みんなで知恵を出し合って解決しようとする経験が、重要になってくるのではないかと考える。「解決する議題」の場合は、話合いの一週間後を目安に実践の振り返りをしている。うまくいかない時は別の解決策を話し合うこともある。「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理から、児童自身が試行錯誤する経験を大切にしながら、話合い活動の指導をすすめた。

Ⅵ　結果と考察

１　教師と児童の信頼関係

	時期	平均値	標準偏差
教師サポート	９月初	59.7	15.7
	11 月末	66.5	16.0

教師サポートの平均値が大きく上昇して、標準偏差にほぼ変化がなかった。このことから、教師と多くの児童の信頼関係が深まったといえる。以下は、教師サポートを構成する質問項目の分析である。

	時期	平均値	標準偏差
困った時に助けてくれる	９月初	4.66	0.66
	11 月末	4.66	0.62
信頼できる	９月初	4.50	1.02
	11 月末	4.68	0.61
わたしのことをわかってくれている	９月初	4.26	0.75
	11 月末	4.61	0.63
わたしのいいところを認めてくれている	９月初	4.58	0.85
	11 月末	4.82	0.51
わたしのことを気にしてくれている	９月初	4.05	0.92
	11 月末	4.45	0.75

＊質問項目の主語は全て「担任の先生は」

「担任の先生は、わたしのことを気にしてくれている」の平均値が 0.4 近く上昇したことと、「担任の先生は、わたしのいいところを認めてくれている」の平均値が 4.82 とかなり高い数値だったことに注目する。９月から 11 月にかけては、運動会、たてわり活動、校外学習などの行事が多かったため、児童を認める声かけや学級通信で児童の姿を伝える機会が多かった。また、行事の課題や児童同士の問題を解決するための声かけも多かったように思われる。信頼関係を深める上で、日常的な取り組みに加えて、行事への取り組みも大きな役割をはたすこと、問題が起きた時こそ教師の声かけが効果的になることなどが考えられる。

２　児童同士の信頼関係

	時期	平均値	標準偏差
友人サポート	９月初	61.2	17.4
	11 月末	64.6	14.8
向社会的スキル	９月初	58.8	14.0
	11 月末	62.6	13.9
非侵害的関係	９月初	68.5	13.6
	11 月末	70.4	12.8

どの項目も平均値が上昇して、標準偏差が小さくなっていることから、学級全体で児童同士の信頼関係が深まったといえる。係活動や教え合いが上手になったこと、行事を通して児童同士のかかわりがさらに増えたことなどが考えられる。以下は、11 月の帰りの会の「今日のありがとう」コーナーの発表コメントである。

・○○さんが「一緒に遊ぼう」と誘ってくれました。
・□□さんがマラソン練習の時に「あともう少し」と応援しくれて嬉しかったです。
・みんなが本気で合唱の練習に取り組んでいました。

自分の気持ちを入れて伝えたり、学級全体を考えて発言したりすることが増えてきた。また、１学期よりも認め合う視点が増えてきたように感じた。児童同士のかかわる量が増えること、かかわり方の質が高まること、この二つが達成できると効果的だと考えられる。

３　問題解決すること

	時期	平均値	標準偏差
提案理由やめあてが分かった	5 月末	3.74	0.50
	11 月末	3.89	0.31
提案理由やめあてにあった意見を考えられた	5 月末	3.71	0.51
	11 月末	3.74	0.44
話合いで意見を	5 月末	3.47	0.75
発表することができた	11 月末	3.45	0.75
話合い後、活動することができた	5 月末	3.66	0.53
	11 月末	3.63	0.53

「提案理由やめあてが分かったか」の平均値が上昇していることから、解決後の姿を思い浮かべ、見通しを持って､話合いができるようになったといえる。しかし、発表や話合い後の活動に関する平均値が下降したことから、実践力は課題である。１学期後半から､「解決する活動」を多く扱うようになってきた。そのため、発表を難しく感じる児童もいたと考えられる。また、試行錯誤を大切にしているため、最初から解決方法が成功しないこともあった。そのため、活動ができていないと感じる児童もいたと考えられる。

４　自尊感情

判定	4 月末		10 月末	
A（高い）	7 人	20 人	11 人	24 人
B	13 人		13 人	
C	15 人		12 人	
D	3 人	3 人	2 人	2 人
E（低い）	0 人		0 人	

自尊感情の高い児童が増加して、自尊感情の低い児童が減少した。また、個別に見ると、判定が上がった児童が 13 人、判定が変わらなかった児童が 20 人、判定が下がった児童が５人だった。下がった児童は、B→Cが３人、A→Bが２人で、自尊感情が低い状態ではなかった。

Ⅶ　全体考察

これまでのことから、教師と児童の信頼関係、児童同士の信頼関係を深めることにおいて、かかわる量と質の両方が重要であると分かった。まずは、かかわる機会を増やすこと。そして、同じ目標をもって活動したり共感して話を聞いたりすることが、教師からも他の児童からも「認められている」という感覚につながることが示された。

そして、仮説の「信頼関係が深まった学級集団において、協働して問題解決する経験を重ねれば、児童の自尊感情が高まるだろう」は、アンケート結果から検証された。自分の思いを表現する力や実践する力など問題解決に必要な力を高めていければ、さらに達成感や成就感を得て、自尊感情が高まっていくだろうと推察できる。

Ⅷ　今後の課題

協働的に問題解決するために必要な力とそれを高めていくための手順や手立てを明らかにする必要がある。達成感や成就感､自己有用感等を継続して持たせることが、自尊感情の低い児童の底上げにつながったり、自尊感情の高い児童が意欲を持ち続けたりすることにつながると考える。

また、話合い活動と実践の記録を分析して、どんな言葉、どんな場面で児童の自尊感情が高まっているのかを明らかにする必要がある。話合い活動や実践の量だけでなく、質を高めることが自尊感情の高まりにつながると考える。

最後に、自尊感情が高まることによって、意欲の高まりがどのような場面で現れるのかを明らかにする必要がある。意欲の現れ方はさまざまであり、それを理解することが「主体的・対話的で深い学び」の授業研究や評価につながると考える。

引用文献

１　「小学校学習指導要領」文部科学省、2017
２　「小学校学習指導要領解説　総則編」文部科学省、2017
３　赤坂真二「スペシャリスト直伝！主体性とやる気を引き出す学級づくりの極意」明治図書、2017
４　栗原慎二・井上弥「アセス（学級全体と児童生徒個人のアセスメントソフト）の使い方・活かし方」ほんの森出版、2010

児玉中授業スタイルによる授業づくり
～主体的・対話的で深い学びを目指して～
【学習指導】

本庄市立児玉小学校　校長　島　田　啓　司

Ⅰ　はじめに
１　主題設定の理由

この研究は、筆者が校長として平成26年度から平成28年度まで勤務した児玉中学校を対象とするものである。当時の児玉中学校は、生徒数601名、学級数20（平成26年４月）の学校であった。学校の状況については、授業は講義式の一斉授業が多く、生徒たちの活動の場面が少なく、生徒の授業への意欲に課題があった。さらに、生徒の家庭学習の時間も十分でなく、平成25年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査の家庭学習に関する質問では、平日の家庭学習時間が30分に満たない生徒の割合は22.8％（全国比＋8.1）と高かった。このように生徒の授業への意欲や家庭学習への意欲をどう高めるかが課題であった。

そこで、校長として目指す学校像「生徒の夢をはぐくみ、生徒・保護者・地域・教職員の誇りとなる学校 ①学びたくなる学校　②通わせたくなる学校　③勤めたくなる学校」を掲げ、「授業が変われば学校が変わる」をスローガンとして、学校をあげて授業改善に取り組んだ。

特に、授業については講義型の一斉授業からの転換を図り、①わかる授業、楽しい授業づくり、②課題解決型の授業づくり③生徒の意欲を引き出し、学び合う授業づくり、による学力の向上を目指した授業改善を進めることにした。そのため学校で統一した授業スタイルである「児玉中授業スタイル」による授業改善に全校で取り組むこととした。

２　研究の仮説

⑴　学校で統一した授業スタイル「児玉中授業スタイル」を取り入れれば授業の改善が進み、生徒が授業に意欲的に取り組むであろう。

⑵　授業で課題設定を行い、話し合い活動・学び合い活動を取り入れれば、主体的・対話的で深い学びが促され、確かな学力が身に付くであろう。

３「主体的・対話的で深い学び」との関連について

中学校学習指導要領解説総則編では「主体的な学び」について、①学ぶことに興味や関心を持ち、…見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。「対話的な学び」について、②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。「深い学び」について、③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。この３視点に立つ授業改善を学習指導要領では求めている。

そこで「主体的な学び」では「見通しをもって…取り組み」、「自己の学習活動を振り返る」場面を授業の過程に取り入れていくこと。「対話的な学び」では、「子供同士、教師や地域の人との対話等」を工夫する。「深い学び」では「知識を関連づけてより深く理解したり」、「情報を精査して考えを形成し」、「問題を見出して解決策を考えたり」することを授業の中で実践することにより「主体的・対話的で深い」学びを実現することができると考えて、研究を推進した。

Ⅱ「児玉中授業スタイル」による授業づくり
１　児玉中授業スタイルとは

授業は課題解決の過程である。「なぜなんだろう」という疑問を持ち、その疑問から課題を設定（提示）し、課題の解決を授業を通して行う。この課題解決学習をどう構成していくかが、今回の学習指導要領の中で授業者に問われているし、また、協調的な学びの充実も言われている。そのうえで学校が組織として授業改善を進めるためには、学校で統一した授業スタイルを推進することが有効であると考えた。そこで、課題解決学習を基本とした協調的な学びを取り入れた学校で統一した授業スタイルを研究することにした。

まず、「〇〇スタイル」という研究テーマを掲げた学校研究を全国の学校の中で調べた。すると、次の二つの傾向があることが分かった。

①授業規律や家庭学習を重視し生徒に対して規律の徹底や家庭学習の充実を促すスタイルを示したもの。

②授業の指導過程を重視して教師が行う授業のスタイルを示したもの。

教師の授業の改善に役立つのは②の形のものであり、その中で、指導過程が最も明確になっていた静岡県吉田町立吉田中学校を実際に訪問して授業を参観させてもらった。また、①の形のものも生徒が授業に取り組む姿勢を充実させるうえで重要なものであった。この形のものでは、長野県松本市立菅野中学校を訪問し授業を参観させてもらった。この２校とも、とても熱心に授業改善に取り組んでいたことが印象深かった。

これらの学校を参考にしながら、①の形の児玉中学校の授業スタイルを考えた。具体的には、○授業の最初に課題設定を行い、授業の見通しを持たせること。○課題の解決のために、グループ学習を取り入れ、協調的な学びを工夫すること。○「まとめと振り返り」を位置づけ、学習の主体化を図ること。これらを踏まえて、図１の「児玉中授業スタイル」を校長が考え、学校全体で取り組んだ。

図１　児玉中授業スタイル

児玉中授業スタイル

授業の流れ

1　前時の復習

2　学習課題の設定（提示）

○本時の授業のねらいを説明し、生徒たちが取り組むべき学習課題を設定（提示）する。
・授業の内容と関連して、**必然性の高い課題を設定（提示）する。**
・「なぜ？」「調べたい」「考えてみたい」「おもしろそう」「やれそうだ」という学習課題を提示する。
・学習課題は日常生活に関連した課題や意欲化を図る課題等を工夫する。
・学習に見通しを持たせる。

3　自力解決過程

○まずは、自分でやらせる。一人で課題について考えさせる。
・「できるところまでは、やってみよう」
・「ここまでできたけど、この先どうやるの？」
※教師は、個のつまずきを把握し、必要に応じて支援する。

4　話し合い、学び合いの過程

○生徒同士で話し合い、学び合う。
・目的、時間、段取り、表現の仕方を明確にする。
・自分の意見を発表し、他の意見を聞き、一つの意見にまとめる
・生徒同士で教え合う。
◇２～４人の少人数グループで話し合う。
（例）　２人　対話型　　４人　グループで意見を出し合う
・話し合いの結果を**ホワイトボード**に生徒が書く。
・各グループで発表する。
◇全体で話し合う。
（例）　コの字型の机の配置で行う

5　まとめと振り返り

○教師がまとめ、生徒が振り返る等。
・教師が学習課題についてまとめる。
・生徒が振り返る。
※キーワードを使って書かせる、生徒の言葉で授業を終える工夫等をする。

なお、この「児玉中授業スタイル」は、１単位時間あるいは２～３時間を想定している。

また「児玉中授業スタイル」による学びをはぐくむために次の３点を重視した。

①可視化…何をしているか、シールやＩＣＴ等を活用し、皆で見える形にして共有する。

②外化…自分の考えを付箋に書いたり、ホワイトボードに書いて他者と話し合う。

③問題解決のプロセスの明確化…「課題」、「話し合い」、「まとめ」、「振り返り」のカードを黒板に掲示する。

２　児玉中授業スタイルの特徴

「児玉中授業スタイル」の特徴は課題解決学習である。（図１参照）次に、各過程について具体的に説明する。

「**1　前時の復習**」は、基礎学力の定着を図り、本時の課題解決の手がかりとなる内容を確認し、学習の見通しにつなげる部分である。この過程は必要に応じて行う。

「**2　学習課題の設定（提示）**」は、本時のねらいを明確にし、学習課題を設定（提示）する過程である。ここでは、学ぶ必然性のある学習課題を提示することが大切である。生徒に「なぜ」、「おもしろそう」、「やってみたい」という気持ちを持たせる学習課題を提示する。また、日常生活に関連した学習課題を工夫する。今日の授業で何をするかを明確にする観点から授業開始からできるだけ５分以内に課題を設定することとした。

「**3　自力解決の過程**」は、まず学習課題を自分で解いてみることである。自分の力で課題解決を図ることで個人の中で学習課題が成立する。

「**4　話し合い・学び合いの過程**」は、課題解決の中心となる過程で、「話し合い、学び合い」は４人によるグループ学習を位置づけている。グループ学習での協調的な学びによる課題解決を「児玉中授業スタイル」では重視している。ここでは、授業への参加を大切にし、教師は参加していない生徒の授業への参加を援助する。グループ学習では、はじめに課題について自力解決した意見を発表し、他の意見を聞き、意見をまとめたり、深めたり、広げたりする。その結果についてホワイトボードに記入する。

「**5　まとめと振り返り**」、「まとめ」では教師や生徒がまとめて学習内容の共有化を図り、「振り返り」では個々の生徒が本時の学習内容を振り返り、学習の主体化を図る。

３　授業実践１　「数学科１年生：資料の活用」

授業者　島田　和紀　教諭　　H27.2.24

⑴　課題設定

【場面】

あなたはプロボウラーです。近々ダブルスのボウリング大会に出場することになりました。下の表は、ペア候補のマイク選手とジェイソン選手の2人が20ゲーム練習したときの得点の結果です。あなたならどちらの選手を選びますか。

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
マイク選手	212	189	199	209	170	216	226	204	190	212
ジェイソン選手	185	192	230	179	189	152	239	230	174	195

回数	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
マイク選手	208	181	212	208	196	187	218	170	193	220
ジェイソン選手	165	179	161	229	230	220	216	170	248	237

【課題】
どちらかの選手とペアを組んで出場するとき、あなたならどちらの選手とペアを組みますか。資料をもとに、**スポンサー（出資者）が納得してくれるように**説明しましょう。

この教材では、**生徒はプロボウラーである**と仮定し、マイク選手とジェイソン選手の得点から、どちらの選手とペアを組んだほうがよいかについて考察する。

【日常事象から課題へ】
・資料である得点の結果から、マイク選手とジェイソン選手の得点の**特徴を的確にとらえさせる。**
・20ゲームの練習結果をマイク選手とジェイソン選手の力と考え、本番も同様な傾向の結果を出すと**理想化**して考えさせる。
・マイク選手とジェイソン選手のどちらの選手と組んだ方が良いのか**仮説**を立て、スポンサーに説明するために必要な**条件を絞り**、考えさせる。

【数学的手段での解決】
・得点を比較する手法として、代表値や度数分布表などを挙げさせ、**解決の方針**を立てさせる。
・**「私が選んだのは～選手です。理由は…」など説明の最初の部分などある程度枠を示し、数学的な根拠を用いて説明を書かせる。**
・度数分布表やヒストグラムの枠、電卓を用意し、説明の根拠に利用させる。
・自分が選んだ選手が良いというために必要な情報を適切に**選択**し、**判断**させる。

⑵　自力解決の過程

ボウリングを題材に扱うことで、興味・関心を導入でひくことができた。本授業において、生徒はプロボウラーであると仮定した。そして、マイク選手とジェイソン選手の得点の結果を見せ、どちらの選手と組みたいかを考えさせた。その結果は次のようになった。

・マイク選手（７人）
【理由】安定していそう。一番低い値はジェイソン選手だから。

・ジェイソン選手（10人）
【理由】高得点が多い。一番高い値がある。

直観的ではあるが、両選手の得点の特徴を捉えつつ、選んだ選手が優位になる情報に着目していることがわかる。

⑶　話し合い・学び合いの過程

まず【課題】について、スポンサーを納得させるためには、数学的な根拠が必要であると確認し、何が利用できるかを考えさせた。挙がったものは以下のとおりである。

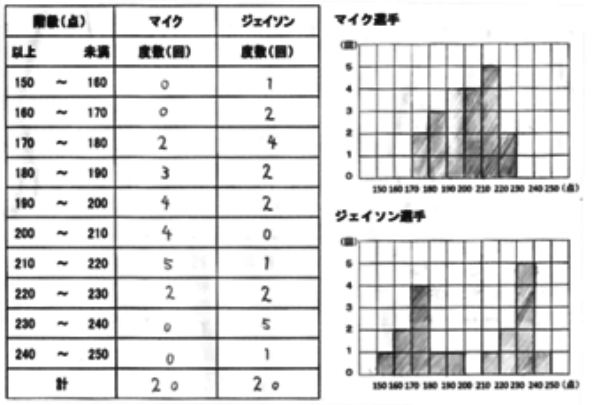
・平均値　　・中央値
・最頻値　　・範囲
・度数分布表　　・ヒストグラム
・度数分布多角形

課題に取り組む前に全体で両選手の平均値を電卓で求め、どちらも201点になることから、平均値は比較する情報として適さないことを確認した。

◎マイク選手とジェイソン選手の資料の比較

	マイク選手	ジェイソン選手
平均値	201点	201点
中央値	206点	193.5点
最頻値	212点	230点
範　囲	56点	96点

【度数分布表とヒストグラム】

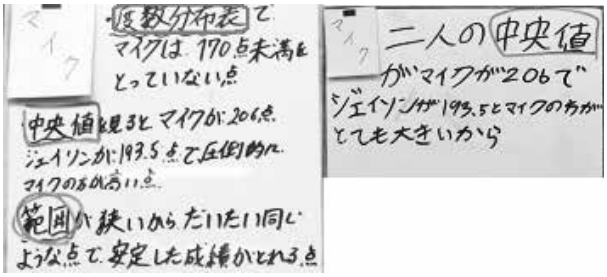


階級（点） 以上～未満	マイク 度数（回）	ジェイソン 度数（回）
150 ～ 160	0	1
160 ～ 170	0	2
170 ～ 180	2	4
180 ～ 190	3	2
190 ～ 200	4	2
200 ～ 210	4	0
210 ～ 220	5	1
220 ～ 230	2	2
230 ～ 240	0	5
240 ～ 250	0	1
計	20	20

度数分布表とヒストグラムの枠を配布し、根拠を示すのに活用させた。

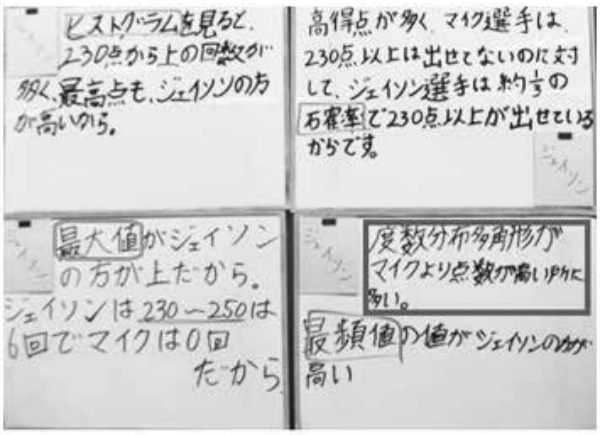
◇各グループによる話し合い

●マイク選手を選んだ説明　（中央値、範囲、度数分布表に着目）



・何に着目したかを明確にし、数学的な根拠をもって説明がされている。
→中央値がジェイソン選手より高い、度数分布表で170点未満がない、範囲が狭い
・１つの根拠ではなく、２つ以上の根拠を挙げて説明している生徒が見られた。また、「範囲が狭いから、安定した成績がとれる」といった、根拠に説得力を持たせた記述も見られた。

●ジェイソン選手を選んだ説明　（最大値、最頻値、ヒストグラム、確率に着目）

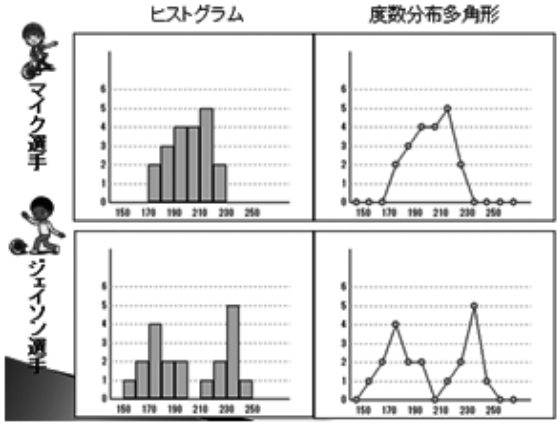


・何に着目したかを明確にし、数学的な根拠をもって説明がされている。
　→ヒストグラムにおける230点以上の回数が多い、マイク選手は230点以上を出せてないが、ジェイソン選手は約3分の1の確率で230点以上が出せている（※確率は未習事項）、最大値がマイク選手より上、最頻値の値がマイク選手より高い
・度数分布多角形の記述も見られたが、説明に不十分さが感じられた。そこで授業では、「度数分布多角形は根拠に使えないのか」を問い、折れ線として見ることの良さや比較のしやすさを考えさせ、ジェイソン選手の得点の山がマイク選手よりも右にあることで根拠の一つにできるとした。

写真１　グループ学習に取り組む生徒

⑷　まとめと振り返り

【まとめ】ヒストグラムと度数分布多角形で確認



【振り返り】
・ボウリングが題材で面白かったです。平均値や中央値、度数分布表を使って根拠を出すことができました。
・今まで習ったことが一気に出てきて大変だったけど、自分に必要なものだけ使えばいいことがわかった。
・難しかったけど、こういうところにも数学が使えることがわかったので、もっと探してみたいと思いました。

⑸　授業の成果と課題

●成果
・ボウリングの得点についての題材であったので、生徒の興味・関心をひくことができた。
・日常事象から課題へつなげるために、資料から直観的な考えを持たせた。また、20ゲームの練習結果が両選手の力であり、本番も同様な得点になると理想化し、そのうえで、両選手の点数の特徴をとらえさせることができた。
・課題の解決に向けて、解決の方針を全体で共有し、値や表、グラフなどの数学的な根拠になる手法を生徒から引き出せられた。そして、様々な根拠に基づいて説明を考えさせることができた。
・授業感想にあるように、様々な情報の中でも、自分にとって必要な情報を取捨選択することが大切だと気付く生徒が多かった。また、日常事象を数学で考えられるという実感を持てた生徒もいた。

●課題
・資料における得点が細かいこともあり、資料の整理に時間がかかってしまい、比較・検討する時間を長く取ることができなかった。
・数学的な根拠に基づいていれば、どちらの選手を選んでも良いという結論が腑に落ちない生徒が見られた。様々な解釈の仕方があることを、授業を通じて身に付けさせたい。
・発展的な内容として、生徒自身の得点を作り、その得点を踏まえてどちらの選手と組むべきかを考えさせれば、ペアを組むという意味で、より日常事象に近づけられたように思われる。

授業実践２「社会科３年公民：国民の代表を選ぶ選挙」

授業者　　落合　加奈子　教諭　　H28.11.11

⑴　前時の復習

日本の年代別投票率から投票率の特徴を読み取る。

写真２　年代別投票率のグラフ

⑵　課題設定

【課題】
　現在の日本の選挙が抱える課題と政治に参加する重要性を考えよう。

　まず、前時に生徒が行った模擬選挙の投票を開票し、その開票結果から選挙制度の特色をつかむ。

写真３　前時に行った模擬選挙

　市の選挙管理委員会より投票台と投票箱を借りてきた。

写真４　模擬選挙の開票

【投票に利用した架空の政党のマニュフェスト】

　ここでは模擬選挙を通して、小選挙区制による当選者と比例代表制による当選者の違いから選挙制度の特色に気付かせて、日本の選挙制度について理解させた。

⑶　自力解決の過程

写真５　自力解決に取り組む

　選挙制度の特色を理解した後は、【課題】「現在の日本の選挙が抱える課題と政治に参加する重要性を考えよう」について、①「投票率が低いと何がまずいのか？」、②「投票率を上げるためにどんな工夫をしたらよいか？」について付箋に自分の考えを書く。

⑷　話し合い・学び合いの過程

　ここでは、それぞれの生徒が書いた付箋を持ち寄り４人組のグループを作り、ＫＪ法によって課題についてグループで考え、話し合う。

写真６　ＫＪ法に取り組む生徒

◇各グループによる話し合い

①「投票率が低いと何がまずいのか？」について
・国民全体の代表者を決めるのに一部の人しか投票しないので意見にかたよりが出てしまう。
・一部の人の意見で決まってしまう恐れがある。
・投票していない人は政治に参加していない。
・投票率の低い若い人の意見が反映されない。
・投票率が少ないと政治が不安定になる恐れがある。

②「投票率をあげるためにどんな工夫をしたらよいか？」について
・投票しないと罰則がある法律を作る。
・投票した人に何かあげる。
　例　ポイントカード、お金、年金を増やす等
・投票所を増やす。
・投票できる年齢を下げる。
・テレビのＣＭで放送する。

　②については、多くのグループから出された意見「投票したら何かあげる」について全体で問題点を考えた。次に、実際に行っているものを全体で考えさせた。例えば、投票所を増やす。年齢を引き下げる。テレビのＣＭで流す。外国では、罰則を与える。例えば、棄権ばかりすると公民権（投票する権利等）が停止されたり、車免許が更新できないなどの例を確認した。

⑸　まとめと振り返り

　【まとめ】は、生徒から出された意見をまとめた。

　投票率が下がると少ない意見で決まってしまい、そのため民主主義が成り立たない。

【振り返り】
・本物の投票台や投票箱を使ったので、選挙や投票に興味を持ちました。
・自分たちで考えたことが投票率を上げるために実際に行われているのを知って、選挙に携わる人も苦心しているのだと思いました。
・選挙に行かないと政治に意見が反映されないことがよくわかりました。投票できる年齢になったら投票に行こうと思いました。

⑹　授業の成果と課題

●成果

・実際に使われている投票台や投票箱を利用したので、選挙や投票に興味・関心を持たせることができた。

・子どもたちに選挙制度を理解させるために、架空の政党やマニュフェストを利用して模擬選挙を行ったので選挙制度が具体的によく理解できた。

・課題の解決に向けて、ＫＪ法を利用したのでグループによる話し合いがスムーズに行われた。また、グループの話し合いの後、全体での話し合いで課題について深めることができた。

●課題

・１時間の授業で扱う内容が多くて、まとめや振り返りにかける時間が少なくなってしまった。

・グループの発表から全体での話し合いで、どんな点を深めていくのか、事前に十分検討する必要がある。

Ⅲ　研究の成果と課題

１　研究の成果

⑴　学校で実施した質問紙調査より

まず生徒にとって「児玉中授業スタイル」の授業が「わかる授業、楽しい授業」になったのか、生徒への質問紙調査を行った。表１は、その結果である。

表１　「わかる授業、楽しい授業」について

	質問項目	H27.5	H27.12	H28.5	H28.12		
1	授業がわかりますか。	92.7%	93.5%	93.9%	95.4%		
2	授業では学ぶ楽しさを感じますか。	86.0%	90.8%	88.5%	90.8%		
	※質問項目の回答「あてはまる」、「だいたいあてまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」のうち「あてはまる」、「だいたいあてはまる」を選んだ割合						

この質問紙調査は、各教科担当が２学級を抽出して、全教科担当職員が実施した。これによると平成27年５月、12月、平成28年５月、12月と回を重ねるごとに「授業がわかる」と答える生徒が増えている。また、「授業で学ぶ楽しさを感じますか」という質問についても平成27年、平成28年とも５月より12月の方が上がっている。１年のまとめの時期に上がっているのは、その年度の成果であると考えられる。

⑵　全国学力・学習状況調査より

表２　生徒質問紙調査の結果

	質問事項	本校	埼玉県	全国	全国比
1	1．2年時に受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んいたと思いますか。	44.7	30.7	27.4	＋17.3
2	1．2年時に受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	55.8	37.6	34.9	＋20.9
3	1．2年時に受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。	71.6	46.1	47.6	＋24
4	1．2年時に受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	49.7	26.8	23.3	＋26.4

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査で、授業を生徒がどう捉えているかを示す質問項目がある。そこで、この調査結果をまとめたのが表２である。表２では、各質問に対して「あてはまる」と答えた生徒の割合（％）が本校、埼玉県、全国で示してある。

この結果を見ると「自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」では全国比＋17.3ポイント、「生徒の間で話し合う活動をよく行っていましたか」で全国比＋20.9ポイントと全国よりもかなり高くなっている。また、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」では全国比＋24ポイント、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」で、全国比＋26.4ポイントである。「課題設定→自力解決→話し合い・学び合い→まとめ・振り返り」という「児玉中授業スタイル」の定着が全国よりもかなり高い結果となって表れていると考えられる。

また、経年変化を終える質問項目を選んだのが表３であるが、「児玉中授業スタイル」が定着した平成27年度の結果より上昇していることがわかる。

表３　経年変化を追える質問事項

	質問事項	H25	H26	H27	H28
1	1．2年時に受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	7.6	15.1	43.6	55.8
2	1．2年時に受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	8.2	9.9	26.2	49.7

平成28年度質問紙調査の結果によると生徒の家庭学習の時間も２時間以上の生徒が計41.6％になり、全国を＋7.4ポイント上回るようなった。30分より少ない生徒は11.1％となり全国を－3.3ポイント下回った。家庭学習に取り組む生徒が増えてきたのである。

また、「数学の勉強が好きですか」という質問に平成28年度調査では、「あてはまる」と答えた生徒の割合が全国平均を＋7.8ポイント上回ってきている。

さらに、平成28年度の全国学力・学習状況調査の教科の平均正答率の本校の結果を見ると、前年比で以下の表４のとおり上昇した。

表４　平成 28 年度平均正答率の上昇（対前年度比）

国語A	国語B	数学A	数学B
＋３．５	＋０．２	＋８．３	＋８．７

２　研究の課題

「児玉中授業スタイル」は、「課題設定→自力解決→話し合い・学び合い→まとめ・振り返り」という基本形を示したものである。授業は基本の形から入って自分なりのもの工夫することが大切である。熟達10年というルールがあると聞く。教師として熟達するには、10年、あるいは10年以上の時間が必要であると考えられる。常に学び続け、教材研究を続けることによって指導力が向上する。指導力の向上の中で基本形をどう発展させるかが、今後の課題である。

平成 30 年度研究論文募集要領

埼玉県連合教育研究会

平成 30 年度研究論文を下記の要領で募集いたします。何とぞ奮ってご応募ください。

記

1　目的

日々の教育実践の中から生まれた研究を会員の皆様から募集し、これを広く発表することによって本県教育の振興に資する。

2　募集内容

教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、教育心理・教育相談、特別支援教育、学校図書館教育等の児童生徒に直接かかわる実践的教育研究として、どのように計画し、仮説を立て実践し、さらに、その結果をどのように評価し、今後の教育実践にどう発展させるか等の研究であることとします。

3　応募資格

県内の公立小・中学校に勤務する教員の個人及びグループ並びに学校としての研究であることとします。

平成 29 年度　研究論文入賞者

＜入　　選＞

○　児童の学習成果を保障する体育授業モデルの一般化と指導法の共有化についての一考察
～学校間連携のよる体育授業の充実と新学習指導要領実施に向けてのカリキュラム作成を目指して～
坂戸市立入西小学校　　萩原　雄麿　教諭

○　不安傾向が強い生徒への保健室支援の在り方
～「認知再構成法」と「コラム表」を活用しての健康相談活動の実践～
三郷市立瑞穂中学校　細谷　光子　養護教諭

＜佳　　作＞

○　自尊感情を高める小学校４年生の学級集団づくり
～学級内の対人関係づくりと話合い活動の実践を通して～
さいたま市立大宮小学校　深井　正道　教諭

○　児玉中授業スタイルによる授業づくり
～主体的・対話的で深い学びを目指して～
本庄市立児玉小学校　島田　啓司　校長

4　応募規程

原稿の書式は、Ａ４判縦長･横書き、横 24 字×縦 46 行×２段組で、パソコン入力（Ｗｏｒｄ）により、４～６枚以内（写真、図表を含む）とし、文体は常体（「である」体）を原則とします。

また、常用漢字・現代仮名遣いにするとともに、別に表紙を付け、表紙に①題名、②氏名（グループ代表者名）、③職名、④勤務校を記入してください。

5　応募上の留意点

研究論文は、紙上未発表のものにかぎります。

応募原稿は、返却しませんので、あらかじめご了承ください。

6　応募票

応募者には、「応募票」を電子メールで送付しますので事務局へ電子メール等でお申し出ください。

「応募票」は、「個人研究」･「グループ研究」･「学校研究」別に研究論文等に添付してください。

7　原稿等の提出

平成 30 年 11 月 26 日㈪　必着

応募票及び論文原稿の提出については、電子メールでの送付も併せてお願いします。

8　審査結果

審査結果は、平成 31 年２月上旬に各応募者に書面にて通知します。

9　表彰等

最優秀賞・入選・佳作等に選ばれた研究論文は、平成 30 年度『研究集録付研究論文集』に集録し、入賞者は本会評議員会（総会）後の席上で表彰を行います。なお、研究資料費として入選論文応募者には７万円（最優秀賞は 10 万円）、佳作論文応募者には５万円、選外の応募者には薄謝を進呈します。

また、教職経験 10 年未満の方を対象に新人奨励賞（３万円）を設けています。

10　審査員

本部役員および編集委員

11　提出・問い合わせ先

〒 330-0804　さいたま市大宮区堀の内町１-99　さいたま市立大宮東中学校内

埼玉県連合教育研究会事務局　　TEL　048-641-0808　　FAX　048-645-1922

E-mail　saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp

平成 29 年度

記念講演会

「学校集団を育てる教師のリーダーシップ」

上越教育大学教職大学院　教授　赤坂　真二　氏

＜記念講演＞

「学校集団を育てる教師のリーダーシップ」

上越教育大学教職大学院　教授　赤　坂　真　二　氏

私は、元小学校教師です。証拠写真です。可愛いでしょう。こういう子たちと19年間やってきましたけど、大学の学部や大学院で授業をさせていただいています。

小学校の学級担任として19年間勤務し、生徒指導に課題を抱える学校もあり、学級崩壊の立て直しや立て直し支援をしてきました。

その後、教師を育成する大学において、若手教員を育てる教師教育をして10年目となります。

その中で、特に、教育実践のエビデンス構築が重要であると考え、「内なる理論」の再構築を図りながら、即戦力教師の育成に力を入れています。そのことを通して、現職の再教育をしようと学校を支援してきています。

そのためには、学校支援システムを構築することが重要です。学校支援プロジェクト連絡会を設置するなど、教育に係る大学や大学院と連携協力校が支援課題を明らかにし、実践研究を提供しwin-winの関係になる支援システムを構築し学校を改善していこうとしています。

○学級経営を基板とした学力向上・学校力向上
○機能不全学級（小学校）の支援
○生徒指導困難校（中学校）における人間関係づくり
○新人教師の学級経営力、授業力向上
○ベテラン教師の能力の再開発　などです。

では、学力向上で成果を上げる自治体のある中学校の例を参考にどのようなことが必要かみてみましょう。

●基礎学力や学習意欲に欠けたり、発達障害の傾向のがあったり、学習困難な生徒の割合が高い
●家庭学習が習慣化せず、学習の定着が進まないなどの子どもたちの課題があり、
○学習意欲や参加度を高める授業の工夫
　その基盤となる学習の雰囲気づくり　が必要でした。

また、

●不登校や相談室登校が数名いる
●不用意な発言で他人を傷付け、そこからトラブルやいじめについてつながるケース
●相手をよく知らないのに決めつけて判断し、他者理解が進まずまとまりのある集団として成長しづらいなどの学校や教師の課題もあり、
○他者を気遣い支え合える関係づくり　を育てることも必要に感じました。

私は、学校改善を図ろうとする学校からの依頼で、学校支援を行うとき、できるだけ学校の様子や実態をお聞きします。この中学校については、３校の小学校から児童が２：２：３の割合で入学してきます。１つ目の学校は、先生方の指導も適時適切にしっかりと行われている、落ち着いた学習のできる学校でした。２校目の小学校は、学級崩壊もあり、先生方も学級の機能不全に近い状況にほどほど手をこまねいている学校でした。３校目の小学校は、荒れた児童に対し先生方が常に強い指導に声を荒げている学校でした。これら３校の小学校の児童が入学してきた中学校でどういうことが起こるかというと、落ち着いた小学校から入学した生徒達も教師の人間的で切な指導がなされず、羽目を外すようになり、生徒指導上の問題が多発し、学級崩壊や生徒指導上の問題が発生してきました。

しかし、学校は、教育効果を上げようと必死で頑張ります。先生方は、教育効果を上ようと、まず、教育実践（適切な授業プログラムと指導法）として授業研究会や指導法の改善を通して、学力を向上させようとします。その前提として大切な学級環境（経営理論・方法論の有無・指導力）を高めることが必要になります。また、その基盤となるのが、学校環境（教員組織の質とシステム）で教師が如何に共通理解の基の組織として機能するかが大切であることを忘れてはいけません。

そして、地域の教育力として、保護者の経済状況や教育に対する保護者や地域の意識の在り方が学校の教育実践の効果を高めることは実証ずみです。

そこで、言えることは、

○教育実践の効果が出るか出ないかは学校経営の問題
○どんなよいプログラム（授業）を持ってきても機能していない学級には効果なし
○「いい学校」に「落ち込んだクラス」は少ない
○よい学級環境は、よい学校環境から生まれる

ということです。

即ち、いくら授業研究会や学習指導法の改善を図っても安心して過ごすことのできるルールやマナーが共有され、認め合いあたたかな感情の交流のある学級としての基盤がなければ学校の教育効果は高まらないということです。

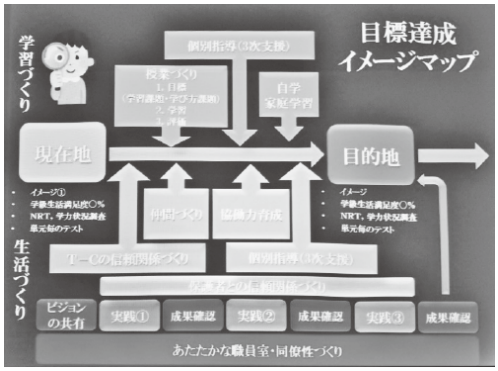
そこで、学校機能向上の５つのポイントですが、

１　リーダービジョンが８割以上の職員に伝わっていますか
　※学校課題は何ですか

２　人的環境整備に日常的に取り組んでいますか
※信頼を基盤にした関係性の構築
※社会的スキルと学習スキル
３　個別対応の必要な学習者に対する支援システムがありますか
※要３次支援指導児童のフォローアップシステム
４　職員に学び合う、協力し合う雰囲気とシステムがありますか
※助け合いと学び合い
※効果的な校内研修
５　焦点化された共通した取り組みがありますか
※効果的な方法論の共有
※客観的指標（データ）による評価とアクション

特に、私は、学校機能を向上させるための客観的指標として数値を出してほしいといつも言っています。

目標達成イメージマップですが、現在の学級生活満足度○％・NRT、学習状況調査、単元毎のテスト等の目標を数値化して示していきます。



ここで、おしゃべり講座、アクティブ・ラーニング（ＡＬ）時代です。校長先生方、席を移動して、二人ずつのペアになってください。現在、どの学校でも、アクティブ・ラーニングと称して、伝え合いや教え合いなど、学校では行われています。問題の解けた子は、まだできていない子に説明をしたり、課題についてグループで話し合い、問題解決をして発表したり、多くの学校で取り組まれるようになりました。

では、アクティブ・ラーニング（ＡＬ）時代の学力（資質・能力）観とはどういうものか、お隣の校長先生に聞いてみてください。

学習指導要領では、「生きて働く知識技能の取得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」を通して、学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養を求めています。そのための手法が協働的問題解決力であると言われています。それは、これからの世の中の答えのない課題を解決するための大切な学力観であるといえます。

では、子どもたちが主体的に「学びに向かう力」とはいったいどんな力でしょうか。お隣の方に聞いてみてください。

「学びに向かう力」とは、これからの世の中の「変化に向き合う力」だと言えます。

しかし、やる気のない子にやりなさいと言っても帰ってくる言葉は、「ハア？」でしょうね。

自発的学習意欲の発現プロセスとして、学習意欲が発現するためには、「内発的学習意欲」の源としては、自分で決めたという自己決定感、自信に裏打ちされた有能感、そして、友達や先生や保護者から認められたという他者受容感が必要です。この内発的学習意欲を力として、知的好奇心や達成感や挑戦しようとする内発的学習へとつながり、学習の喜びや満足や楽しさを実感していきます。

そして、自己満足感や楽しさがより高い知的好奇心をもち、新しい課題への挑戦の力となります。

次の課題への挑戦の源となる“やる気”について考えてみましょう。まず、やる気は、生徒の自らの意欲が必要ですが、その前提として、学級等での教え合い学び合う生徒同士の関係（Ｃ－Ｃ関係）も必要ですし、良好な教師と生徒の関係（Ｔ－Ｃ関係）はより重要であると言えます。そのためには何よりも大切になのは、互いに認め合う温かな職員室や同僚性など教師同士の関係（Ｔ－Ｔ関係）です。

では、新学習指導要領において学級経営をどのように考えているか改めてみてみましょう。

「新学習指導要領における学級経営」
○学級活動や学級生活の基盤となる学級経営
○子供の学習活動や学校生活の基盤となるのが、日々の生活を共にする基礎的な集団である学級やホームルームであり、小・中・高等学校を通じた充実を図ることが重要である。

学級経営がすべての教育の基盤であると位置付けられています。

また、新学習指導要領においては、「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」そして、「何ができるようになるか」ということをしっかりと我々教師が理解し指導に当たることが求められています。

これからのアクティブ・ラーニング（ＡＬ）と教師のリーダーシップ（ＬＳ）について、重要なポイントは
○今回の改訂の趣旨
○=知識の質を上げる
○質の高さ＝社会貢献に向かうか否か？
○貢献感に影響するもの
○所属集団への信頼
○所属集団の質
○学級経営の質
○教師のリーダーシップの質の問題ですが、

この教師のリーダーシップの質の問題については、ここに、15歳の生徒による回答による「教師と生徒の関係性」の国際比較の表があります。

縦の項目は、「私は、大抵の先生とうまくやっている（％）」横の項目は、「生徒は、教師の言うことを聞いていない（％）」で以下の４つのカテゴリーで各国の15

歳の生徒に聞き取りをした国際比較の表です。

①先生の言うことを聞いて先生とうまくやっている
②先生の言うことを聞かず先生とうまくやっている
③先生の言うことを聞かず先生とうまくやっていない
④先生の言うことを聞いているけどうまくやっていない

さて、日本はどこだと思いますか、隣の先生に聞いてみましょう。実は、日本は、左下　④先生の言うことを聞いているけど、うまくやっていない欄の下の部分に位置しています。生徒と教師の関係の難しさを感じます。

日本の生徒と教師の関係でうまくやっていない状況がある中、教師との信頼を高める教師のリーダーシップにつては、教師からの情報を生徒がどのように受け止めているかということが重要です。実は、「情報は感情のフィルターを通る」と言われています。発信者からの情報は、好き嫌いのフィルターを通り、受信者に伝わります。

野球の練習中に見知らぬ人がコーチ役としてグラウンドに立っていたらどうでしょう。でも、この人だったらどうですか。イチローです。情報は、何を言うかではなく、誰が言うかで内容が伝わるかが決まります。

子どもたちは、好きな先生の教科が好きになるということは、よく学校にはあることです。

労働者の満足度と生産性の結果を見ても、仕事そのものには、あまり内発的に満足していない労働者であっても、上司に好感をもつ場合は、仕事に相当の努力を傾けると言われています。

先生方の指導力の高さとは、子どもとの信頼関係の強さでもあり、圧力・強制による（言いなりにする）指導は、問題を先送りするだけです。

しかし、先生には、イチローにはない「強み」があります。

子どもたちが求める先生像として、教わりたい先生（上位５項目）の調査があります。校長先生方、小学校・中学校・高校・・とあります。

では、２位と３位はどんな先生だと思いますか。お隣の方と話し合ってみてください。

小学校では、第２位がですね。「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる（50.8%）」

第３位は「やる気にさせてくれる（35.9%）」ということです。

中学校でも第２位は、小学校と同じで、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる（44.6%）」で第３位は、「やる気をださせ、意欲を高めてくれる（38.0%）」ということでした。

高校生の第２位は、「やる気をださせ、意欲を高めてくれる（42.5%）」、第３位は、「自分たちのことをわかってくれて、しかったり、ほめたりしてくれる（34.4%）」ということです。

これらのことから、子どもたちが求める教師像の変化が見えてきました。これまでは、「できるようにしてくれる先生」でしたが、これからは「つながってくれる先生」「常に自分のことを気にしてくれ、励ましてくれる先生」という結果でした。

これらのことから、子どもたちは、自分に向き合ってくれる先生への強いニーズがあります。しかし、実際には、授業の上達には当然時間がかかりますし、教室の日常は力量の向上を待ってくれない現状にあります。

では、２学期真っ先にやることは、さて何でしょう。

そこで、やる気の起こる条件を考えてみましょう。

そこには、友達や先生に対する「安心感」が重要です。

安心感は、私たちの安全基地となるもので、

① いつもいる（存在の安定性）
② 身体のケア（生理的安定性）
③ 感情のケア（自尊感情の育成）

子どもたちが、何を望んでいるのか、どんな心の状態なのかを具体的に把握することで、私たちが子どもたちの安全基地になることが可能だということです。

今、子どもたちの安全基地となり、子どもたちとつながる先生は、やる気を引き出すことのできる先生であると言えます。

アメリカのジェフリー・シャルボノーという2013年度全米最優秀教員は、「生徒ひとりひとりとの個人的人間関係が全てである。」と言っています。

即ち、「どうやるか」ではなく「どういるか」。教師として「どう（生徒の側に）いて、動機付けをしたらよいのか」ということが最も大切になっています。

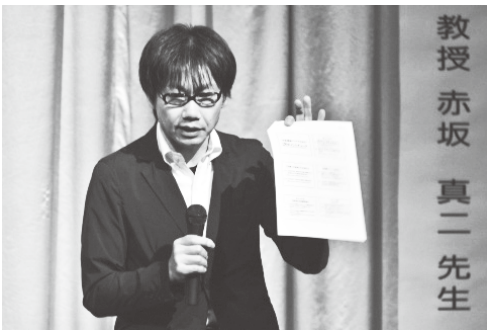
では、どのように関わり、側にいればよいのか、そして、最も強力な動機付けツールとなるのは、実は、「人柄」と「日常行動」でして、人に好かれる性格（明朗さ、親しみやすさ、感情的成熟、誠実さ、精神的健康さ）が教師にとって最も重要になっています。

そして、生徒の学習意欲ややる気を引き出すためにはどうしたらよいかをまとめると、

○教師が生徒に関心をもっている（好意をもち、生徒のニーズに共感し、それに応えている）と感じるとき、生徒の学習意欲は高くなる。
●しかし、そのような関与を感じないと、生徒は不満を感じる。ということになります。

最後に、「学級機能アップのための20ポイントチェック」としてやる気を引き出す学級づくりの極意を用意しましたので、ぜひご活用ください。

本日は、ありがとうございました。



学級機能アップのための
20ポイントチェック

『スペシャリスト直伝！主体性とやる気を引き出す学級づくりの極意』

（明治図書，２０１７より）

チェックⅠ
【集団成立の基盤（必要条件）】

□１　安心して過ごすことができるルール、マナーが共有されている。

※「時・人・場」に関するルールが守られていますか？

□２　認め合いやあたたかな感情の交流がある

※認め合いの場がシステム化されていますか？

【活動への意欲（十分条件）】

□３　子どもたちは、学習やその他の活動に自ら取り組もうとする意欲と習慣がある

※個別の声かけがなくても取り組める子が８割以上いますか？

□４　子ども同士で学び合う意欲と習慣がある

※個別の声かけがなくても８割以上の子が交流に参加できますか？

【協働力（十分条件）】

□５　子ども同士で、問題を解決しようとしたり、活動しようとしたりする意欲がある

※何かイベントがしたい、クラスの問題などが起こった、などのときに話し合いたいという声があがりますか？

□６　子ども同士で問題を解決したり助け合ったりするための定常的な場がある

※自主的な企画、子どもたちが決めたルールがありますか？

チェックⅡ
【個別の信頼関係】

□７　子どもたちを想起したときに、いつも順番が後になる子や思い出せない子（中間層）がいない

※個別の「パイプ」をチェックしていますか？

□８　子どもたちと個別の信頼関係を築くための具体的方法をもち、実践している

※ひとりひとりと共通の話題があり、８割以上の子どもと「良好な関係」が自覚できていますか？

チェックⅢ
【声かけ】

□９　ひとりひとりを知るための時間を取っている

※積極的に「子ども情報」を集めていますか？

□10　毎日、全員にあたたかな声をかけている

※あなたの好意を伝えようとしていますか？

□11　子どもたちの前で、自己開示をしていますか

※自分の考え（価値観）を伝えたり、人としての自分（人間らしさ）を見せたりしていますか？

□12　叱ったら、フォローをしている

※人格と行為を分けているか

チェックⅣ
【子ども同士のかかわり】

□13　子ども同士がかかわる必要性を伝えている

※かかわる意味・協力する意味を伝え続けていますか。

□14　子ども同士がかかわる機会を定常的に設定している

※カリキュラム全体で交流する時間を確保していますか？

チェックⅤ
【教師のあり方】

□15　子どもたちといることを楽しんでいる

※学校、教室において自信と安心を感じていますか？

□16　笑顔で教室にいる

※子どもたちと一緒にいる８割以上の時間を笑顔（和やかな表情）で過ごしていますか？

チェックⅥ
【理想・願い】

□17　理想のクラス像がある

※ゴール像がありありと描けていますか？

□18　本気でその理想を実現したいと思い、折に触れて効果的にそれを伝えている

※あなたは心からそれを願い、明るく伝えていますか？

チェックⅦ
【学校体制と評価】

□19　学校体制で集団づくりに取り組んでいる

※集団づくりにおける共通実践がありますか？

□20　定期的に集団づくりを振り返っている

※２ヶ月に一度程、振り返り、次の強化、改善のアクションを起こしていますか？

平成 29 年度

○　埼玉県連合教育研究会
役　員　等　名　簿

第78回関東地区小中学校教育研究会連絡協議会　埼玉大会
さいたま市立大宮東中学校にて

平成29年度本部役員等名簿

役職		氏名	勤務校	〒	勤務校所在地	電話番号
会長		鏑木　隆	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808
副会長		髙野　治	幸手市立幸手中学校	340-0111	幸手市北1-7-4	0480-42-0203
		矢嶌　泰	小鹿野町立小鹿野小学校	368-0105	小鹿野町小鹿野2,678	0494-75-0049
		森田直樹	上尾市立東中学校	362-0013	上尾市上尾村479	048-775-6566
		児玉亮一	富士見市立西中学校	354-0018	富士見市西みずほ台3-14-6	049-252-4145
		島村　暁	さいたま市立片柳中学校	337-0033	さいたま市見沼区御蔵 551	048-683-3173
事務局長		分須正明	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808
常任理事	南部	清水幹明	川口市立神根中学校	333-0823	川口市石神 1,515-1	048-296-7025
	南部	車　浩	草加市立川柳中学校	340-0002	草加市青柳 7-35-1	048-931-5827
	北部大里	島村明義	熊谷市立久下小学校	360-0026	熊谷市久下 808	048-521-0781
	北部児玉	小柳百代	神川町立丹荘小学校	367-0246	神川町関口 110-1	0495-77-3502
	北部秩父	黒田富衛	秩父市立原谷小学校	368-0005	秩父市大野原 2,991	0494-22-0844
	西部入間	福満浩一	富士見市立水谷小学校	354-0014	富士見市水谷 1-13-3	049-251-1130
	西部比企	金子和義	滑川町立宮前小学校	355-0811	滑川町羽尾 4,857-1	0493-56-2204
	東部埼葛	宗方健二	蓮田市立黒浜西中学校	349-0101	蓮田市黒浜 3,862	048-768-5454
	東部北埼	岡島伸行	行田市立埼玉小学校	361-0025	行田市埼玉 4,610-2	048-559-1000
	さいた	髙村達夫	さいたま市立大宮北小学校	330-0802	さいたま市大宮区宮町 3-84	048-644-0123
理事	国語	武井　悟	さいたま市立仲町小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤 8-18-4	048-831-4781
	理科	落合啓志	伊奈町立伊奈中学校	362-0806	伊奈町小室 5,166	048-721-2305
	特別活動	泰居克明	羽生市立新郷第一小学校	348-0041	羽生市上新郷 5,716	048-561-0409
	学校視聴覚	藤巻和司	新座市立東北小学校	352-0003	新座市北野 3-1-1	048-471-2022
	中・技術家庭科	松﨑和則	鴻巣市立鴻巣北中学校	365-0062	鴻巣市箕田 4,280	048-596-3428
監事		窪田　忍	春日部市立宝珠花小学校	344-0102	春日部市西宝珠花 593	048-748-1031
		鵜野一郎	ときがわ町立明覚小学校	355-0356	ときがわ町関堀 65	0493-65-0373
		濵名博昭	美里町立大沢小学校	367-0115	美里町猪俣 3,019-2	0495-76-0390
編集委員長		長島庸夫	さいたま市立八王子中学校	338-0006	さいたま市中央区八王子 4-2-1	048-854-8381
編集委員		松下洋介	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤 6-9-44	048-833-6898
		阿部靖史	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所 4-2-5	048-862-2214
		吉井一生	鴻巣市立下忍小学校	369-0112	鴻巣市鎌塚 10	048-548-2300
		石川和宏	桶川市立桶川小学校	363-0017	桶川市西 1-4-27	048-771-1259
		小代美智子	さいたま市立大東小学校	330-0043	さいたま市浦和区大東 3-14-1	048-886-7296
		小坂浩士	さいたま市立常盤小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤 9-30-9	048-831-2349
		大島綾子	蕨市立第一中学校	335-0003	蕨市南町3-1-29	048-442-2533
幹事		大木克己	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808
		五十嵐　淳	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808
		渡辺俊行	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808

平成29年度教科等研究団体長及び事務局長名簿

No	研究団体名	団体長名	団体長勤務校	事務局長名	事務局長勤務校
1	埼玉県 国語教育研究会	武井　悟	さいたま市立 仲町小学校	松下洋介	埼玉大学教育学部 附属小学校
2	埼玉県 書写教育研究会	小原　茂	入間市立 上藤沢中学校	大澤美和子	加須市立 大越小学校
3	埼玉県 社会科教育研究会	山口　勝	深谷市立 藤沢中学校	二瓶　剛	埼玉大学教育学部 附属中学校
4	埼玉県 算数数学教育研究会	設樂政夫	横瀬町立 横瀬小学校	神谷直典	埼玉大学教育学部 附属小学校
5	埼玉県 理科教育研究会	落合啓志	伊奈町立 伊奈中学校	杉山直樹	埼玉大学教育学部 附属小学校
6	埼玉県 音楽教育連盟	小櫃真人	草加市立 谷塚小学校	波多江慶太	埼玉大学教育学部 附属小学校
7	埼玉県 美術教育連盟	関根隆之	蓮田市立 平野中学校	廣田和人	埼玉大学教育学部 附属小学校
8	埼玉県 保健体育研究会	山下誠二	さいたま市立 常盤中学校	井村浩一	埼玉大学教育学部 附属中学校
9	埼玉県 英語教育研究会	新井裕則	鴻巣市立 赤見台中学校	髙橋太一	埼玉大学教育学部 附属中学校
10	埼玉県 道徳教育研究会	梓澤恒夫	加須市立 加須西中学校	藤澤由紀夫	越谷市立 大沢小学校
11	埼玉県 特別活動研究会	泰居克明	羽生市立 新郷第一小学校	木場真理	越谷市立 蒲生南小学校
12	埼玉県 進路指導･キャリア教育研究会	千代田　栄	富士見市立 東中学校	牛島健一	越谷市立 千間台中学校
13	埼玉県 学校視聴覚教育連絡協議会	藤巻和司	新座市立 東北小学校	髙坂悠太	深谷市立 桜ヶ丘小学校
14	埼玉県 教育心理・教育相談研究会	髙橋光代	川口市立 元郷小学校	増田真二	川口市立 元郷小学校
15	埼玉県 特別支援教育研究会	永妻恒男	さいたま市立 大宮南中学校	加藤和子	埼玉大学教育学部 附属特別支援学校
16	埼玉県 学校図書館協議会	木村直美	朝霞市立 朝霞第六小学校	小日向輝代	越谷市立 東中学校
17	埼玉県 中学校技術･家庭科教育研究会	松﨑和則	鴻巣市立 鴻巣北中学校	木村　僚	埼玉大学教育学部 附属中学校
18	埼玉県 小学校家庭科教育研究会	田中恵子	東松山市立 市の川小学校	吉田みゆき	埼玉大学教育学部 附属小学校
19	埼玉県　生活科・総合的な学習の時間教育研究会	石橋桂子	春日部市立 豊春小学校	若村健一	埼玉大学教育学部 附属小学校

平成29年度地域教育研究団体一覧

旧教育事務所	No.	地域教育団体名	団体長名	団体長勤務校	電話番号
南部	1	埼玉大学教育学部附属小学校	川端博子	埼玉大学教育学部附属小学校	048-833-6291
	2	埼玉大学教育学部附属中学校	道工勇	埼玉大学教育学部附属中学校	048-862-2214
	3	さいたま市教育研究会	矢部一夫	さいたま市立岸町小学校	048-861-4320
	4	川口市教育研究会	清水幹明	川口市立神根中学校	048-296-7025
	5	草加市教育研究会	車浩	草加市立川柳中学校	048-931-5827
	6	蕨市教育研究会	小松敏彦	蕨市立第二中学校	048-443-2670
	7	戸田市教育研究会	小代元志	戸田市立戸田東小学校	048-442-3911
	8	志木市教育研究会	原万里子	志木市立宗岡第三小学校	048-471-2244
	9	朝霞市教育研究会	谷井喜信	朝霞市立朝霞第七小学校	048-472-9172
	10	新座市教育連合会	入山尚浩	新座市立陣屋小学校	048-479-7231
	11	和光市教育研究会	來嶋実樹子	和光市立本町小学校	048-466-0855
北部	12	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	戸部秀之	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	048-663-6803
	13	鴻巣市教育研究会	小川隆二	鴻巣市立下忍小学校	048-548-2300
	14	北本市教育研究会	新井智明	北本市立東中学校	048-592-3145
	15	上尾市教育研究会	秋山誠	上尾市立芝川小学校	048-773-2560
	16	桶川市教育研究会	橋本雄一	桶川市立日出谷小学校	048-786-2880
	17	伊奈町教育研究会	関口育也	伊奈町立南中学校	048-723-1117
入間	18	川越市教育研究会	細谷敏人	川越市立南古谷小学校	049-235-2150
	19	所沢市教育研究会	古山和見	所沢市立北小学校	04-2922-3404
	20	飯能市教育研究会	岡部一宏	飯能市立加治中学校	042-973-2222
	21	日高市教育研究会	小熊裕	日高市立武蔵台中学校	042-982-3161
	22	狭山市教育研究会	小暮恒二	狭山市立狭山台小学校	04-2958-6792
	23	入間市教育研究会	須田昌	入間市立藤沢北小学校	04-2963-1601
	24	富士見市教育研究会	板橋三宏	富士見市立勝瀬小学校	049-262-1065
	25	ふじみ野市教育研究会	斉藤実	ふじみ野市立上野台小学校	049-261-1415
	26	坂戸市教育研究会	田邉宏	坂戸市立勝呂小学校	049-281-0229
	27	鶴ヶ島市教育研究会	青柳高	鶴ヶ島市立西中学校	049-286-1481

旧教育事務所	No.	地域教育団体名	団体長名	団体長勤務校	電話番号
入間	28	越生班教育研究会	串田　功	毛呂山町立毛呂山中学校	049-294-0019
	29	三芳町教育研究会	北野　晃	三芳町立三芳中学校	049-258-0675
比企	30	東松山市教育研究会	松澤房子	東松山市立唐子小学校	0493-22-0675
	31	小川班教育研究会	堀内剛宣	小川町立みどりが丘小学校	0493-74-4381
	32	菅谷班教育研究会	金子和義	滑川町立宮前小学校	0493-56-2204
	33	玉川班教育研究会	久米正美	ときがわ町立玉川中学校	0493-65-1528
	34	川島教育研究会	笛木　哲	川島町立中山小学校	049-297-0029
	35	吉見教育研究会	大野陽康	吉見町立北小学校	0493-54-1500
秩父	36	秩父教育研究会	黒田富衛	秩父市立原谷小学校	0494-22-0844
児玉	37	児玉郡本庄市教育研究会	小柳百代	神川町立丹荘小学校	0495-77-3502
大里	38	熊谷市教育研究会	島村明義	熊谷市立久下小学校	048-521-0781
	39	深谷市教育研究会	髙橋明美	深谷市立豊里中学校	048-587-2150
	40	寄居町教育研究会	堀越由喜子	寄居町立折原小学校	048-581-0328
北埼	41	行田市教育研究会	岡島伸行	行田市立埼玉小学校	048-559-1000
	42	加須市教育研究会	村田和夫	加須市立礼羽小学校	0480-61-2613
	43	羽生市教育研究会	髙田　一	羽生市立三田ケ谷小学校	048-565-0008
埼葛	44	春日部市教育研究会	恩田和彦	春日部市立備後小学校	048-735-8479
	45	越谷市教育研究会	野口久男	越谷市立花田小学校	048-966-7273
	46	久喜市教育研究会	帯津嘉二	久喜市立清久小学校	0480-21-0789
	47	三郷市教育研究会	鈴木　勉	三郷市立彦郷小学校	048-957-9911
	48	蓮田市教育研究会	石川　勉	蓮田市立蓮田中学校	048-768-0064
	49	幸手市教育研究会	山﨑正明	幸手市立権現堂川小学校	0480-48-0950
	50	八潮市教育研究会	會田敏之	八潮市立柳之宮小学校	048-995-6091
	51	杉戸町教育研究会	堀井　仁	杉戸町立杉戸小学校	0480-32-0042
	52	吉川市教育研究会	蔦森邦雄	吉川市立吉川小学校	048-982-2420
	53	松伏町教育研究会	渡邊康弘	松伏町立松伏中学校	048-991-3731
	54	白岡市教育研究会	小川哲也	白岡市立西小学校	0480-92-1405
	55	宮代町教育研究会	白石　薫	宮代町立笠原小学校	0480-34-8480
入間地区連合教育研究会			福満浩一	富士見市立水谷小学校	049-251-1130
埼葛連合教育研究会			宗方健二	蓮田市立黒浜西中学校	048-768-5454

あ　と　が　き

ここに、平成29年度埼玉県連合教育研究会の研究集録付研究論文集」をまとめることができました。日頃の教育活動を礎とした研究の取り組みについて、原稿をお寄せいただいた各教科等研究団体、並びに地域研究団体の皆様に、深く感謝申し上げます。おかげさまを持ちまして平成29年度の研究集録としてまとめることができました。

また、今年度も広く会員の皆様方に研究論文を募集いたしましたところ、今年度は20編、校種別では小学校12編、中学校5編、共同学校研究3編の研究論文を県下各地からお寄せいただきました。さらに、今年度は各教科の研究にとどまらず、教育相談や健康教育、教育心理、学校経営・学校運営など、各学校等が課題として抱える問題について幅広い分野に渡り、研究の視点を定め課題解決を図る実践的な取り組みが多く寄せられました。

今年度応募された20編は、いずれも、多忙な日常の勤務の中にあっても課題意識を根底にもって、その解決に向け真摯に取組まれた論文であり、審査にあたり十分にその価値を読み取れるものでした。入選及び佳作の4編は、その中でも、教育実践としての魅力のみならず、先行研究等に基づく理論の構成や研究の進め方、各種データのとり方や処理の仕方など、教育研究としての価値について多くの委員が認めたところです。本研究集録に付しました研究論文をお読みいただき、県内各会員の皆様の明日からの実践にお役たちいただければ幸いです。

改めまして、今回積極的に応募して頂いた先生方に深甚なる感謝を申し上げますとともに、願わくば次年度におきましても、これらの論文に触発され、確かな実践に裏打ちされた貴重な教育研究論文が幅広い年代の先生方から、また県内各地から結集されますことを期待しております。

編集委員長　長島　庸夫　さいたま市立八王子中学校校長

平成 29 年度　**埼玉県連合教育研究会「研究集録付研究論文集」**

平成 30 年 3 月 9 日　　印　　刷
平成 30 年 3 月 9 日　　発　　行

発　行　者　　埼玉県連合教育研究会
　　会長　鏑　木　　隆
印　刷　所　　関東図書株式会社
　　ＴＥＬ　048（862）2901